はじめに。

アニメーションを観るのは、面白い。
アニメーションを作るのは、さらに面白い。
観るとは全く別の次元で、アニメーションの持つ面白さに関われるからだ。
特に「エヴァ」は面白いと思う。
明確な設計図を具象化する精密な作り方ではなく、大まかなイメージをベースに粘土を捏ねながらその時その場で作っていく、
フレキシブルな作り方をしているからだ。
常により面白い物を探り、日々それを検証していく、ハイリスクな作り方をしているからだ。
効率論を駆使した方法と、無視した方法が混在している、ハイブリッドな作り方をしているからだ。
作品を面白くするためには、なりふり構わない無謀で恥知らずな作り方をしているからだ。

前回、残っていた若さにまかせてそんな作り方をしてから12年、引き寄せられるように「新劇場版」も同じ様な作り方になった。
つまり、奇跡の詰め合わせみたいな作り方で作品になったのだ。
その奇跡をカタチにするのが、ヒトの意志だと思っている。
スタッフ、キャストのリスクと責任を負う覚悟が、その意志を生み出していると思っている。
初号で味わう感覚は、それがあってこそだと思っている。

本書にて、アニメを制作する面白さが少しでも伝われば、幸いです。

本書では、現存する「ヱヴァンゲリヲン新劇場版：序」制作過程の資料等を可能な限り網羅、掲載しました。
名称はアニメーション制作会社が出版していた先人達の例に習い、全記録全集とさせていただきました。
本書だけでなくこれからも、アニメや特撮に対する御恩返しとして、また後世に遺す文化事業として、
弊社作品に限らず資料集等を制作していきたいと考えています。
よろしく御願いします。

最後に、本編及び編集スタッフに改めて、感謝いたします。
ありがとうございました。

庵野秀明
2008 03／06　晴れの日に　スタジオカラーにて

『エヴァンゲリヲン新劇場版：序』
EVANGELION:1.0 YOU (ARE (NOT)) ALONE.

二〇〇七年度／日本作品
カラー／一三五ミリ／アメリカンビスタサイズ
ドルビーSRD/EX
上映時間／九十八分
二〇〇七年九月一日より劇場公開

エヴァンゲリヲン新劇場版：序

全記録全集

ビジュアルストーリー版＋設定資料版

contents

エヴァンゲリヲン新劇場版：序　全記録全集

はじめに 001

作品データ 002

film 005

archives 241

art 331

advertising 343

the other 353

scenario 361

本書は2008年5月に発行した　エヴァンゲリヲン新劇場版：序　全記録全集　からインタビュー頁を除いたすべての内容を再掲載したものです。

film

P006-233

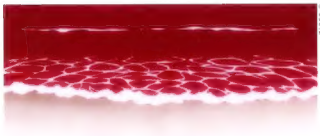
「ヱヴァンゲリヲン新劇場版：序」
EVANGELION:1.01　YOU ARE (NOT) ALONE.

本編総カット数／1645カット　採録画面点数／2318点

□ 画面はすべて2008年にソフト化された『1.01』版のHDマスターより採録した。
□ 台詞は完成台本を参考に、本編と同じ文言を再現した。「(off)」は画面に映っていない人物の台詞、「(mono)」はモノローグを表す。
□「SE」(効果音)は画コンテを参考に、最小限必要と思われるものを記した。
□ カメラワークは詳述しないが、いくつかのカットではカメラ移動(PAN)の方向を「(↑PAN)」のように表記した。
□ 画面右にはカット番号を記した。本書内で用いるカット番号はすべて画コンテに基づいている。ただし、本編では編集作業を経ているためカットの順列は必ずしもこの番号どおりではなく、欠番も存在する。

スタジオカラー 第一回作品

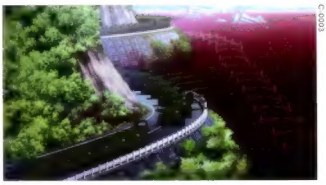
C 0001B



C 0002

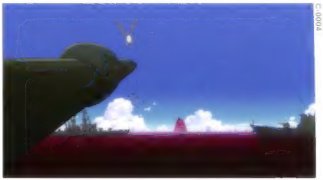
SE セミの声

C 0003



シンジ「だめか」

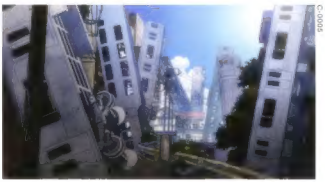
C-0004



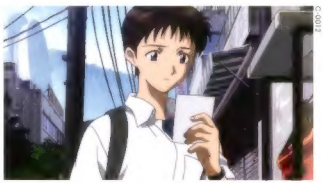
C-0001

シンジ「携帯も圏外のままだし、バスも電車も止ったままだし」

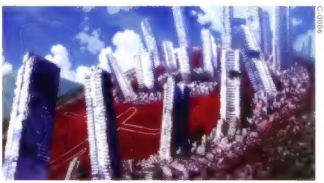
C-0005



C-0002



C-0006

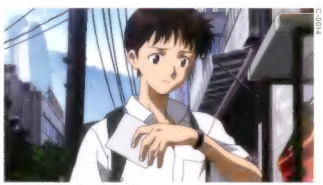


C-0003

シンジ「待ち合わせは無理か」

C-0009

C-0014



シンジ「しょうがない、シェルターにいこう」

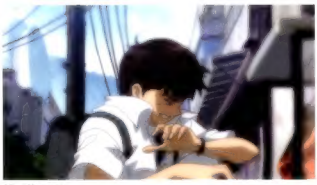
C-0010

電話の声「現在、特別非常事態宣言発令中のため、全ての回線は不通となっております」

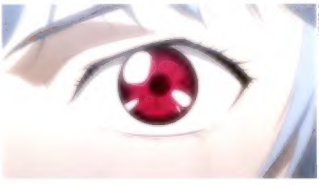
C-0018

C-0019

C-0018A



SE　ストォォン！


C-0018A

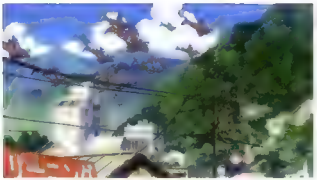
C-0021

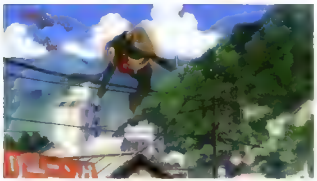
SE　ガタガタ…

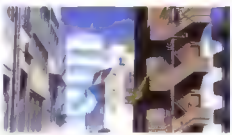
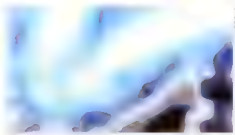
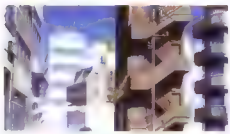
C-0016

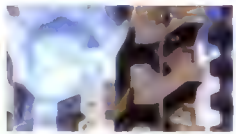
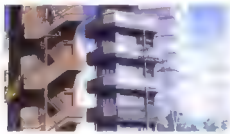
C-0022

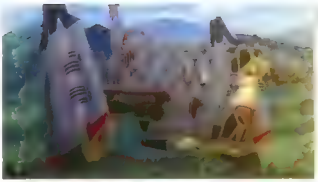
C-0017

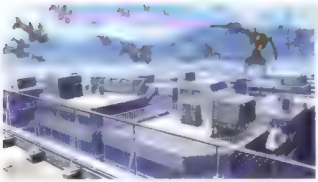


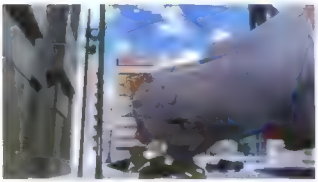


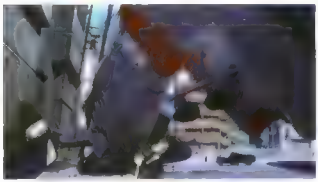




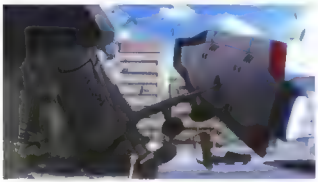



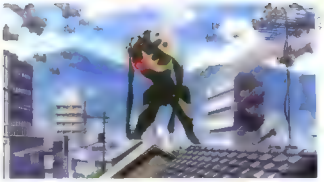


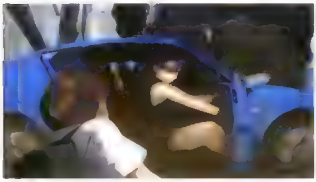


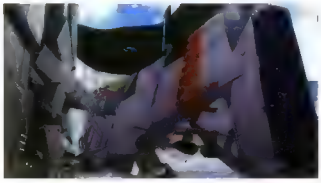


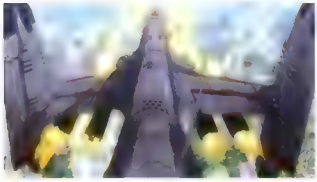


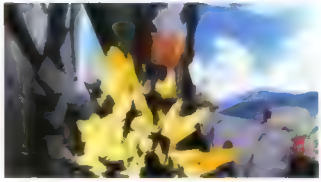


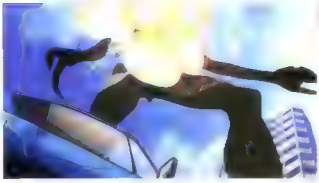


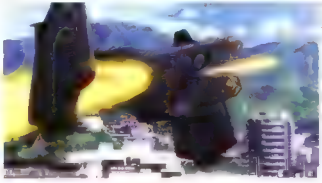


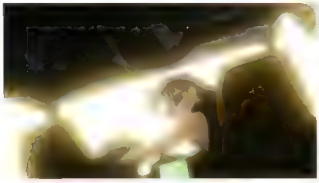


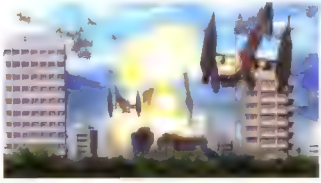


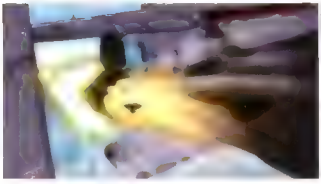


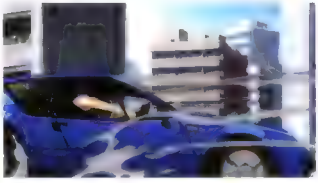


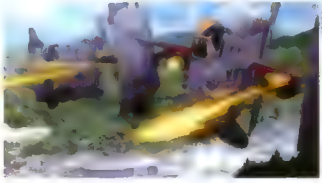




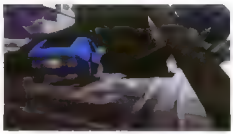
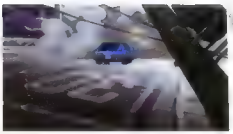


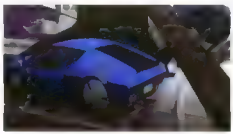


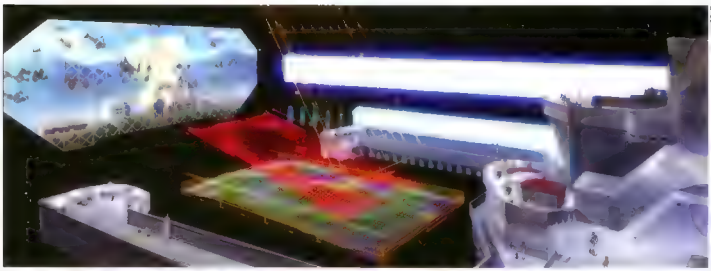


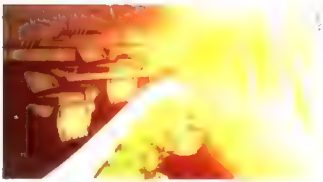
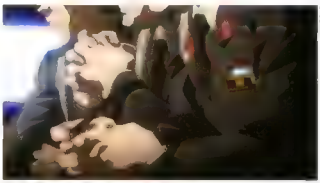


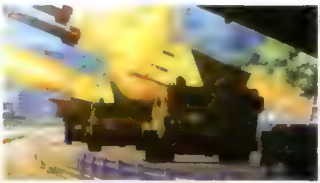
film

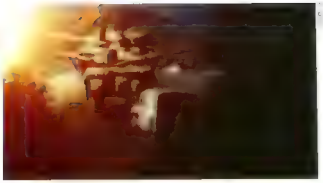



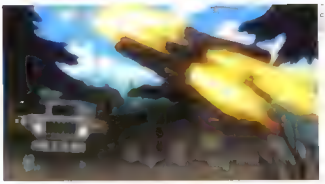


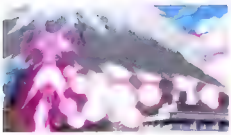
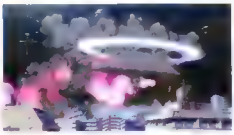
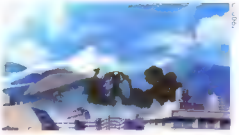


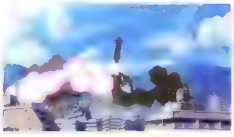
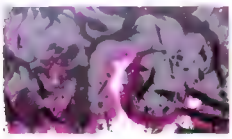
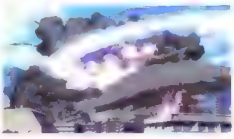
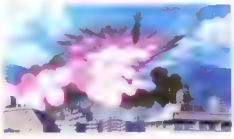



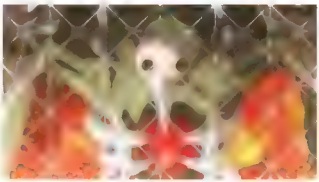


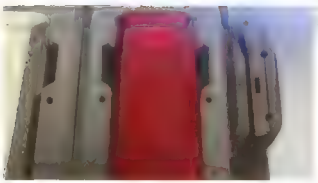


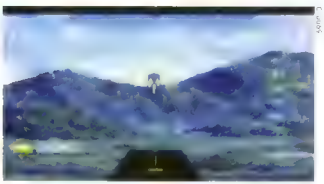


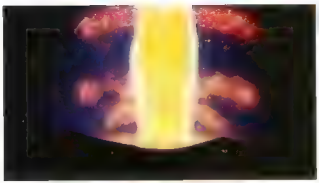




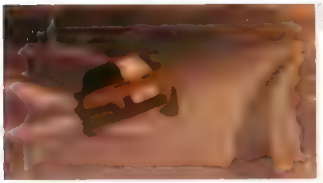





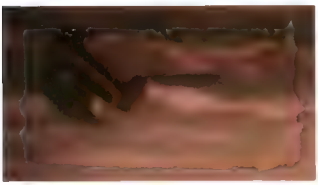


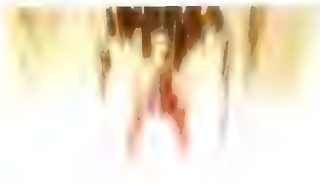


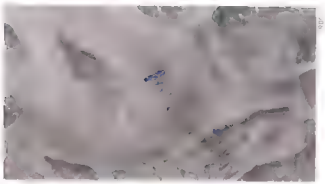


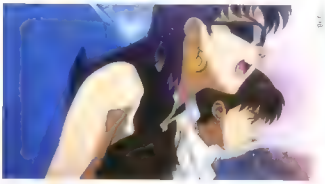


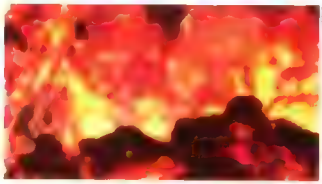


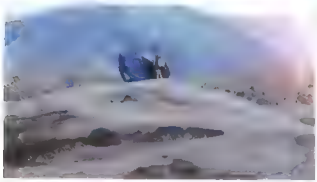


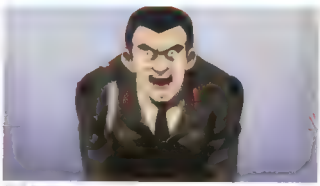


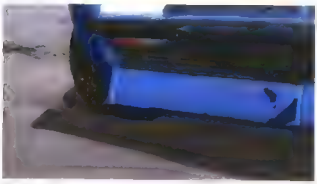


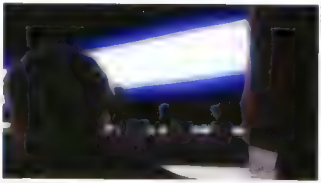


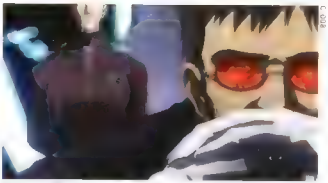


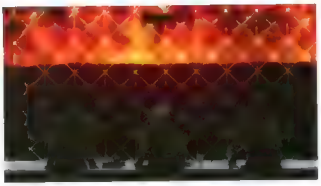


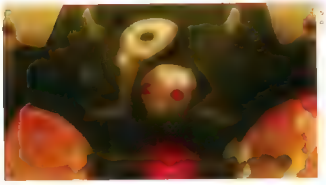


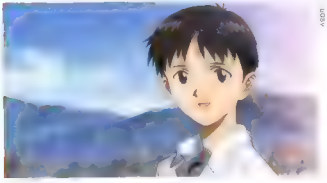


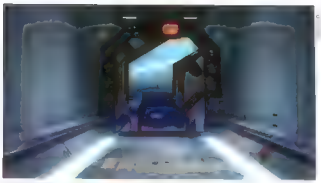




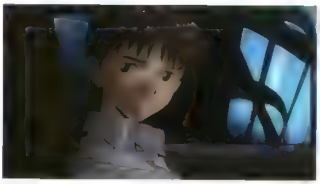


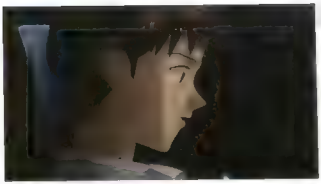


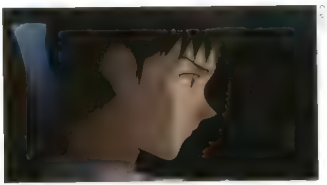


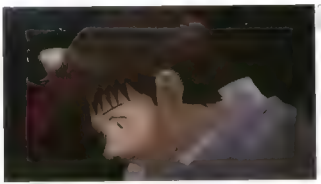


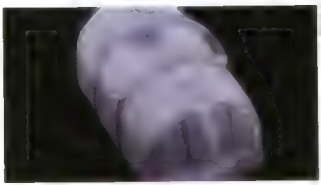
NERV

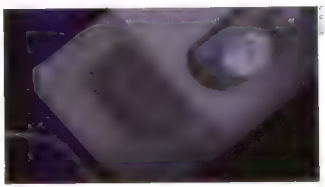


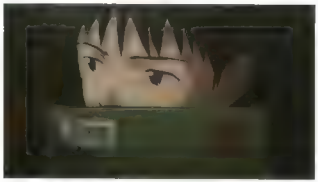


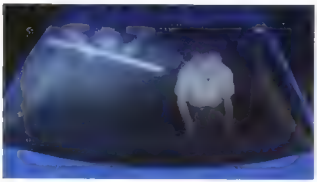




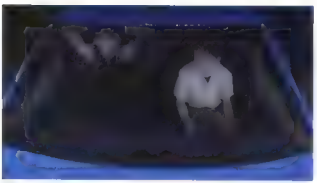


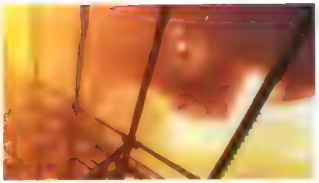


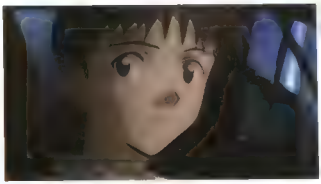


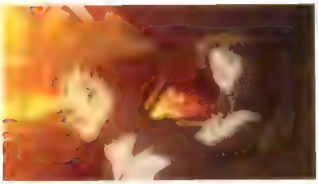


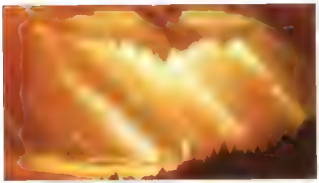
ようこそ
NERV

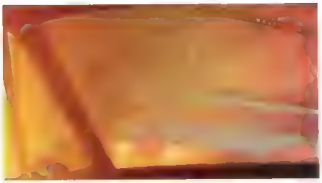


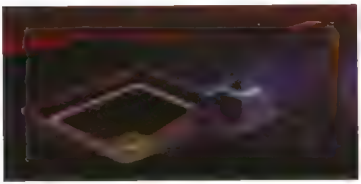


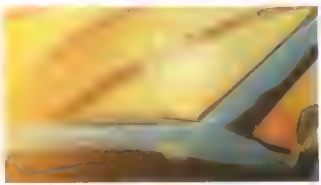


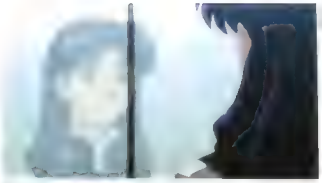


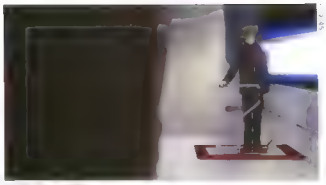


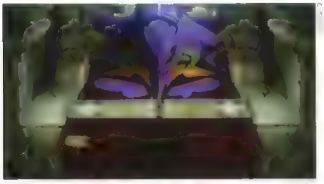


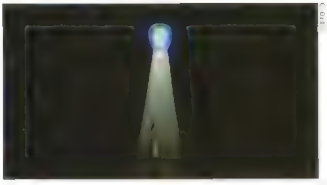


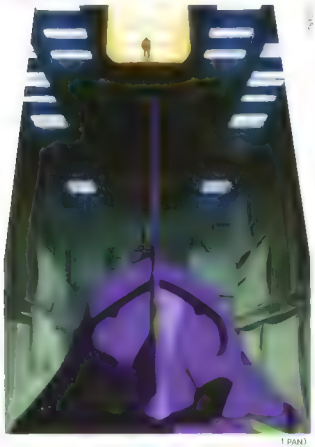


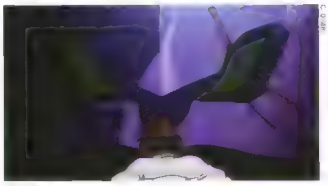


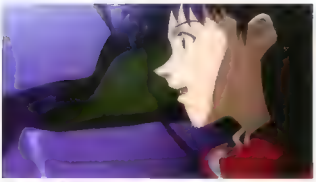


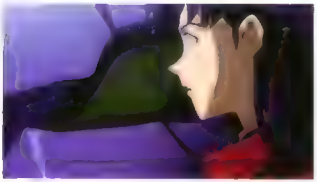


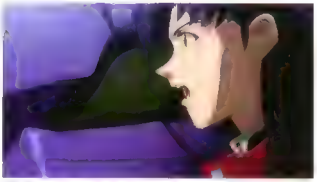


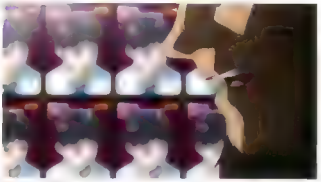

1 PAN)

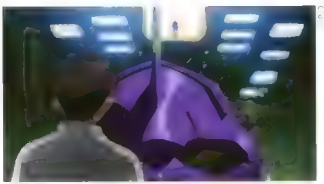


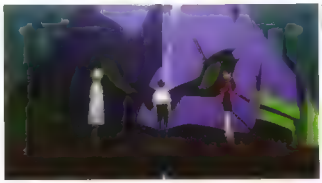


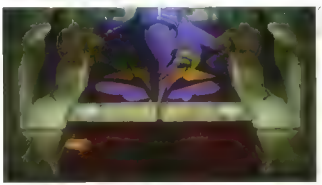


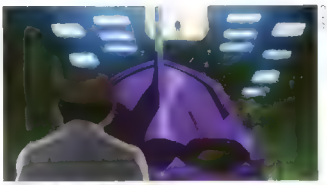


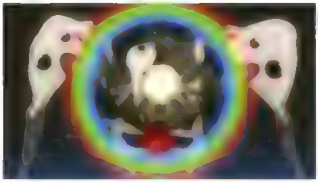


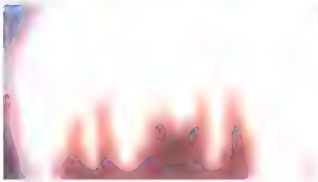


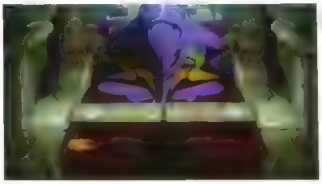


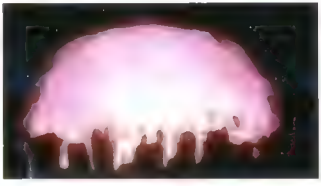




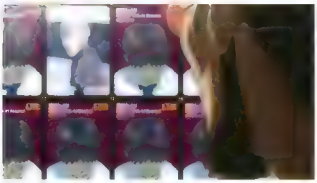


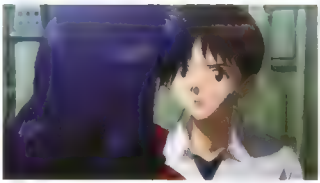


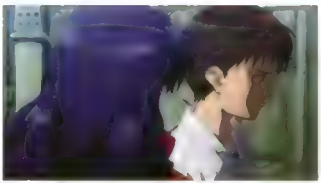


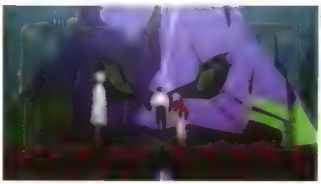


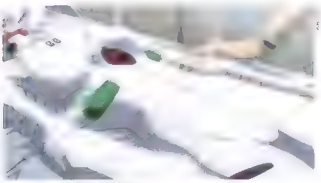
film

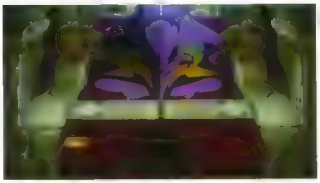


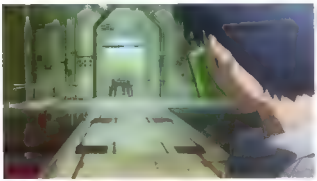


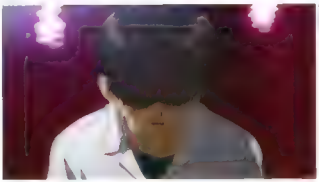


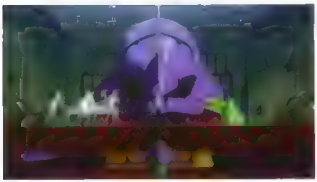


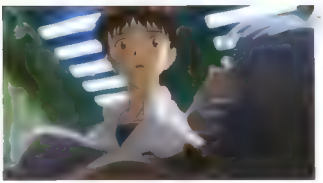




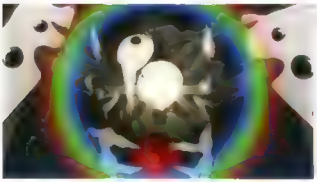


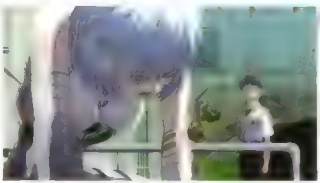


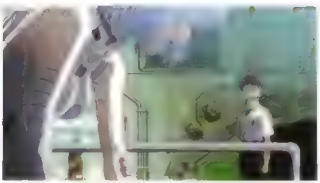


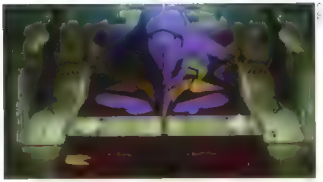


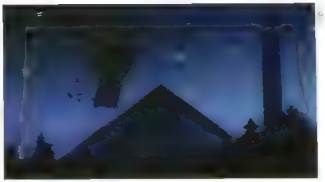
film

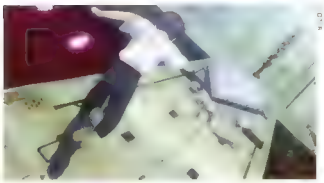


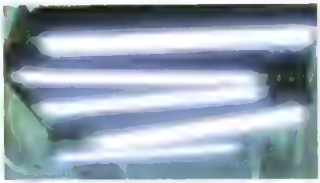


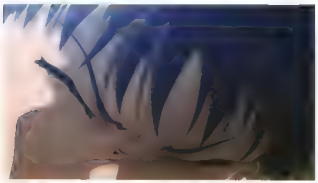
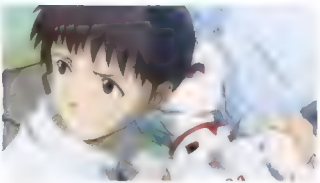
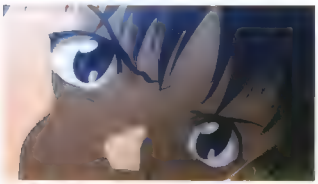
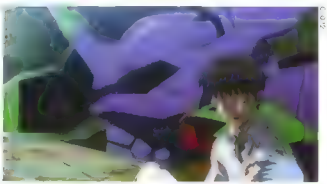
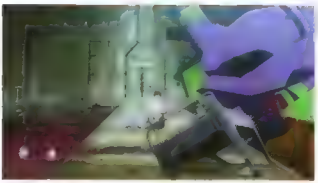


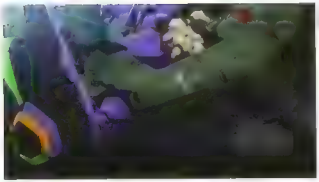


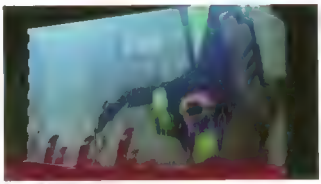


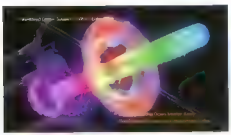


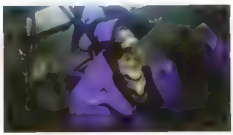


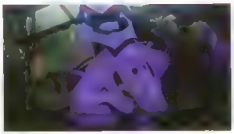






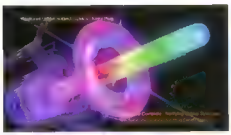


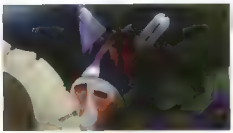


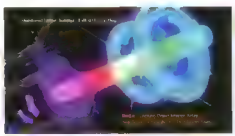


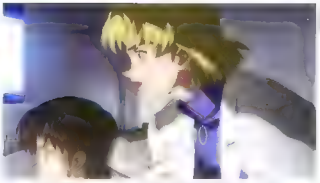


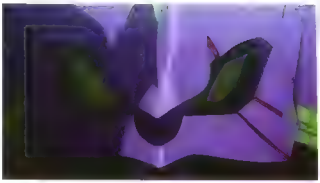


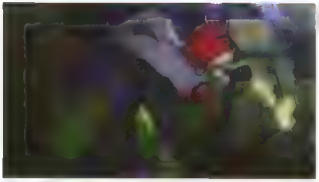


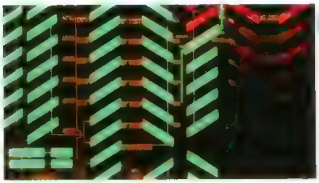


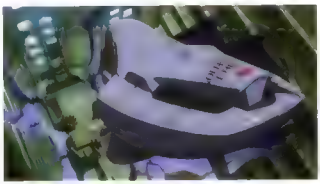


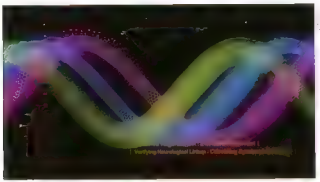


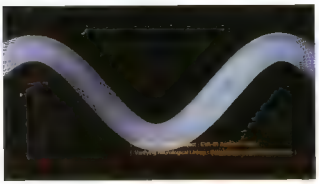


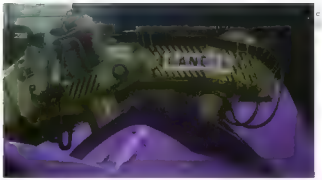


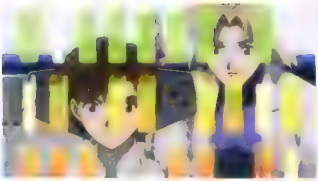


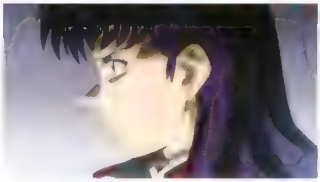




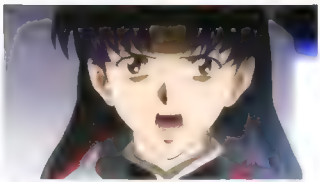


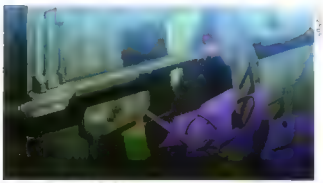


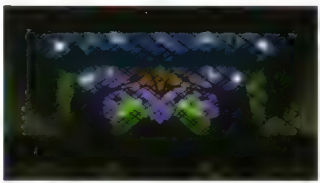


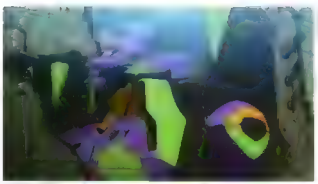


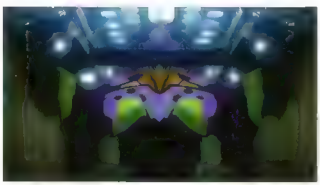
CAUTION

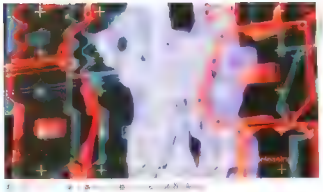


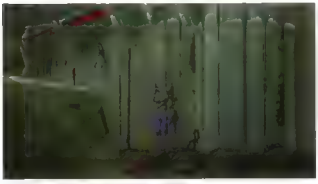


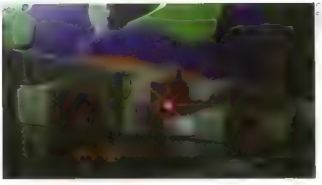


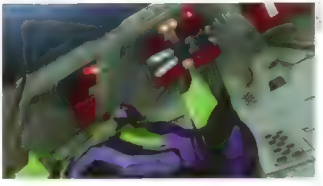


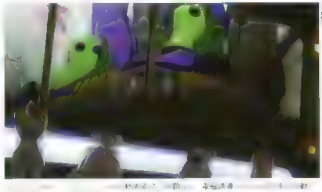


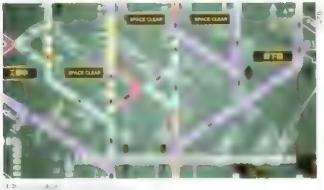


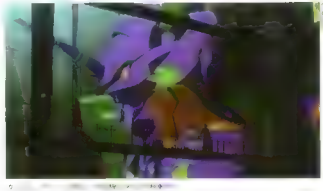


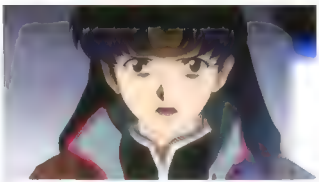


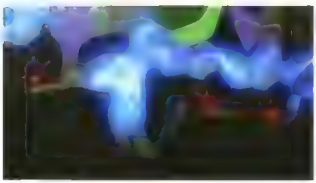


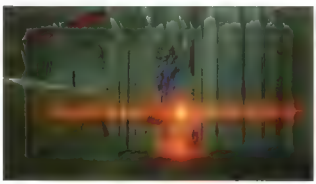


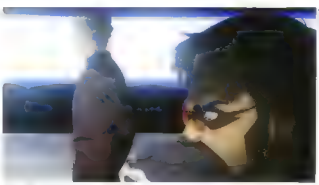

SPACE CLEAR
SPACE CLEAR
SPACE CLEAR

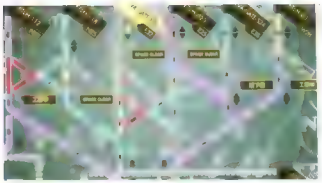


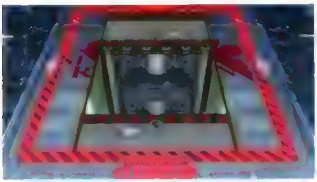


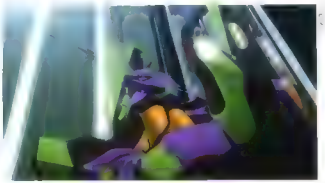


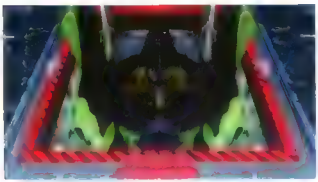


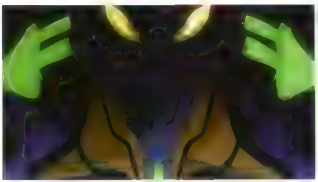


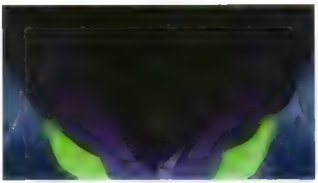


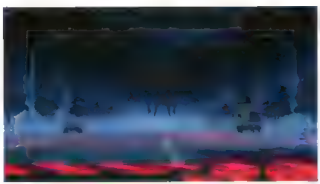


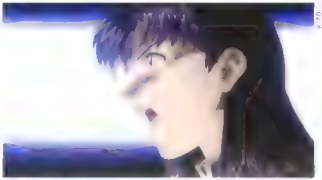


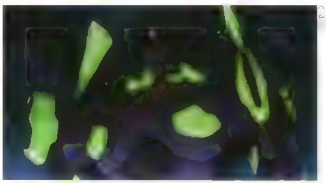


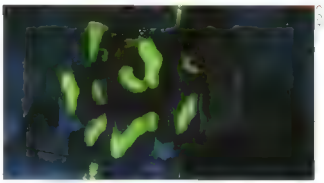


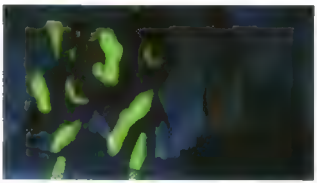


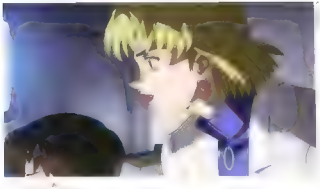


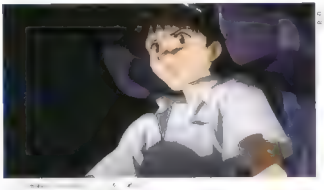




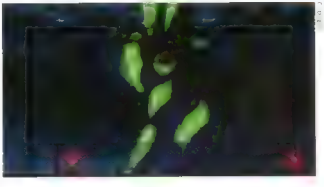


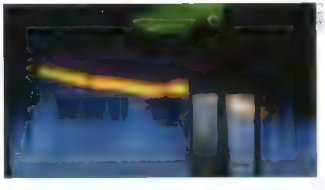


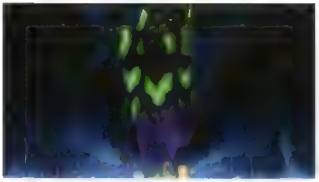


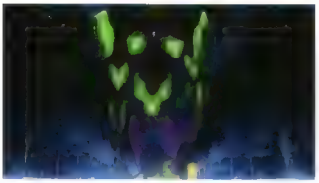


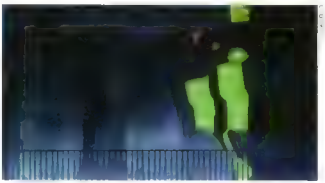
(↑PAN)

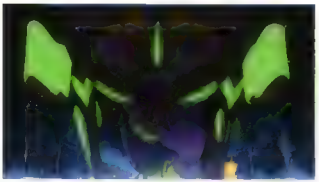


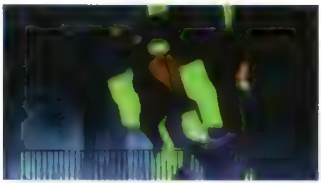


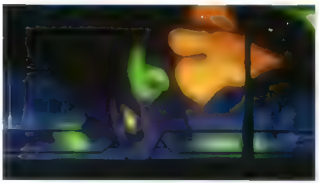


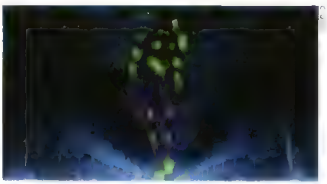


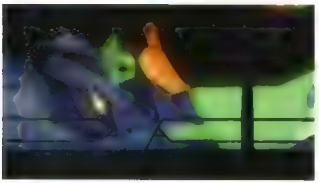


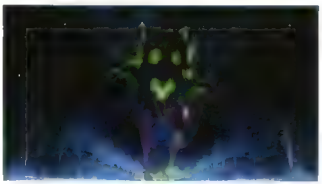


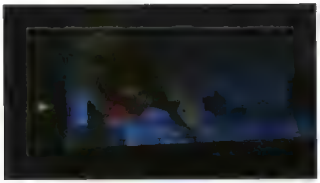


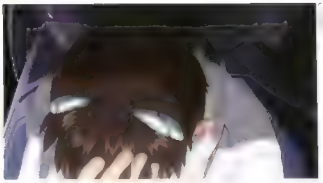


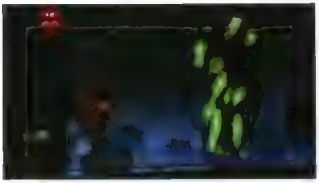


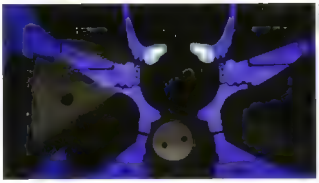


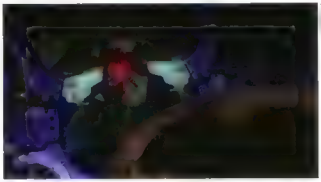


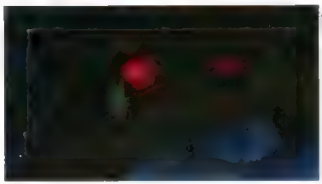


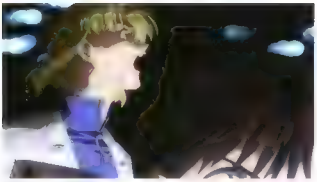


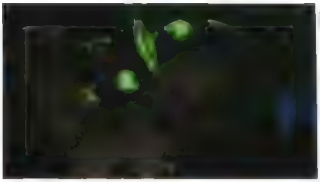


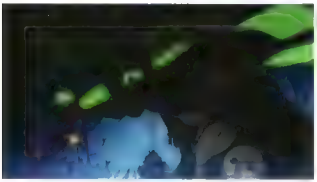


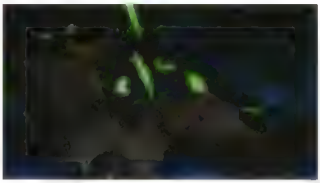


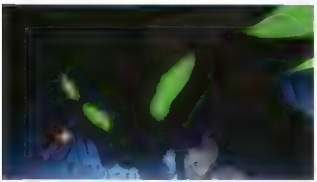


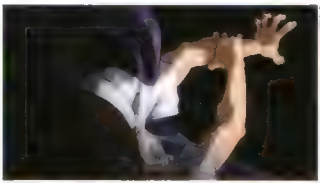


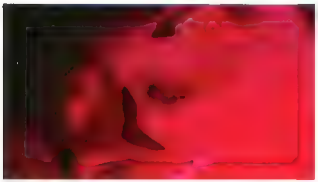


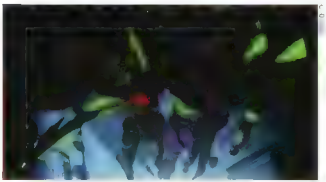


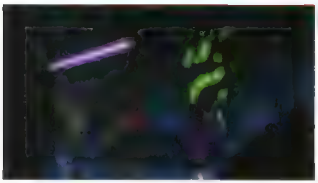


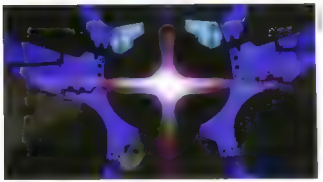


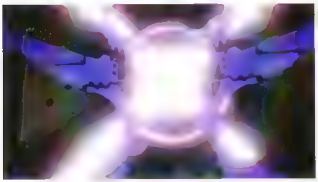


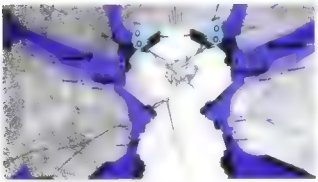


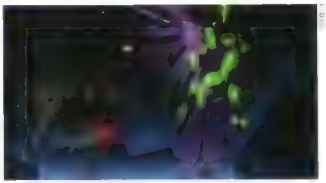


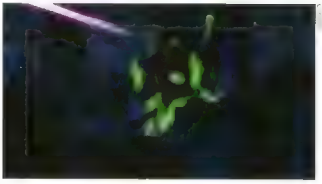


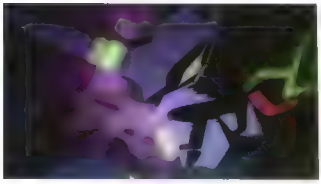


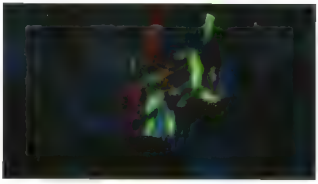


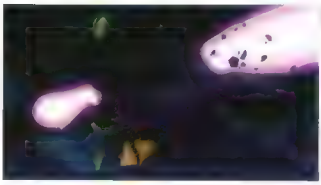




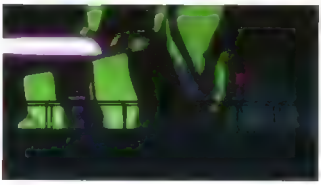


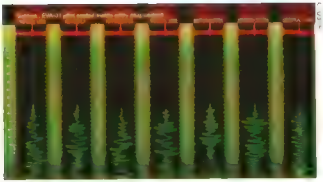


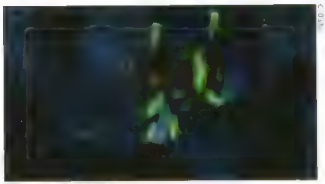


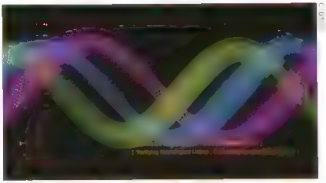


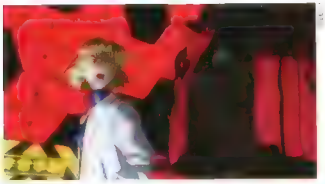
非常事態
CONDITION:RED
EMERGENCY
非常事態

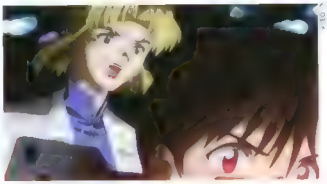


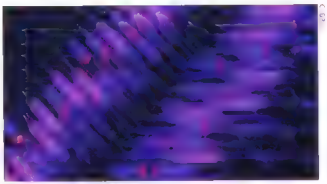


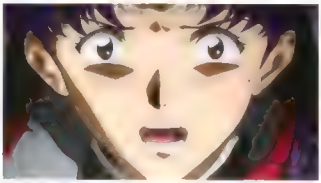


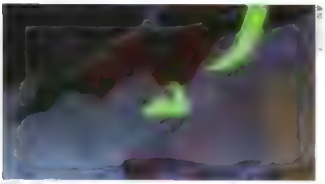


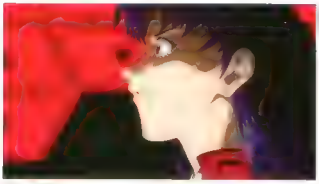


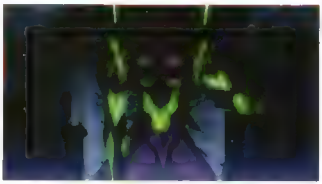


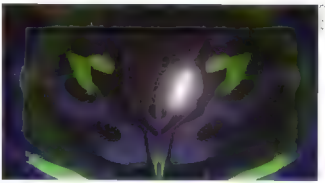


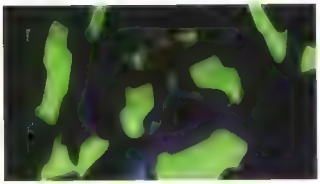
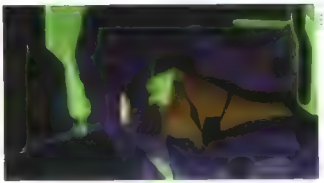


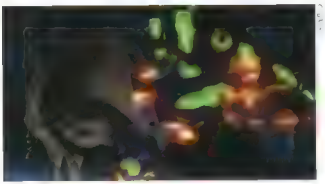
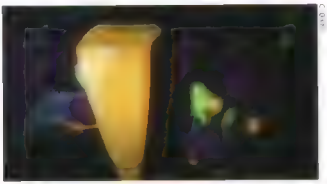
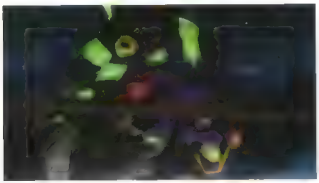


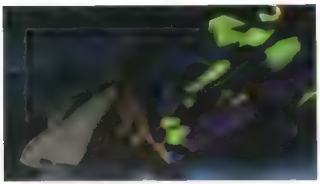




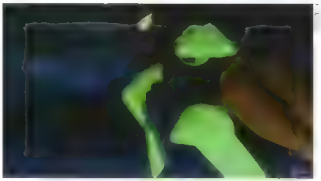


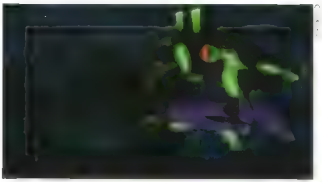



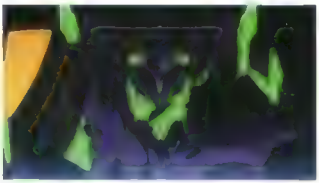




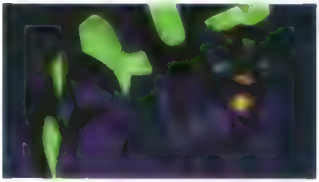


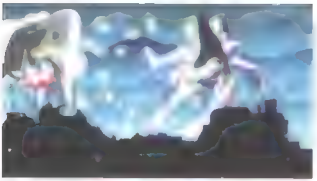
film

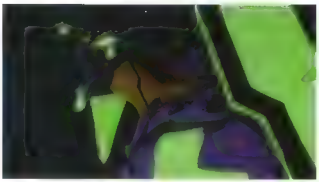


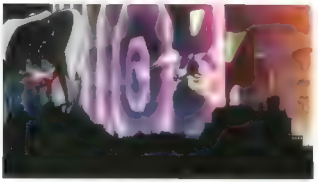


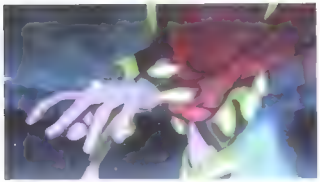


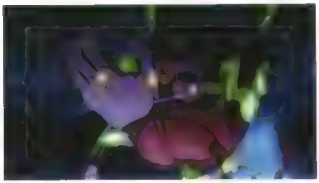


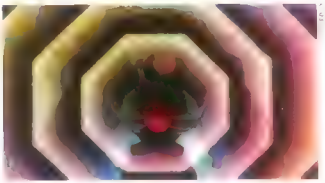


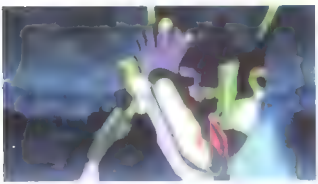


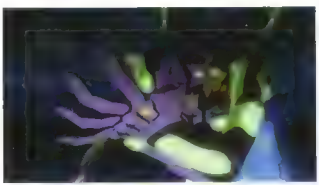


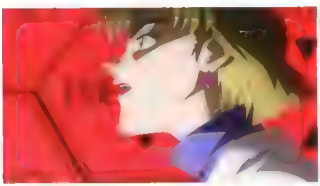


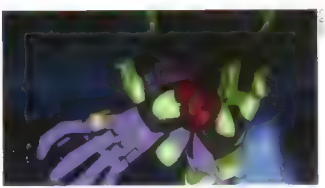




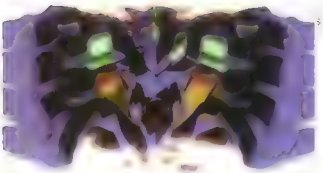


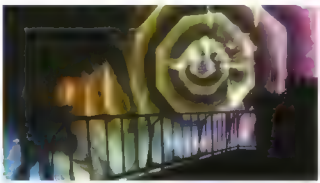


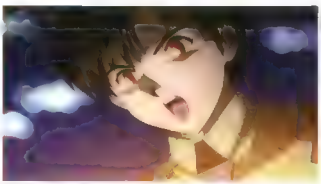


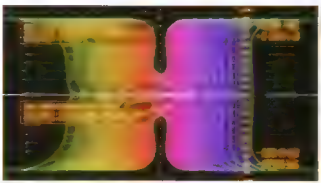


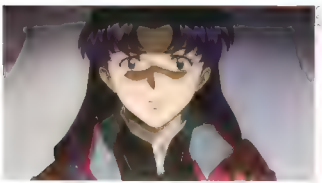
film

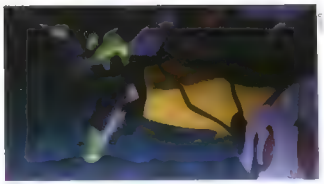


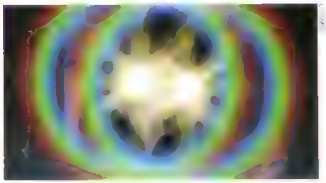


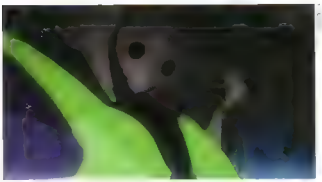


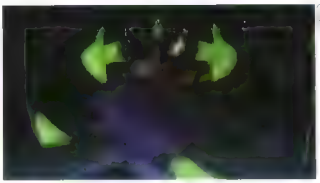


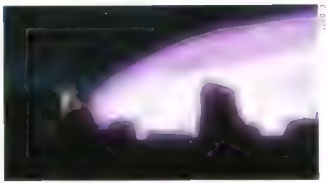


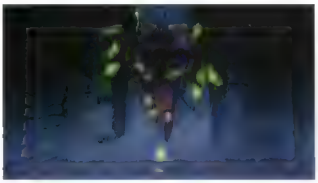
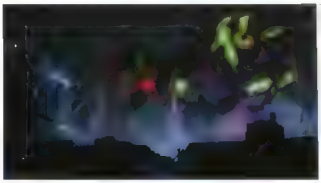
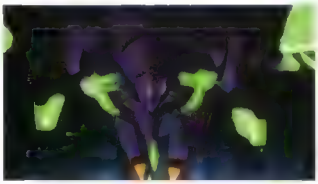
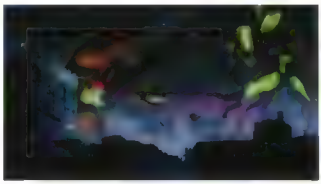
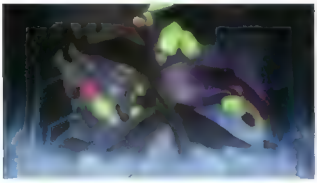
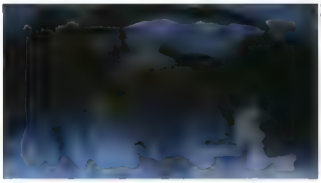
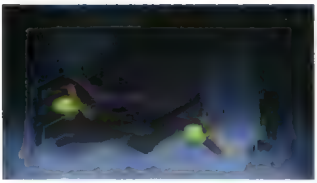
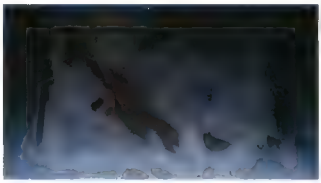
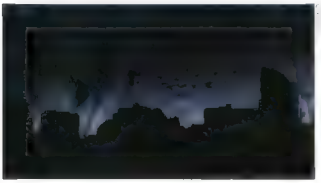
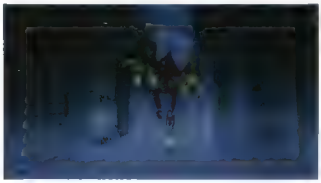


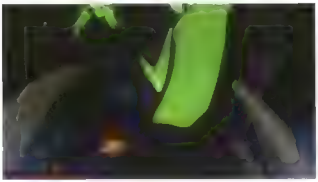


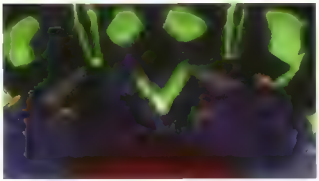


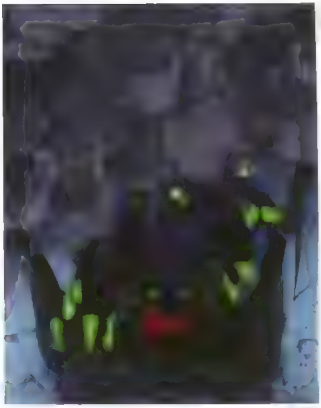




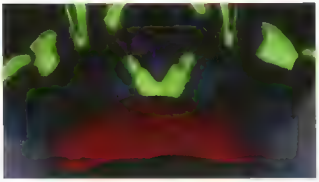











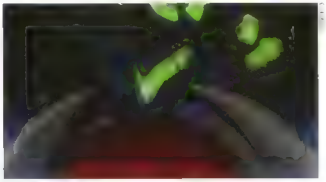


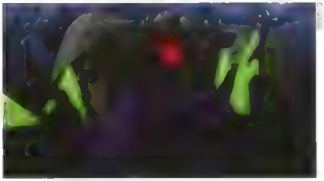


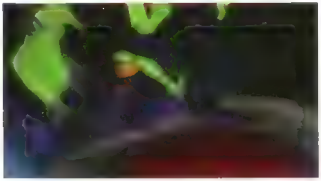


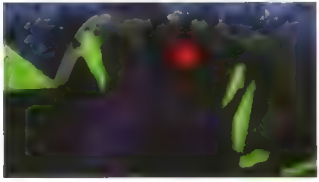
↓ PAN

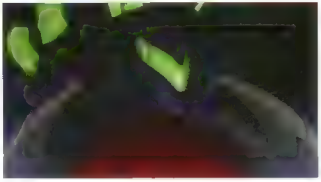


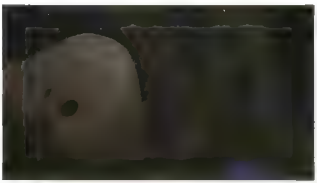


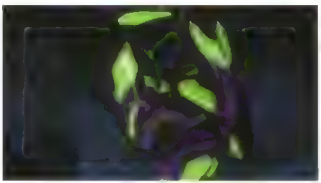


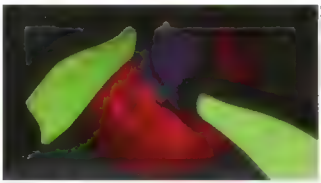


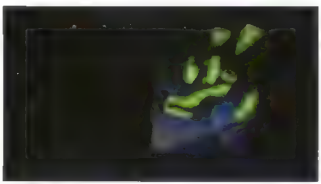


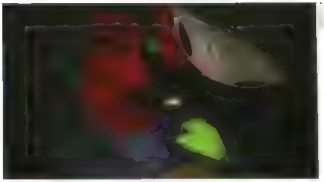


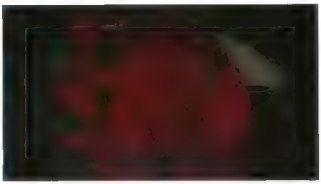


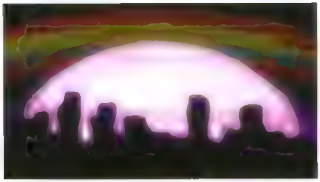


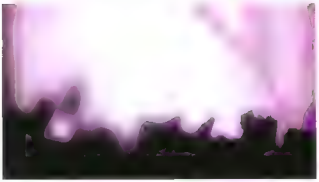


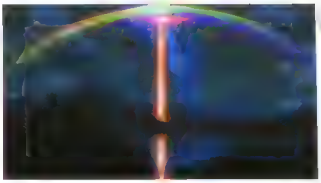


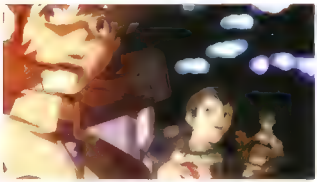


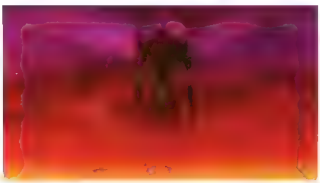


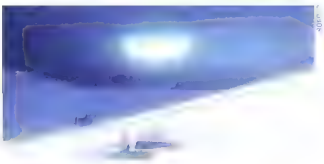


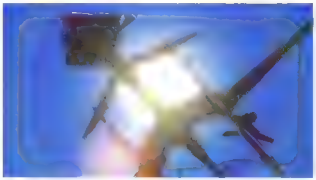


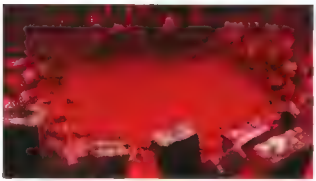


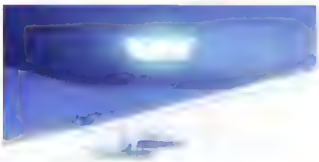


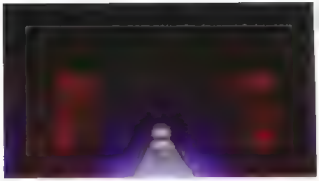


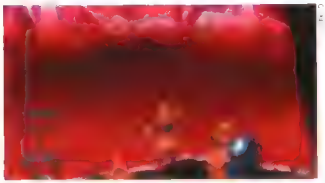


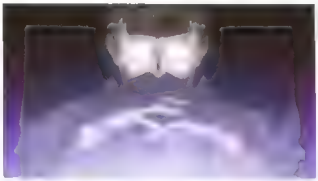


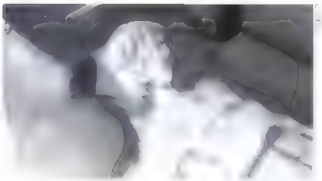


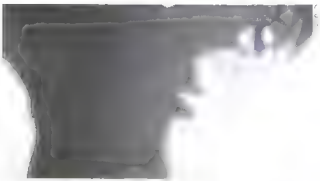


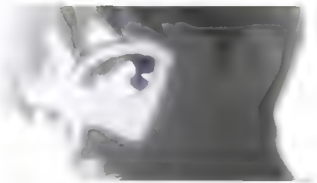


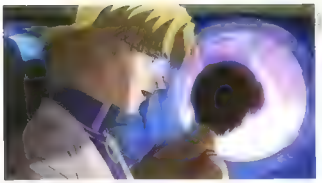


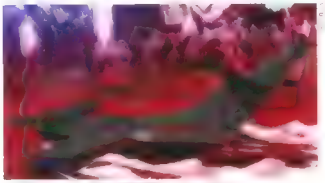


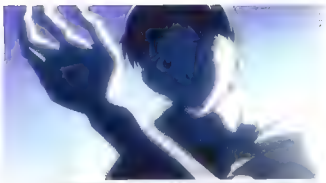


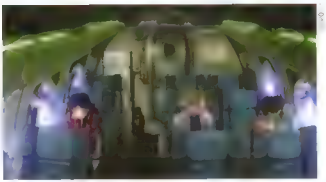


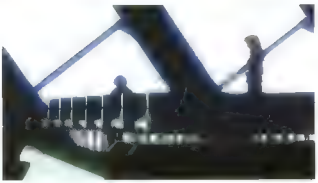


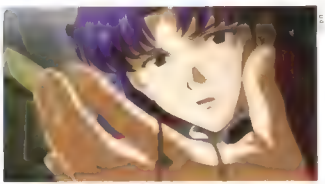


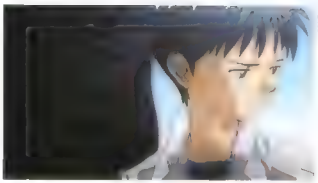


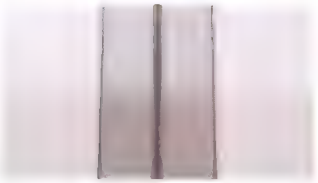


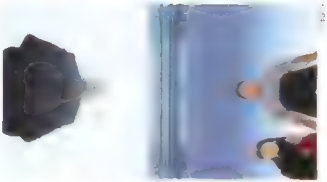


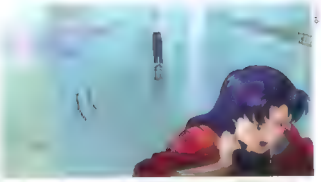


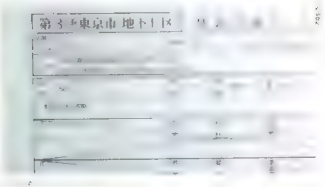


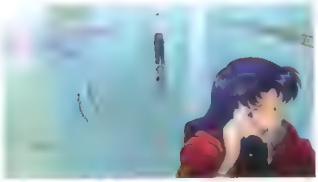


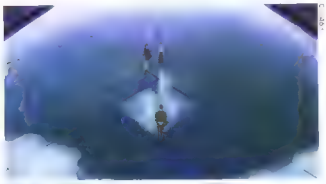


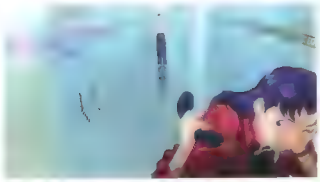


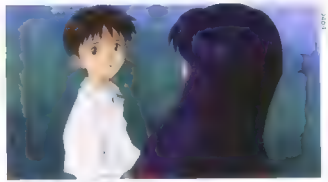


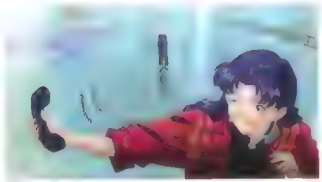

第３新東京市 地下１区

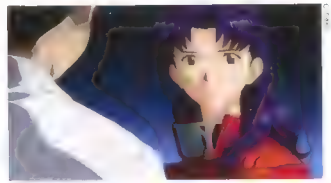


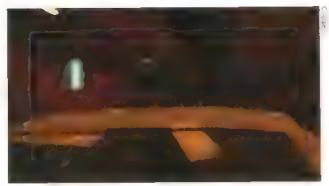


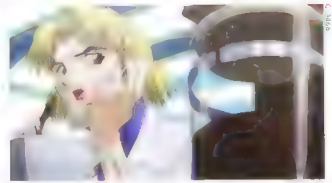


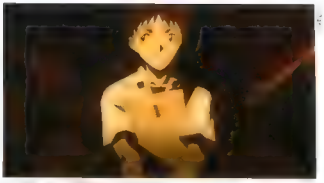


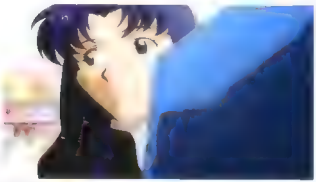


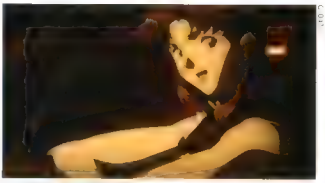


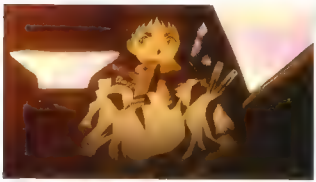


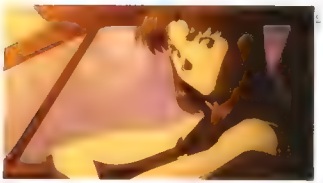


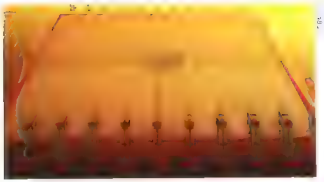




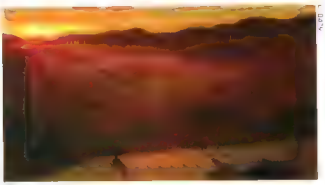


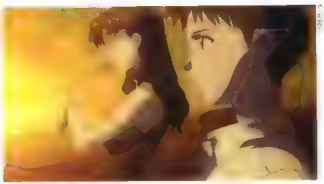


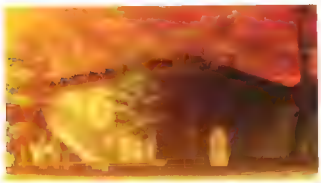


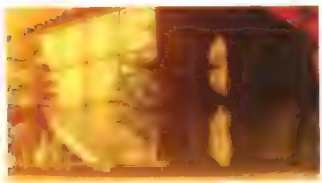


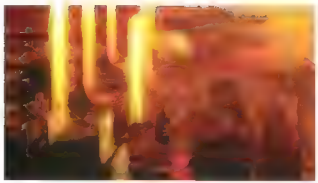
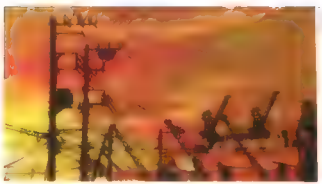
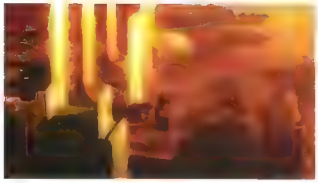
33

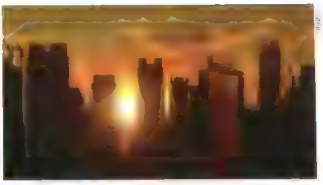


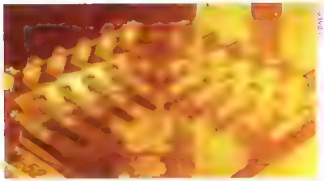


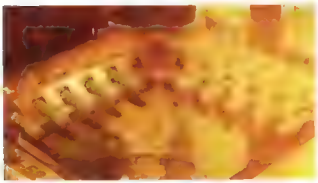


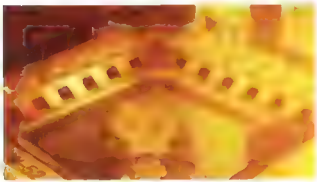


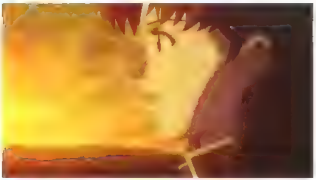




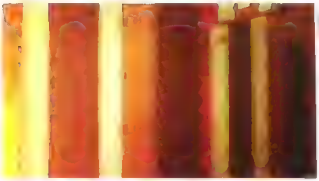


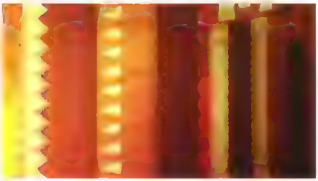


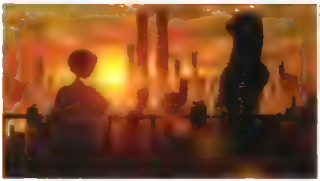


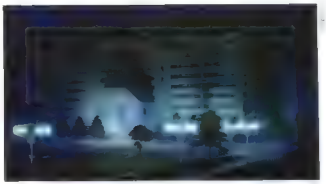


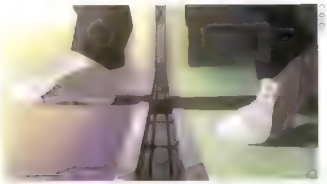


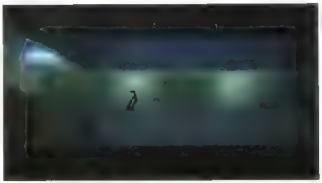


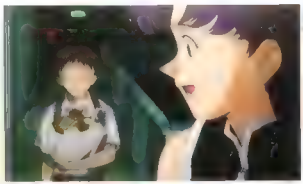


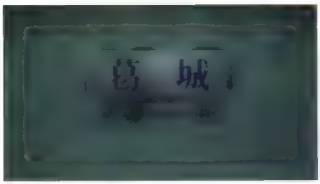


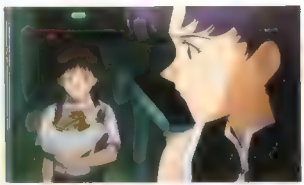




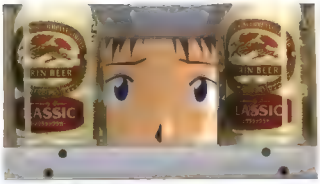


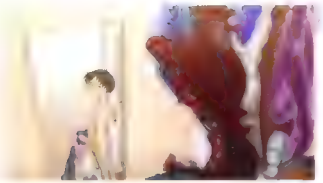


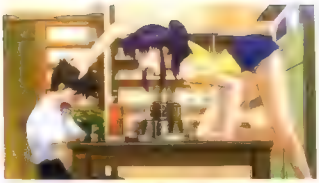

葛城

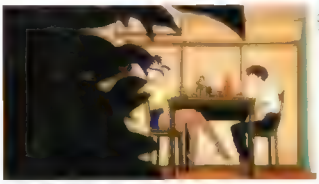


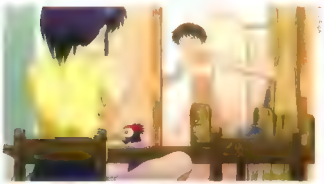
Doritos Doritos Doritos

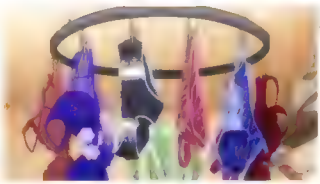

KIRIN BEER
CLASSIC

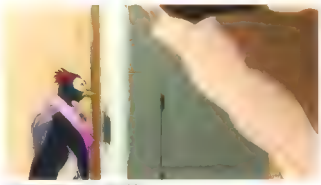


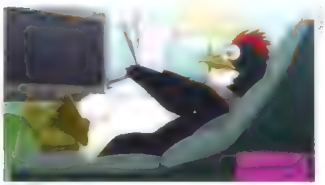


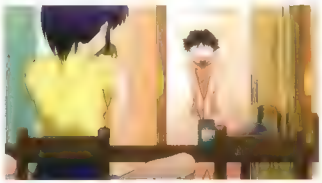


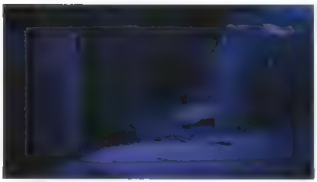


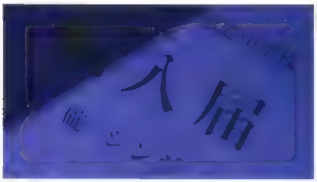


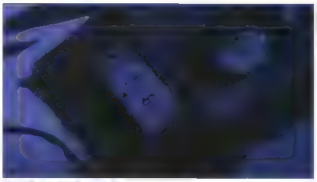


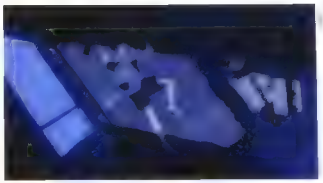


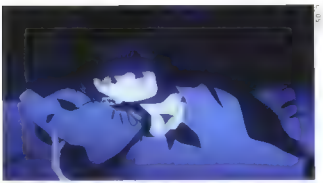


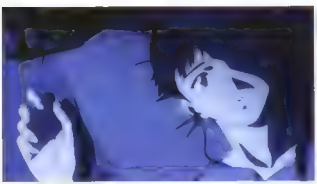


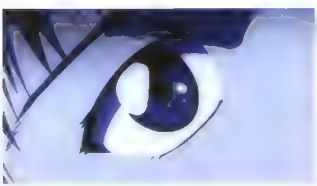

八

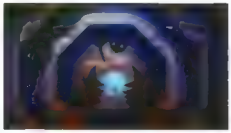


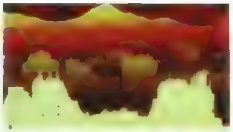


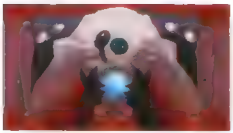
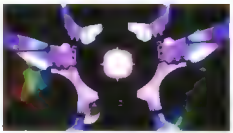


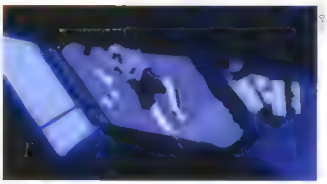
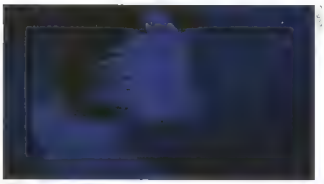
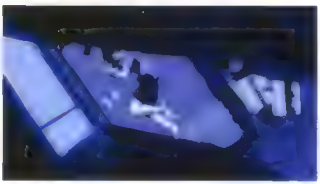


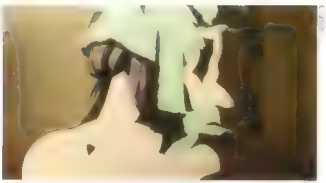


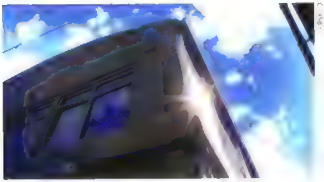


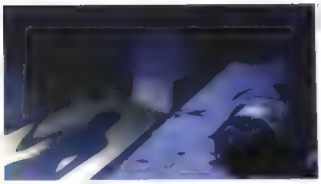


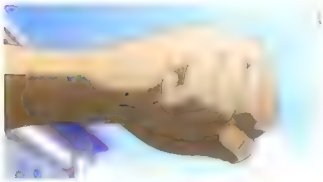



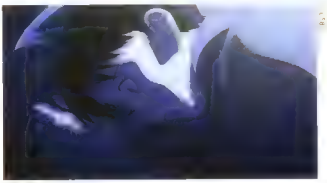




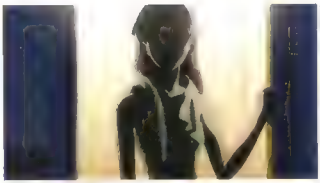


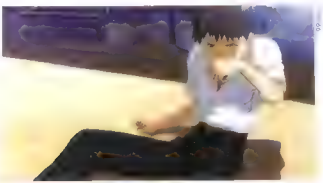


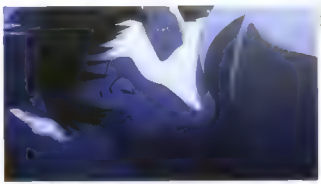


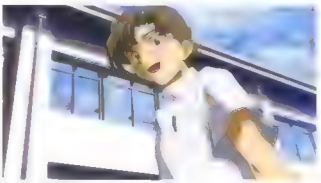


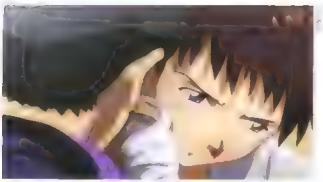


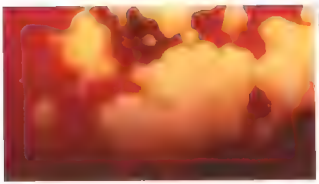


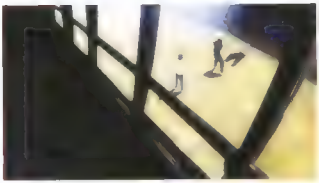


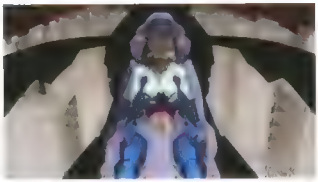


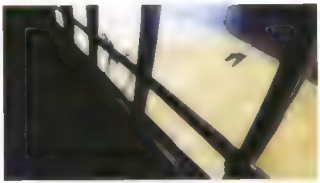


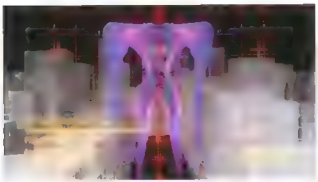


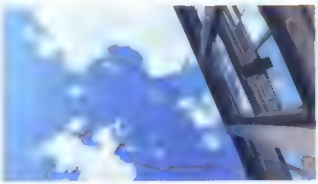


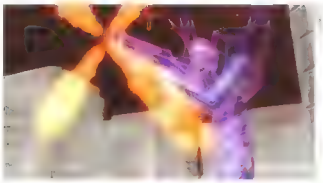


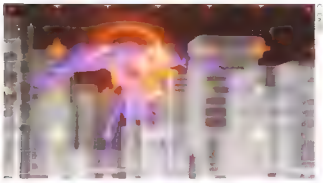


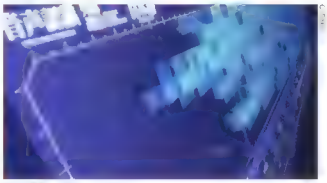


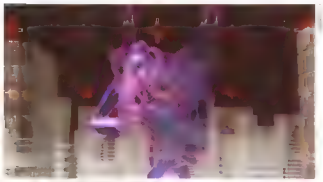




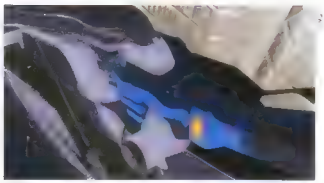


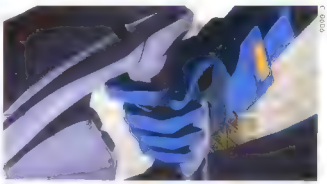


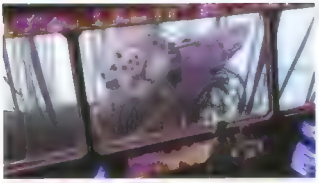


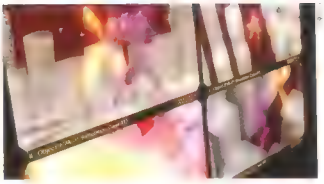


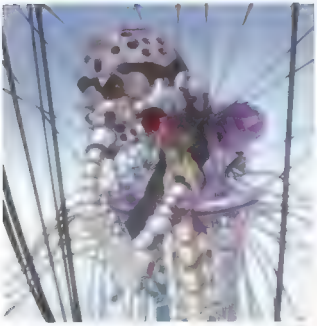
SIMULATION CASE 913



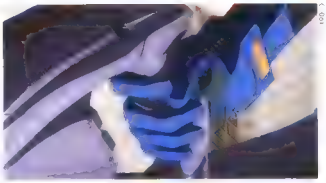


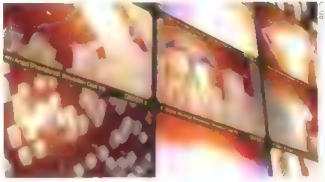


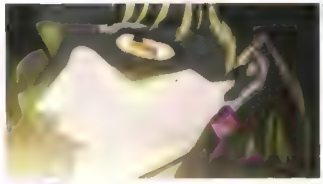




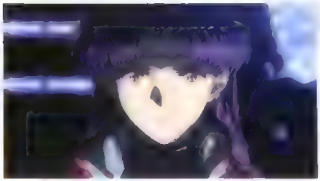
PAN

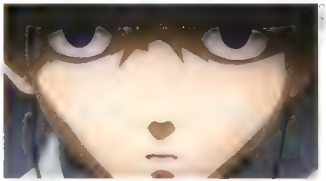


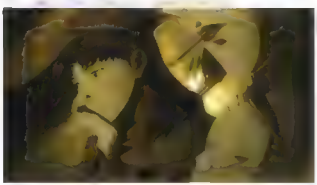


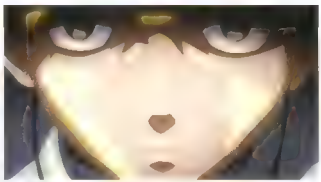


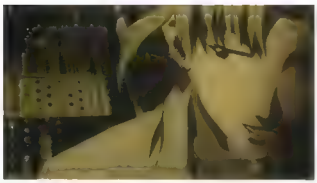
R-102
運転中

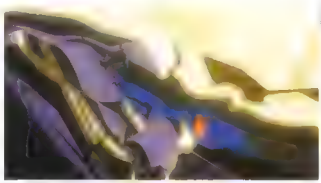


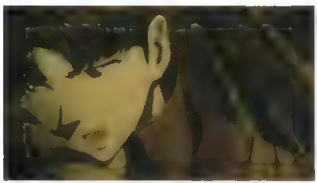


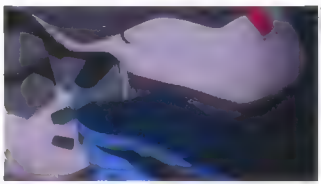


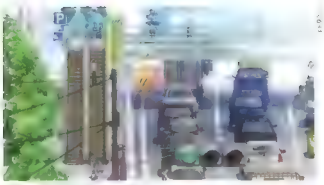


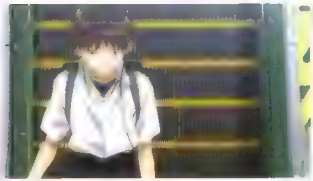




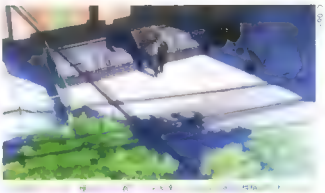


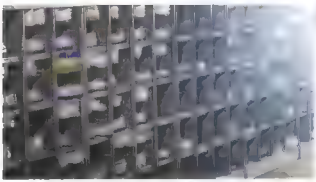


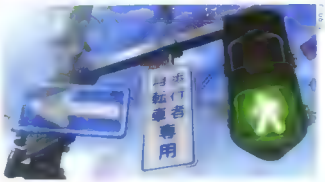


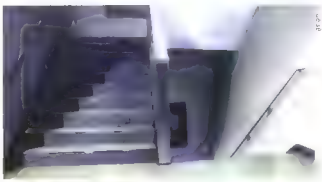


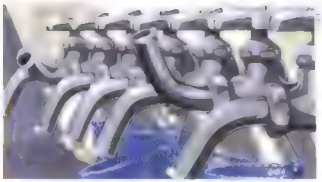
コマツ

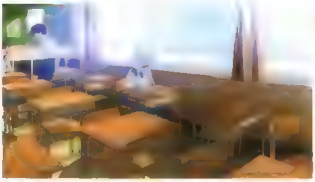




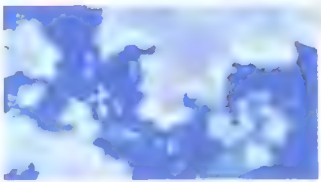

歩行者
自転車専用

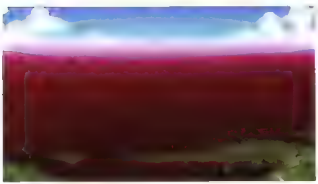


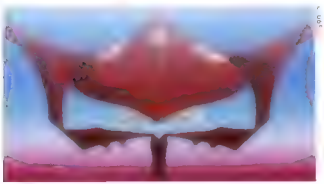


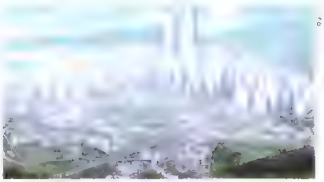


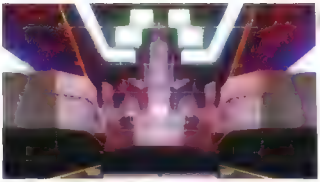
2年A組

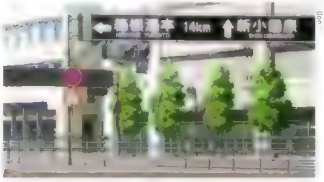


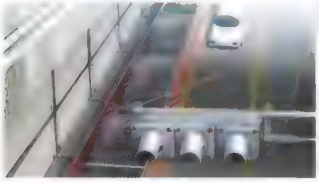




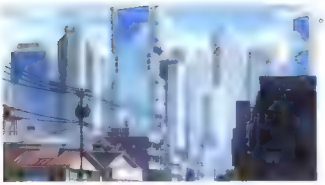
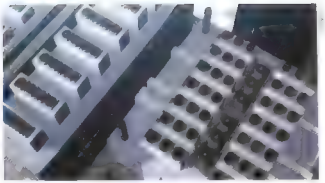
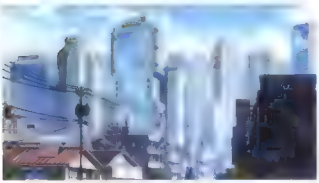
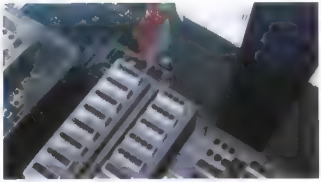
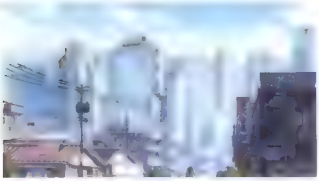


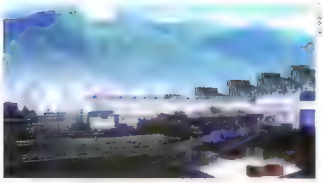
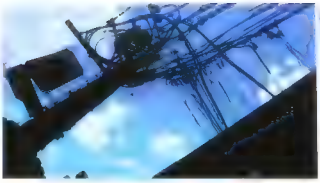
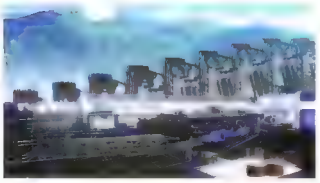
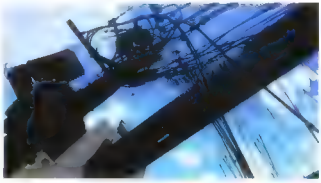
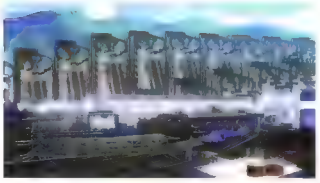
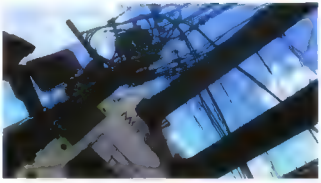
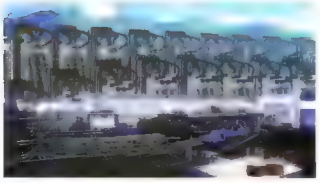
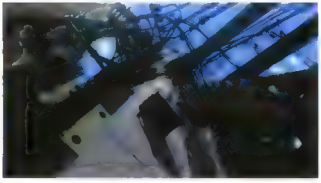


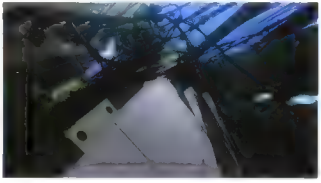

14km

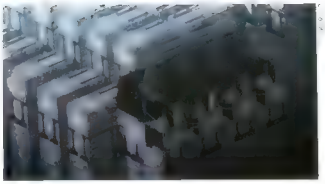


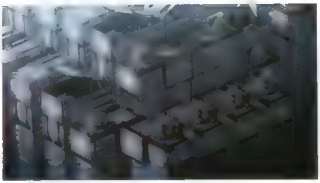
WARNING
WARNING

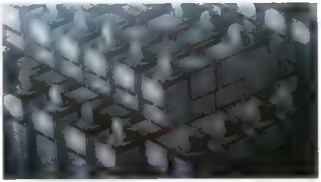






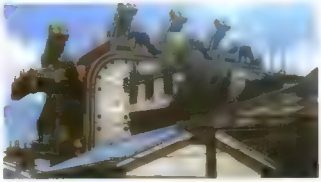









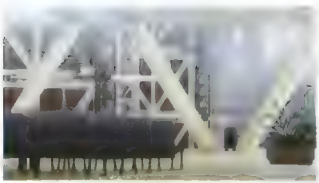


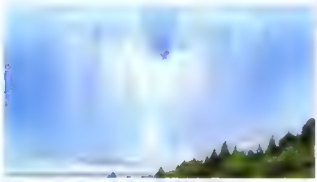


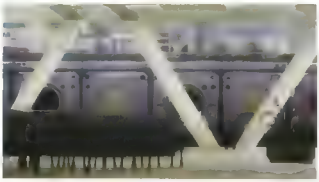


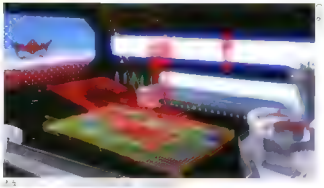




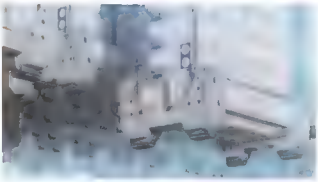


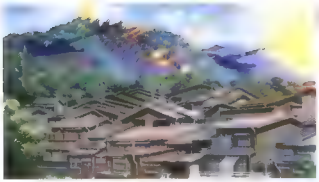


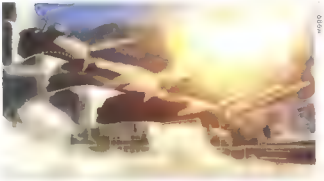


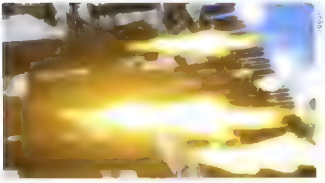


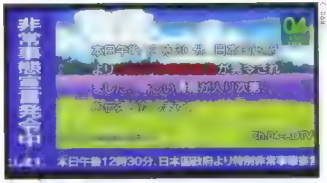
GEO-SHELTER
334
第334地下避難所
第3新東京市 管理局防災課

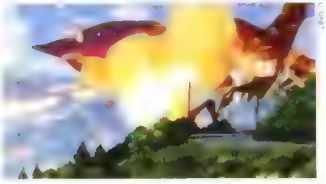


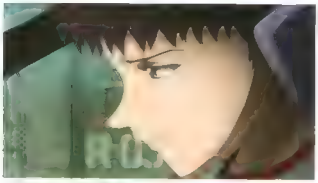


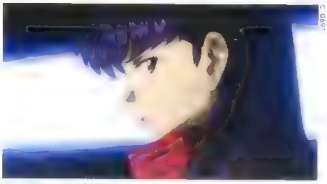


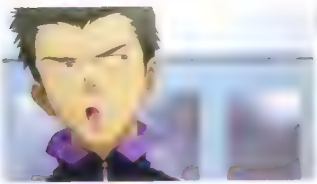


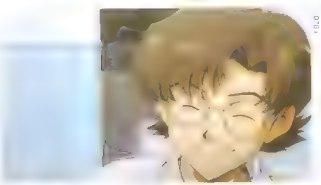

非常事態宣言発令中
04
本日午前12時30分、日本国政府より特別非常事態宣言が発令されました。

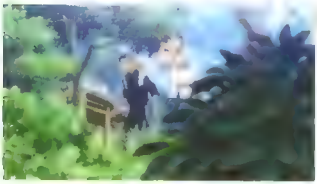


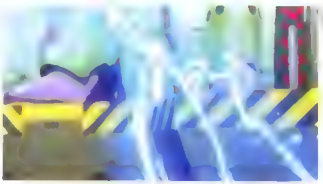


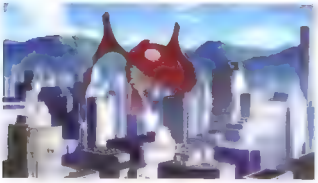


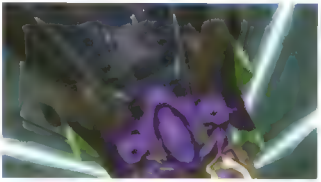


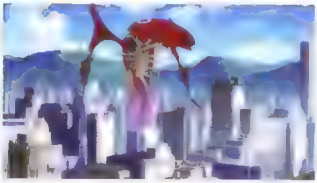


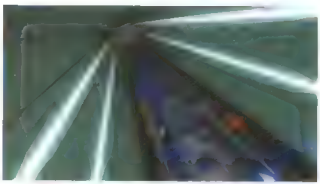


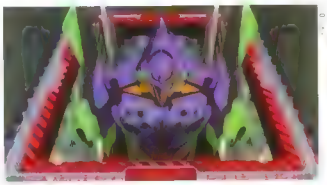


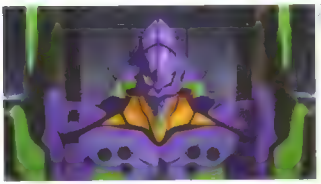


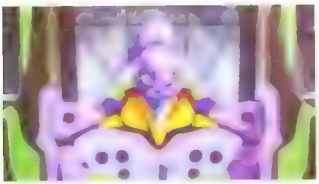


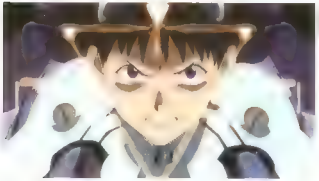


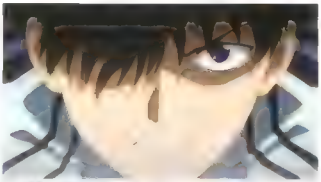


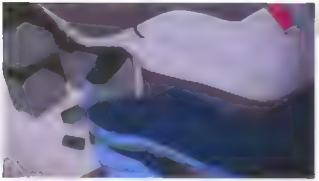


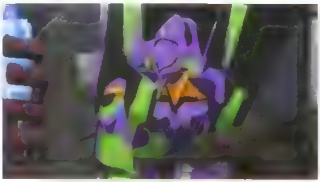


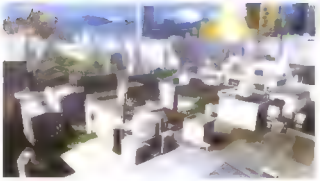


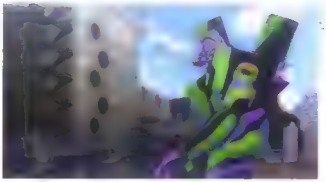


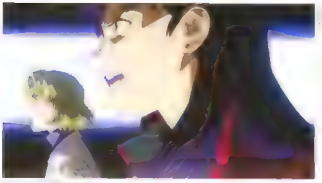


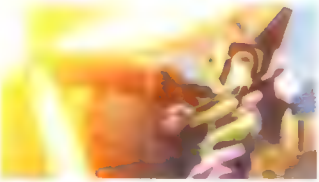


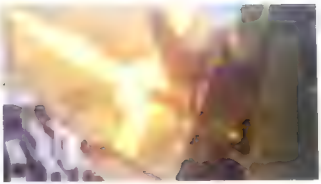


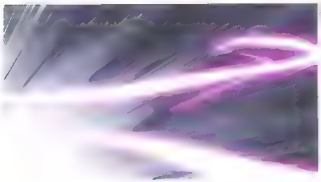


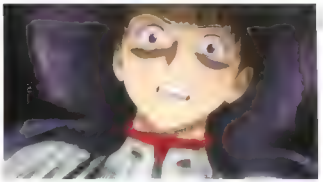


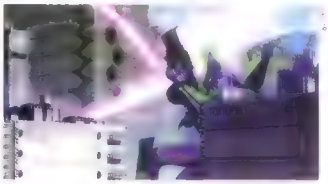


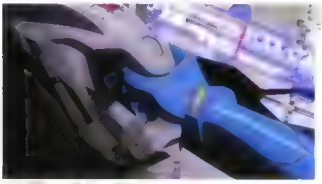


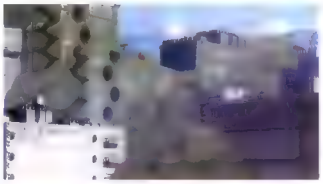




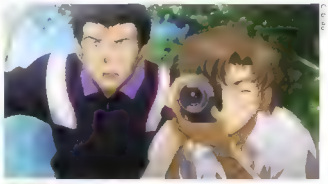


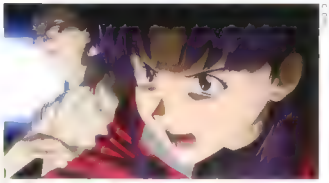


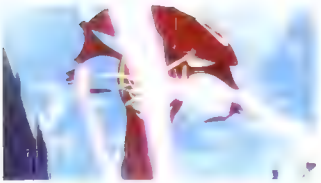


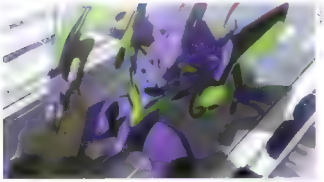


307分
録画
0:03:18
[216分]
HDXP
5.1ch

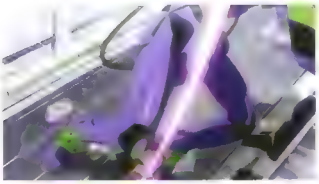


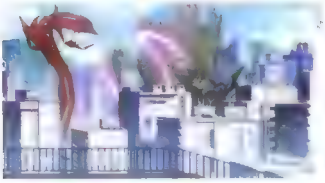


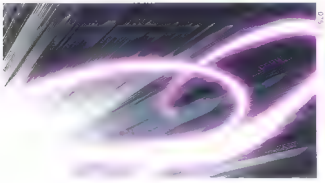


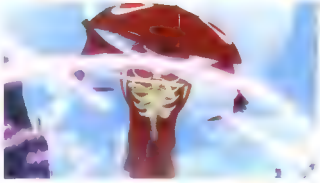


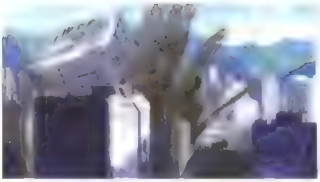
1 PAN

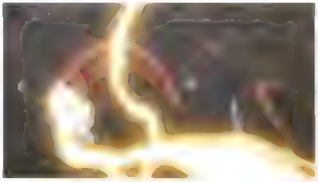


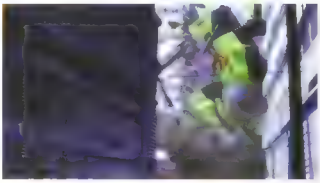


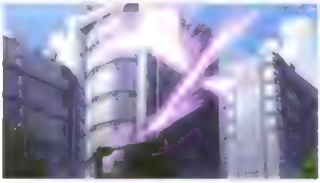


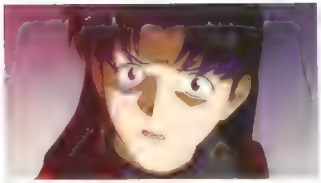


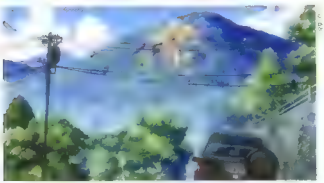


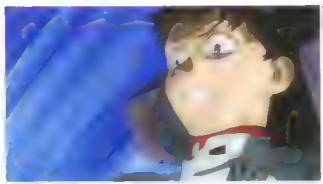


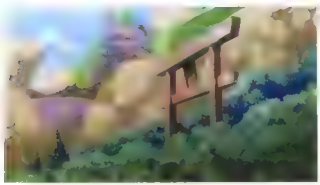


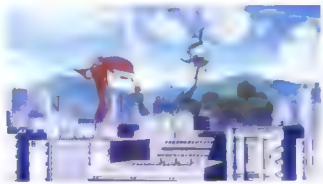


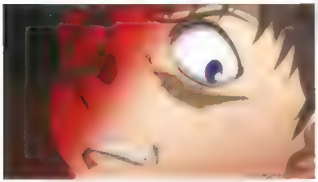


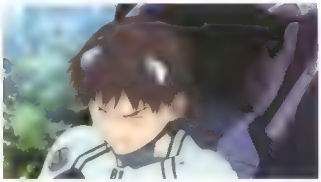


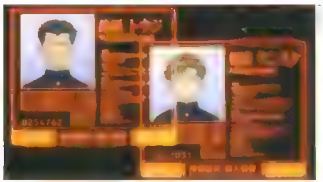


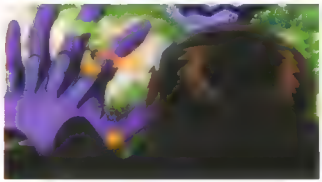


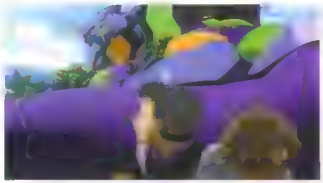


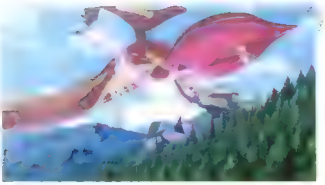


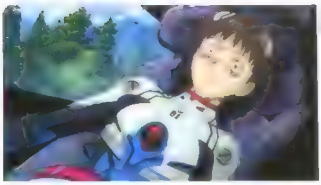


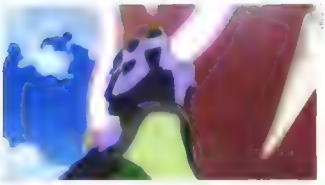


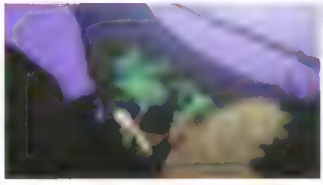


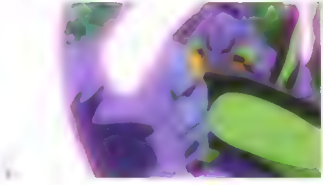


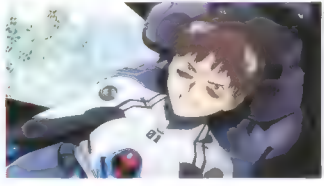


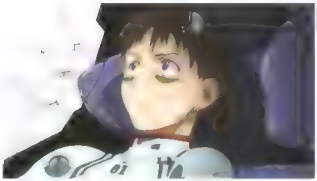


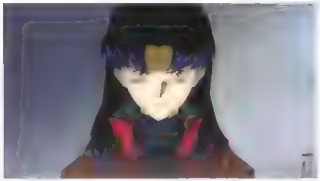


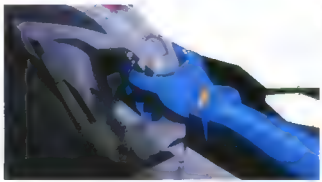


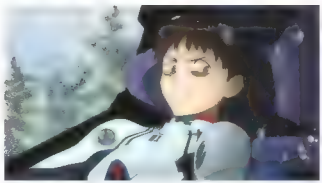


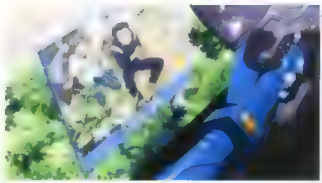


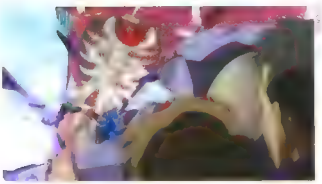


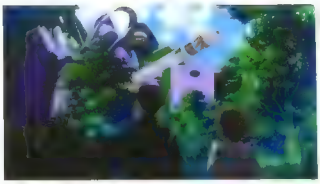


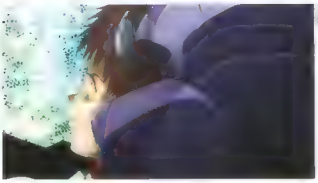


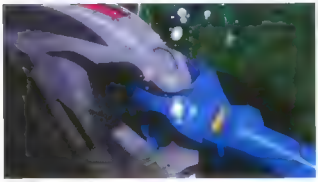


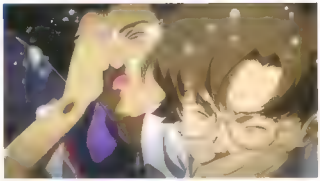


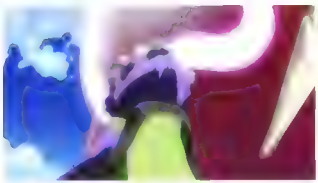


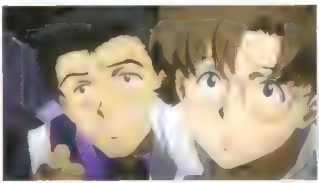


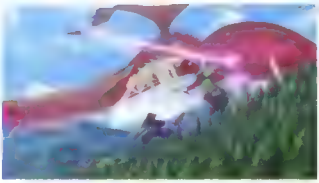


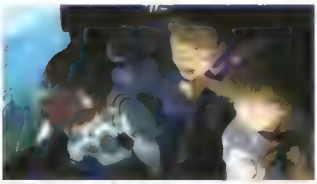


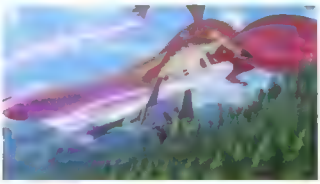


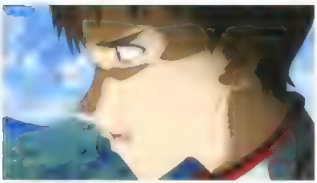


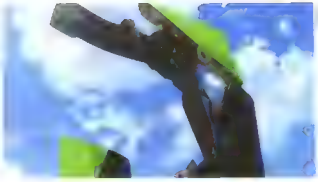


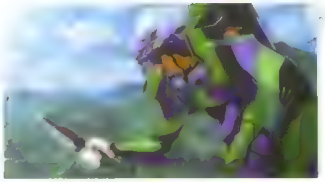


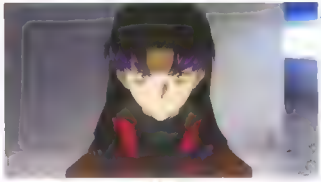


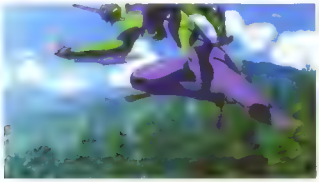


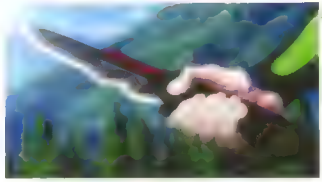


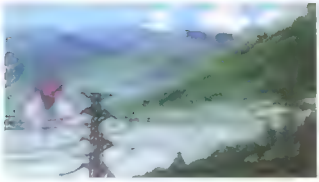


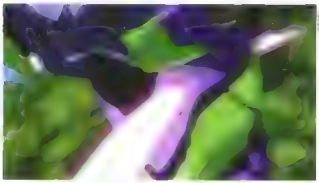


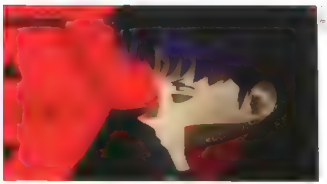


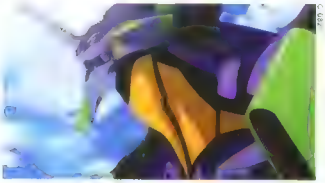


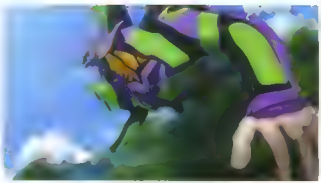


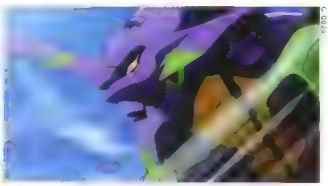


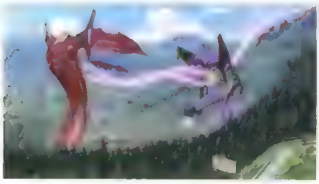


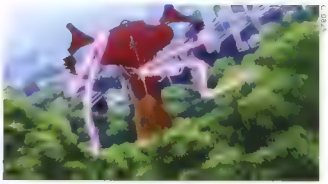


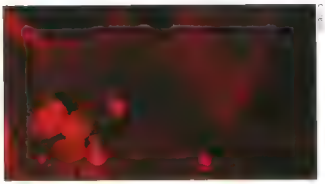


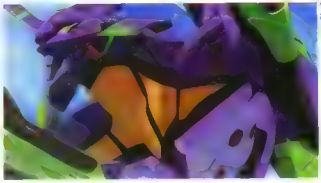


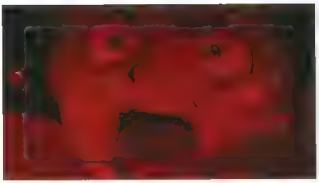


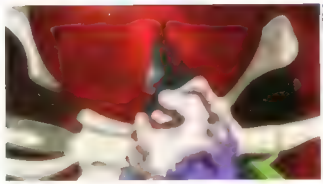


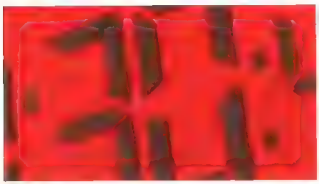


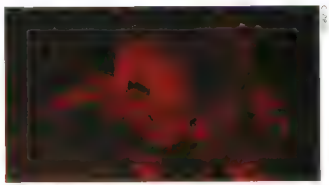


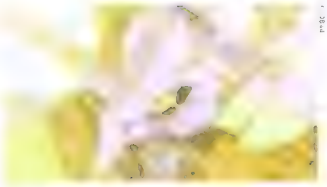


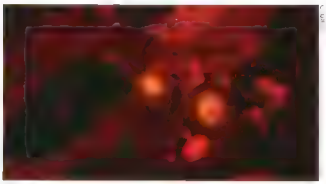


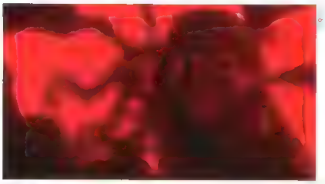


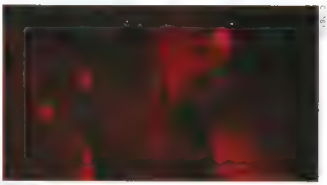


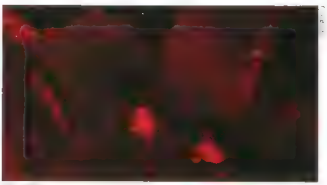


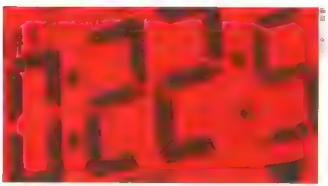


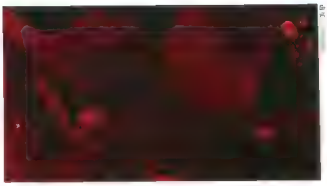


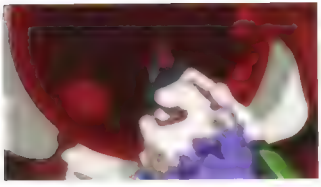


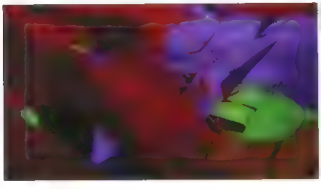


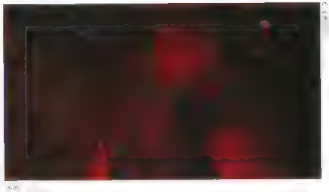


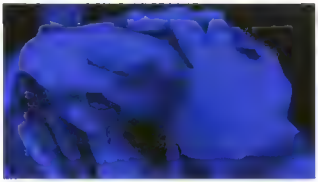
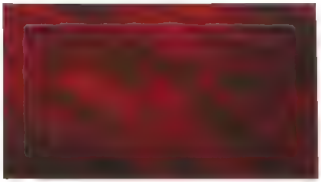
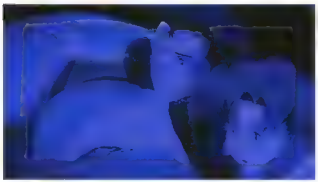
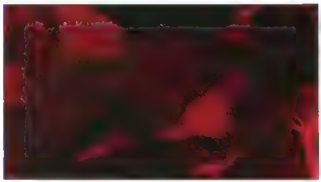
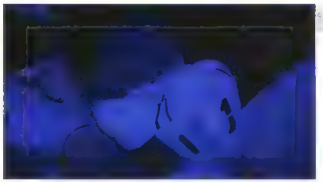
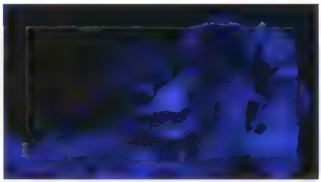


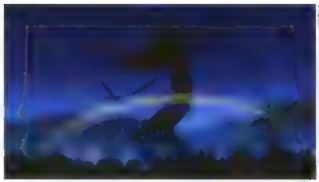
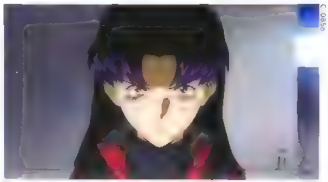


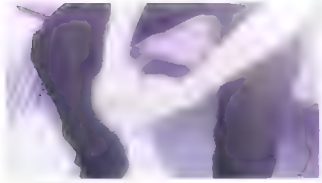


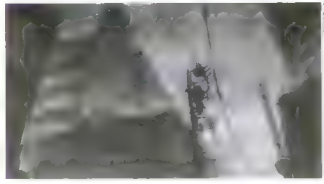


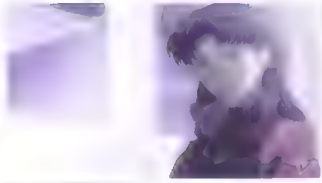


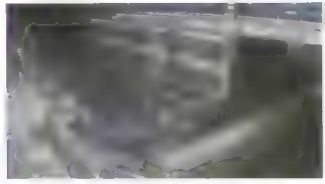







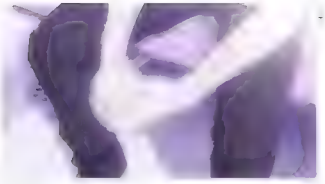



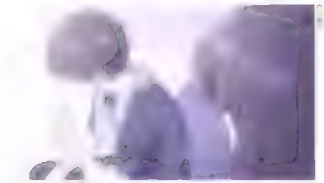


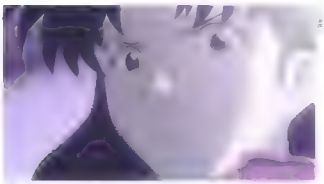


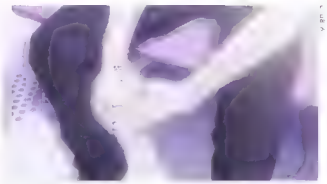


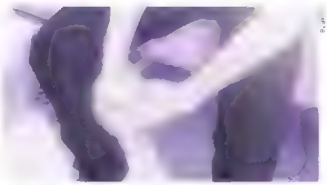


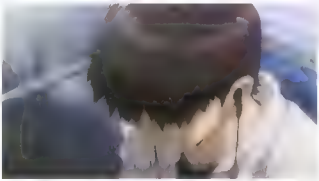


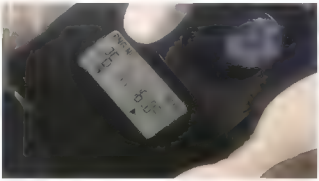


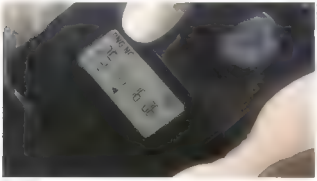


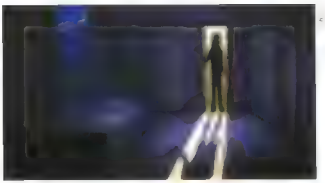


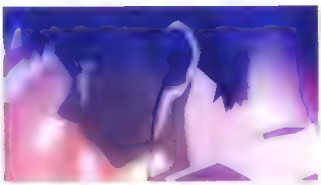


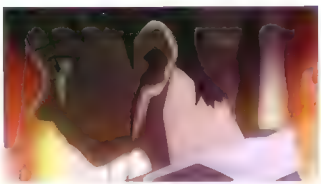


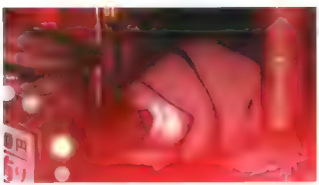


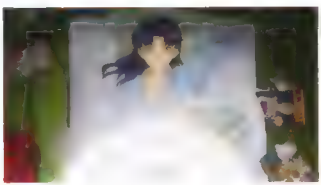


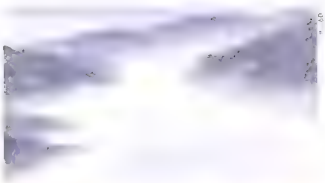


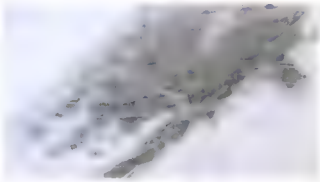




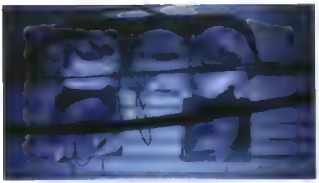




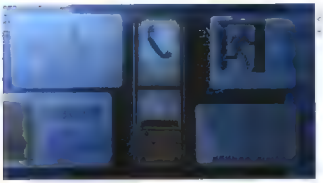


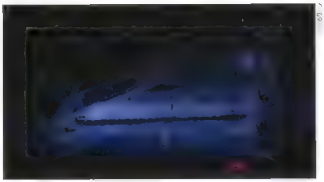


PAN

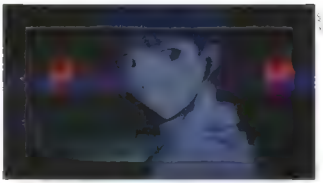


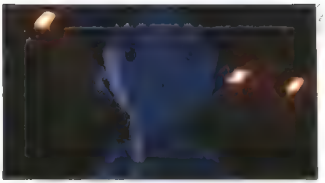
2年A組



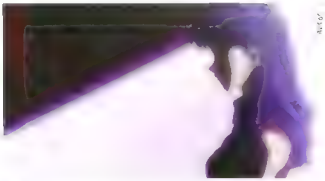


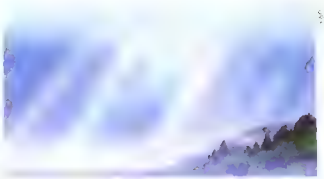
film

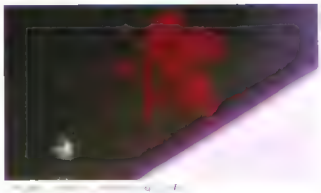


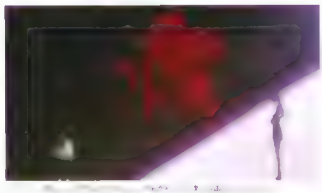


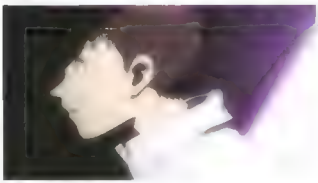
T PAN↓

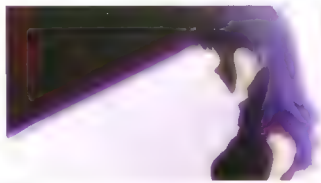


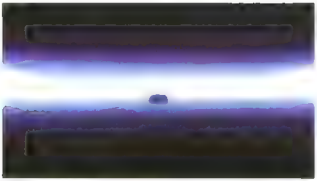


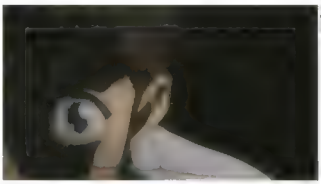




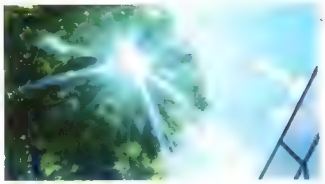


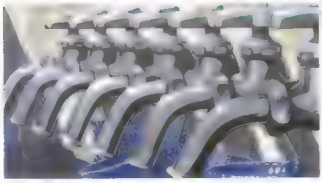


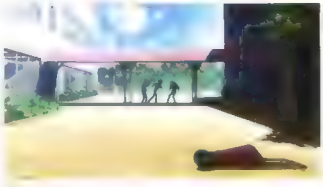


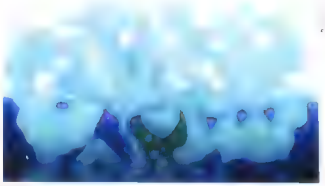


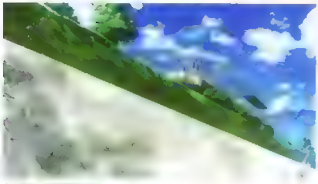
EVANGELION
:1.01
You are (not) alone.

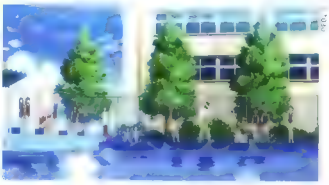


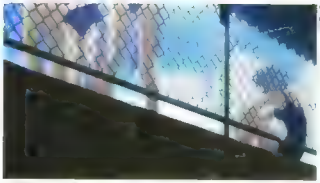


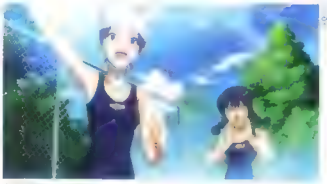


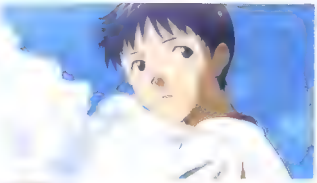




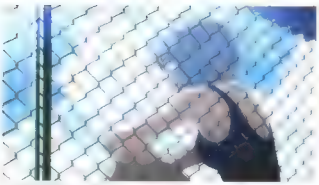


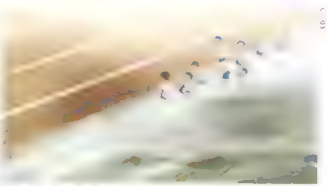


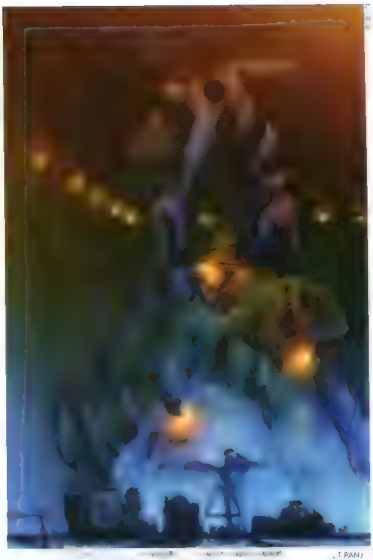


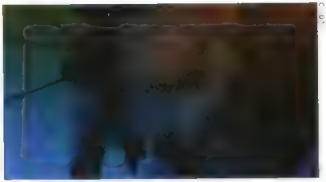


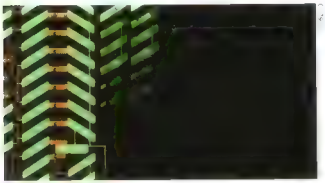
4

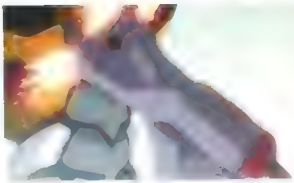


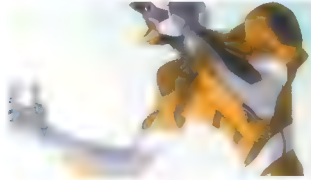


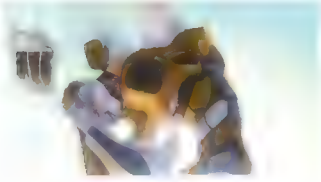


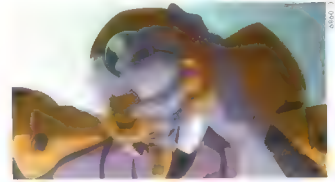


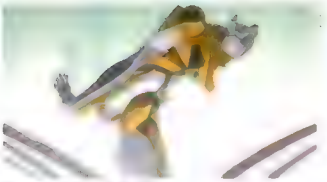


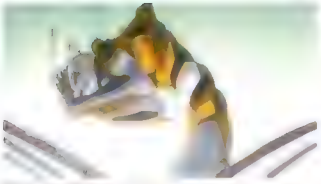


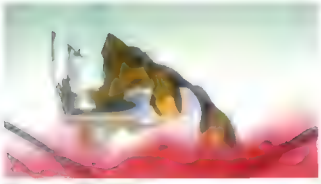


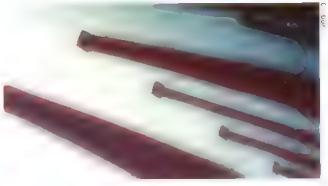


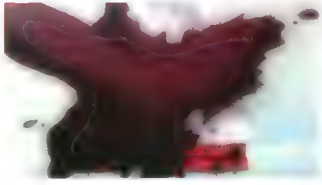


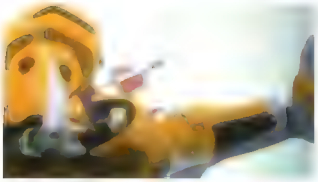


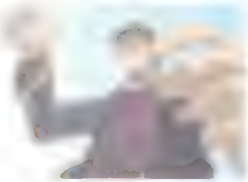


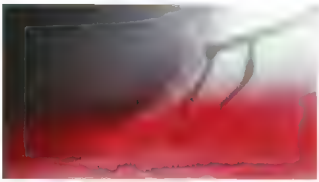


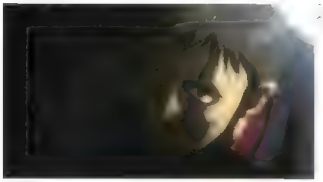


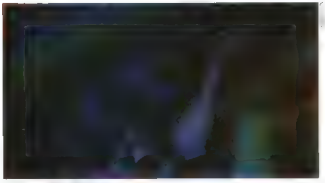


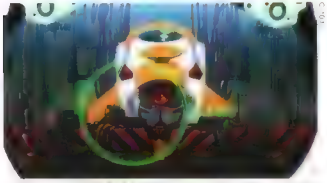


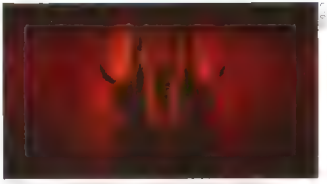


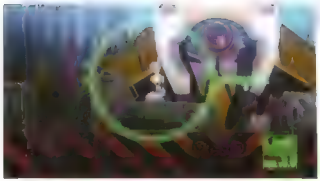


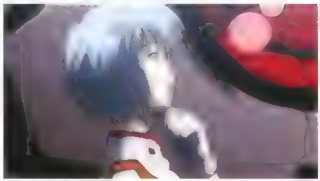


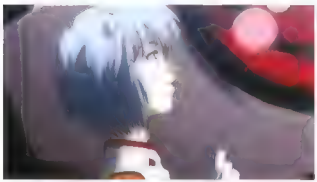


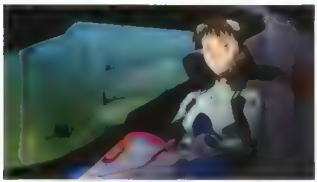


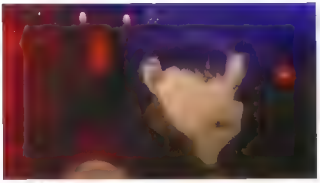


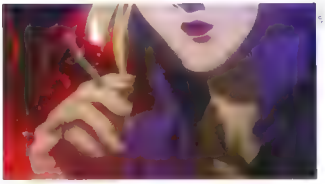


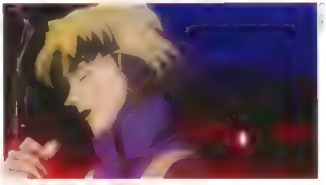




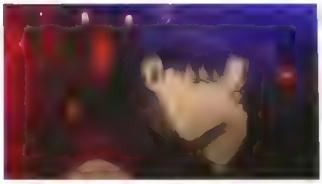


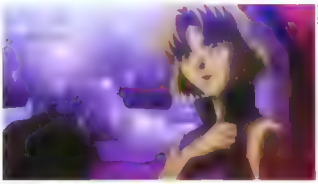


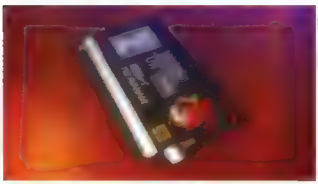


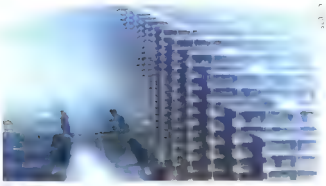


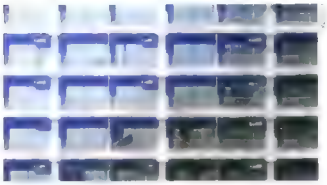
film

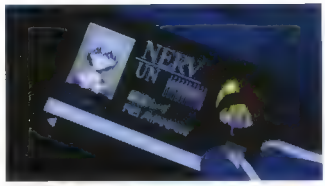


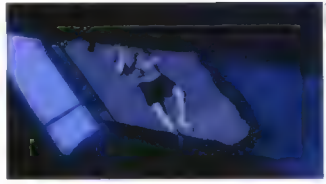


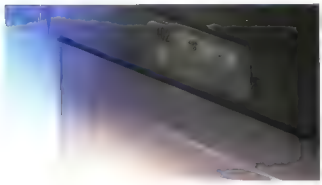


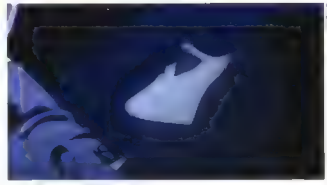




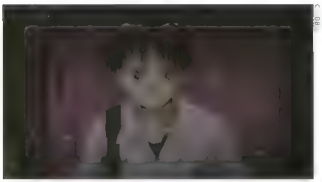

NERV
UN

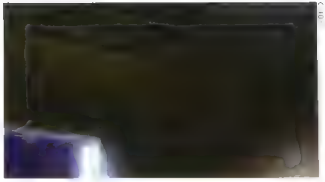


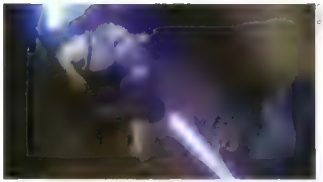


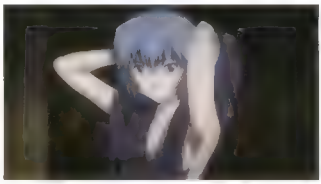


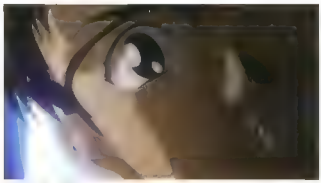
NE
UN

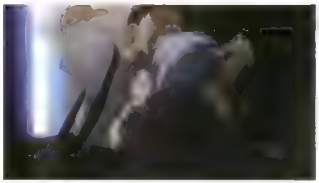


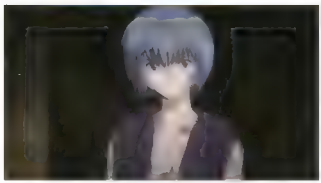


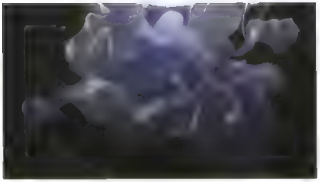


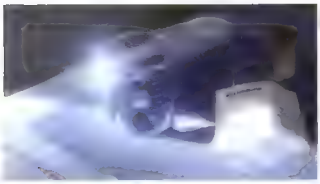


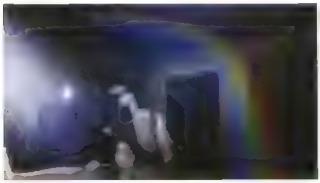


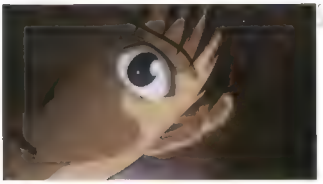


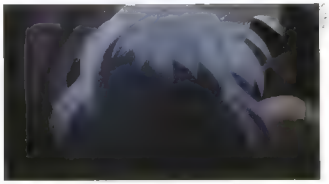


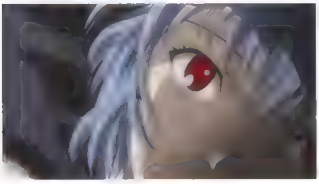


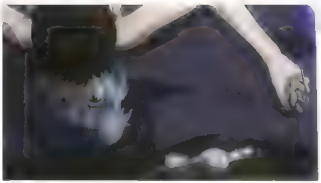


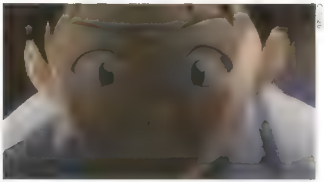


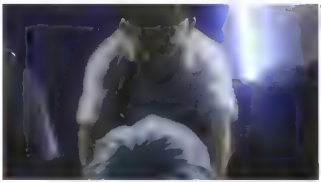


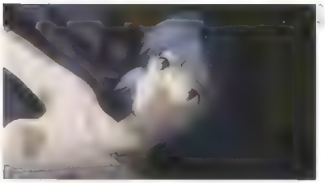


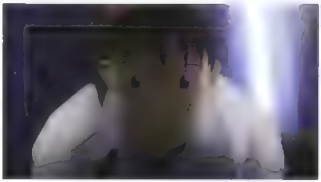


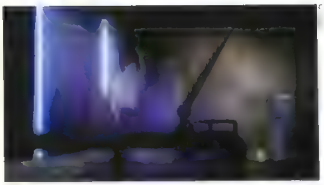


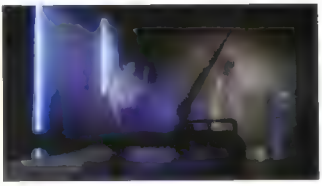


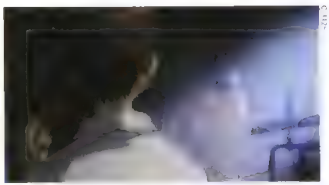


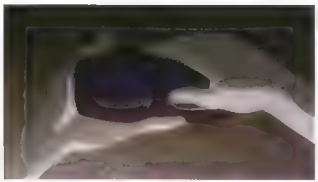


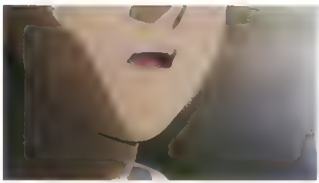


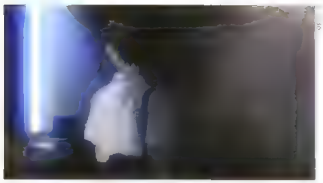


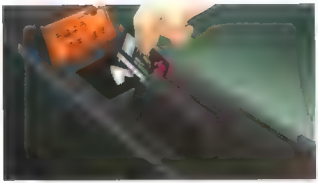


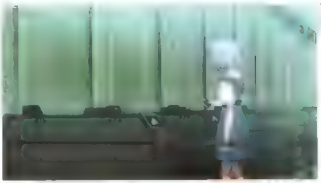


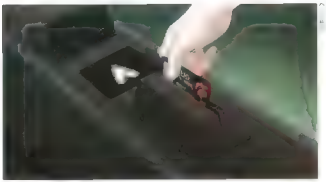


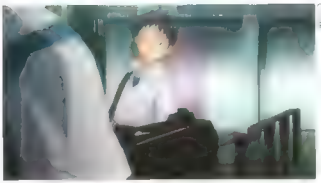


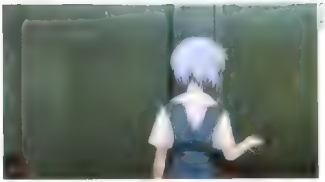


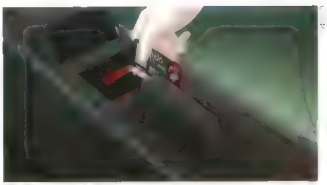


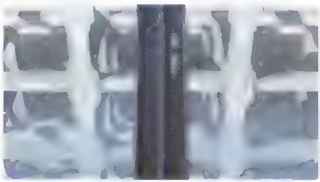


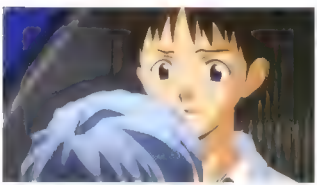


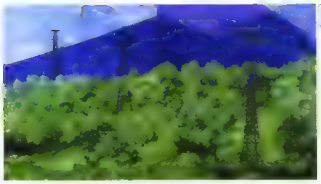


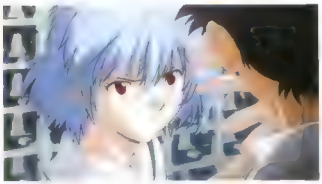


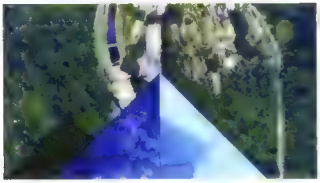


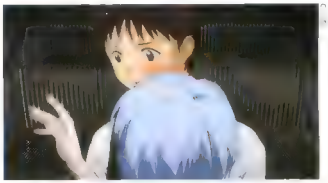




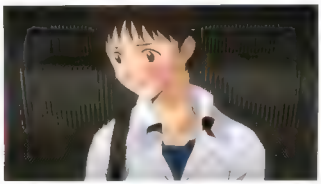


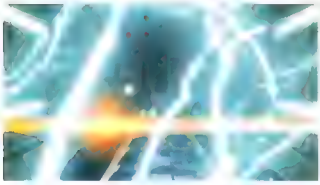


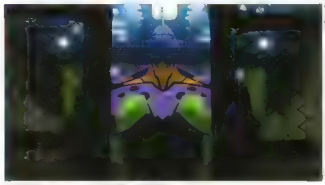


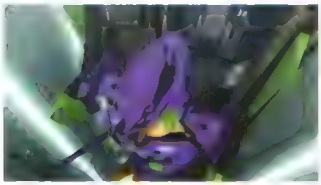


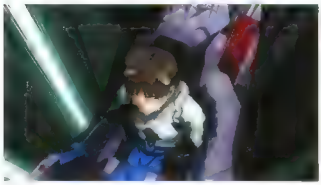
WARNING
WARNING

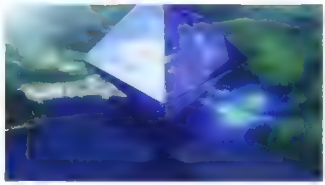


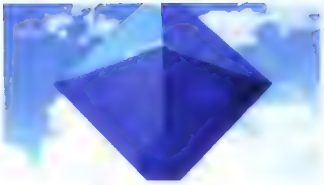


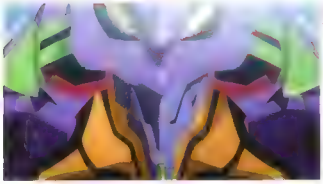


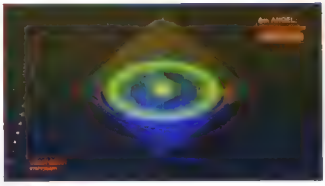


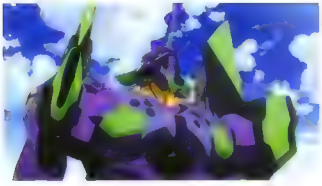


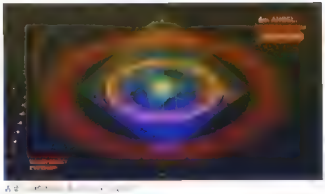


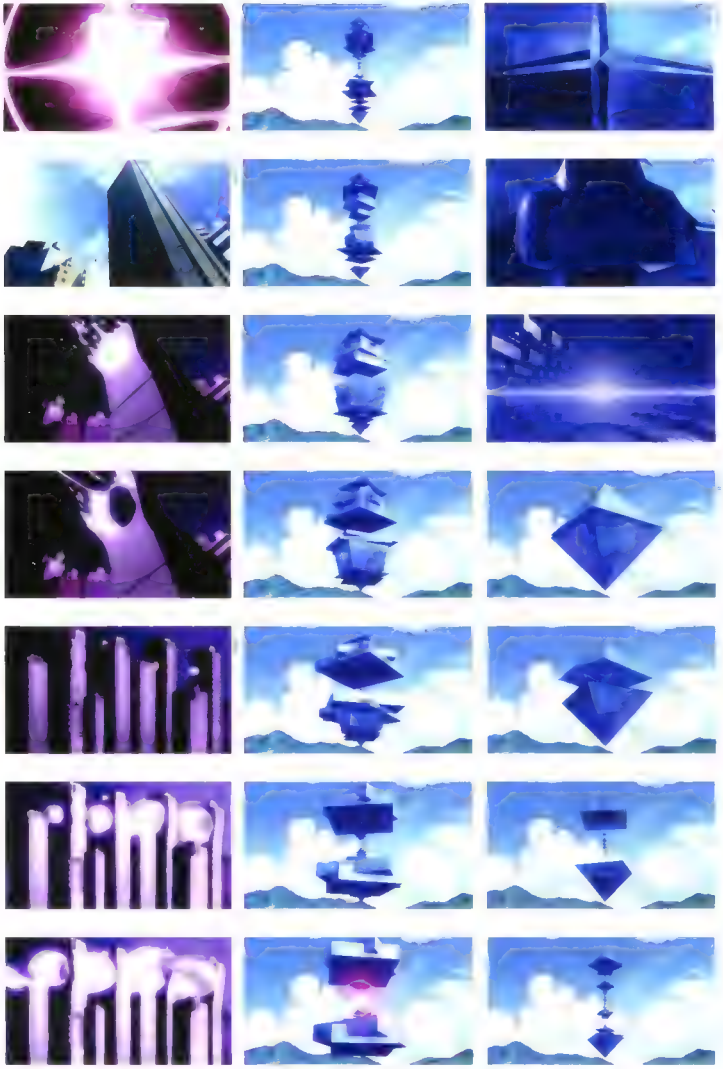


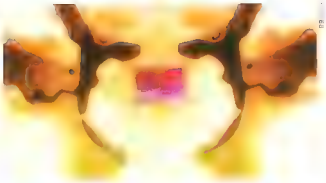


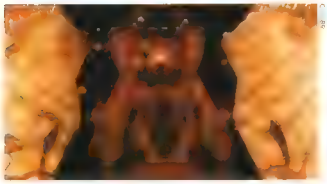

ANGEL

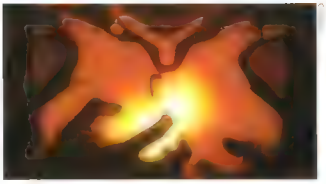


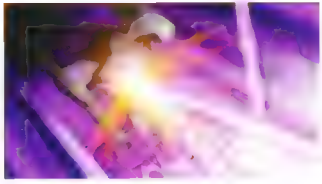

ANGEL

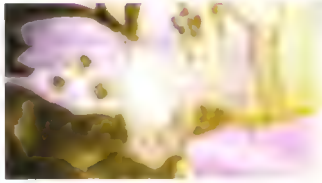


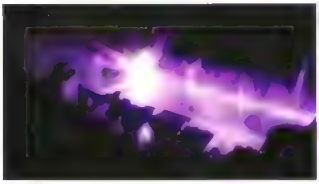


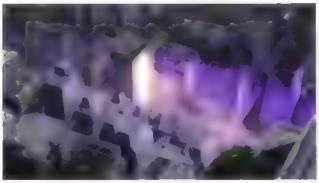
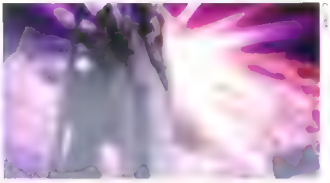
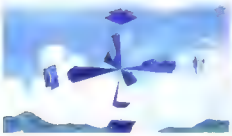
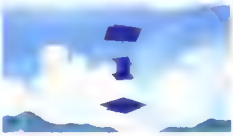


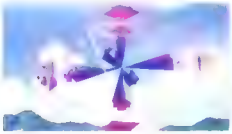


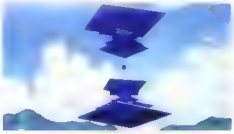


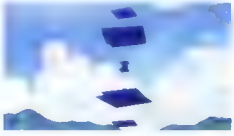


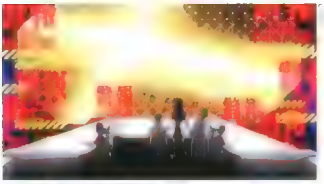


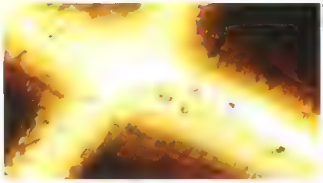





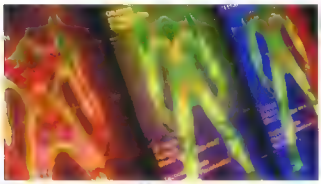


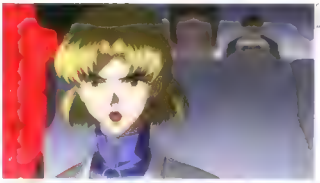


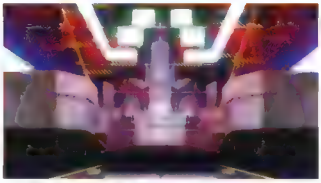


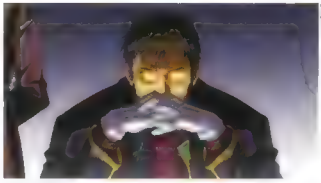


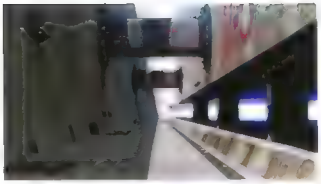


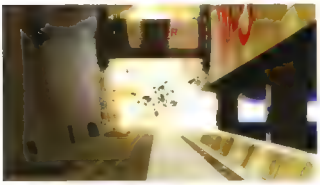


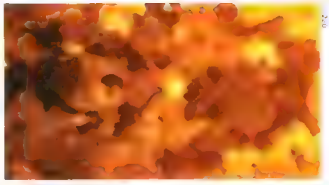


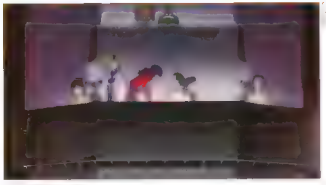


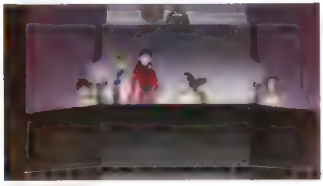


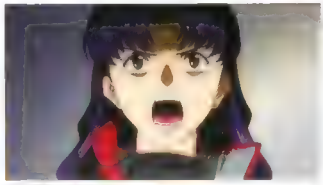


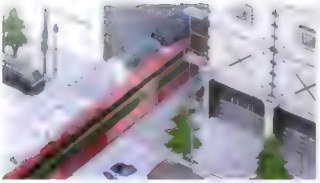
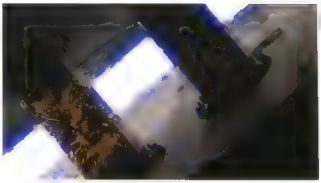


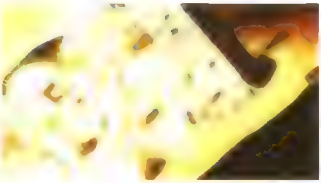
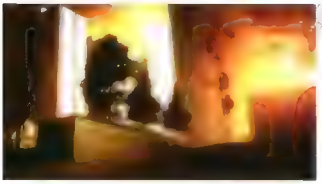
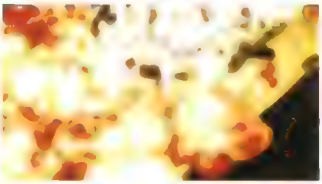
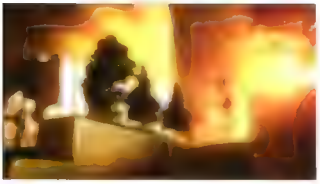
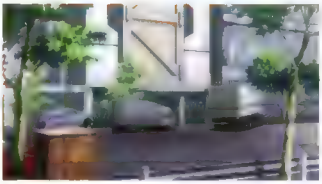
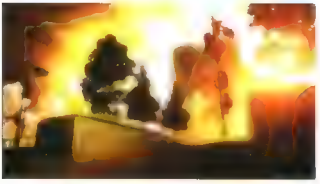


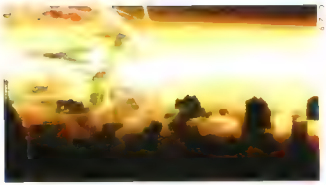
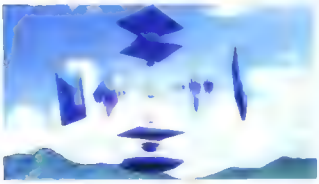
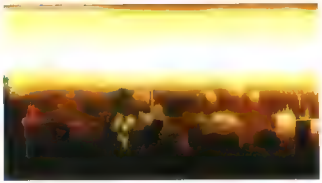
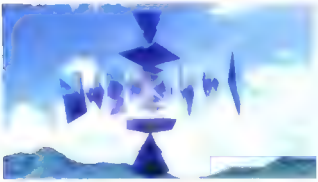
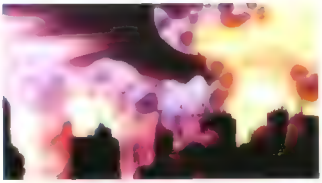
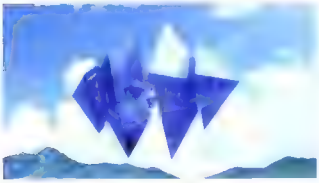
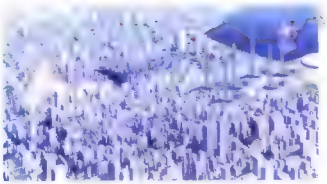
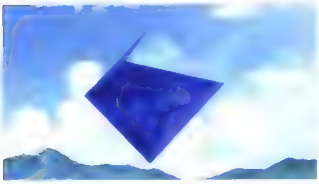
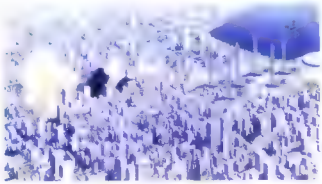


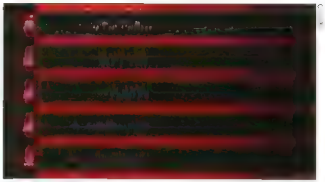


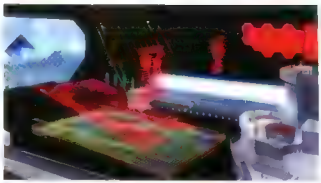


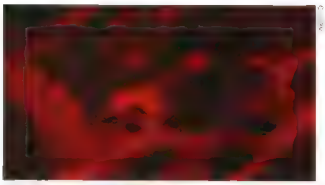



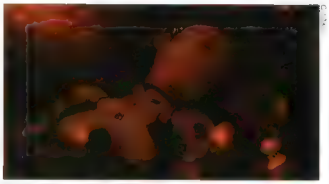







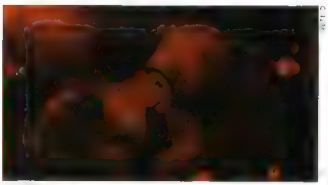












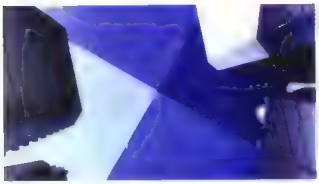


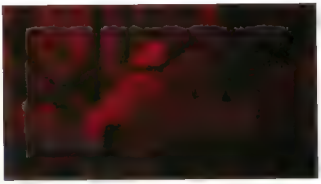


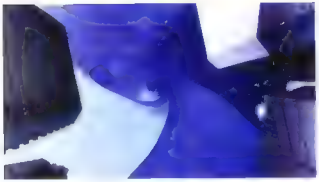


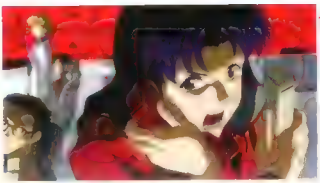


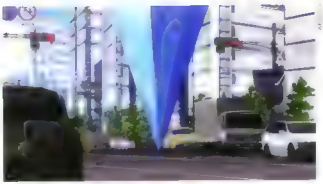
RESCUE

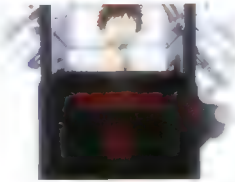


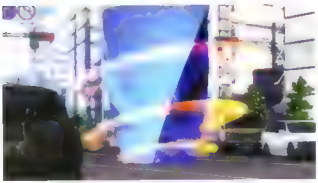




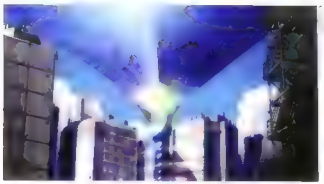


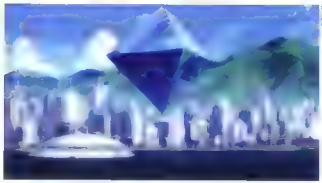


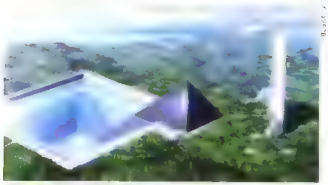


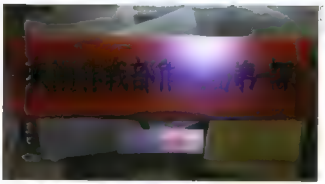


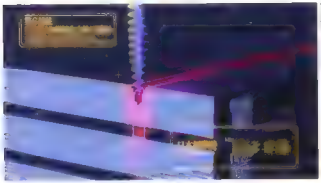
緊急処置中

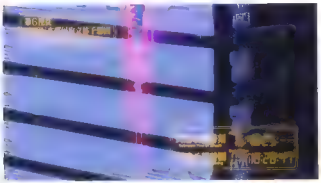


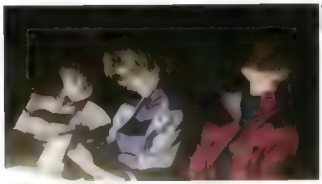


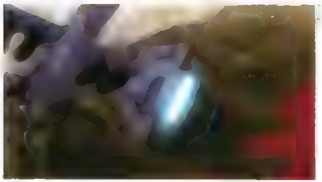


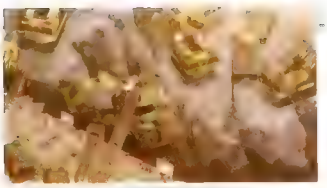


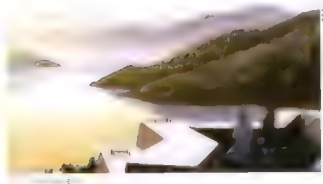


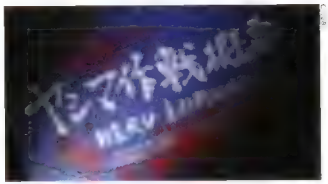


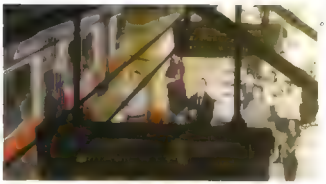


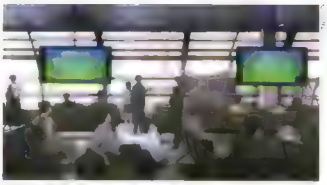


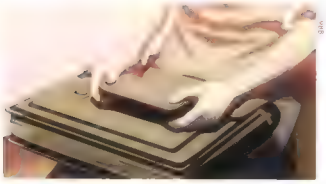




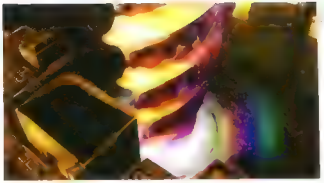


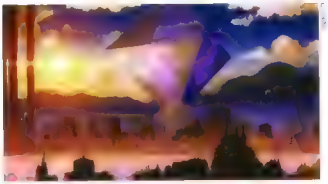


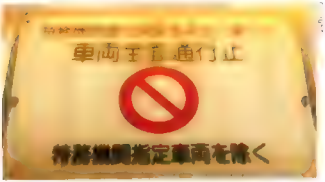


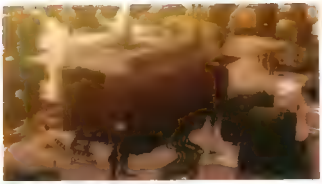


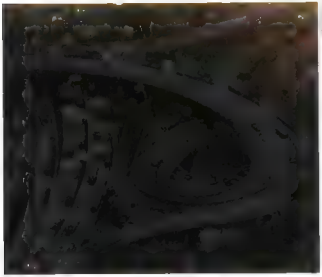
RESCUE

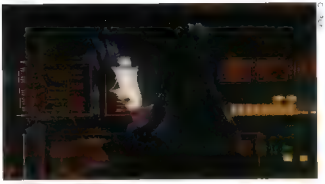


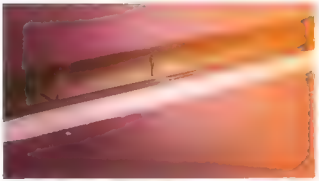


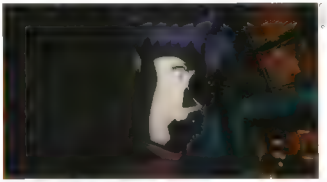

車両通行止
特殊機関指定車両を除く

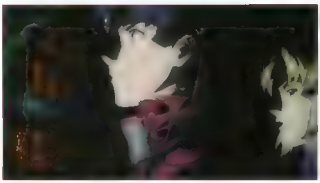


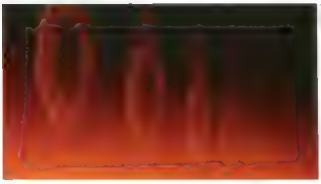


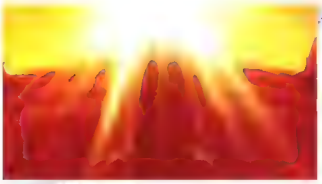


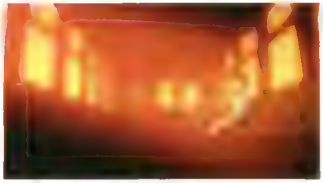


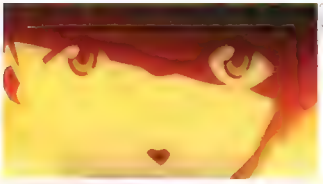


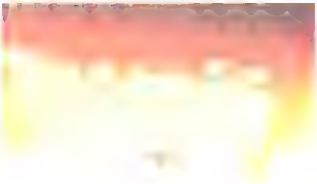


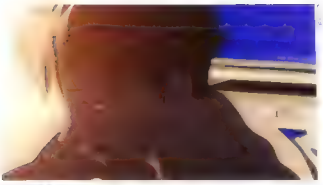


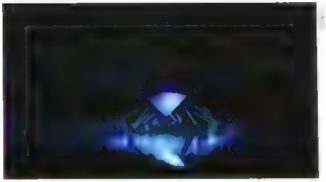


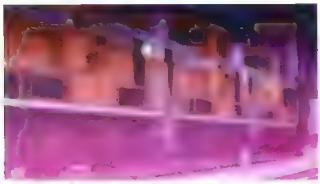


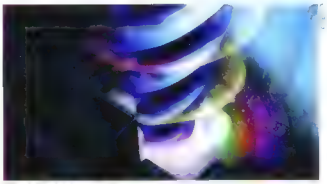


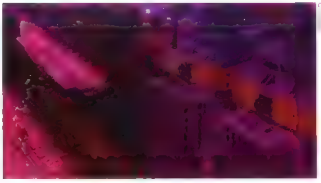




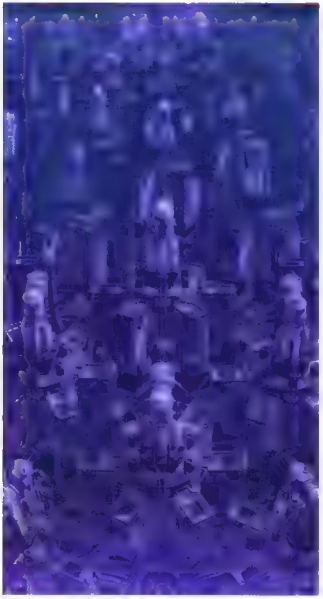




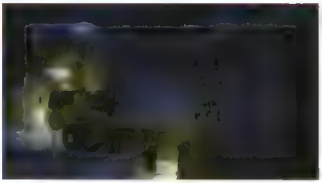


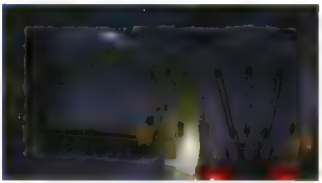


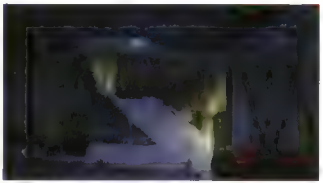
film

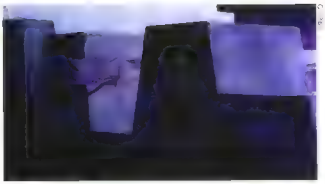


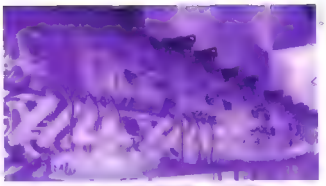
PAN

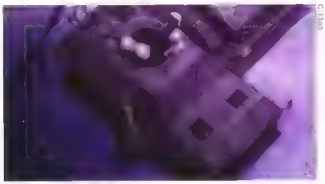


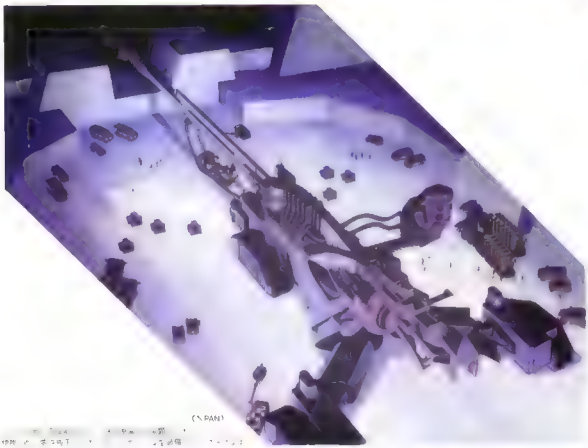


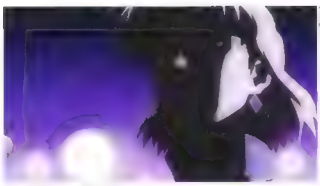


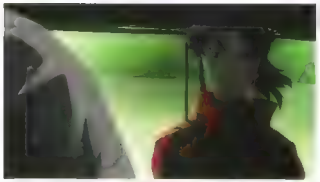


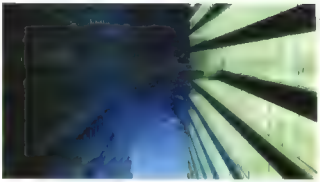


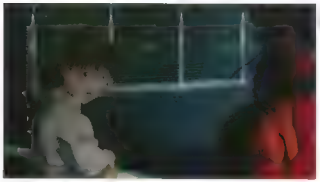


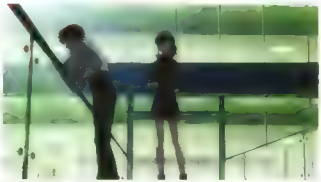


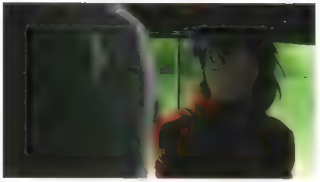


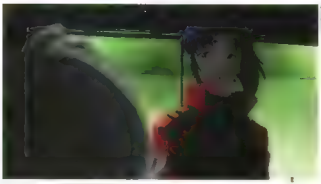


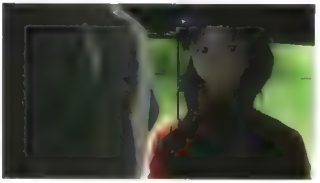


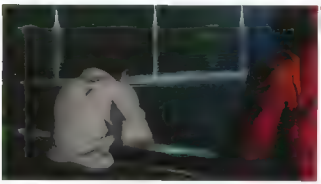


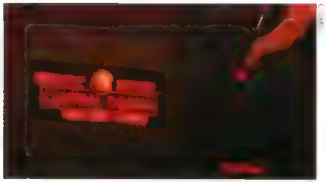


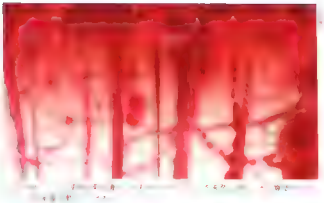




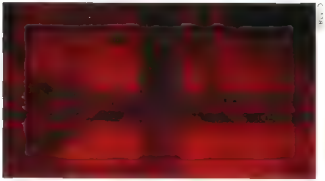




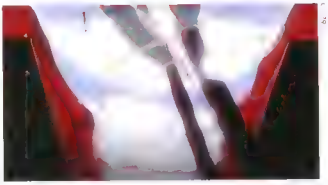




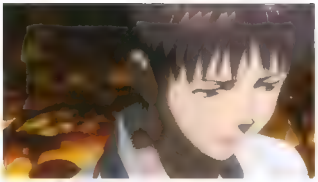
CENTRAL DOGMA

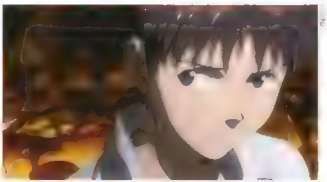


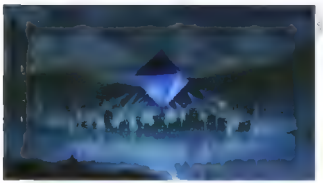
1 PAN

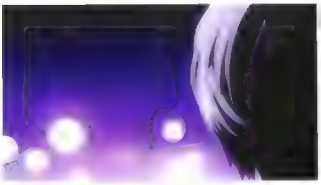


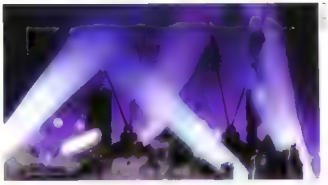
PAN

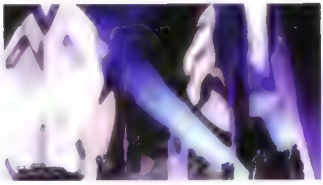


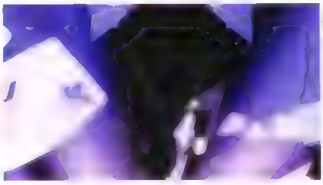


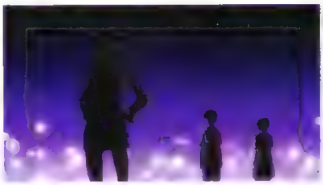


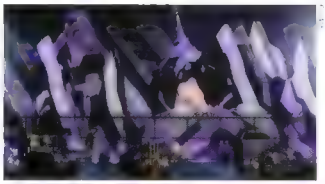


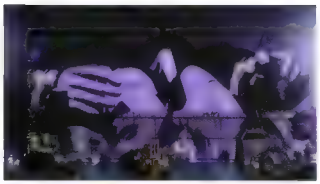


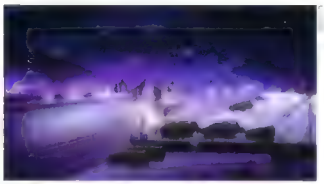


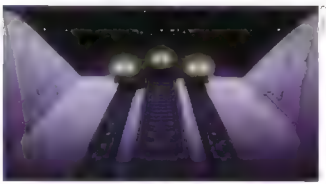


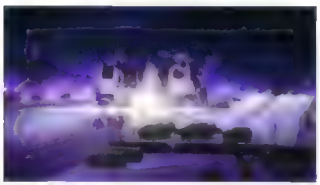


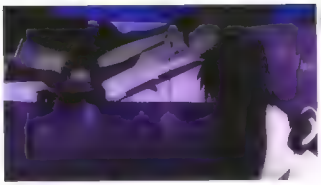


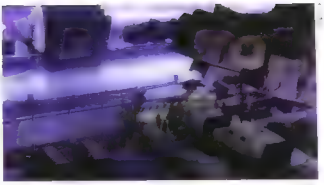


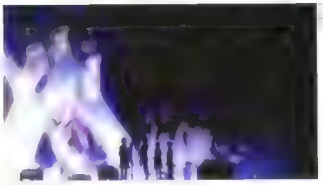


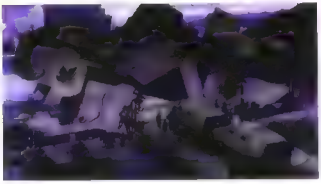


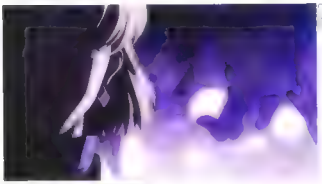


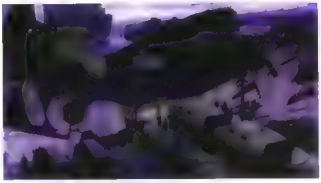




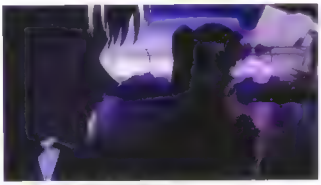


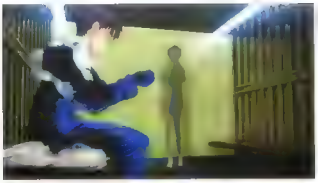


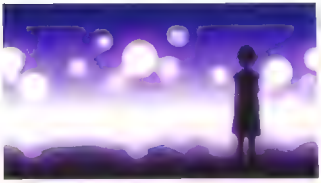


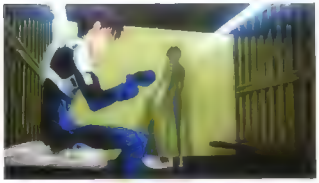


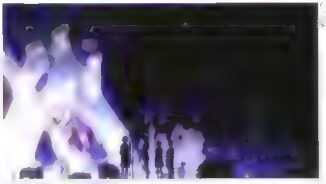
NERV

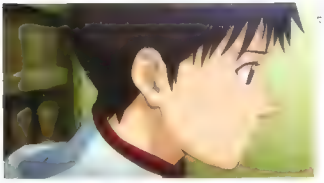


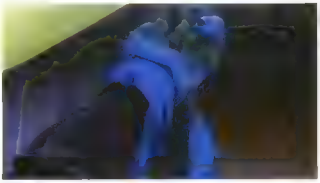


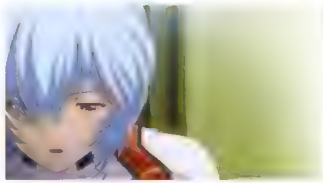


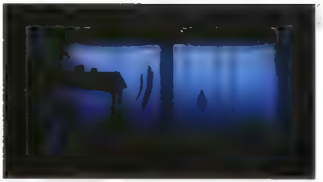


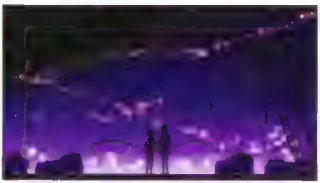


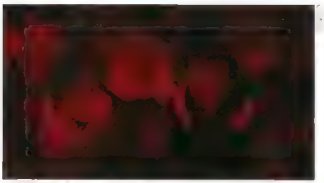


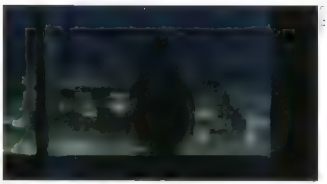


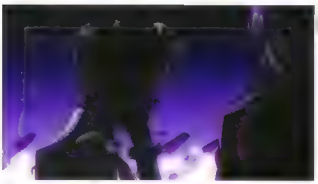


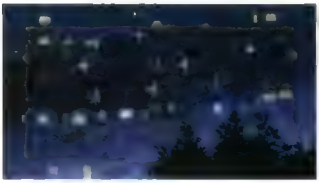
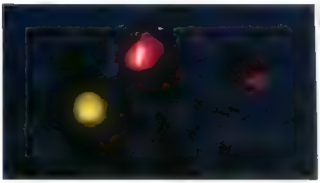


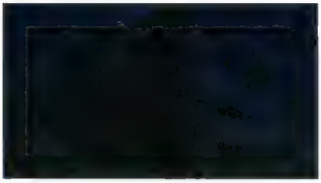


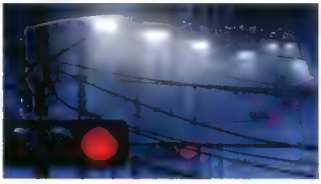
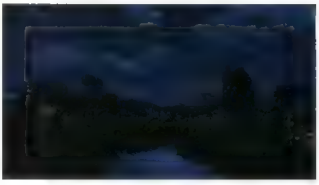


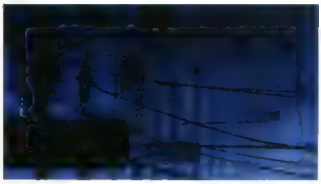




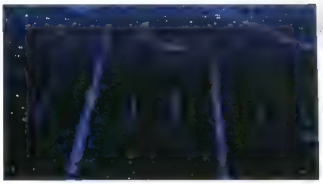



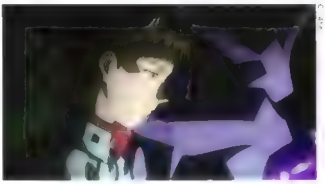


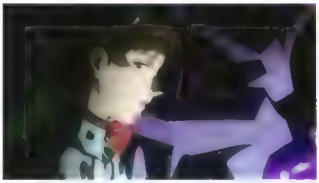



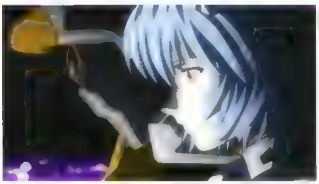


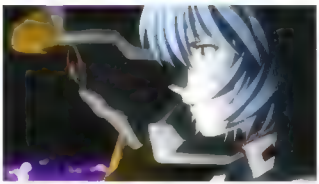
film

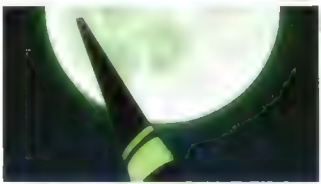


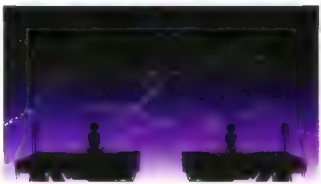




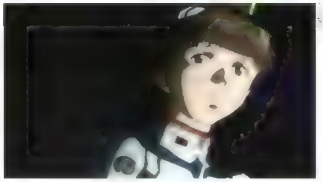


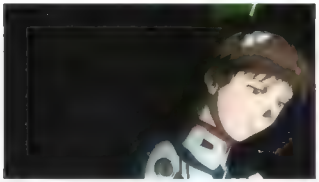


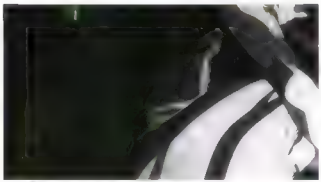


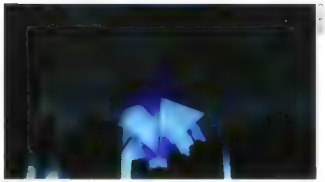


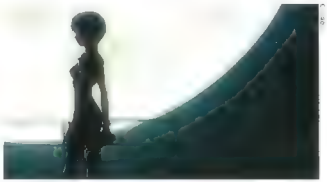
film

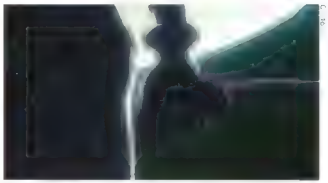


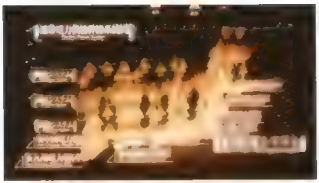


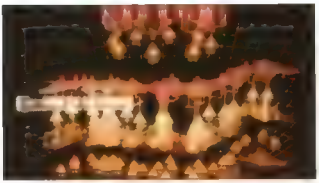


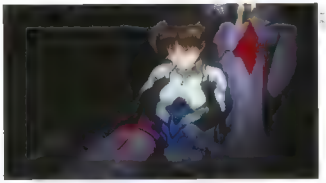


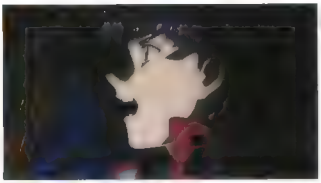


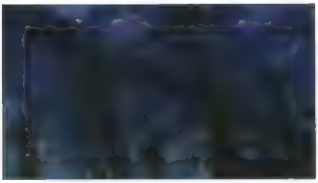




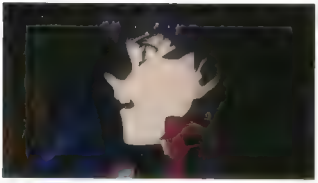


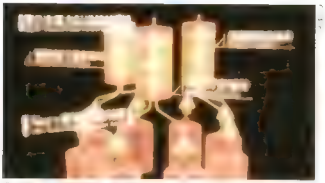


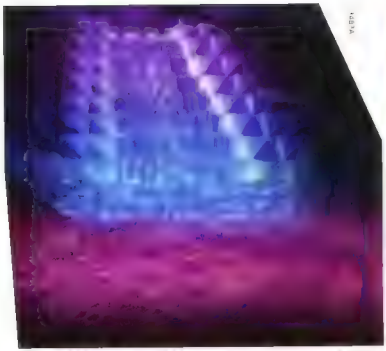


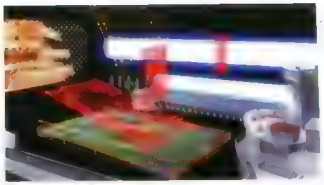


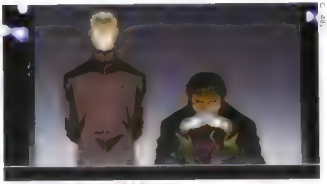
Film

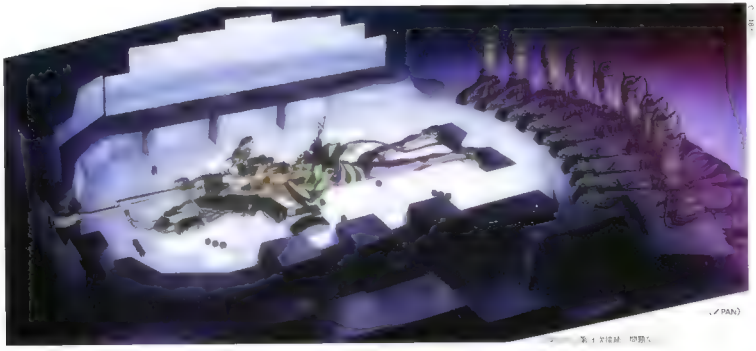


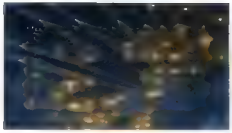


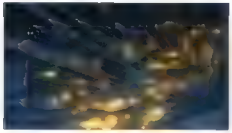


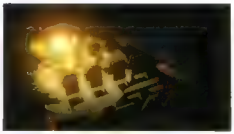
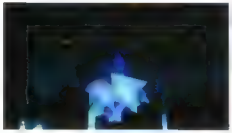


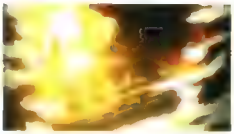
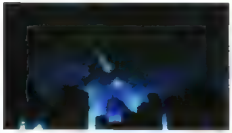


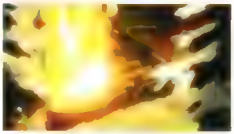


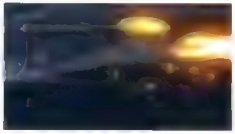


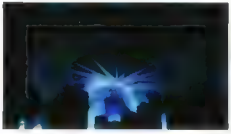
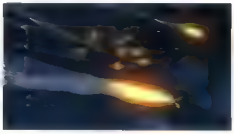
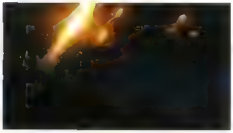


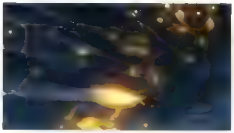
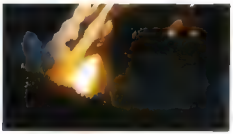



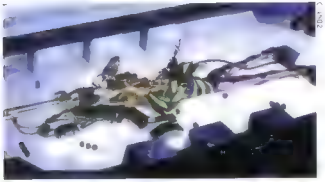



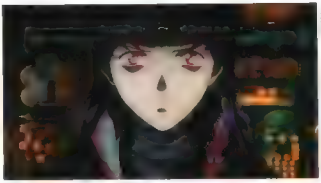


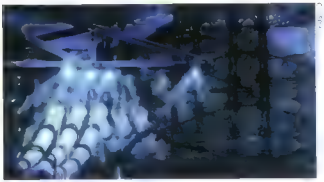


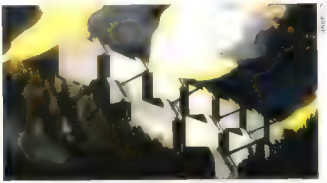




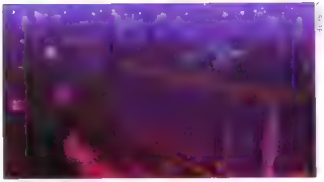



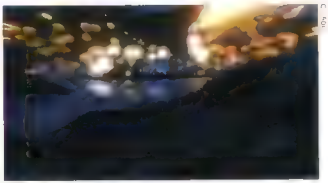


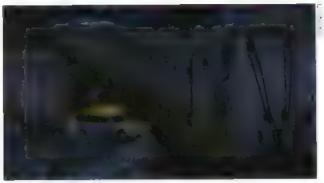


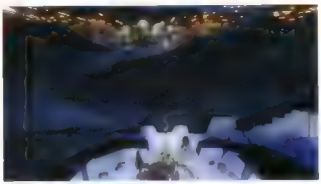






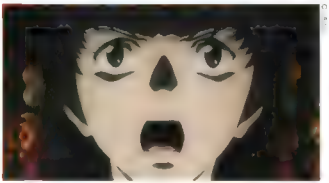


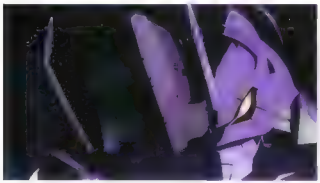


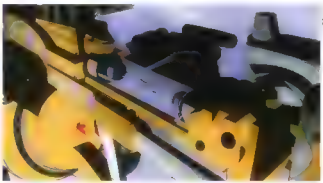


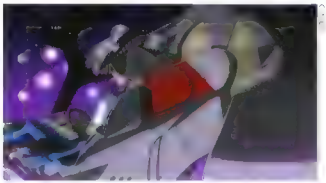
安
穴工
穴工

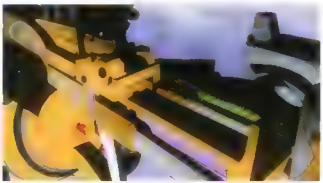
火
実装
実装

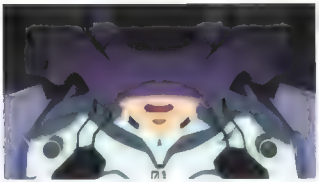




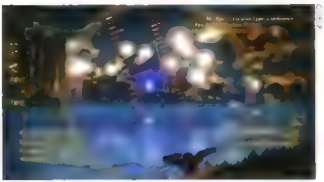


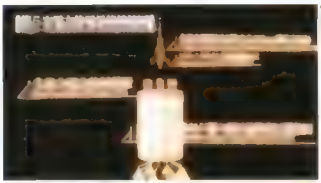


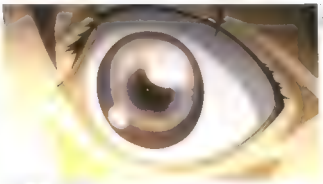


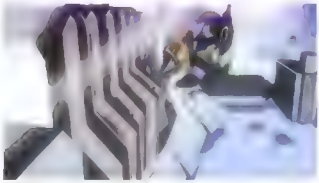


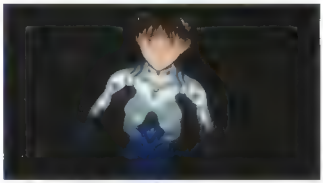
← PAN

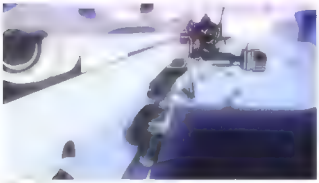


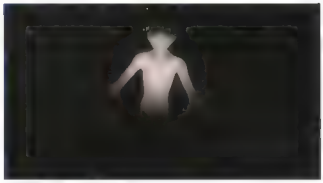


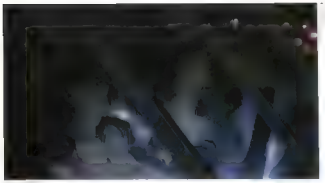


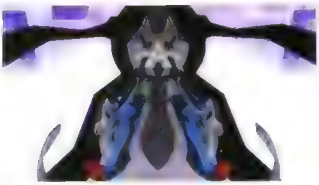


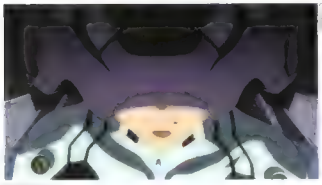


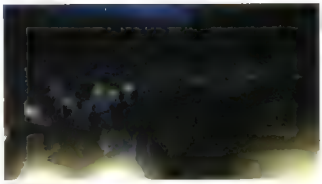


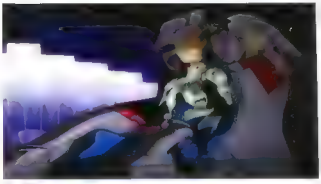


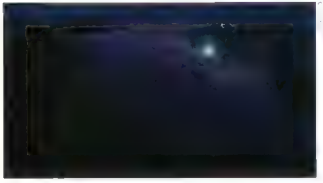


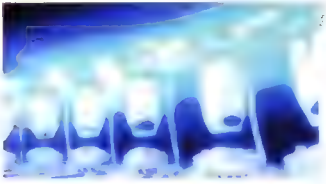


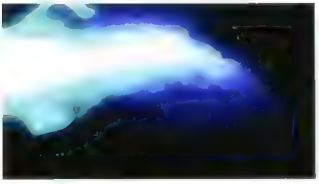


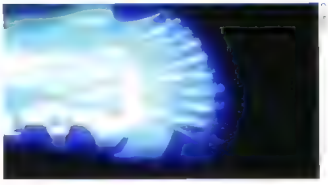


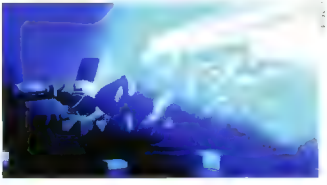


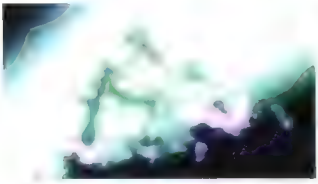


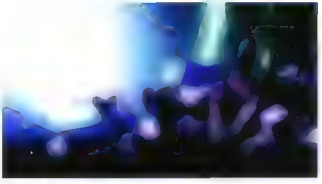


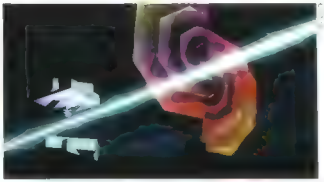


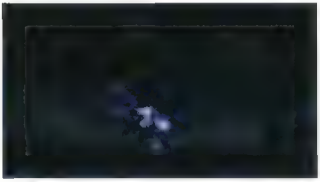


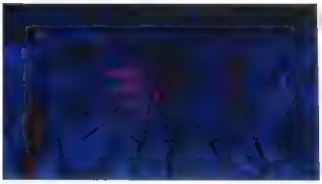


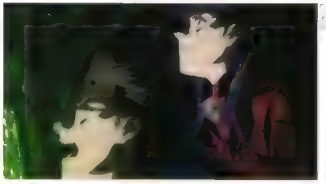


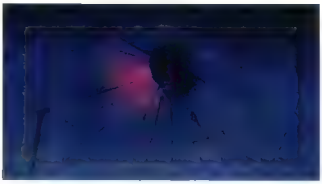


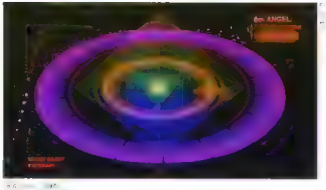


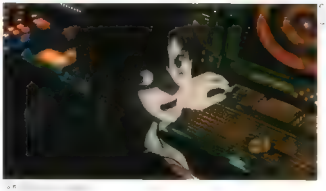




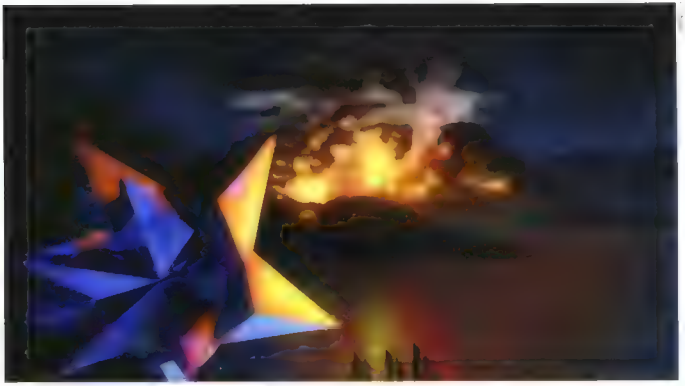


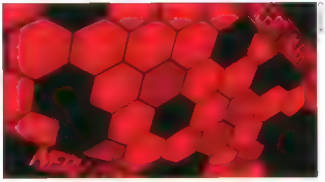


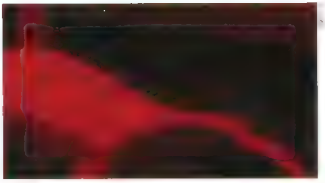

ANGEL

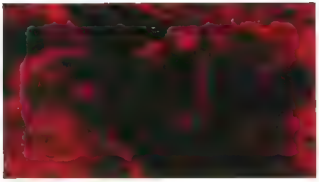


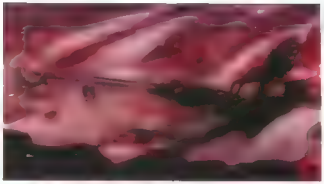
film

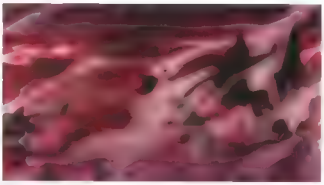


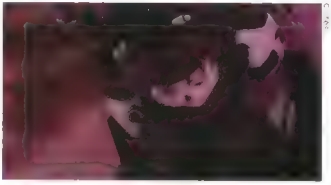


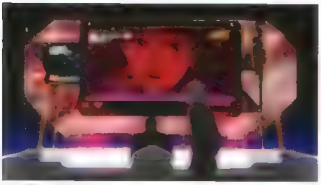


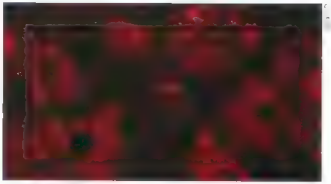


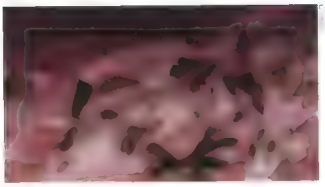


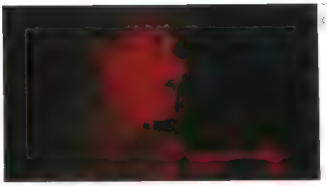


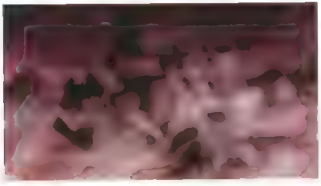


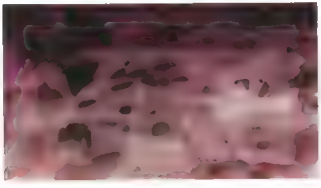


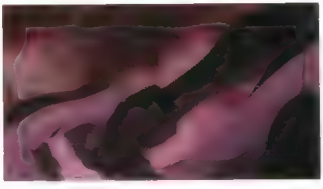


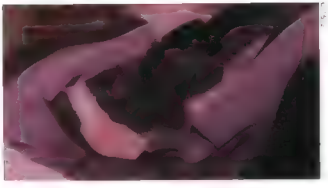


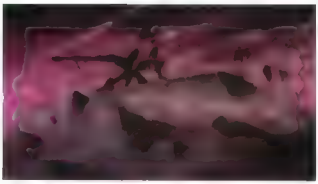


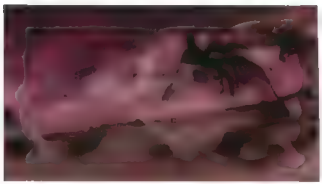


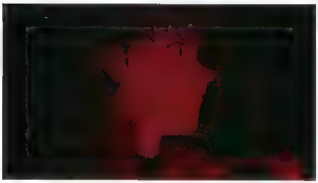


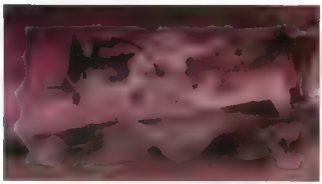


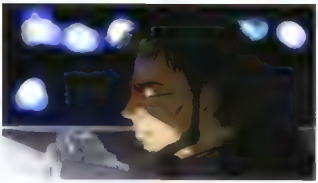


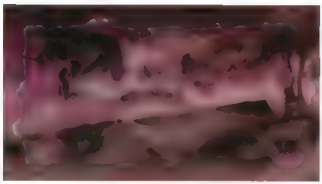




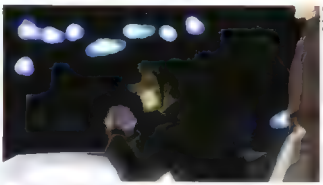




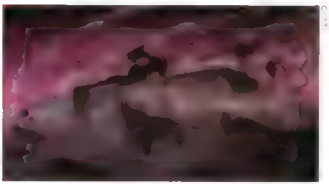


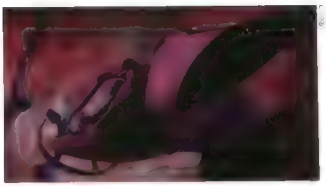


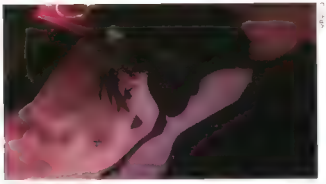
LIVE

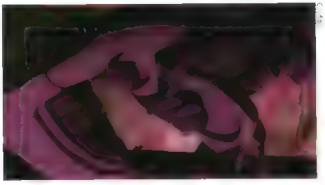


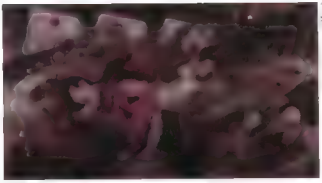
LIVE

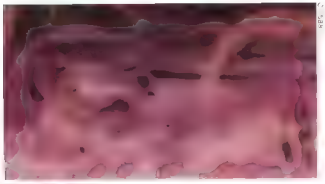


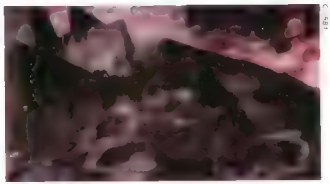


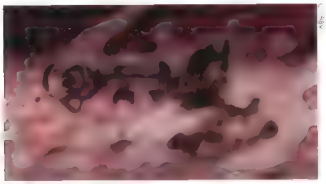


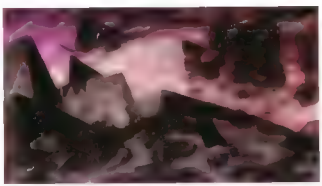


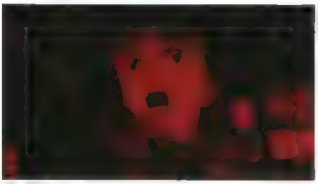


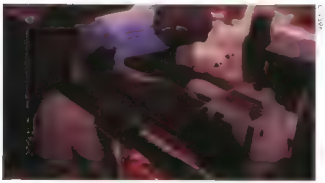


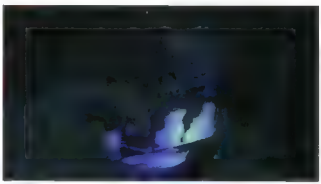


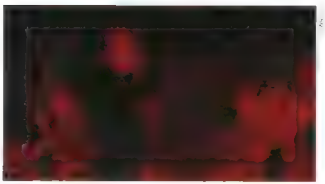


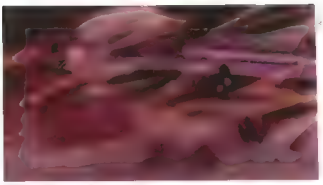


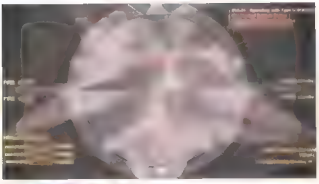


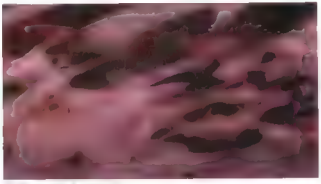


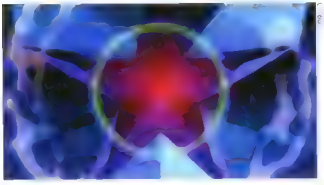


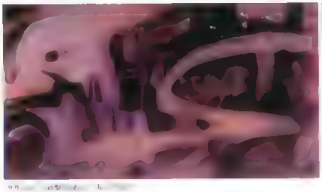


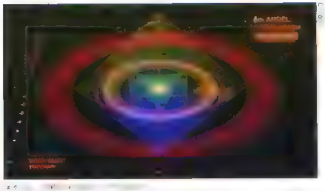


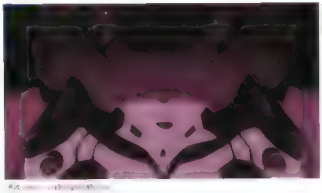


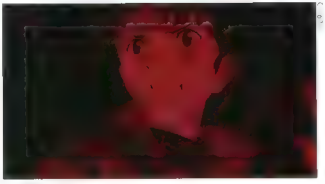


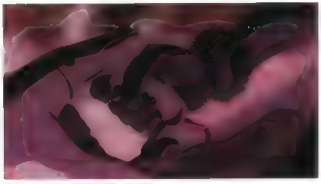


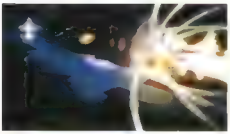


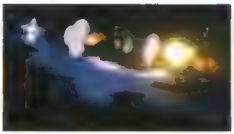


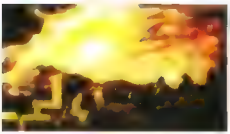


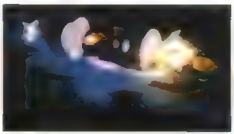


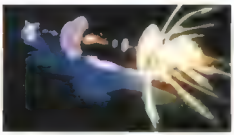


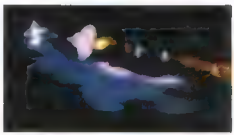


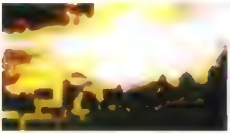


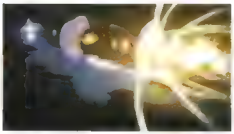


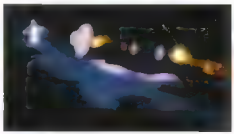


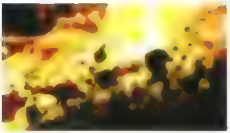


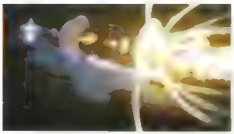


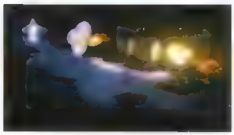


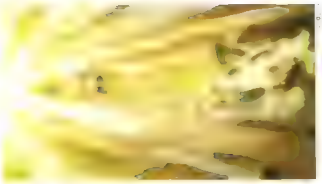


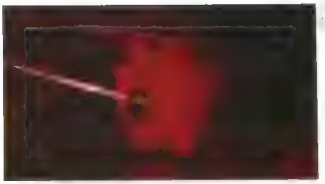


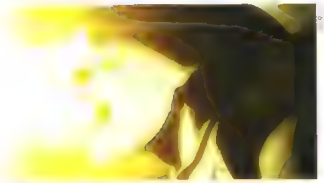


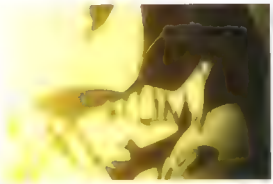


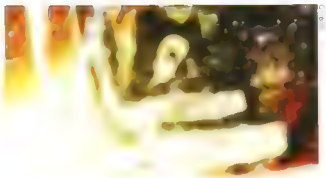


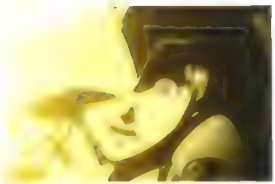


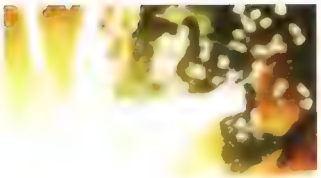


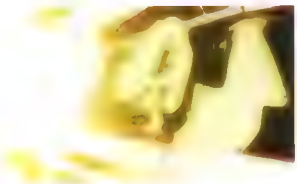




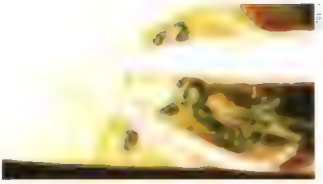


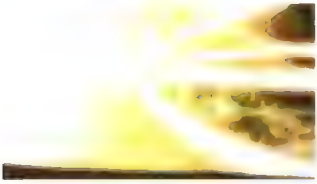


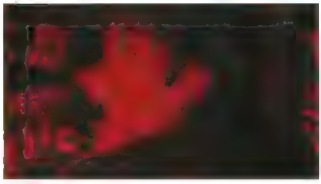


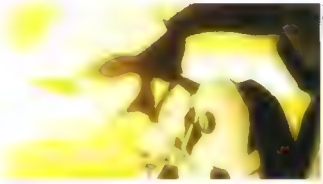


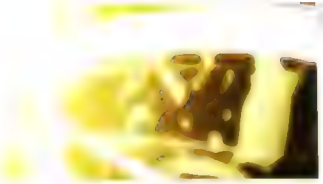
film

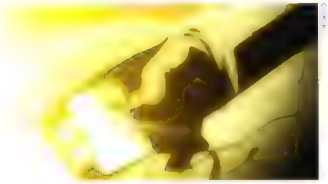


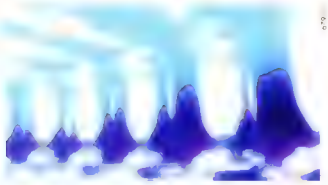


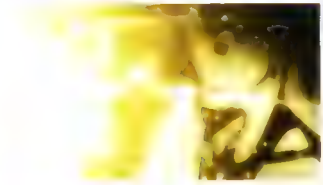


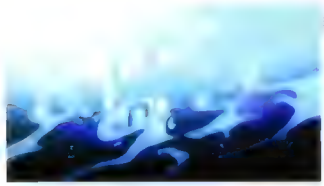


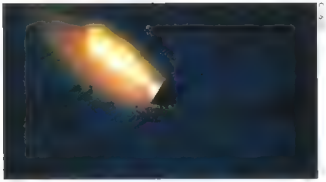


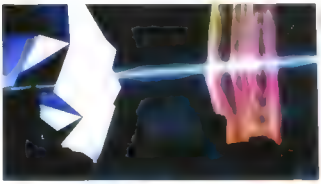


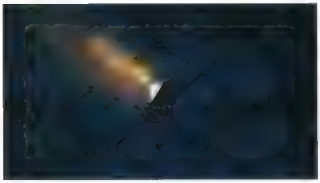


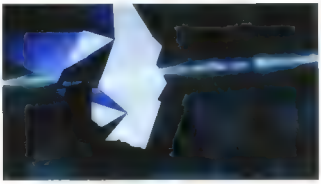


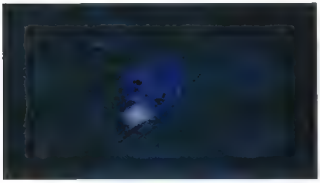


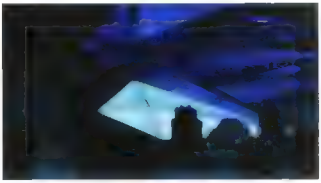


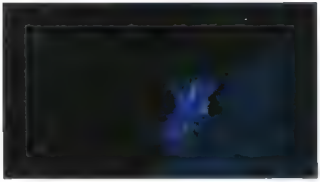


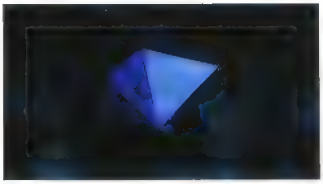


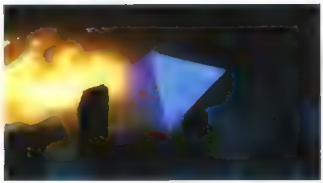




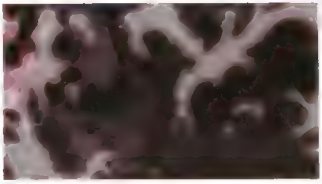


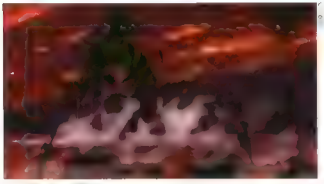


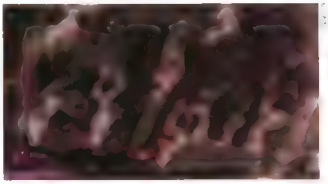


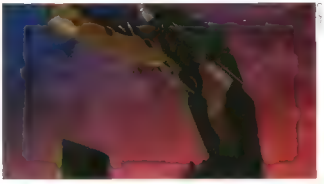


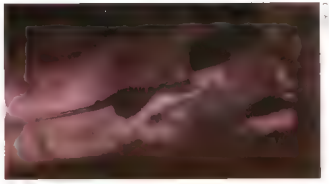
film

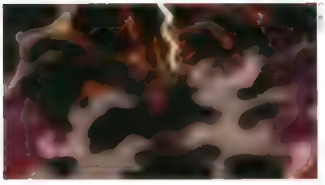


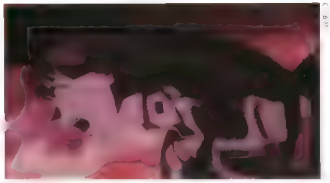


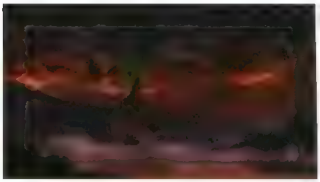


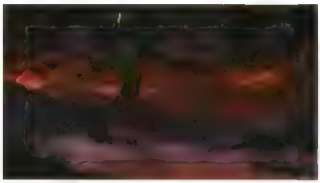


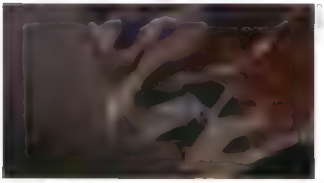


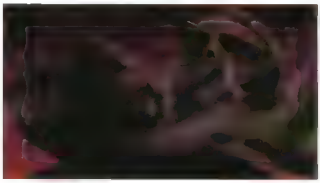


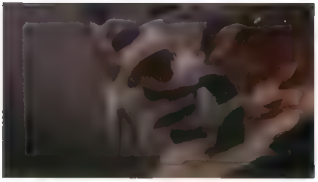


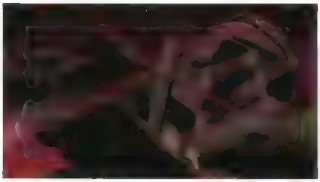


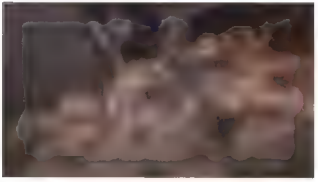


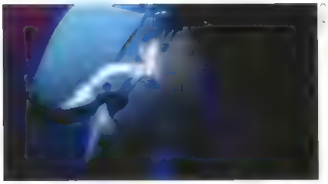
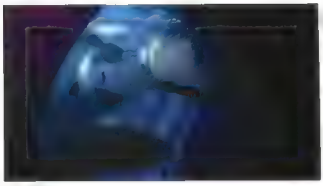
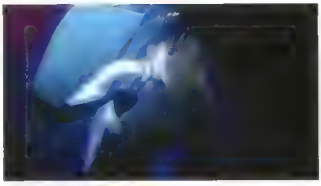
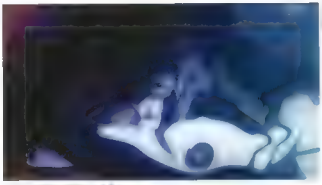
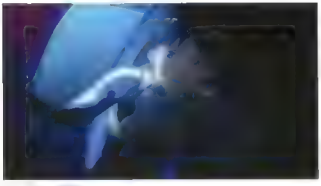
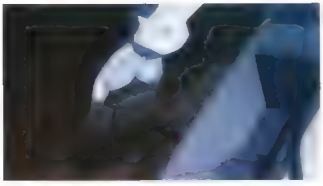
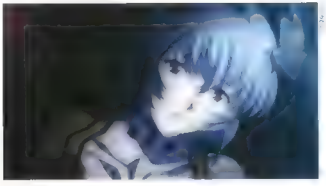
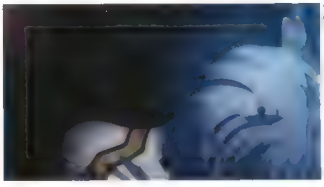
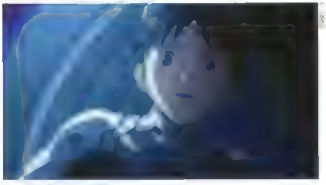
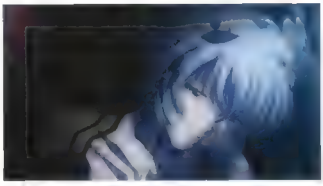


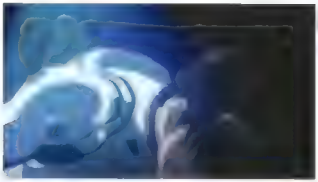


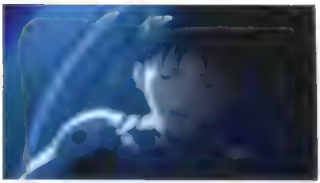


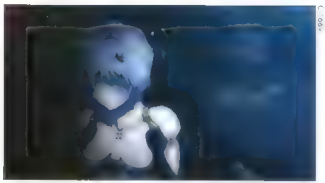


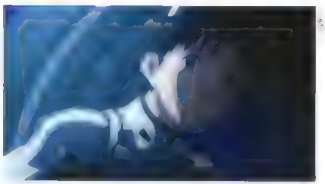


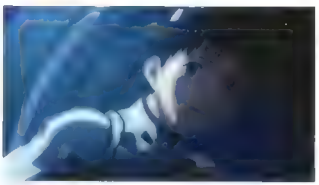











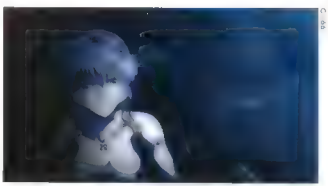


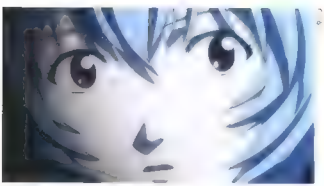


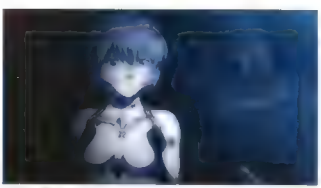


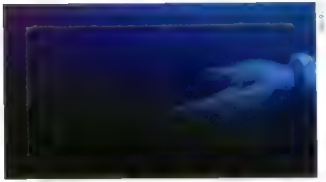


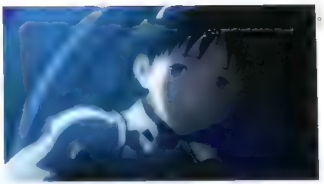


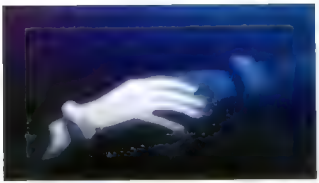


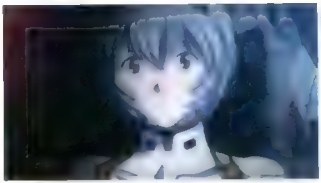




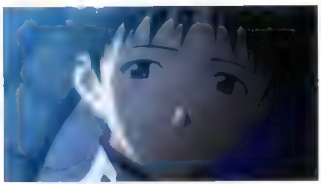


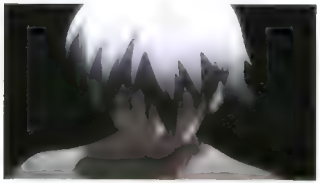


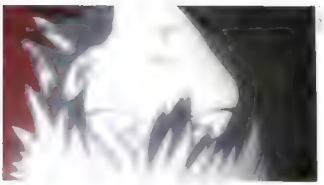


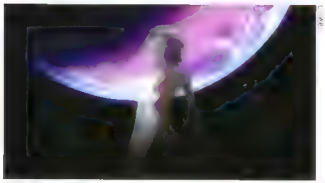


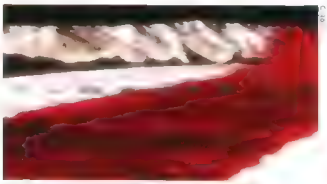
(PAN)

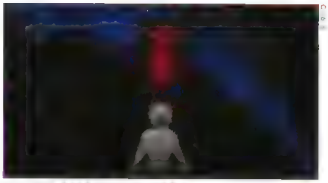


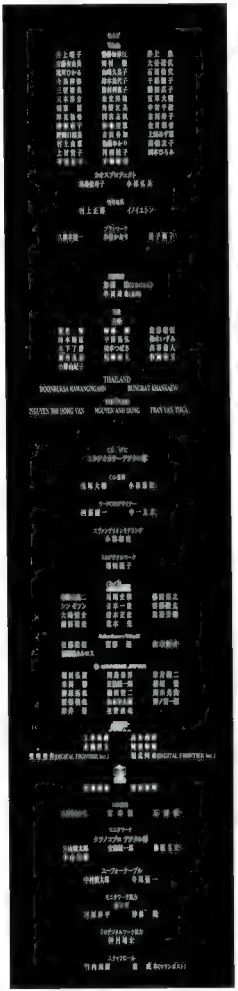


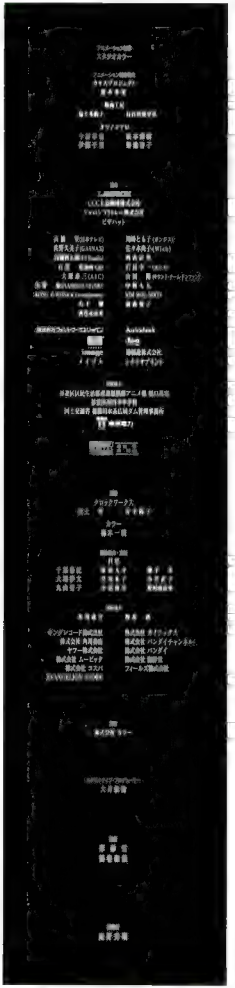


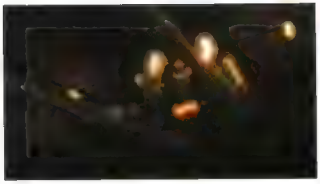








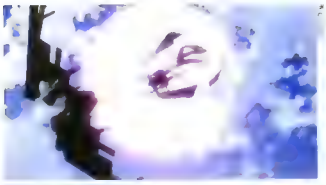


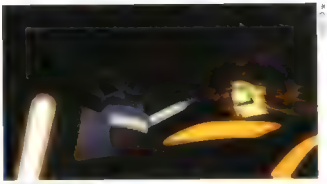


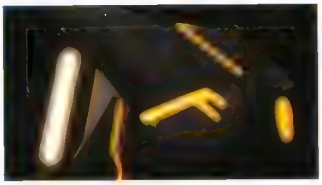
予告

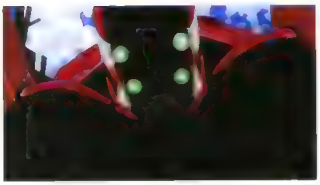
EVA-02

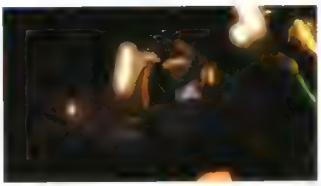
EVA-05



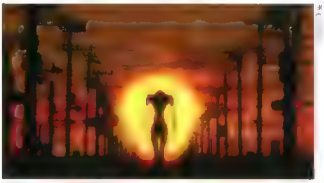


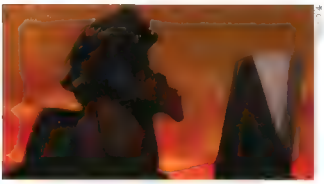


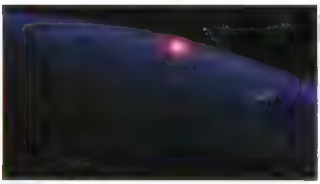


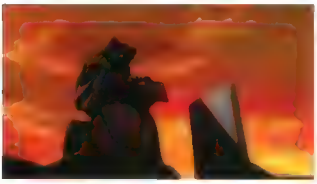


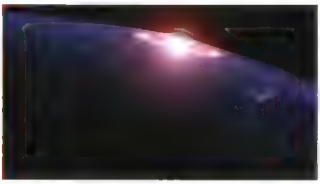
film

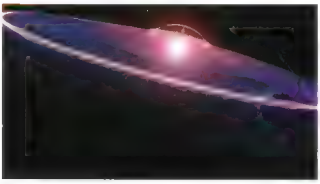




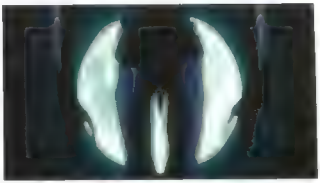


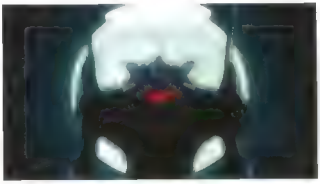


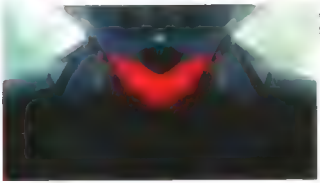




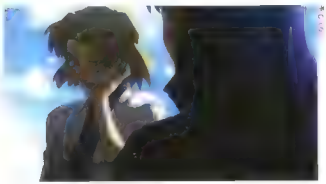
LILIN+?







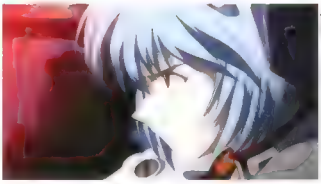
ADAMS



次回

エヴァンゲリヲン 新劇場版：

破



	曲名	開始 Cut ～ 終了 Cut	使用時間	備考
R-01	EM01(No Stab + Stab Only)	C 0032 ～ C-0063	01'32"	
	EM02	C-0156 ～ C-0197	02'27"	
	EMA13_C_#SS4	C 0203 ～ C 0207	00'15"	
	EM03	C-0227 ～ C-0259	02'38"	
	EM11	C-0265 ～ C-0319	02'00"	
	EM05B	C 0332 ～ C 0392	02'31"	
R-02	KICA 132_Lila 「You are the only one」	C 0472 ～ C 0474	00'28"	コンビニ店内 BGM
	EM06	C-0481 ～ C-0495	01'25"	
	EM07[B-16]	C-0519 ～ C-0541	01'13"	
	EMA08_B17	C-0544 ～ C 0557	00'50"	
	KICA 132_Lila 「蒼いレジェンド」	C-0563 ～ C-0566	00'17"	S-DAT プレイ曲
	EM09_A_NewPiano	C-0622 ～ C 0655	02'09"	
R-03	EM10A_Nu	C-0658 ～ C 0679	01'40"	
	C_01_Nu	C 0682 ～ C 0684	00'13"	ケンスケのビデオカメラ 放送 BGM
	EM04A_Short_Nu	C-0707 ～ C-0739	01'09"	
	EM05A	C-0747 ～ C 0806	01'57"	
	EM13	C 0808 ～ C-0853	01'30"	
	KICA 132_Lila 「蒼いレジェンド」	C-0895 ～ C-0899	00'30"	S-DAT プレイ曲
	KICA 132_Lila 「FALL in STAR」	C-0909 ～ C-0910	00'08"	飲み屋街 カラオケ
	EM16_Nu	C 0911 ～ C 0929	01'53"	
R-04	EMA13_A_#SS1	C-1019 ～ C-1021	00'23"	
	EMA13_B[16]+EMA13_B_Full	C-1018 ～ C-1028	00'36" + 00'10"	
	EM15_C05_E_#SS6	C-1052 ～ C 1069	01'26"	
	KICA 132_Lila 「蒼いレジェンド」	C-1071 ～ C-1074	00'10"	S-DAT プレイ曲
	B01_Guil_A_Pre	C-1142 ～ C-1157	01'36"	
	EM17	C 1161A ～ C 1231	02'45"	
R-05	EM18_Rhythm_03	C 1254 ～ C-1271	01'40"	
	EM10B_Rhythm	C-1278 ～ C-1288	00'59"	
	EM20_Rhythm_Full	C 1301 ～ C 1313	00'46"	
	EM10B_Full	C-1355 ～ C-1369	01'16"	
	EM10C_Full	C-1404 ～ C-1427	01'50"	
	EM19	C 1440 ～ C 1453	00'59"	
R-06	EM20	C-1469 ～ C-1532	03'53"	
	EM21	C 1561 ～ C 1634	03'49"	
	EMA09_D_#SS4	C 1662 ～ C 1676	01'27"	
	Beautiful World	エンドロール	05'00"	エンディング
	EMF02	次回予告	00'31"	

music cue sheet

音楽キューシート

キューシートとは、音楽のうち、どの楽曲を、どのカットからどのカットまで使用するか表記したものである。
表のうち、R-01 等の記号は、フィルムのロールナンバー（「エヴァンゲリヲン新劇場版　序」は全6ロール）を示す。
鷺巣詩郎による楽曲は、音楽制作の際につけられた、Mナンバーと呼ばれる記号（EM 01 等）で表記されている。

02

C-0101～C-0110
女「カスパーの状況データをメルキオールへコピー。検証作業を急いで下さい」
女「可及的速やかに、パルタザールの分析結果を報告。最優先」
男「結果は、ステージごとに直接、上へ回せ、随時だ」
女「23番から28番までの通信回路は、全て守秘回線へ切り換えて下さい。大至急」
男「距離1200で、Eからiまでのシフトを展開」
男「シフト完了。問題なし」
女「メルキオールの5478Zのデータをペースト。シストアして下さい」
男「右発令所から意見具申。ただちに組み換えの要有りと認む」
女「6番のデータ処理ファイルは、Nフィルターを通して「マギ」にインプット。急いで下さい」
女「本作戦のファーストコピーは、第37ベースにて、ロックして下さい」
男「B-27ブロックの閉鎖は、現状を維持。第7ゲートは、2分後に開放」
女「第2光学観測所より、入電。塔ノ沢付近の磁場に若干の変化を認む」
男「第2光学観測所へ返信。観測を続行せよ。状況は随時報告。以上」
女「直援部隊は兄命あるまで、現在位置にて待機」

C-0145～C-0146
男「第2光学観測所より、報告。目標の体内温度が上昇中。活動再開の模様」
女「爆心地付近上空の電荷に変化あり。プラスイオンが急増しています」
男「第6衛星回線を再接続。目標を自動追尾中」

C-0185～
女「第1層 第8装甲板 損壊」
男「Dブロック各所にて、火災発生。指定域内の全通路を緊急閉鎖」
男「該当地区は、ただちに退避。繰り返す、該当地区は、ただちに退避」

C-0197
女「起動コマンドを初期化」

C-0197～
男「主電源、切り替え終了」
女「起動システムをLRに変更開始」

C-0233
女「精神汚染計測値は基準範囲内。プラス02からマイナス05を維持」

C-0238
女「プラグ内、注水中。満水まであと、20(ヨタマル)」
男「LCL濃度、異常なし。圧力、正常値」

C-0240
男「主電源、接続完了」
男「全回路、動力伝達、問題なし」

01

C-0010
電話の声(女)「現在、特別非常事態宣言発令中のため、全ての回線は不通となっております」

C-0026～C-0028
女「目標の周辺に、異常磁場を観測。直ちに精密測定を開始してください」
女「光学観測による結果は、検証作業を最優先」

C-0053
女「構須賀第2小隊、左翼へ展開中」
男「第1特科連隊、目標と接触。交戦中。損害不明」

C-0064～C-0068
女「目標に対し、損傷は認められず」
男「第3中隊、応答なし。全滅の模様」
女「第6航空小隊 機影が確認出来ません」
男「第2特科大隊、発砲中。依然効果なし」
男「目標は、進路83より88にて進行中。速度、変化なし」
女「第4次航空支援部隊、現着。小田原方面より展開中」
男「目標は、塔ノ沢エリアに侵入。第3次防衛線を越えます」

C-0079～C-0080
女「電磁熱線の99.8%が、目標に着撃」
男「爆心地にて、1万2千度の熱量を観測」

C-0091
女「磁場カクハン率、78パーセントに減少」

C-0094
全員「おおお_(驚き、どよめき)

C-0095
女「目標の観測を再開」
男「構成物質の18パーセントが融解した模様」
女「表面温度、3000度を維持」
男「ノヴマ線の検出、認められず」

C-0098～C-0100
女(録音の声)「ゲートが開きます。御注意下さい」
女(録音の声)「ランシングを確認」
女(録音の声)「発車、いたします」
女(録音の声)「この電車は、C-22特別列車です。本線は、ネルフ中央駅への直通となります。途中駅は、全て通過します。御注意下さい」

additional scenario

追加台本集

「ヤシマ作戦関連台詞変更」 2007.03.22付
「エヴァ新劇場版 追加台本」 2007.04.20付
「エヴァ新劇場版 追加再録カット表兼台本」 2007.05.27付
作 庵野秀明

「ヱヴァンゲリヲン新劇場版 序」には3つの追加台本が存在する。
ここでは、各台本に書かれた台詞をカット順に並び替え、重複している箇所以外はすべて原稿のまま掲載した。

04

C 0341 ～C 0343
女２「初号機　制御不能、制御不能」（機械的に）
男「６番までの制御信号を発信。内、全信号を拒絶。受信せず」
男「体内の状況確認は、極めて困難。

C 0356 ～
男「相転移空間を　肉眼で確認。
男「目標周辺に磁場及び　随電子発生を確認」
男「大気中における、クォークレベルでの分子分解を観測。
男「空間曲線、プラス方向へ反転中」

C-0359
女「プラグ内は、依然観測出来ず」
女１「損傷率、５７に固復」（機械的に）

C-0362 ～C 0364
男「空間曲線、マイナス値へ移行中」
男「同施から、相転移空間の発生を確認。
男「初号機周辺にも、磁場及び、随電子発生を確認。
男「大気中における、クォークレベルでの分子分解を観測。

C 0367
男「相転移空間に、亀裂発生！」
男「空間曲線、反転！計測不能」

C 0398
どよめきガヤ（男が主）

C 0399 ～C-0400
同上（女が主）

C-0421 ～C-0423
女「爆心地は防護システムの未完成区域でしたから、被害は甚大です。ええ、迎撃装置は９割以上が操縦の模様です」
男「地下ブロックの損害は不明。現在調査中。マーキングはＢ班が作業中」
女「汚染区域のph（ペーハー）は基準値内。やや酸性寄り。水温は摂氏９８度。塩分濃度はモル０９」
男「そうだ。倒壊した地上施設は全て　活展素処分。液状化した地表面はサンプル採取後、処理場に移送してくれ。最優先だ。洗浄作業は徹回してい。」
女「ドイツからの合同調査班は、厚木にて待機中。採取データの偽造作業を急いで下さい」
女「爆心地０地点から半径２２００以内に生命反応はなし。使徒の構成物質は不明。オリジナルは全て変質した模様」

C 0450 ～C 0452
女A（右）「第１内科の義銅先生、義銅先生。至急、第１外科の東先生までご連絡下さい。
女B（左）「Ｂ事件の医療会議は予定通りに行われます。担当者は第２会議室へ集まって下さい」

C-0623 ～C 0627
女「現在、セントラルドグマ全面閉鎖中　Ｂ機への交通システムによる直通経路は使用出来ません。
女「第８０８搬入システムは定期検診のため停止しています。迂回ルートは５６番を利用して下さい」
女「ターミナルドグマ、第３ゲ　トを開放。１６３０（ヒトロクサンマル）まで通行可能です」
女「装備部施設課の定例会議は本日定刻通り、行われます。担当者は第１０３会議室へ集合して下さい」
男「第６環状ラインは、信号故障のため運休中。復旧時間は未定。第４環状ラインも１５分程度の遅れが出ています」

03

C 0242
男「LCL電荷は正常」

C 0245 ～C-0246
男「伝送電圧は現状を維持、直流送電容量は基準値内。
女「完了まであと、３０（サンマル）の予定」
男「各部連動システム、作動確認」

C 0250D
男「第１番から１５番までの安全装置を解除。
女「解除確認。

C-0250E
女「現在、初号機の状況はフリー」
男「内部電源、充電完了」
男「外部電源接続、異常なし」
男「脱出システムは有効」
女「アクセスアームはフリー」

C 0251
「射出シークエンスは予定通り進行中。
「各リニアレールの軌道変位に問題無し。電磁誘導システムは正常に作動」

C-0253
「現在、初号機はK52を移動中。
「エヴァ、射出ハノタ　ミナルに到着」

C-0254
「拘束ユニットを発射台に固定。リフト確認」
「射出ルートは、６番を設定」
「基本レール、磁場調整完了」
「ｽﾀﾝﾊﾞ動設定位置は、地上０地点にセット。
「最終を除く、全ゲートを開放」

C-0286
全員「オオオオ。（感嘆の声）

C 0304
女１「損傷度、０.８、１.７、４.６、１０.５、３８.２、４４.８」（機械的に）

C-0306（台詞差し替え予定）
女「左腕、中破！」
男「神経回路、断線」

C-0314 ～
女１「損傷度、５９.８、６６.５、７８.３、８３.２、８９.４、９１.６、９４.６」（機械的に）

C 0322 ～C 0334
女２「初号機に致命的な　損傷が発生しました」（機械的に）
女１「損傷度、計測中、計測中、１２６.８、１３２.５、１４５.７、１５５.８」（機械的に）
女１「損傷度、計測可能値を超えました。計測不能、計測不能」（機械的に）
男「脳神経接続、過負荷が基準値を大幅にオ　バーしています！」
男「精神グラフ、安全深度を越えました！」
女「ハーモニクス、極めて不安定。観測は困難」
男「精神グラフ、汚染深度に関接」
女１「プラグ深度、計測不能。パイロット、状況不明」（機械的に）
男「精神グラフ、危険域に突入！レベルＢ（エイト）に到達！」
男「各種自律システム、ブラックアウト　観測不能！」
女「LCL電荷率、極度に低下！現状を維持出来ません！」
男「精神グラフ、断線　現深度は不明！」

06

男「エヴァ　中指周辺に　C　陽子線痛を観測」
女「フィールド下歩成　124.5%増幅」
女2「左右手掌　しびれ」　表皮損傷　火傷（かしょう）度3
〃「目標滞空位置　変化なし　重力波反転エリア　依然変化なし」
女2「左右手掌　真皮損傷　火傷（かしょう）度5」
男「電磁波放電率　0.7%上昇」
女2「左右手掌　皮下組織損傷　火傷（かしょう）度7」
女「イナメス重力子　1280%増幅」

C 0800 ～ C 0801
女「LC　電荷
女「エントリー　リスタート」

C 0894 ～ C 0899
電車内カヤ（ノーンの絵合わせで）

C 0894 ～ C 0895
電車アナウンス「録音・女」「次は長尾峠　長尾峠です　お出口　右側に変わります」

C 0902 ～ C 0905（若い女の呼び込みも有り）
風俗アナウンス（女・左）「いる軽くはい　安いよ安いよ♥若いヒ　チビチキールが出血大サービス　超限れ！あなたを　独占へと御案内、ごしまーす」
風俗アナウンス（女・右）「お望く、今日一日のストレスを癒す　特別サービス　明日への活力をあなた、捧げる　特別サービス」

C 0909 ～ C 0910
悲鳴電車路地カヤ

C
[illegible]キ　[illegible]き止められません」

C 0978
男「主伝導システム　いまだ変動中
女「神経経路が麻痺しています」

C 0983
女「精神グノフ　正直不能」モニター出来ません」
男1「自動制動システム　反応なし」

C 0989
男1「自動制動システム　未だ作動せず」

C 0993 ～ C 0995
男1「自動制動システム　命令遂行を断念」
男「バイロット保護を　最優先事項と判断」

C 1001
男「システム　喪失　停止せず」
女「内部電源ダウン」
女「常号機　未だ制御不能」

C 1030 ～ C 1033
女子アールカヤ
「ねえカヨコ」
「負けちゃえ」
「負けちゃえよおねがぞ」

C 1034 ～ C 1035
男子バスケトカヤ

05

C 0632 ～ C 0635
由カヤ（登校中の中学生達）

C 0636
学校カヤ（おはようとか）

C 0640 ～ C 0647
教室カヤ

C 0662
男「ベサの台頭受けて」「対空迎撃戦　用意
女「対空迎撃戦　用意
女「新小田急より強襲防衛線までの　防空システムをスタンバイ」

C 0677
女「目標は　強熱保攻中」

C 0678
男「第3考学観測所より入電　目標周辺に　異常磁場を観測
女「ケ　ン粒子数は　496　パルスモードでは　240を確認

C 0679 ～ C 0684
避難民カヤ（生徒と家族）

C 0679
アナウンス女（右）「小中学生は各クラス　住民の方々は指定ブロックごとにお集り下さい」
アナウンス女（左）「第7管区の逃子センターは　第323シェルターに設置してあります」

C 0688 ～ C 0691
女「目標は依然健在　表層部、外傷は　認められず」
男「移動速度及び飛行高度に　変化なし」
男「小勇谷第4及び第5高射砲群　機動中
女「人力集中砲を前部に変更！
女「第42地対空迎撃用オートシステム　作動開始

C 0693
女「音雑伝導システム　問題なし」

C 0697 ～ C 0701
避難民カヤ（生徒かま

C 0760 ～ C 0761
女1「フィールド　0.2%ダウン」
女2「第1装甲板破損　損傷度F
女1「フィールド　0.8%ダウン」
女2「第1装甲板破損　損傷度E
男「各部エネルギ　伝導効率　支障なし」
女「中枢神経接続　異常なし」

C 0761
「委近不備　ンセントは西の22　距離800」

C 0777
男「目標は　移動開始
女「エヴァ初号機、向かい　進攻中」

C 0788 ～ C 0796
女2「防護服融解　損傷度A」

08

C 1221 ~ C-1222
女１「胸部第３装甲板　離解　構造度特Ａ（機械的）」
女２「複弾底部輪射熱　９万、上昇」

C 1233
男「了解　各課別　待機」
男「胸部骨格力撃衝突冷却　急げ」
女「第２消火班　準備」

C 1235
男「初号機胸部　冷却作業中」
女「表面温度　800まで低下」

C 1238
女「表面温度　600まで低下」
男「胸部第１装甲板　パージ用意」

C 1240
女「エントリー　強制終了」
女「ブック表面温度　300に低下　更に冷却中」

C 1244
女「LCL　排水中」

C 1289 ~ C 1292
由カヤ等

C 1293 ~ C 1294
生物カヤ

C 1302
「ケト１エネルギーシステムの停通、は？」

C 1303
男「電力系統は　静御岩場変電所と予備２カ所から直接配電を敷きます」

C-1304
作業員「現在　引込み用超伝導ケーブルを下ー子ぶに向けて敷設中」

C 1305
作業員「変圧システム込みで　本日22時50分までには全線通電の予定です」

C 1312
男「ヤシマ作戦は　明朝零時　予定通り　決行」
女「各部担当者は　至急　作戦部１課に進捗状況を　報告して下さい」

C 1355
背景「敵先端部　第17装甲板を突破」
女「ネルフ本部到達まで　あと４時間55分」

C 1356
男「西暗根動線及び南塔ノ沢変圧３号線までの通電完了」

C 1357
女「現在　第16BANK 変電設備は設置工事を終了中」

C 1358
男「第28トンネル部は５分遅延、了到着　担当者は各経線作業を急いで下さい」
（ノアで）女「２次結線を接続　許容電流は１万５千の予定」

C 1036 ~ C 1039
女子プールカヤ
「ゆた　男子が見てるー」「エ　チ　」「たっぬよーん　」
「なんか錦原　ご目つきやらしー」「暖くつーん　」他

C-1041 ~ C 1050
無線女 A(中)「エヴァ初号機は　第３次冷却に入ります　第６ケイン内は　フェイズ３までの各シンステムを落として下さい」
無線女 B(右)「先のハーモニクス及びシンクロテストは異常なし　数値目標を全てクリア」
無線女 C(左)「了解　結果報告はパルタサールへ」
無線女 D(右)「了解」
無線女 D(左)「エントリープラグのパーソナルデータはオールレンジにてメルキオールへコピーデータ送ります」
無線男 A(右)「メルキオール了解　回路接続」
無線女 A(中)「第３次冷却　スタートします」
無線女 B(右)「CB(　循環を開始」
無線男 B(左)「廃液は第２浄水システムへ」
「現在　初号機のプラグ深度はセロ　ンマ８　計測誤差は許容範囲内」
「精神汚染係数は感知されず」
無線女 C(右)「各タンパク壁の状態は良好　各部問題なし」
無線女 A(左)「零号機の運動試験再開まで　マイナス150分です」

C 1052 ~ C-1069
ハーのカヤ

C 1143 ~ C 1146
女アナウンス(OFF・左)「セントラルドグマは　現在開放中です。グループ３は、第４通過ゲートを利用して下さい」

C-1161A ~ C 1161B
男「入間より戦自領際機の発進を確認」
女「御岳崎レーダーサイト　監視を続行　追跡中」

C 1162
女「メキによる検証作業終了　分析パターン青　使徒と再確認」

C 1164 ~ C 1165
女「エヴァ初号機　発進準備」
男「対空迎撃兵装に換装」
女「弾倉はアンチタイプを装備」
「装備チェック　異常なし」

C 1167
女「高度及び移動速度　変化なし」
女「観測続行　引き続き　重力子測定に注意」

C 1174 ~ C-1176
女「エヴァ初号機　ケージ83を通過」
女「最終ゲート　開放します」

C 1201 ~ C-1204
男　初号機挟撃火器　発射」
女１「胸部第１装甲板　離解　損傷度Ｂ（機械的）」
女２「複弾底部輪射熱　５万　更に上昇中」

C 1214 ~ C 1216
女１「胸部第２装甲板　離解　損傷度Ａ（機械的）」
女２「複弾底部輪射熱　８万に上昇」

07

10

C 1475
女「第１次遮断システムは順次作動中
日向「第１から第 803 管区まで送電経路開け！」

C 1476
男「電圧安定　系統周波数は 50 ヘルツを維持

C 1477
ミサト「第２次接続

C 1479
男「新御殿場変電所　投入開始」

C 1480
男　続いて新高原変電所　投入開始・
女「新緒野変電所　投入開始
ﾄﾚｱで）男「電圧変動幅　問題なし」
ﾄﾚｱで）女　射撃システムは現在　補助動力で稼働中
ﾄﾚｱで）男「基幹系統の切り替え動作を確認」
女「定格安定度は限界数を維持
女「第 6AVR 群　自動制御を開始

C 1481
ミサト「第３次接続」
日向「了解　全電力　二子山増設変電所へ」
「陽電子砲　圧縮板を解除
「フライホイール回転開始

C 1482
女　当社専用ﾁｬﾈﾙ　ﾌｧｲﾊﾞｰ回線

C 1483A
男「全冷却システムは最大出力にて運転中」
男「超伝導電力貯蔵システム群　充電率 78.6%」
女「インケータを確認　異常なし」
男　西日本からの周波数変換電力　最大数をキープ」
女「電力な送電圧は最高電圧を維持

C 1483B
日向「第３次接続　問題なく

C 1484
ミサト「了解　第４　第５要塞第制室へ伝達　予定通り行動を開始　観測機はただちに退避」

C 1498
女「陽電子加速中　臨界点へ」

C 1500
「第 8V.S 群　発発
「第５制御第制室　システムダウン」
「原子炉第１監視モニタ　ノンアクト」

C 1501
女「陽電子加速器　蕃極中　ブラス１ァラ」
男　強転反束磁　作動」

C-1502
男「収束回転数は３万８千をキープ」
男「圧縮密度　発射点へ上昇中」

09

C 1359
女「F 層は　超伝導断路器の動作試験を至急確認して下さい」

C 1360
女「第２第３仮設超伝導変電システムを平行運転中　電流試験結果は良好です」
ﾄﾚｱで）男「下層第５区にて　直通経路のインターロックを確認試験中

C-1361
女「ご班は予定通り　各冷却システム循環装置の試運転に入って下さい」

C 1362
男「第４群継電装置のチェック完了　問題なし」

C 1356 ～ C 1362　追加
「50 万ボルト通常変圧器の設置開始は予定通り　タイムシートに変更なし」
「第４次先行シミュレーションを開始　復旧を捜索系統を再確認中
「第３コンテナホームからの入場作業　急げ」
「超伝導冷却コードの搬入は　現在 80%まで進行中」
「全 SMES の設置完了　第１事業系統より動作確認を順次開始」
「東北経由の長距離通常超送電価回路　再計算終了」
「了解　結果報告は直接中央給電司令所へ送って下さい」
「全超伝導超々高圧器終変圧器集団の開閉チェック完了　問題なし」
「仮設通信システムは良好　使用周波数は 105ch 設定」

C 1366 ～ C 1369
男「陽電子砲　固定作業　急げ！」
女「電力傾斜位置を最終確認」
女　パワーシーバー設置点の調整を開始」
男「超電磁伝導管の接続作業は予定通り進行中」
女「陽電子　注入５分前　各加速器は試運転をスタートして下さい」

C 1417
女「エヴァ初号機が　通過します　安全帯の内側まで退避して下さい　繰り返します～」

C 1444 ～ C-1445
生産カヤ

C 1470
ミサト「第１次接続開始

C-1471
日向「了解。各方面の１次および２次変電所の系統切り換え」
女「全開閉器を投入　接続開始」

C 1471B
男「各給電司令所へ伝達」
男「通常電力網を遮断
女「第１次送変電系統の切り替え完了」
男「全電力網、および専用系統へ配電開始」

C 1473
男「各発電設備は全力運転を維持　出力限界まであと 07」

C-1474A
男「電力供給システム、問題なし」
女「周波数変換容量　6500 万 kw へ増大」
男「電力な送電圧　現在　102%」

C 1472B
男「全インバータ装置、異常なし」

12

C-1583 ～ C-1584
作業員ガヤ

C-1589
日向「銃身　固定位置↑
男「放電システムを　再調整
伊吹「初号機　G 型装備を除く

C-1590
伊吹「射撃管制システムをマニュアルに切り替えます
女「陽電子　加速再開」
男「圧縮器　再稼動

C-1595
ミサト「第２射　急いで！」

C-1597
日向「ヒューズ交換・砲身冷却終了

C-1598
女「送電システム　最大出力を維持
女「地上作業員　退避終了
男「各放電ブロック　問題なし
「陽電子加速管　磁場安定　圧縮機は全力運転中！」
「冷却ユニット　圧力限界へ！」

C-1599A ～ C-1599C
伊吹「射撃用諸元　再入力完了　以降の誤差修正はパイロットの手動操作に任せます

C-1599A
男「陽電子　圧力上昇　発射点まであと１５」

C-1599C
男「圧力　発射点まであと０.２」

C-1616 ～ C-1617
女「ESV　第２層離脱

《中編用 30 秒予告
出撃するエヴァ仮設５号機　配属されるエヴァ２号機とそのパイロット
凱旋するエヴァ４号機　強行されるエヴァ３号機の起動実験
そして　月より飛来するエヴァ６号機とそのパイロット
次第に壊れていく綾ノ ンの物語は　果たして何処へと続くのか
次回　エヴァンゲリオン新劇場版　破　さぁて　この次も　サ・ヒスサ・ヒスッ！
（最後を「個期待下さい」もよろしく）

《中編用 15 秒予告
「エヴァ仮設５号機の出撃、始まり、　次第に壊れていく綾ノンの物語
果たして人々は　何処へ連なるというのか
次回　エヴァンゲリオン新劇場版　破　この次も、サ・ヒスサーヒス・ッ」
（最後を「個期待下さい」Ver もよろしく）

※以上　原稿の書式のまま掲載さ、《連載

11

「陽電子路　全真空チェンバー↓異常なし」
「位置保持装置　問題なし

C-1503A
男「収電損失　増大！
女「電圧稼働率０.０１９％へ」

C-1503B
女「事故回路を遮断」
男「切り替え急げ！」
女「電力低下は許容数値内」
女「第 103 管区までの全システムを直ちに投入」
女「第５管区にて　間開サージ発生
男「回路遮断　直流過電圧↓異常なし」
「西日本からの周波数変換容量　115％まで増大」
「系統保護回路　作動中　復旧運転を開始」

C-1504
男「第４次接続　問題なし

C-1505
ミサト「最終安全破壊　解除」

C-1506
日向「撃鉄　起こせ

C-1509
伊吹「射撃用諸元　最終入力を開始

C-1510
女「地球自転及び重力の誤差修正　プラス０.０００９」
「レティクルシステム、モード３でセット」
「陽電子砲　加速磁場安定　第２次入射をスタート」

C-1511
女「射撃盤　目標を自動追尾中」

C-1512
伊吹「照準機　調整完了」
男「陽電子加速中　発射点まであと０.２　０１」

C-1513
ミサト「第５次最終接続」
「SMES 群　充電率 99％」
「全冷却ユニットは　全力運転を維持」
「陽電子加速管　維持補正
「パルス安定　問題なし」

C-1516
日向「全エネルギー　超高電圧放電システムへ」
男「第１から第９放電ブロック　受電準備よし」

C-1522 ～ C-1526
群衆ガヤ

C-1561（無線ノイズ有り）
女「第２都市　先頭第３層まで事故　回線の復旧は困難」
男「上　子山トンネル　崩落」
男「第３砲塔　大破」

archives

P242-327

映像制作の工程は、企画・脚本・画コンテ・設定など「プリプロダクション」から始まり、実際の「画づくり」に相当する「プロダクション」を経て、編集・音響関係の「ポストプロダクション」で完成する。本来、アニメ用の設定書はプリプロダクション段階で先行して定まる上位仕様で、そこに記された指示に従ってプロダクションの各工程がブレイクダウンしていき、変更はない。しかし、本作では違う。レイアウト段階でも当該カットのみ登場するディテール等の設定は必要に応じて次々と追加され、場合によっては映像完成後に指示書が出てきらに追加・変更される場合も多々ある。

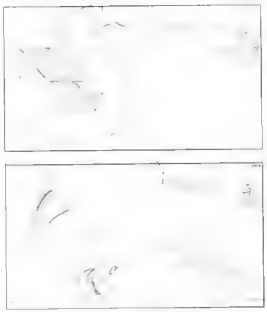
ここでは、一般的な設定書に加え、最終画面を決めるために検証・制作された成果物に関し、工程を問わず指示書やメモなどに至るまで網羅的に収録、包括して「設定」として扱うこととした。

NERV Emblem

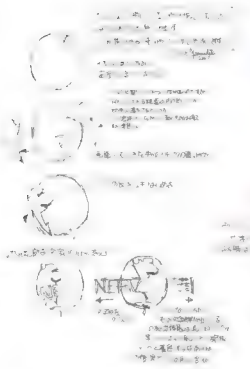
02

01

03



07



05

04

SEELE Emblem

08

09

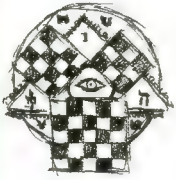
10

11

The Monolith

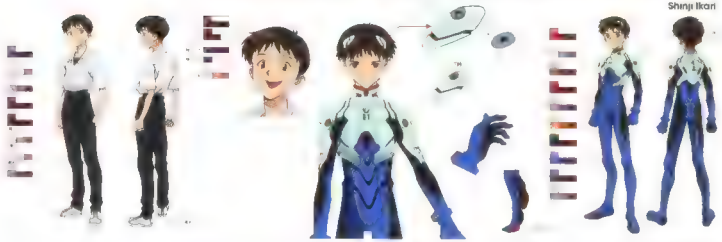
12

13



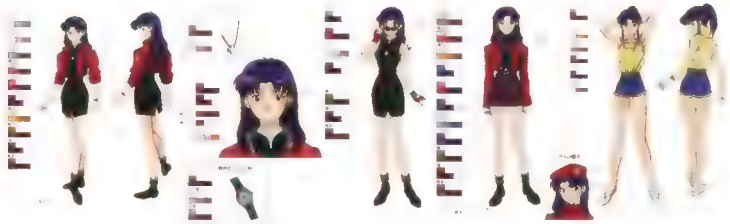
Coloring Sheets for EVANGELION:1.0

Shinji Ikari



Rei Ayanami

Misato Katsuragi



Gendoh Ikari

Kouzo Fuyutsuki

Ritsuko Akagi

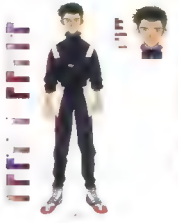
Makoto Hyuga

Shigeru Aoba

Maya Ibuki

Pen²

Tohji Suzuhara



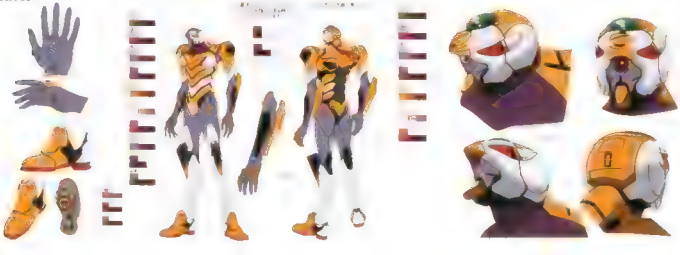
Kensuke Aida

Hikari Horaki

Kaworu Nagisa

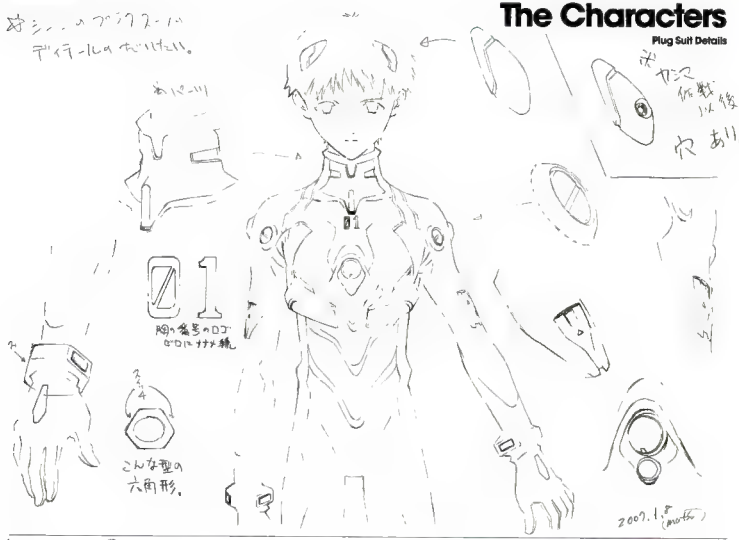
EVA-01

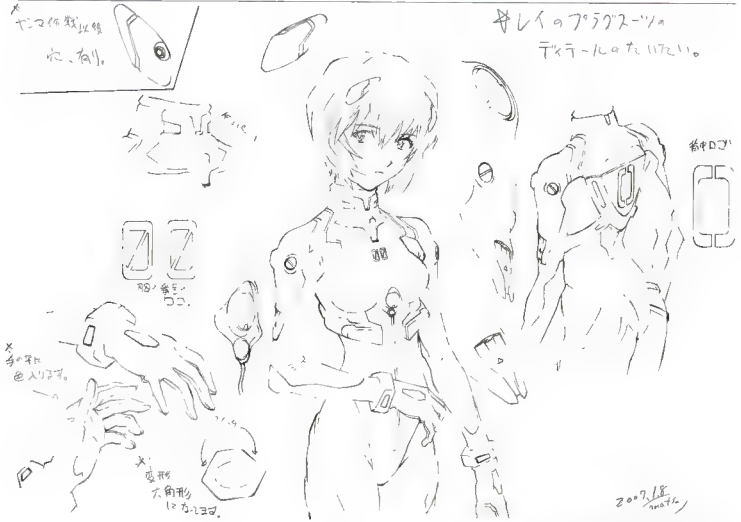
EVA-00



The Characters

Plug Suit Details





シンジ（上）とレイ（下）のプラグスーツディテール設定／拡展特典

Costume Design

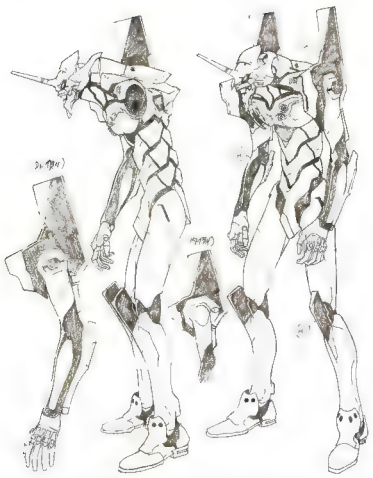
ドリミテ外装部 C 1054 ～ C 1068 設定　松原秀典

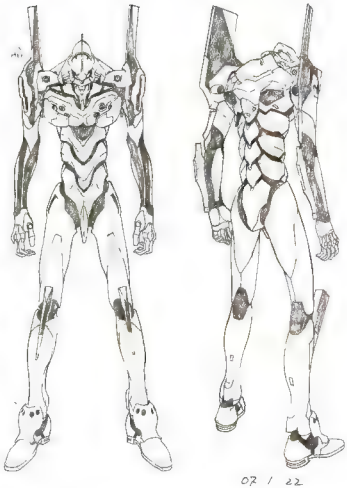
Work Crew

NERV 屋外作業員 設定 / 松原秀典

Evangelion Test Type-01

EVA 初号機 全身 ディテール

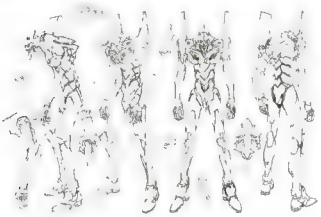




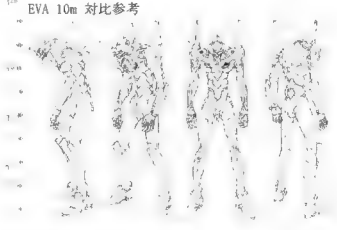
02 / 22

汎用ヒト型決戦兵器 人造人間エヴァンゲリオン試験初号機 新劇場版 フォルム 設定 本田雄

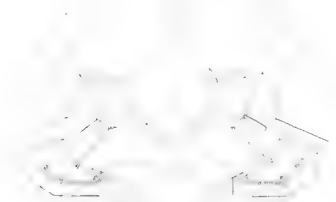
EVA 10m 対比参考



フォルム ラフ設定 / 本田雄



フォルム設定に10mごとのグリッドを入れた、対比参考。
画像は庵野秀明が使用していたもので ヒルの階層や自動車・電車の大きさも記してある



C-0164 頭部ディテール / 庵野秀明 動画に直接ディテールを描き足したもの

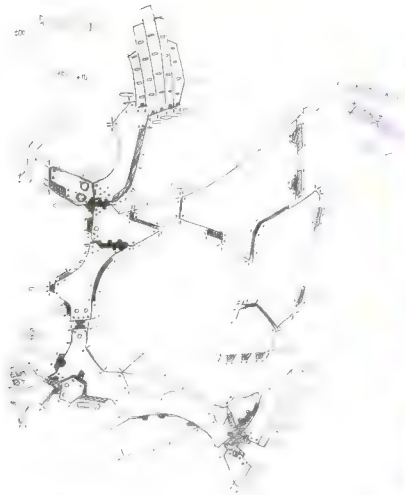
解剖 貼り込み素材 また、販売イラストで使用された。

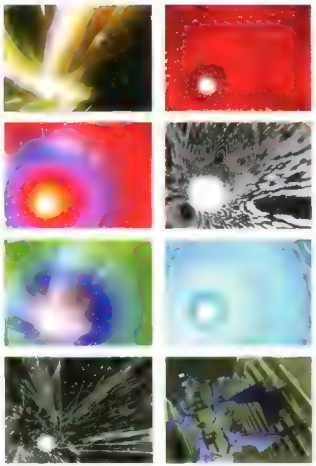
Interior Array Inside Entry Plug

PROJECT
EVANGELION
01
TEST TYPE

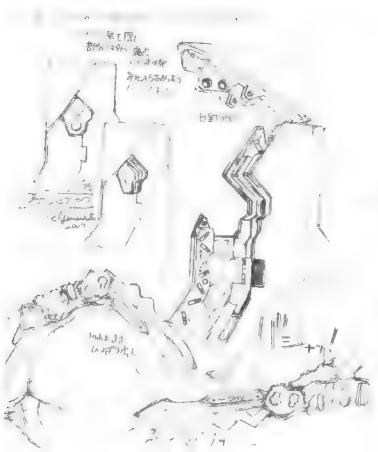
ENTRY PLUG
INTERIOR
CORE UNIT
-00/01

Pilot's Display Inside Entry Plug

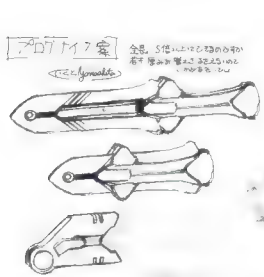




PKN-01C Progressive Knife

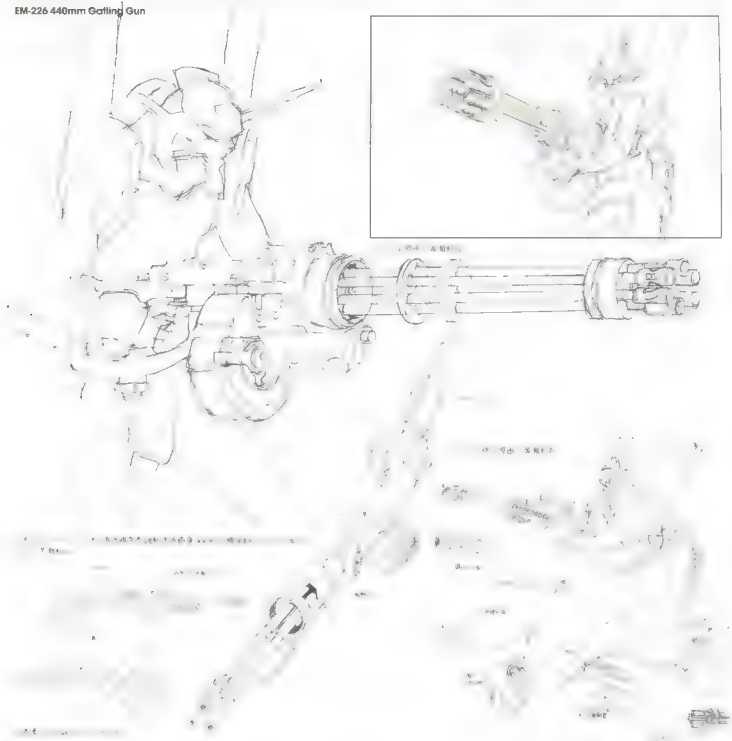


準備稿



準備稿

EM-226 440mm Gatling Gun



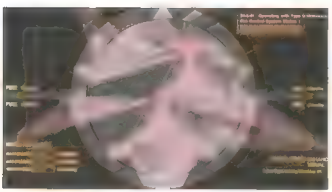
Type MM-99 209mm AU Assault Rifle

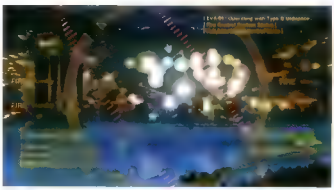
Sniping Equipment Type G Components

決定稿

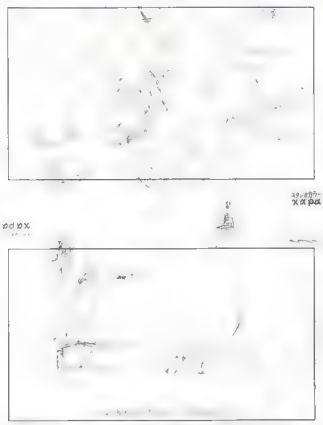
決定稿

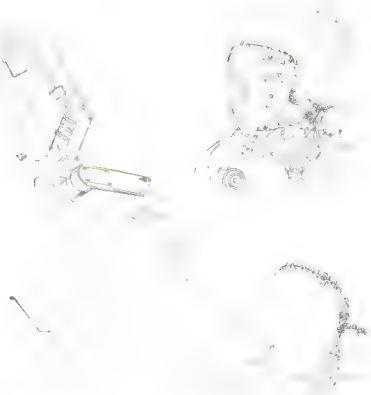
準備稿



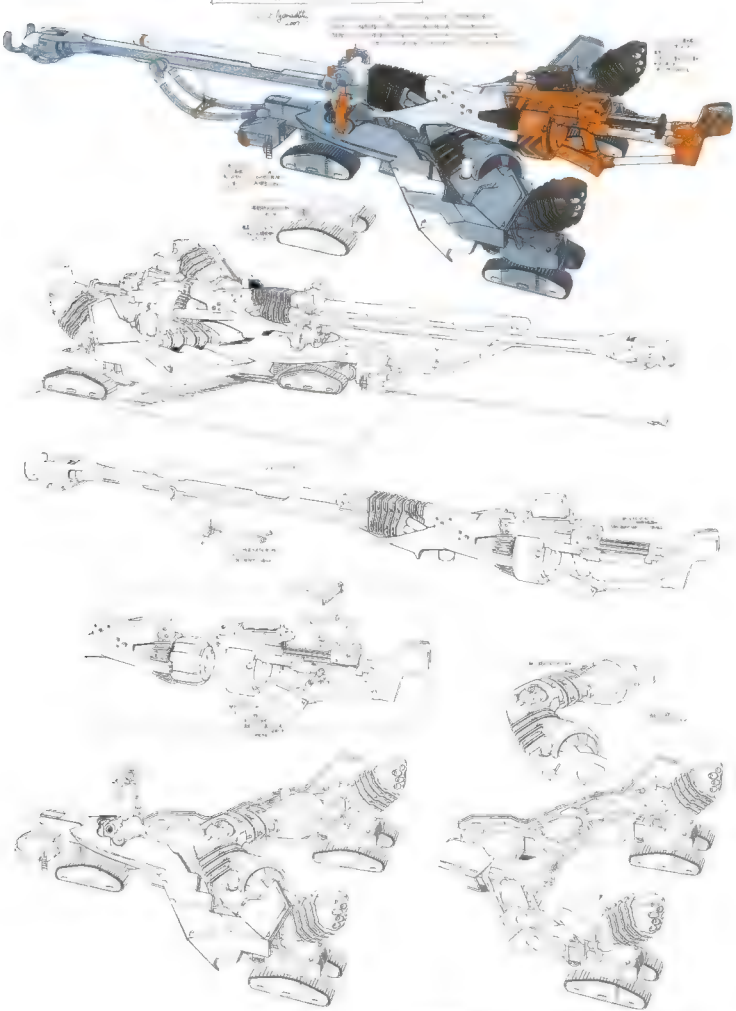


EVA-01 Undergoing Refit of Type G Components

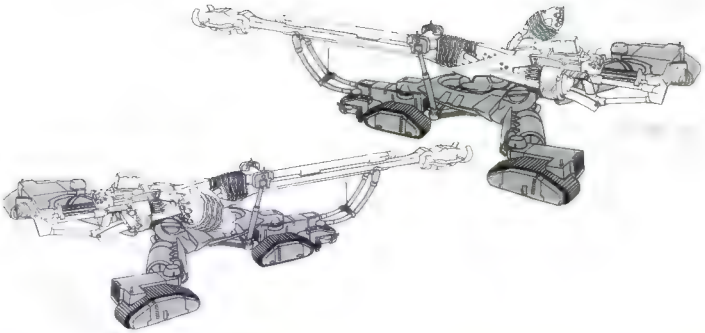




2nd Experimental High Power Self-Propelled 460mm Positron Cannon



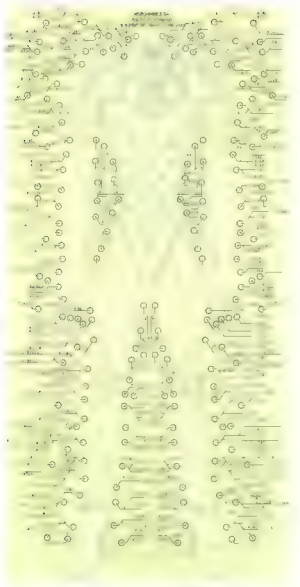
戦略自衛隊特命研究本部 大出力型第２次試作自走 460mm 陽電子砲 設定 ...ちゃくと

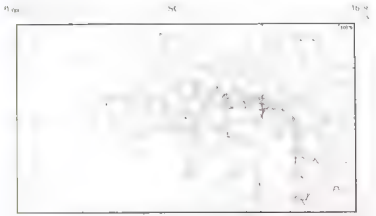


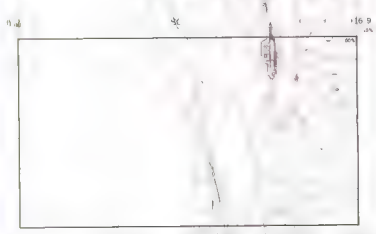
お宝箱（電気駆動）より着想調整されたもの（後に、塗野秀明により機構が追加され）

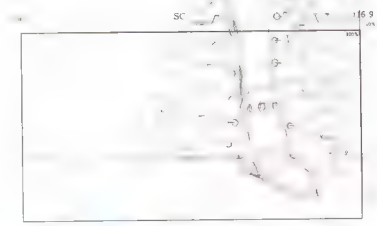
Evangelion Proto Type-00

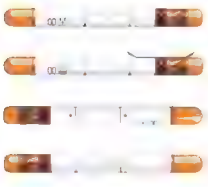
2nd Activation Experiment





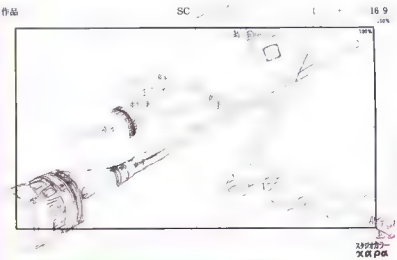


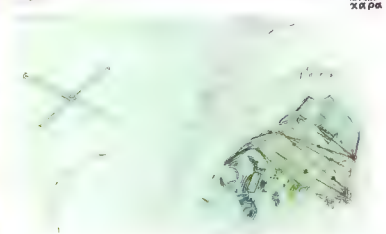




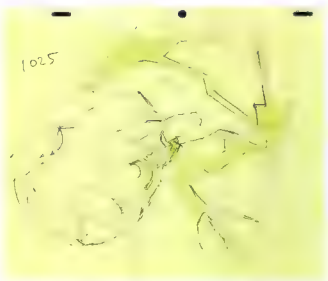
Restrained EVA-00

C-0531 EVA零号機 凍結状態（NERV本部中央施設 地下第3隔離拘束室）修上原画・本田雄

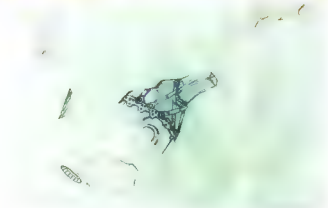




エヴァンゲリオン活動停止信号発振プラグ近辺
C-0528 レイアウト（上）C 1022 ディテール追加原画（下）/ 庵野秀明

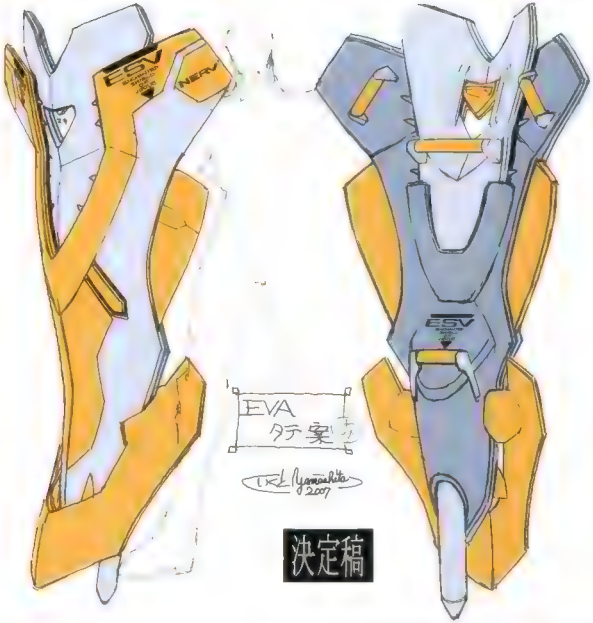


C-1021 エヴァンゲリオン拘束用重金属両手記 ラフ原画　本田雄（上）
ディテール追加原画 / 庵野秀明（下）

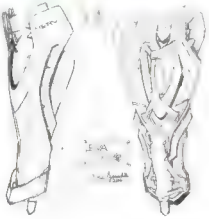


C-1025 エヴァンゲリオン拘束用複合構造式超強力鎖鞭（零号機専用型）ラフ原画 / 本田雄（上）
ディテール追加原画 / 庵野秀明（下）

The Enchanted Shield of Virtue



エヴァンゲリオン専用単独防御兵装 ENCHANTED SHIELD OF VIRTUE 参定稿 ...より下へと



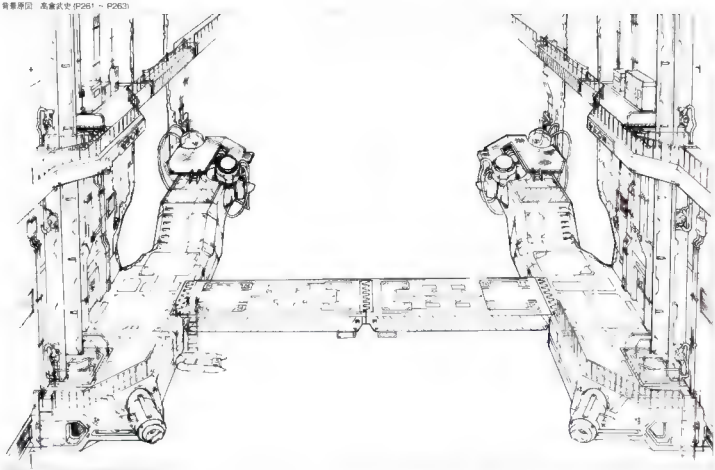
C 1409 >2原画 参田鎧

C 1404 原画 阿部和博

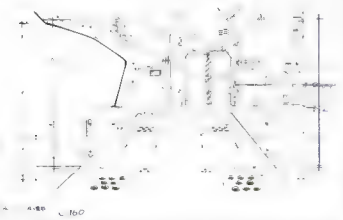
マーキング貼り込み素材

Cage

背景原図 高倉武史 (P261 ~ P263)

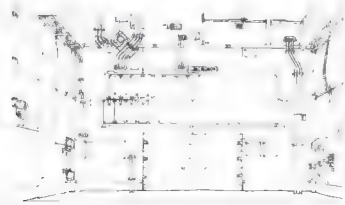


C_0150 C_0174A C_0182 、0196 C_0212

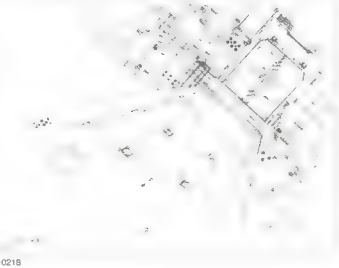


C_0160

C_0176

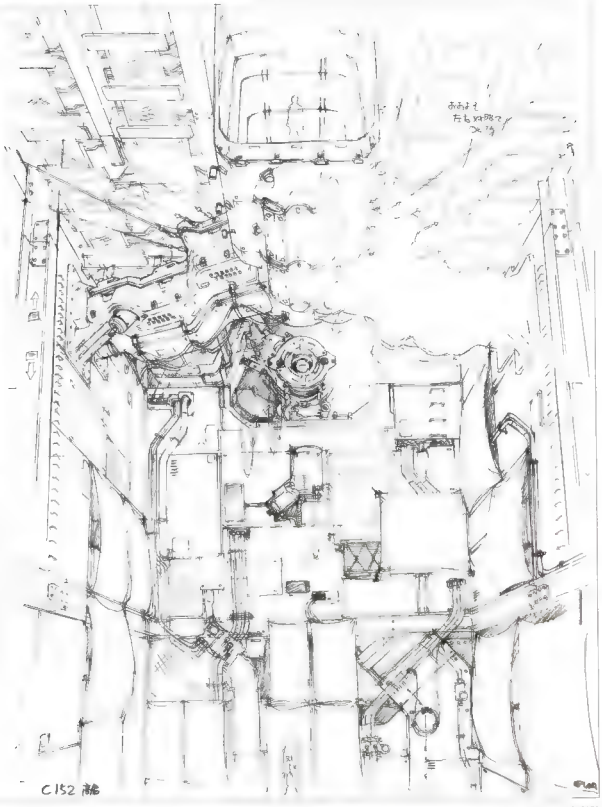


C_0201



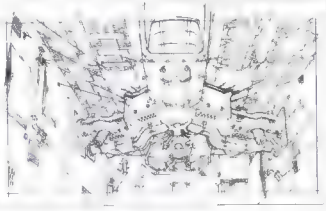
C_0218

archives

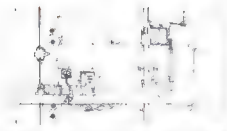


C-0152

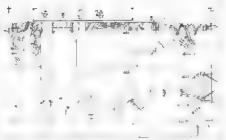
C-0247



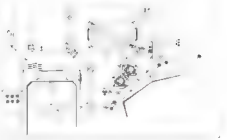
C-0169 C-0172



C_0243A

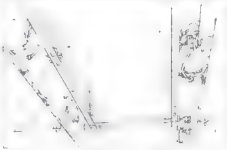


C-0195



C_0205

C_0202

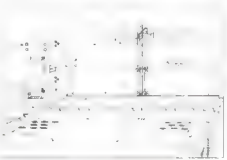


C_0215

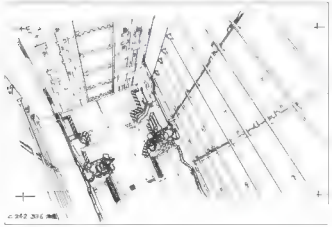
C_0213

C_0214

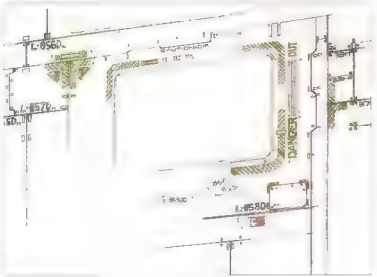
C_0219



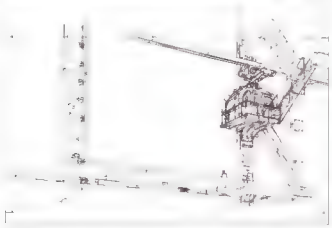
C_0187



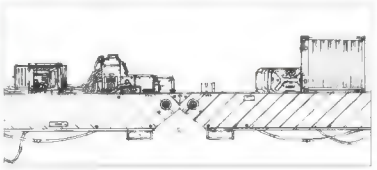
C_0242



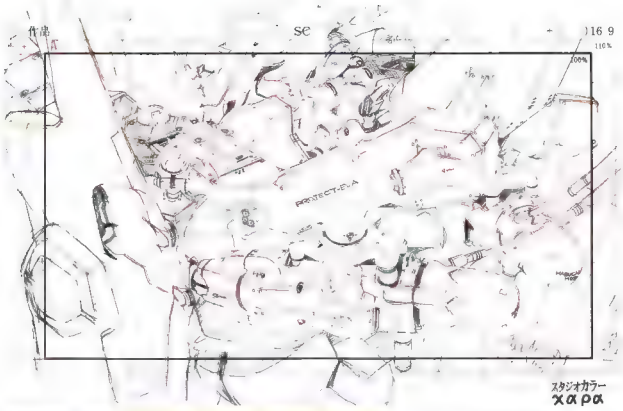
C_0226



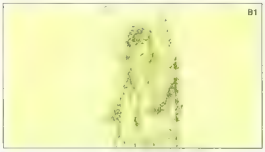
C_0252

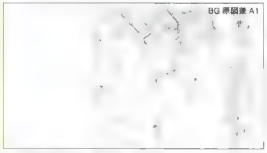


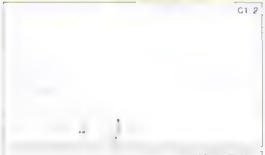
C-1042

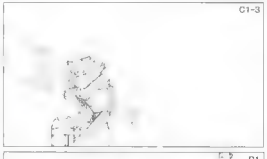


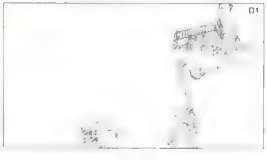
C 0228 原画事設定　梅野竜朝





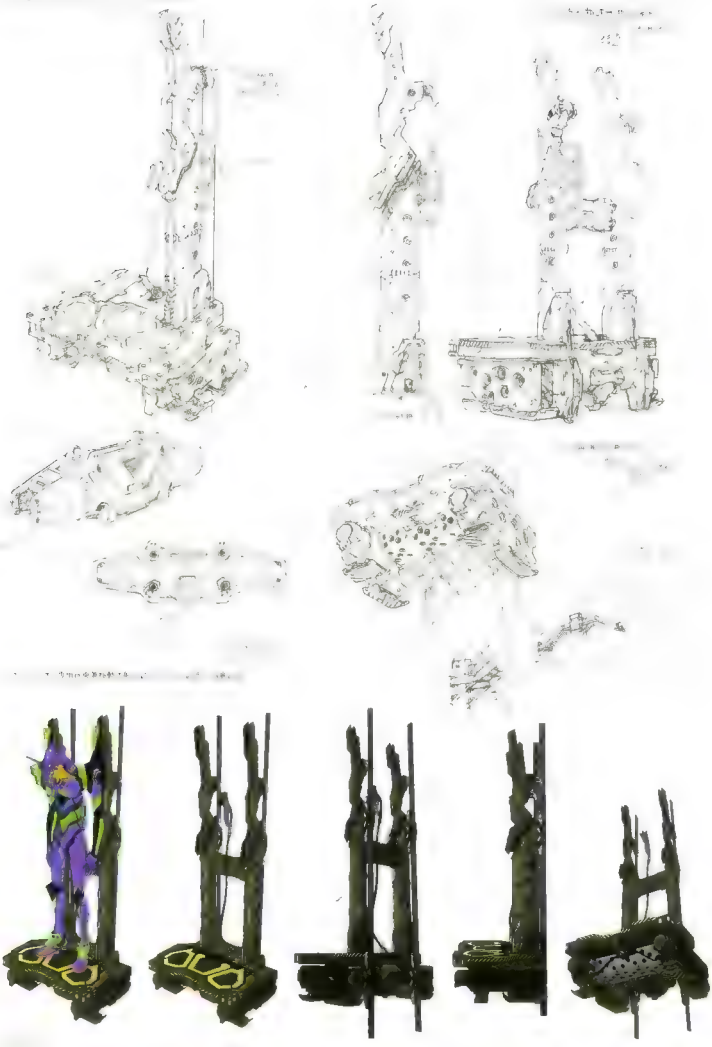




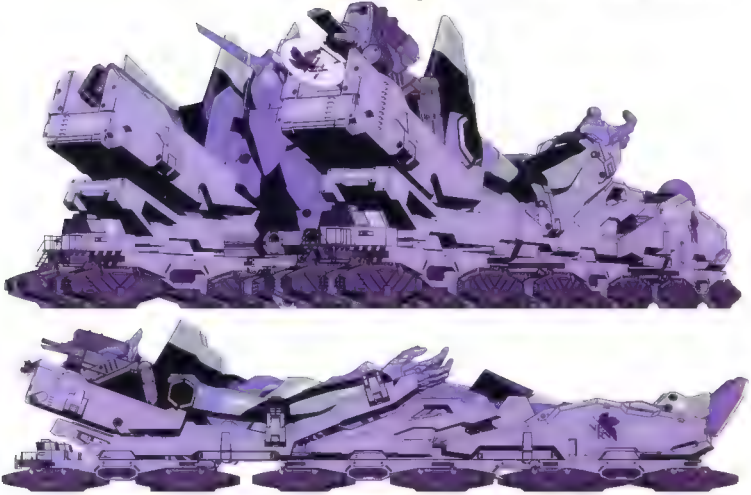


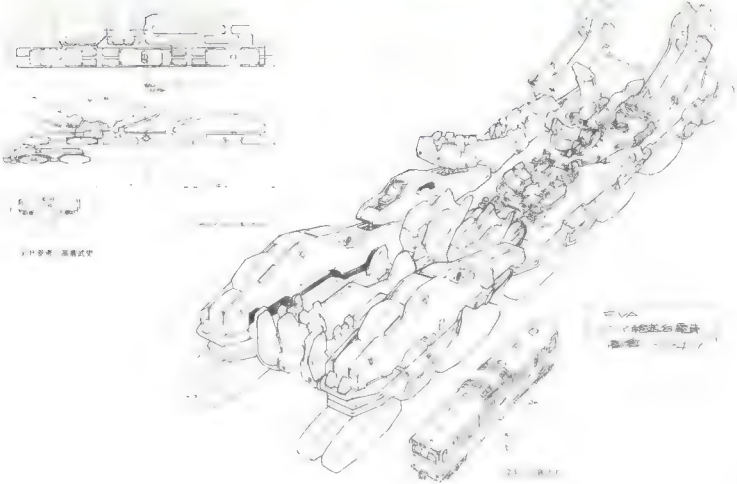
C 0250E
原画　背景原図　高屋武史
修正原画　水田雄(B1,
動画(D1)
ディテール追加指示(左下、高倉武史

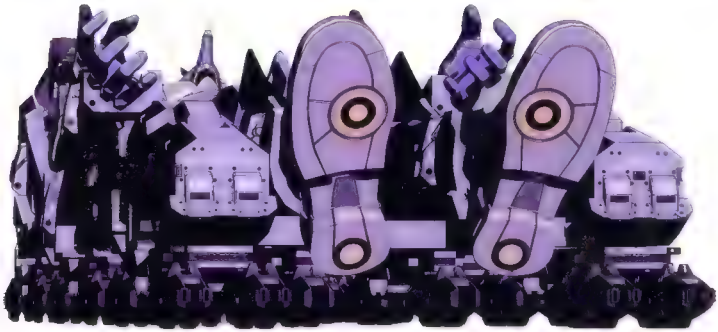
Evangelion Restraint / Transport Platform

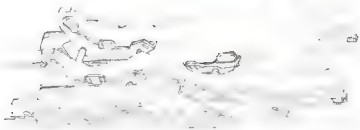


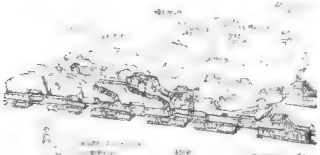
Linear Type Multi-Chassis
Evangelion Electric Motor Rail Transport

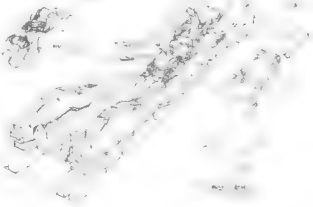


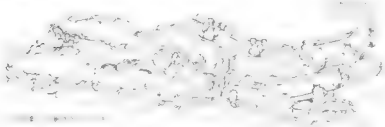




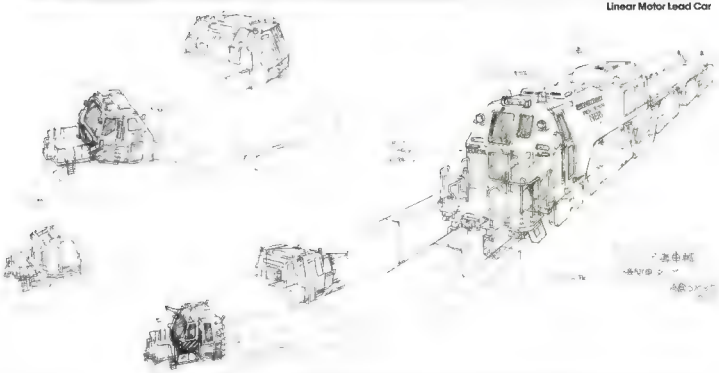




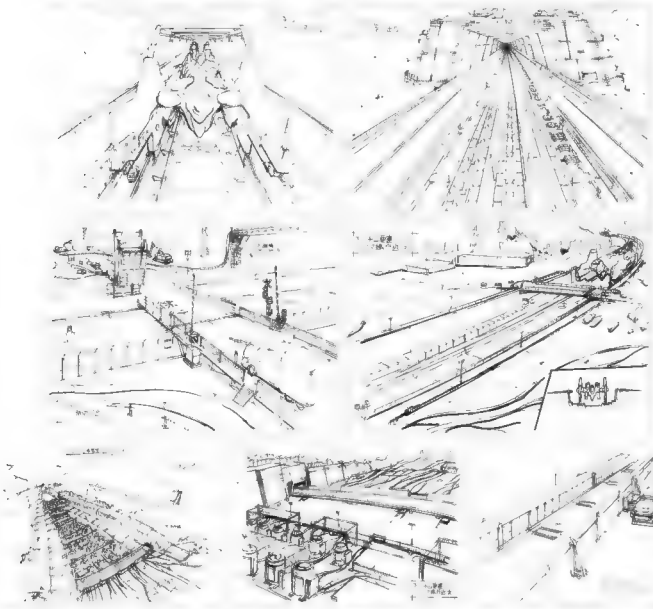




Linear Motor Lead Car

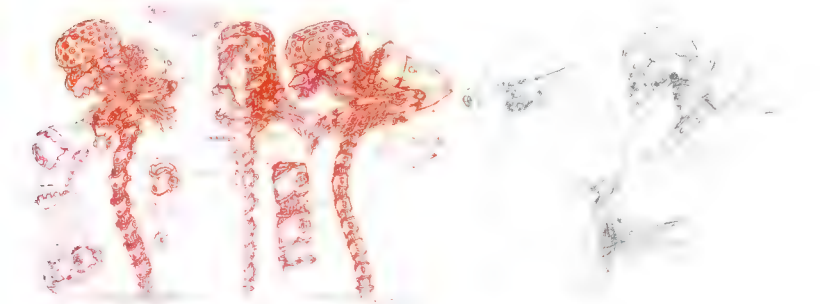


Linear Rail Siding



Evangelion Combat Simulation System VEM-01 (Early AO Type)

0616 号 0615 号、vEM-01 エヴァンゲリオン模倣戦闘訓練装置 初期 AO 型 レイアウト兼設定 以下、いくと



原画者 石垣純哉

設定案への修正指示 鶴巻和哉

Simulation Models

Non-scale Virtual Model - VMEVA-01

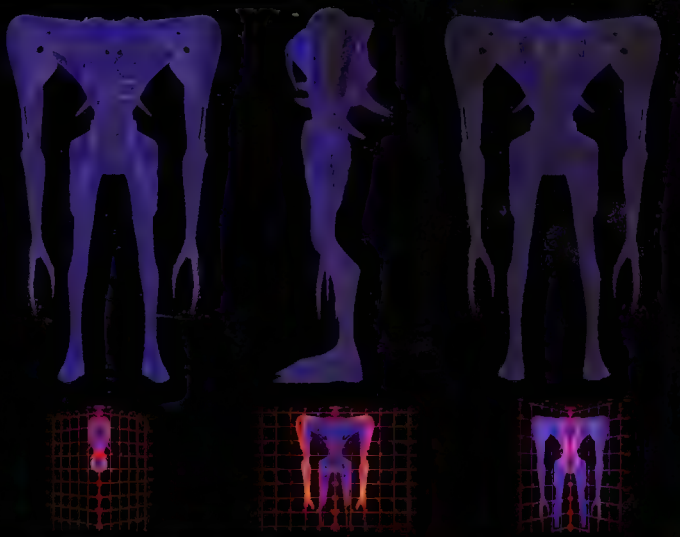
アーマチュアのディテール指示 / 小林浩康

エヴァンゲリオン[illegible]非実在ノンスケール仮想模型
VMEVA-01（アーマチュア駆動式）3DCG モデル

Non-scale Virtual Model - Elevated Structures (Simplified)

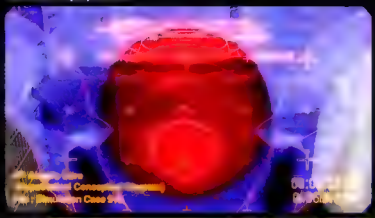
エヴァンゲリオン[illegible]非実在ノンスケール仮想模型 簡易物評（簡易型）3DCG モデル

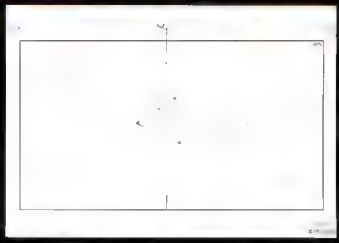
Non-scale Virtual Model - The 4th Angel (Interior Structure Unknown).



エヴァンゲリオン模擬戦訓練装置用ノンスケール仮想模型 第4使徒（内部構造不明）3DCGモデル

Simulation Display Screens





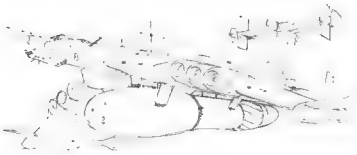
C-0602 操作用模擬エントリープラグ内モニター・エヴァンゲリオン模擬戦訓練装置用ノンスケール仮想模型 構造ロア（修復後）レイアウト修設定 / 庵野秀明（下）

C-0605 操作用模擬エントリープラグ内モニター・レティクル レイアウト修設定 / 庵野秀明（下）

Standard Ordnance Systems and Vehicles

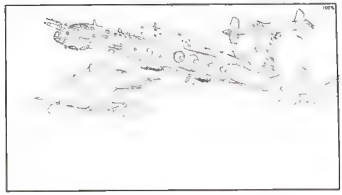
UNAF Close Air Support VTOL Aircraft YAGR-3B

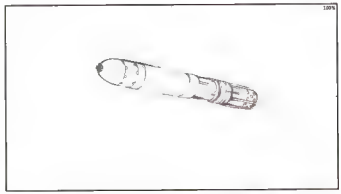
Strategic Super-heavy Bomber An-71MD



An 71MD 大型戦略重爆撃機 決定稿 / 佐藤道明

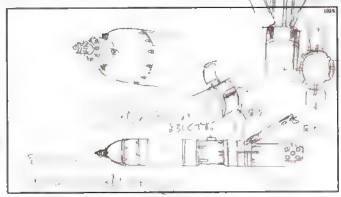
設定案 / 佐藤道明





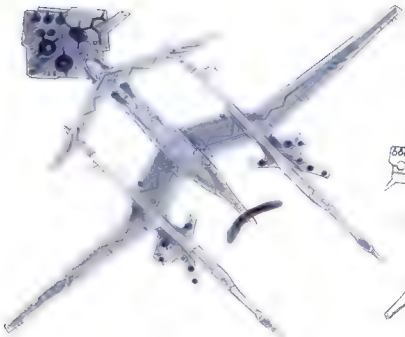
C-0061 レイアウト並ディテール設定 / 尾野秀明

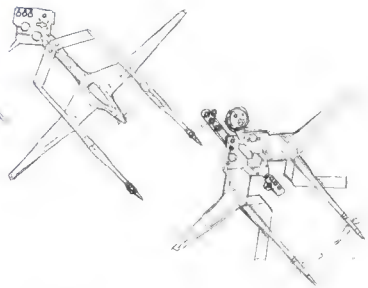
作品 EVA1.0 SC 61(修正) 16:9



超大型破滅爆弾 GBU-120/B 設定 / 尾野秀明

UAV P-0555 "Black Star" (Nerv Version)

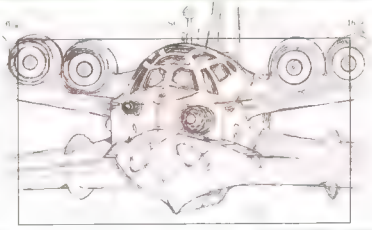




無人偵察機 UAV P-0555 ブラック・スター (NERV 仕様) 決定稿 / 佐藤道明

設定案 / 佐藤道明

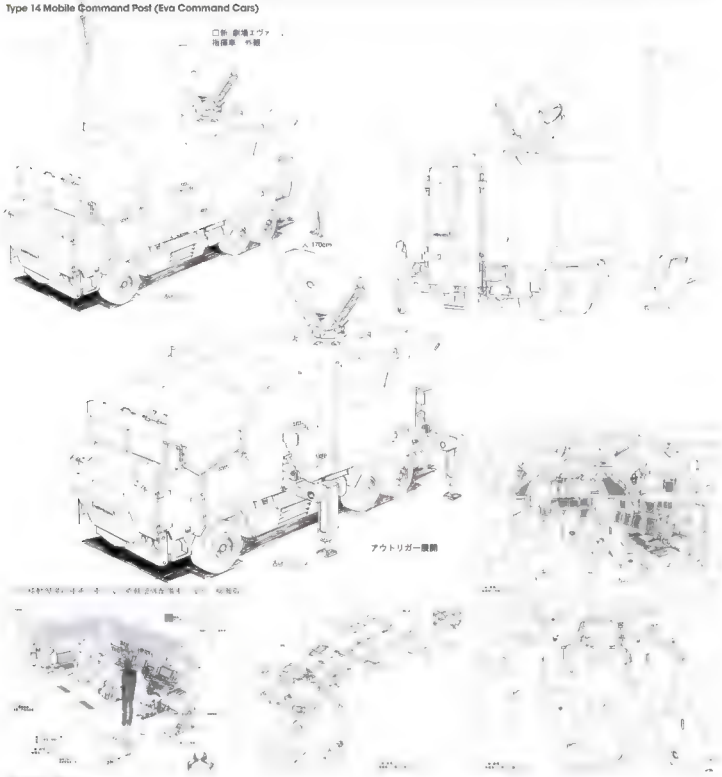
Ekranoplan Transport SKM-28 - CASP-E1971 (Nerv Version)



UNAF Multipurpose Aircraft EP-3D

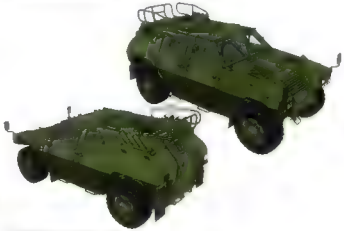
V-22 Osprey Tiltrotor Aircraft

Type 14 Mobile Command Post (Eva Command Cars)



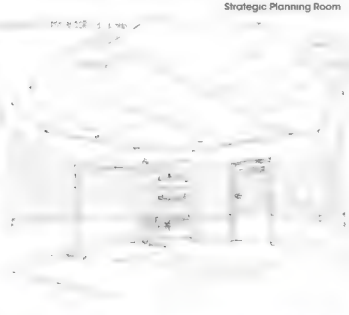
All-Protected Carrier Vehicle APCV-A2 (Improved)

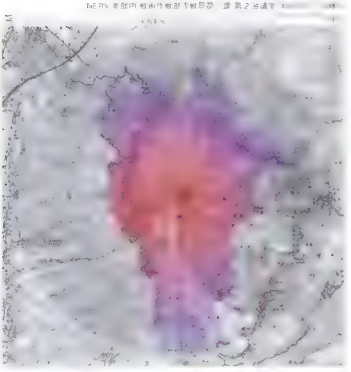
Light Armored Mobile Vehicle (UN Variant)



Operation Yashima

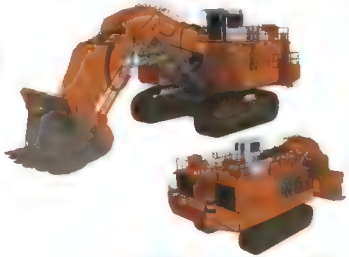
Strategic Planning Room





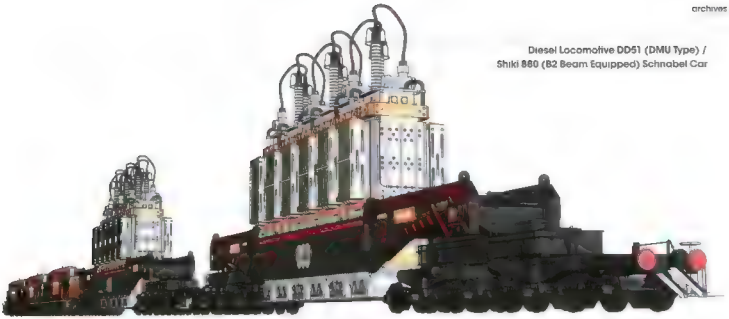
Earthworks Crawler Crane (CT10000 Nerv Version)

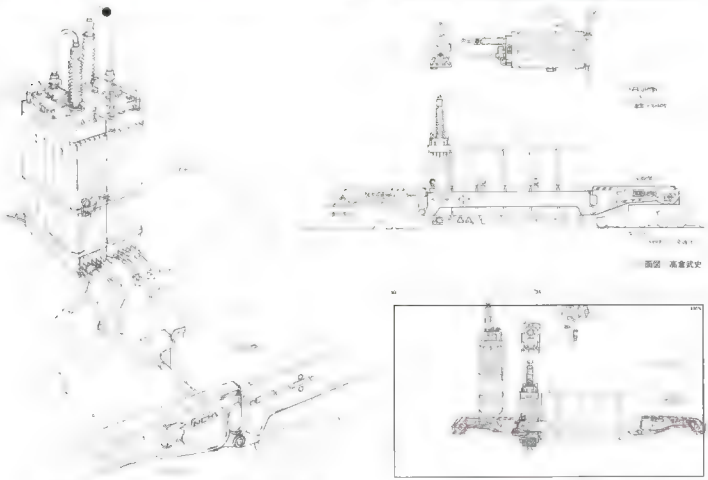
Hydraulic Earthmover (EX5550 Nerv Version)



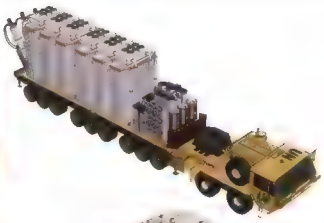
Futagoyama Fortress No.2

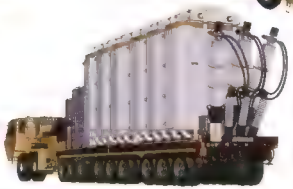
Diesel Locomotive DD51 (DMU Type) /
Shiki 880 (B2 Beam Equipped) Schnabel Car

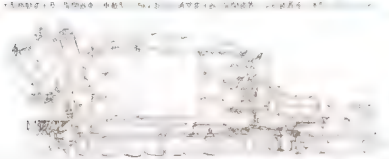


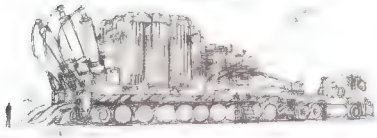


Large Mobile Transformer / Switchgear Cars

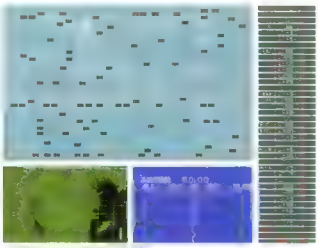








Electrical Power Control Center



275kV Superconductor Switchgear

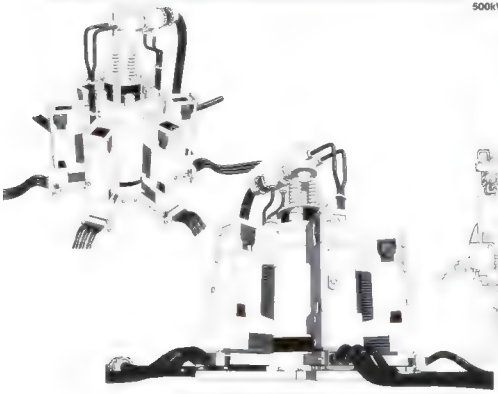
275kV Rated Three-in-One Superconducting Cable Laying Vehicle

C. 1303 ... 超型超伝導275kV送電ケーブル敷設車両 レイアウト 竹内志保

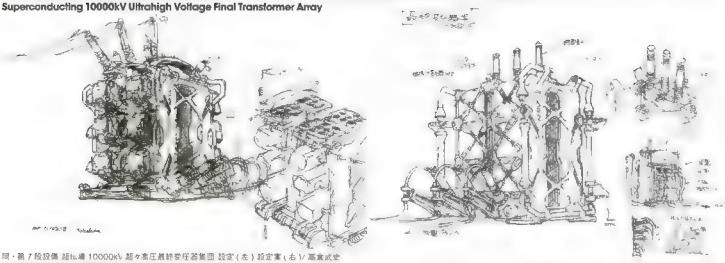
Large Superconductor Coolant System

500kV Rated Extreme High Voltage Superconducting Primary Transformer

500kV Superconducting Magnetic Energy Storage (SMES)

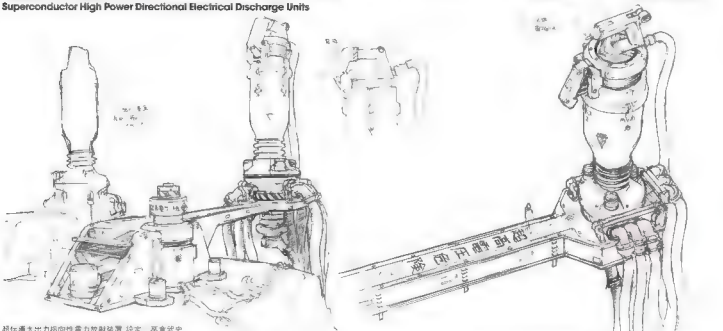


Superconducting 10000kV Ultrahigh Voltage Final Transformer Array



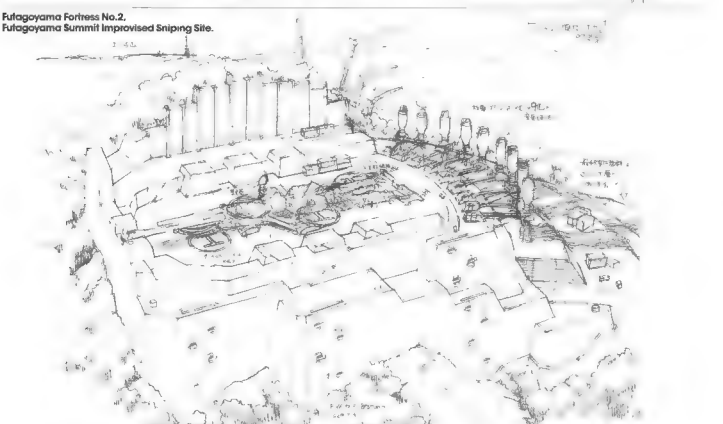
同・第７段設備 超伝導10000kV 超々高圧最終変圧器集団 設定（左）設定集（右）/ 高貴武史

Superconductor High Power Directional Electrical Discharge Units



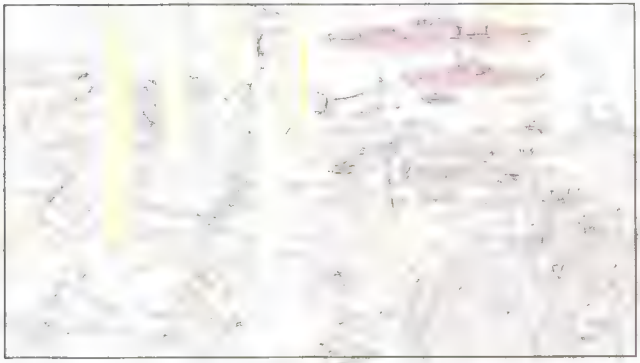
超伝導大出力指向性電力放射装置 設定　高貴武史

Futagoyama Fortress No.2,
Futagoyama Summit Improvised Sniping Site.



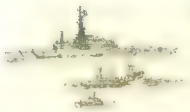
…子山第２要塞　…子山登頂部臨時射撃場 設定　高貴武史

Tokyo-III



C 0486 Vertical Optical Duct Relay [illegible] Structures 垂直
[illegible] 構造体 光学系

TOKYO-Ⅲ



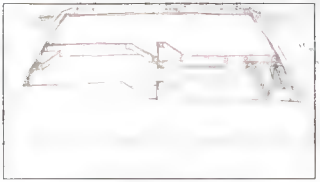
C 0488 [illegible] 3DCG 建築構造

C 0486 垂直光学 伝送 構造体

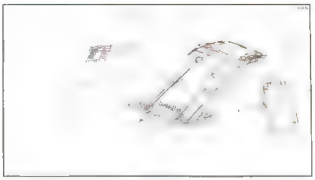
Construction Site Cranes

JCC1500H 3DCG

JCC400H 3DCG



…新幕張地区特殊移動用立坑 レイアウト兼設定　庵野秀明

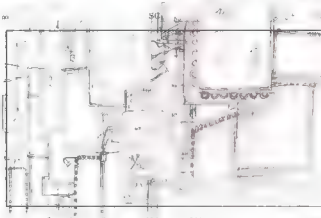


閉式掘削型第2非常扉 ディテール設定　庵野秀明

…多層式箱型シャター 貼り込み素材

C-0490A ストラクチャー基礎梁固定用熱間圧延異形棒鋼式大型ロックボルト
…設定　庵野秀明

…0658 レイアウト　庵野秀明



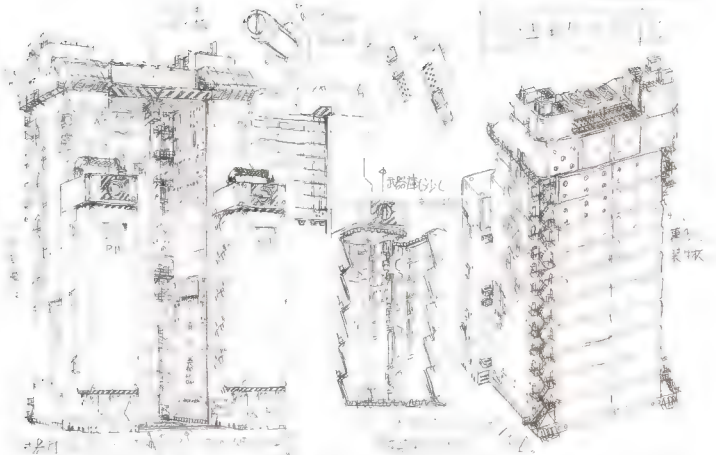
C-0903 レイアウト　庵野秀明

Tokyo III New Tokyo City Rapid Transit 2nd Loop Line Hakone Monorail (Straddle-beam Type)

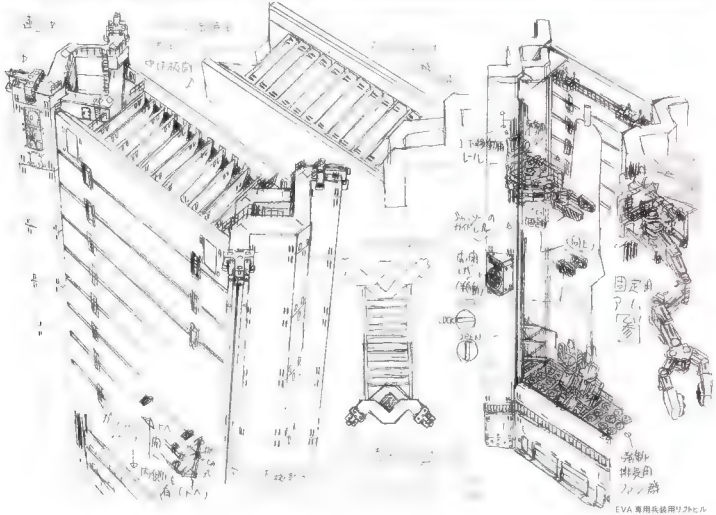
2…新幕張地区特殊…庵野秀明

Elevated Structures

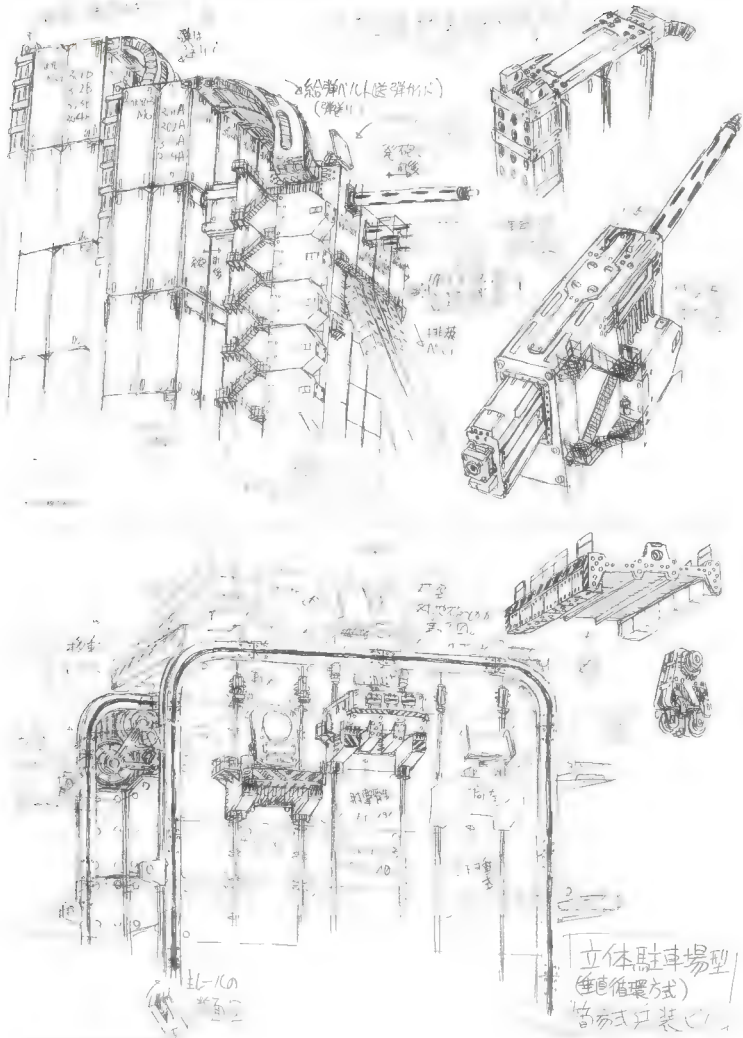
設定　庵野秀明 (P284 ～ P290)



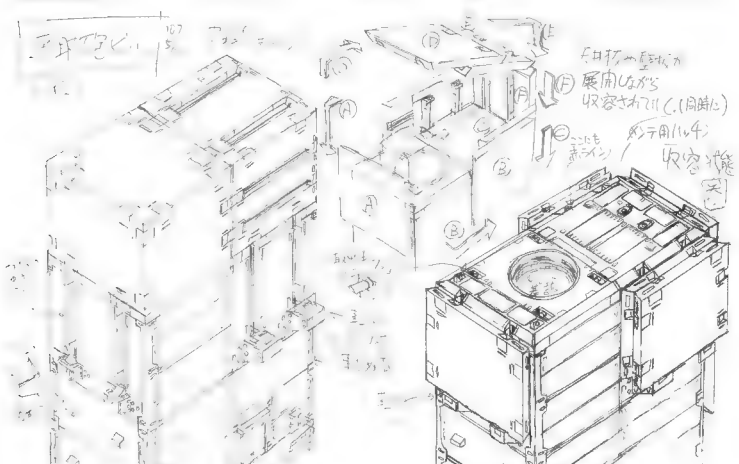
EVA 専用リフトヒル

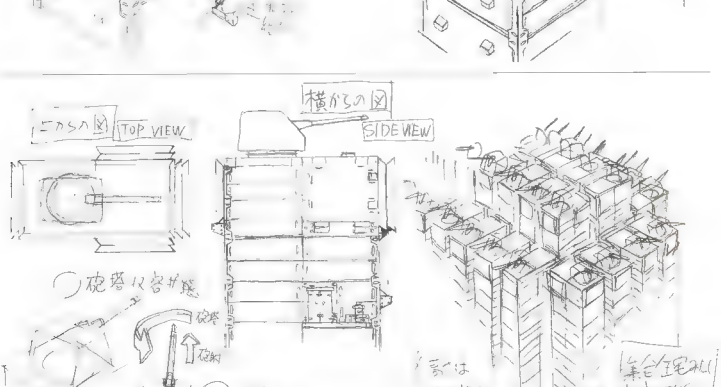


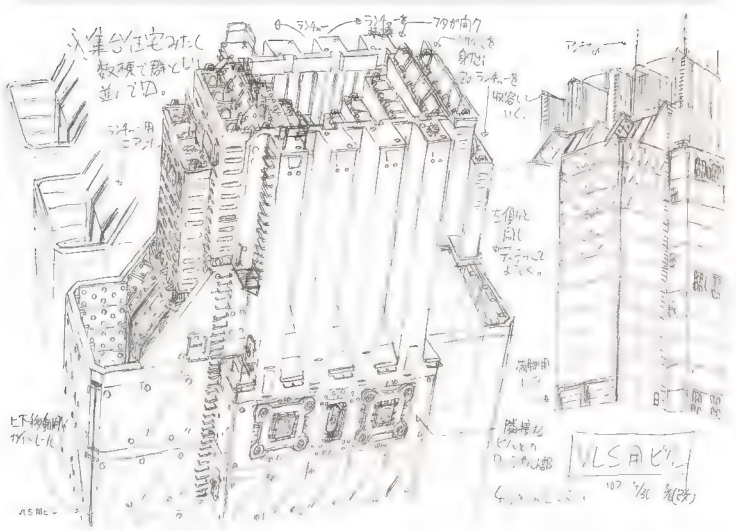
EVA 専用兵装用リフトヒル

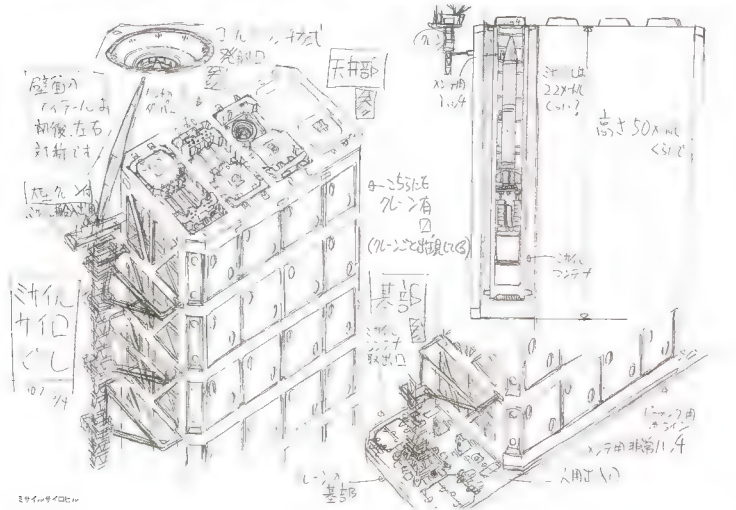


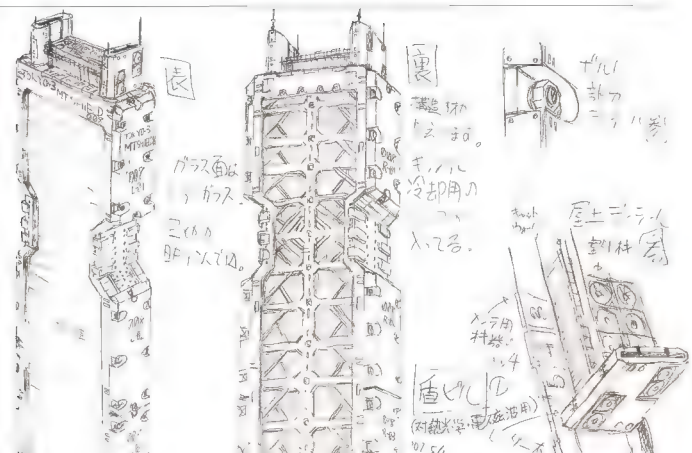
立体駐車場型（垂直循環方式）駐車式装置

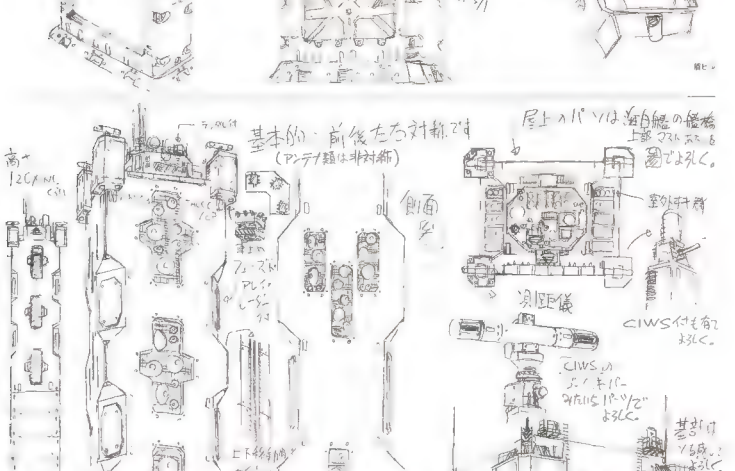

(A)
(B)
(C)
(D)
(E)
(F)
(G)
(H)
(I)
(J)
(K)
(L)
(M)
(N)
(O)
(P)
(Q)
(R)
(S)
(T)
(U)
(V)
(W)
(X)
(Y)
(Z)
(a)
(b)
(c)
(d)
(e)
(f)
(g)
(h)
(i)
(j)
(k)
(l)
(m)
(n)
(o)
(p)
(q)
(r)
(s)
(t)
(u)
(v)
(w)
(x)
(y)
(z)


TOP VIEW
SIDE VIEW
(1) 砲塔収容状態
(2) 砲身の仰角を取った砲塔が上昇
(3) 射撃位置に

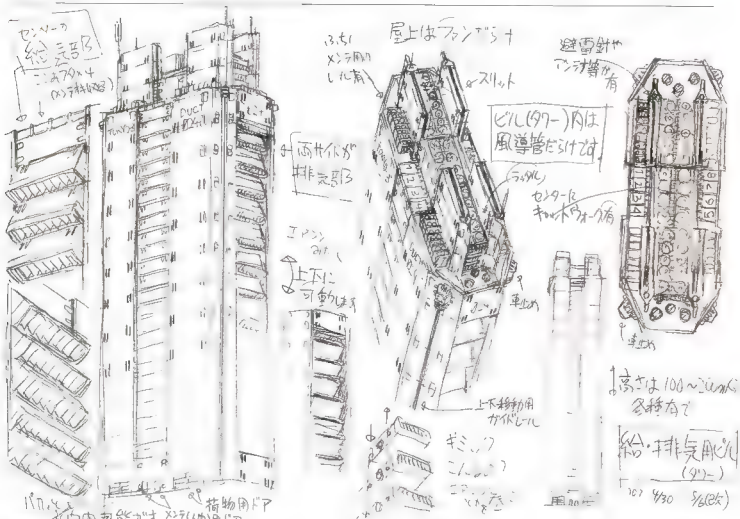

入隼台住宅みたく
数棟で群でしい
並んでいる。
ランチャー用
ライン
ランチャー
ランチャー
アクが向く
ランチャーを
収容しに
いく。
上下移動用
ガイドレール
隣棟と
ブリッジ
VLS用ビル


天井部
壁面の
ハッチは前後左右
計4箇所
ミサイル
サイロ
ビル
基部
こちらにも
クレーン有り
(クレーンと出現しない)
ミサイル
22メートル
くらい?
高さ50メートル
くらい
ミサイル
コンテナ
ミサイル
コンテナ搬出口
レーンの
基部
ミサイルサイロビル

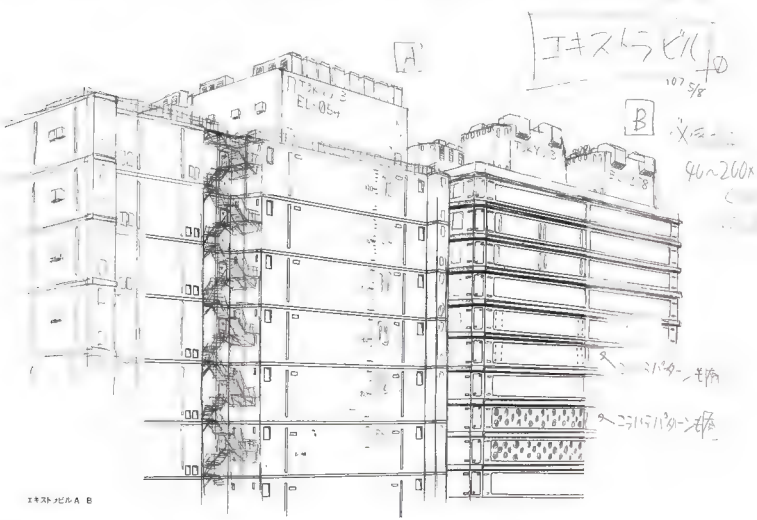


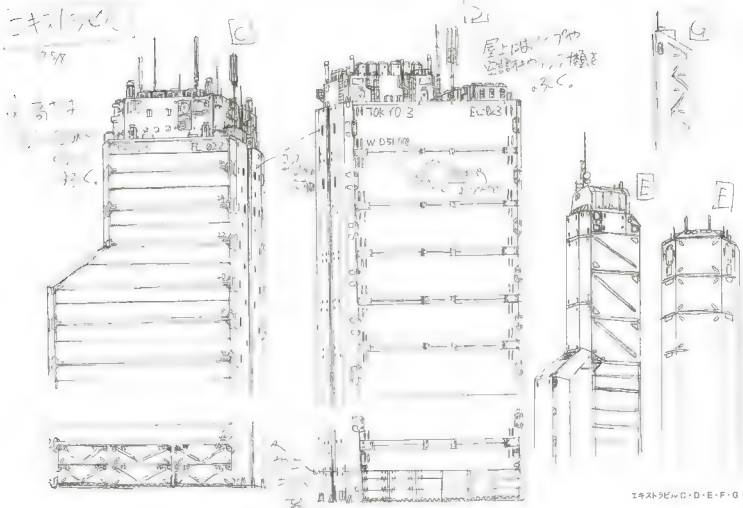


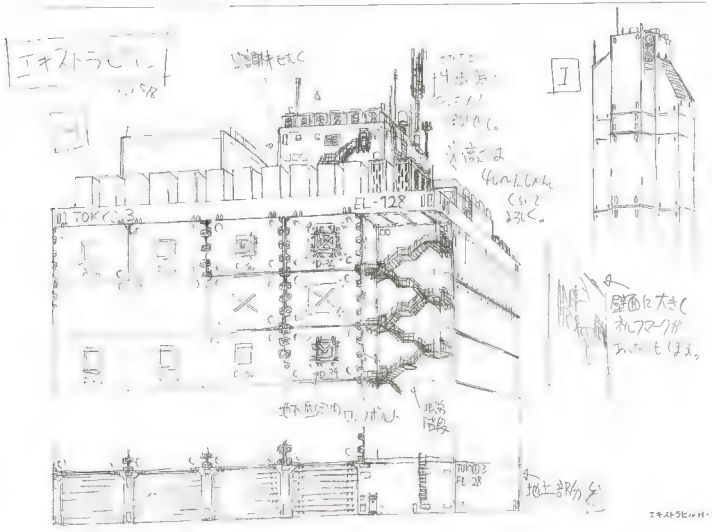
電子兵装 情報処理通信専用ビル

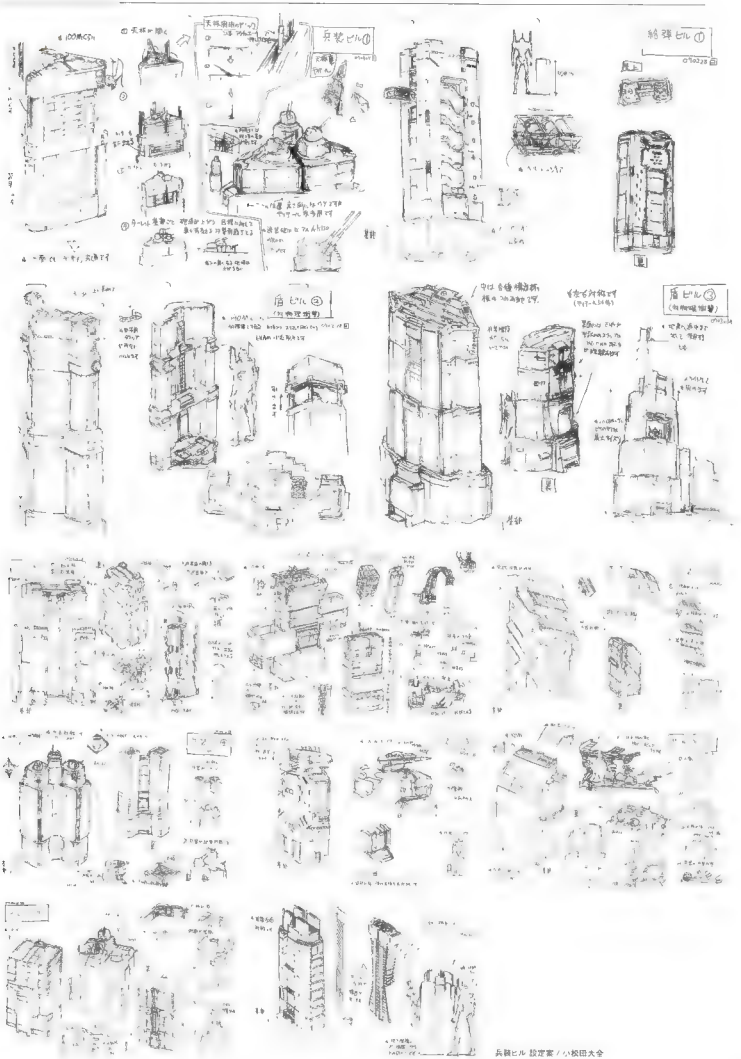

センサーの総合部
ビル(タワー)内は風導管だらけです
屋上はファンだらけ
避雷針
スリット
センター
キャットウォーク有
車止め
上下移動用ガイドレール
荷物用ドア
高さは100~200mくらい各移有で
給・排気用ビル(タワー)
107 4/30 5/8(土)

絵 排気用ビル

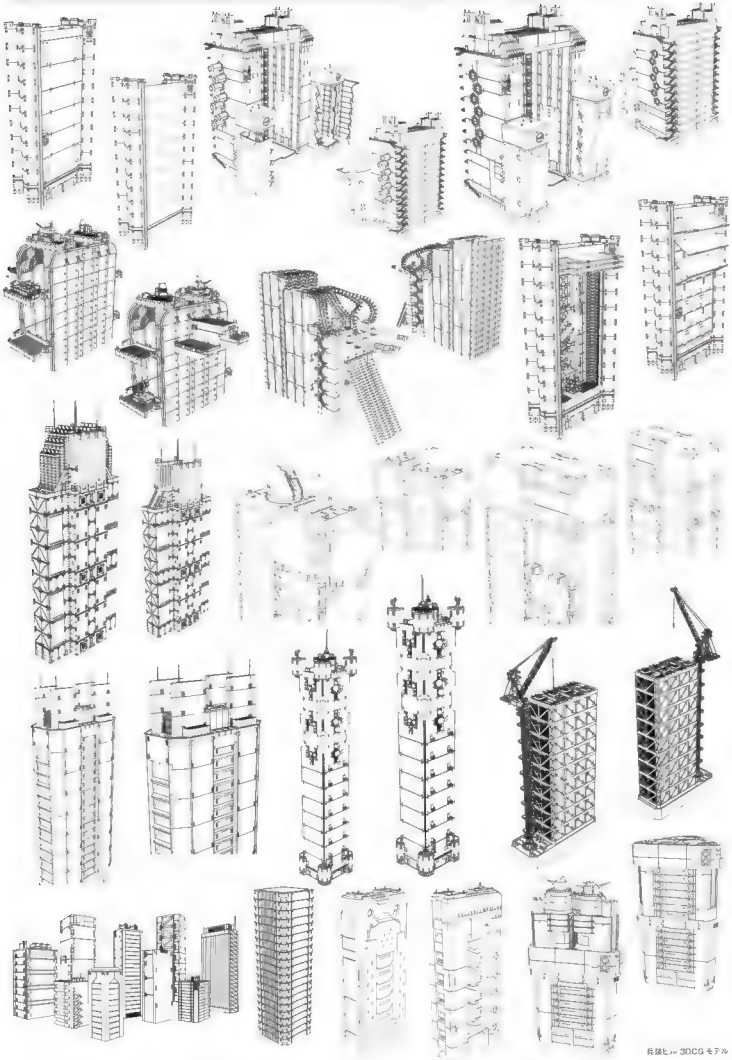

エキストラビル
A
B
EL-054
107 5/8
46~200×4ヶ
エキストビル A B


エキストラビル C・D・E・F・G
C
D
E
F
G
TOKYO 3
EL-123
WD51
FL 02

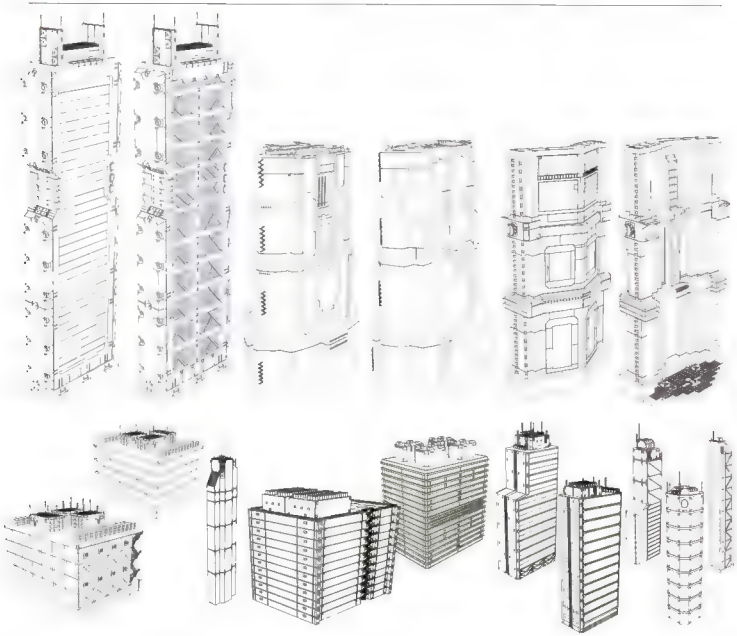

エキストラビル H・I
H
I
TOKYO 3
EL-12P
FL 2P
地下駐車場
非常階段
地上部分



兵舎ビル 設定案 / 小松田大全



兵装ヒッ 3DCG モデル



TOKYO-Ⅲ
ETLH-000
E-M TRANSPORT LIFT HOUSING STRUCTURE

TOKYO-Ⅲ
EODL-000
E-M ORDINANCE DELIVERY LIFT HOUSING STRUCTURE

TOKYO-Ⅲ
LCACP-000
LARGE CALIBER AUTOMATIC CANNON PLATFORM STRUCTURE

TOKYO-Ⅲ
VCCIFSS-000
VERTICAL CARROUSEL CARPARK IMPROVISED FIRE SUPPORT STRUCTURE

TOKYO-Ⅲ
VLSH-000
VLS HOUSING STRUCTURE

TOKYO-Ⅲ
MSBS-000
MISSILE SILO BANK STRUCTURE

TOKYO-Ⅲ
EW&IPC-000
ELECTRONIC WARFARE & INFORMATION PROCESSING COMM TOWER

TOKYO-Ⅲ
AFRS-000
AIR FLOW REGULATING STRUCTURE

TOKYO-Ⅲ
ODS-000
ORDINANCE DEPOT STRUCTURE

TOKYO-Ⅲ
BST1-000
BARRIER STRUCTURE TYPE

TOKYO-Ⅲ
EPGAPS-000
EVA POWER GRID ACCESS POINT STRUCTURE

TOKYO-Ⅲ
MSS-000
MOBILE STRUCTURE SYSTEM

TOKYO-Ⅲ
VEAS-000
VERTICAL ELEVATION ADJUSTABLE STRUCTURE

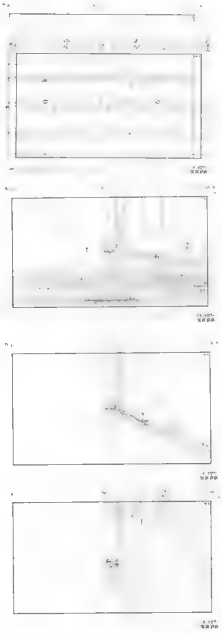
TOKYO-Ⅲ
STANDARD STRUCTURE

装装ビル標示 貼り込み素材

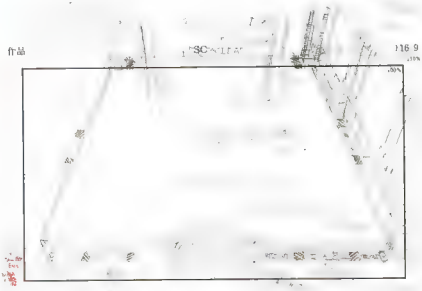
The Fortress City

Evangelion Elevator Gate Doors

各層複合式多面鈑甲鉄鈑 貼り込み素材

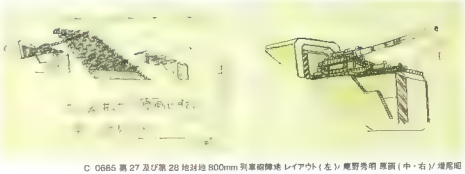


C-0717 発進口から出現するEVA初号機のま観映像 レイアウト兼設定　鷹野晃明



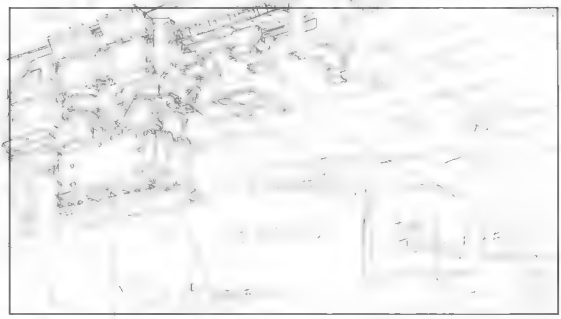
C-0271 C-0716A C-1177 エヴァンゲリオン専用地上発進口 レイアウト兼設定 / 鷹野晃明

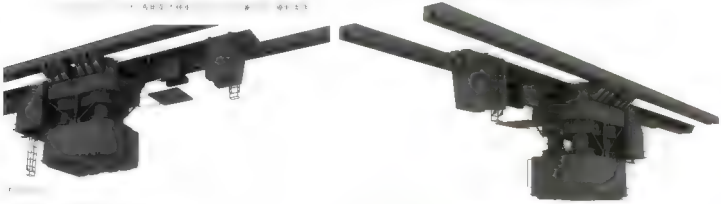
No.27 and No.28 Ground-to-Ground 800mm Railway Cannon Emplacement



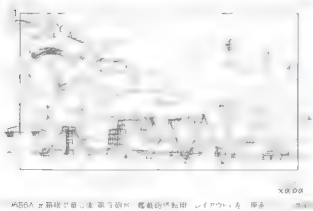
C 0685 第 27 及び第 28 地対地 800mm 列車砲陣地 レイアウト（左）/ 鷹野晃明 原画（中・右）/ 増尾昭

Specialized Evangelion Type 4 Carriage Specific Bumpers

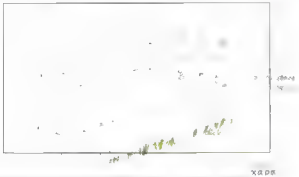




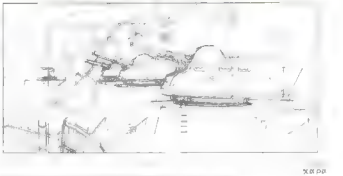
No. 3 Gun Turret Site (Formerly Navel Guns)



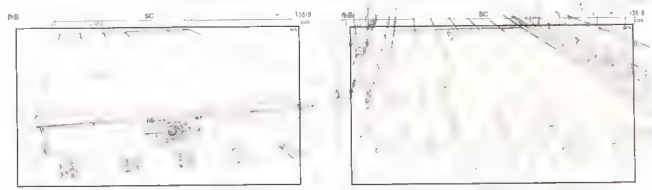
Ground-to-Air Vertical Launch System VLS Mk 44



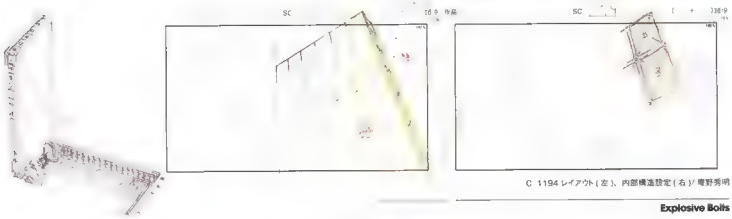
Mishima Fortress No.5, No.2 Automated Gun Turret Site



Hinge Mounted Anti-Electro-Magneto-Thermal Directed Energy Armored Plates (Roadway Camouflaged Type)

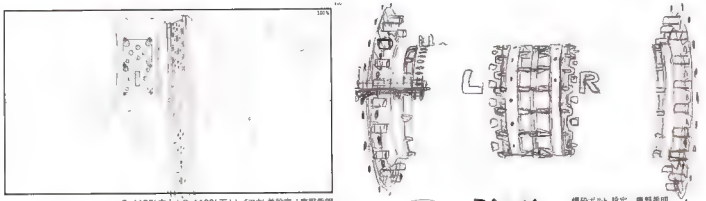


C-1193 対電磁光波熱線防護装開式装甲板（路盤擬装型）レイアウト兼設定 / 竜野秀明



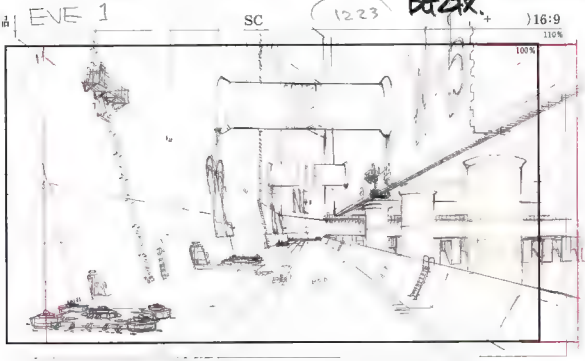
C 1194 レイアウト（左）、内部構造設定（右）/ 竜野秀明

Explosive Bolts



C-1195（左上）C-1196（下）レイアウト兼設定 / 竜野秀明

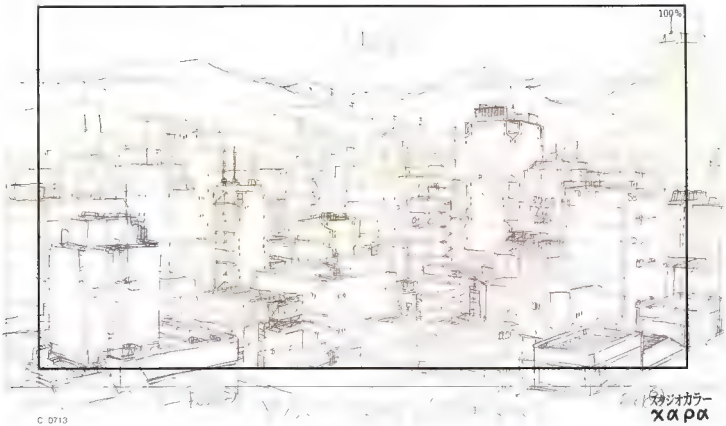
爆砕ボルト 設定　竜野秀明



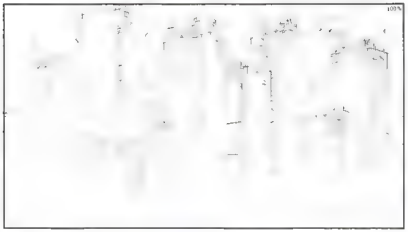
C-1223 画像面爆砕ボルト追尊 レイアウト / 橋本敬史 ディテール追加 / 竜野秀明

The Empty City

レイアウト原設定 / 庵野秀明 (P297 ～ P299)

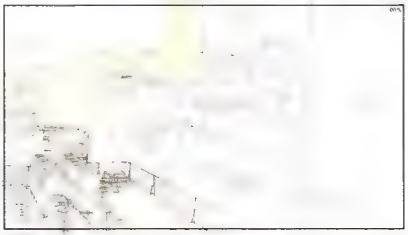


C 0713

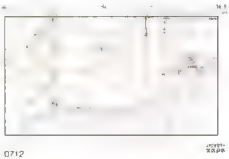


C 1184

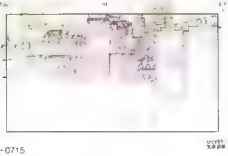
作品 SC + 16 9



C-0725

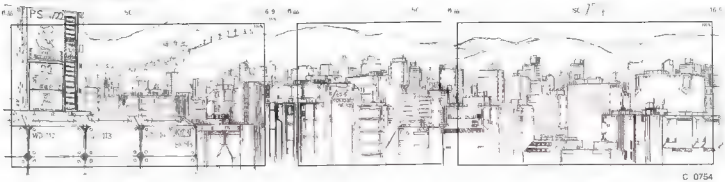


C 0712



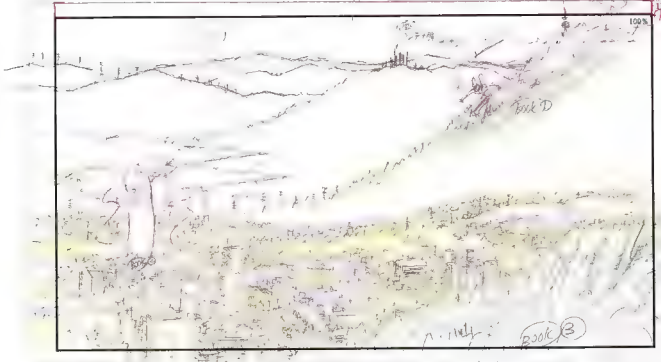
C-0715

C 0751



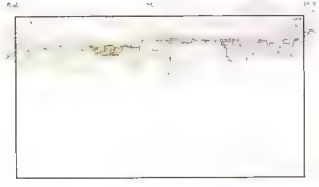
C 0754

作品 SC 1 16:9

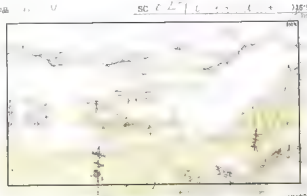


C 0821

スタジオカラー
xapa

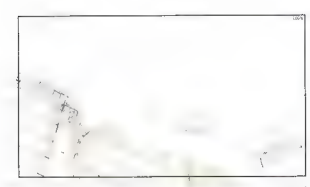


C 0730



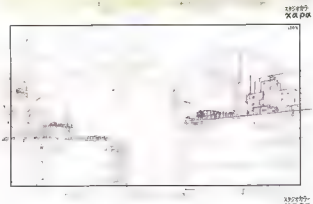
C 0829

スタジオカラー
xapa



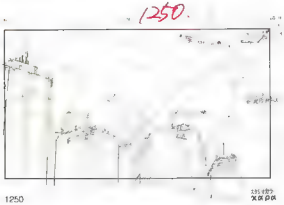
C-1194

スタジオカラー
xapa

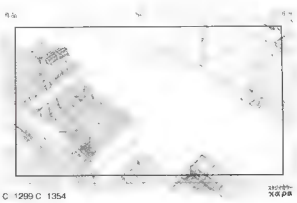


C-0739

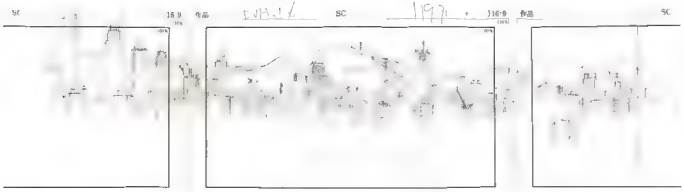
スタジオカラー
xapa

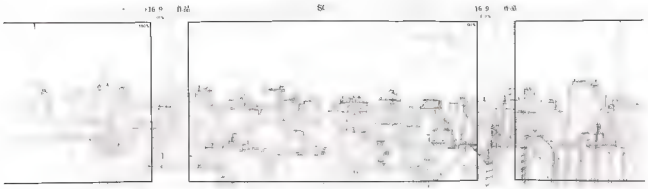


C 1250

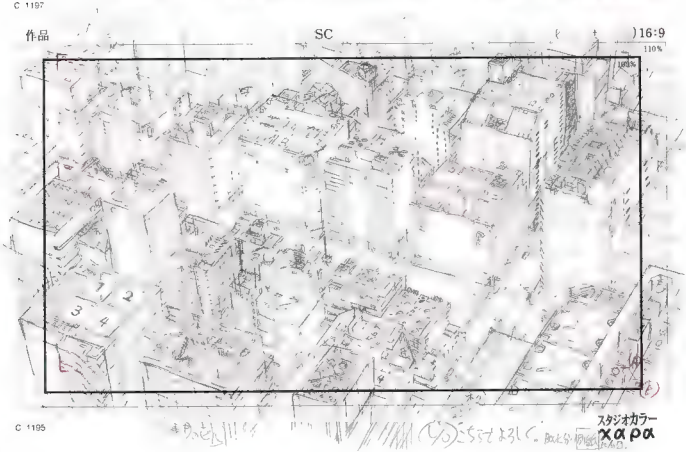


C 1299 C 1354





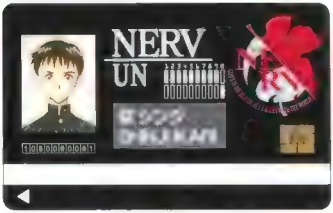
C 1197



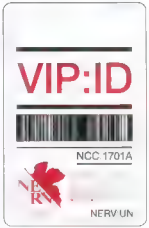
C 1195

NERV

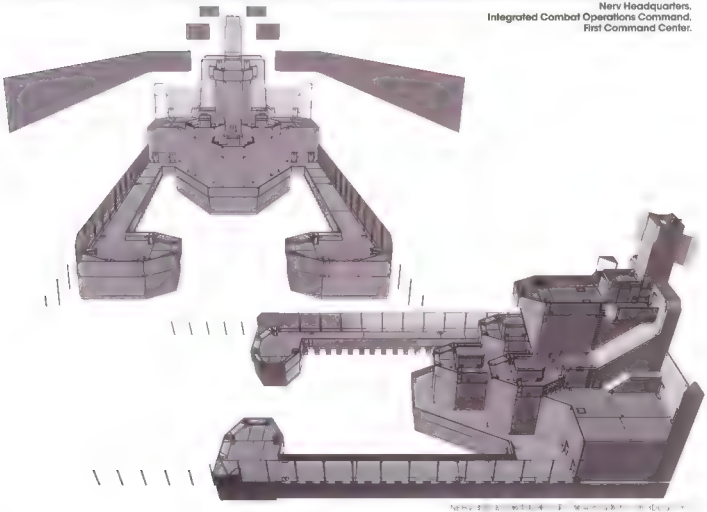
ID Card



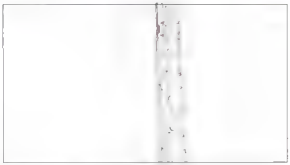
Nerv Orientation Brochure



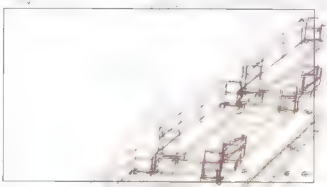
Nerv Headquarters,
Integrated Combat Operations Command,
First Command Center.

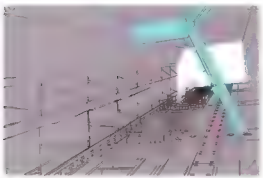


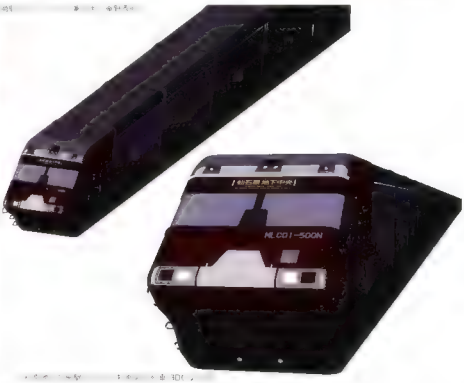
Elevator



Automobile Transport Train

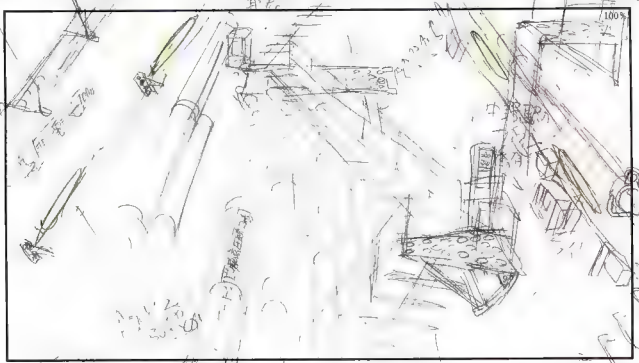




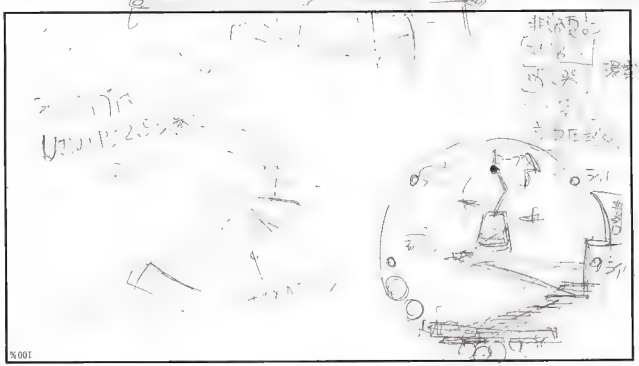


Nerv Headquarters B Wing Underground, No.102 Bypass Tunnel

作品 SC 16:9 110%

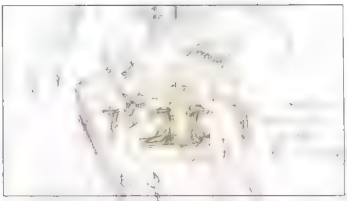


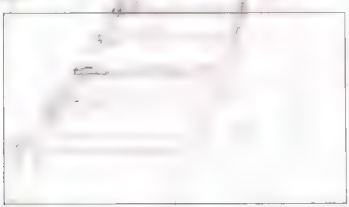
スタジオカラー

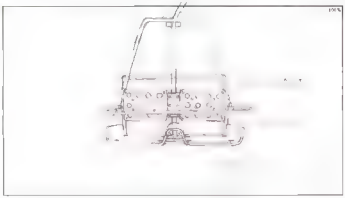


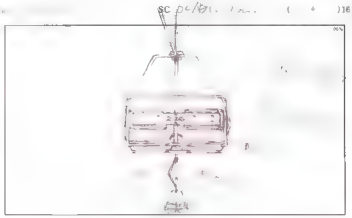
作品 SC 16:9 110%

C 0624 NERV 本部 地下 B 棟第 102 番連絡坑道 (旧台 ~ 旧第 1 共同溝) レイアウト検討 庵野秀明







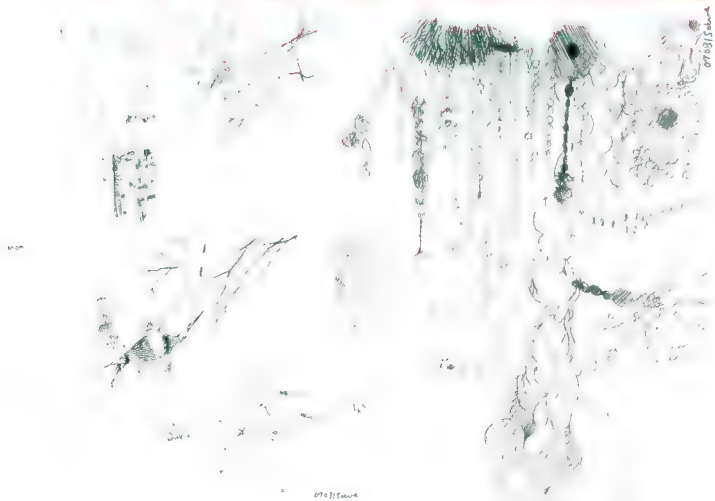


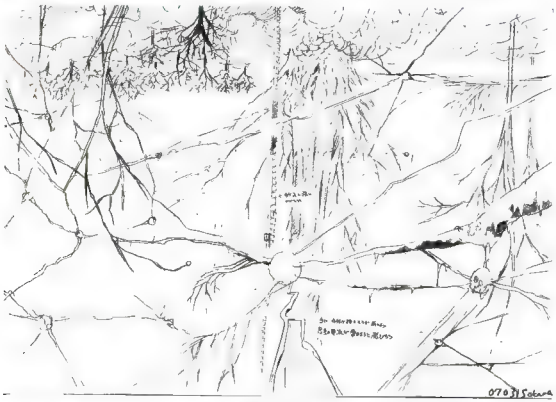
R-99-101
直通中
西南略称

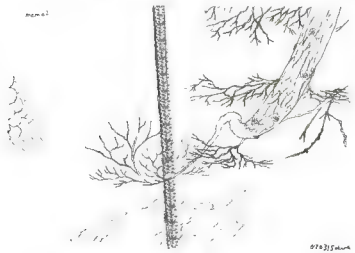
CAUTION
直通 は左へ
西105は
第2代PH方状
直通です。
24時間運行中!!

Level EEE

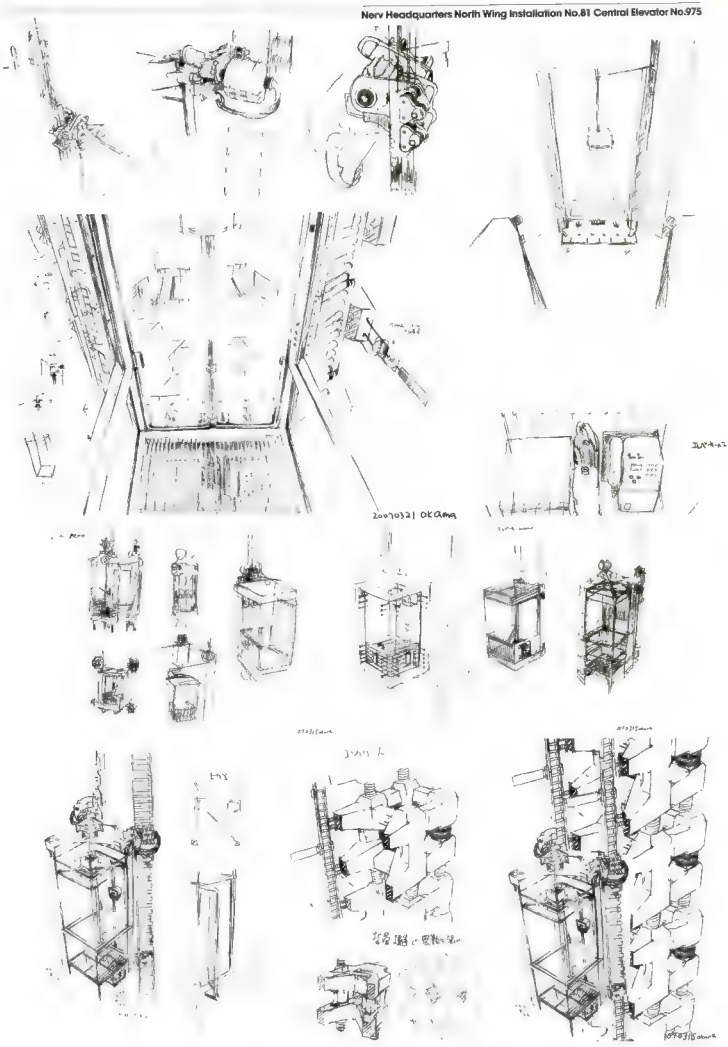
ヤントラルトゲマ（第1表層部　設定 / okama（P304 ～ P305、



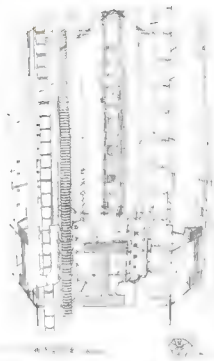


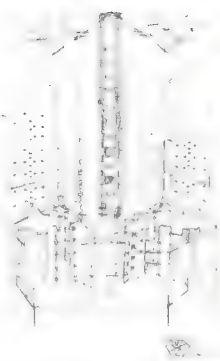


Nerv Headquarters North Wing Installation No.81 Central Elevator No.975

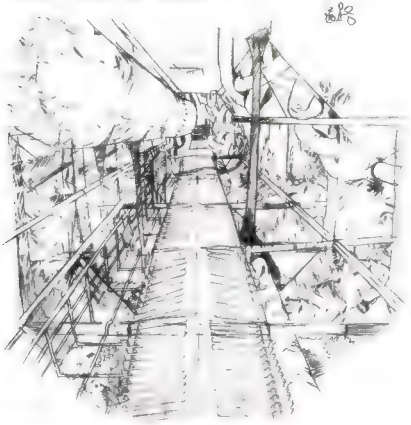


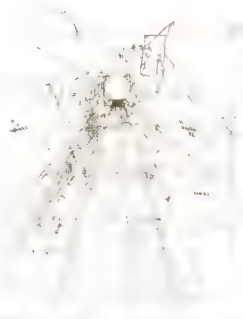
NERV 本部北棟第 81 施設中央 975 号エレベーター 設定 /okama

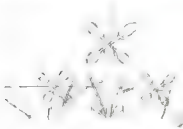


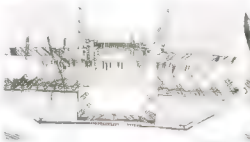


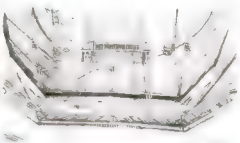
Ultra Important Life Form Maximum Security Vault Forward Entrance, Temporary Access to Quarantine Section







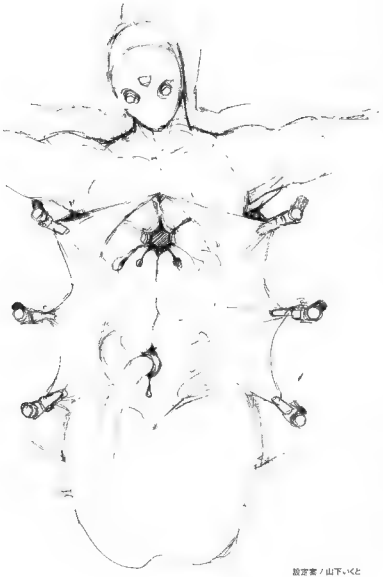




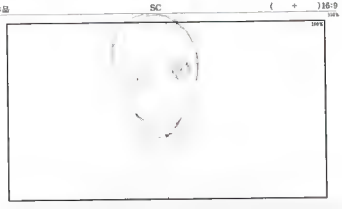
2nd Angel Lilith

C 1394 リリス全身像 修正原画 / 庵野秀明

C-1395 第2の使徒 リリスの仮面 修正原画 / 庵野秀明

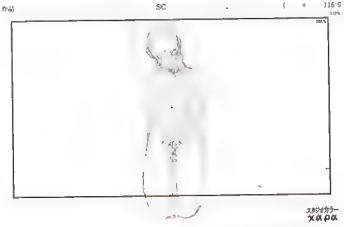


設定案 / 山下いくと



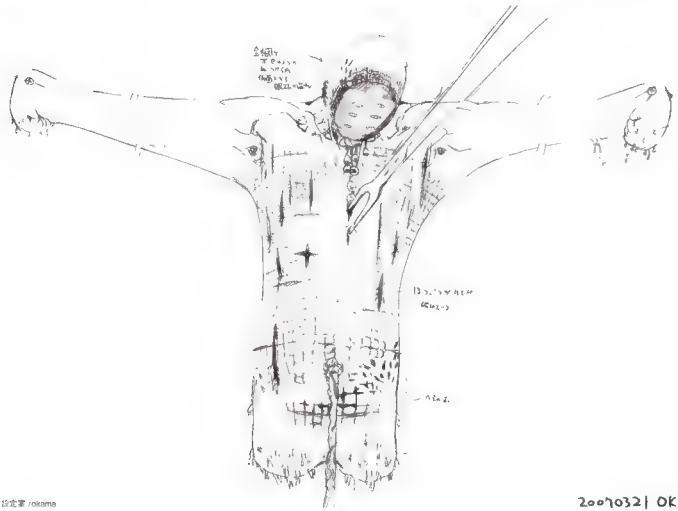
スタジオカラー

C- 1395 試案 / 庵野秀明



スタジオカラー

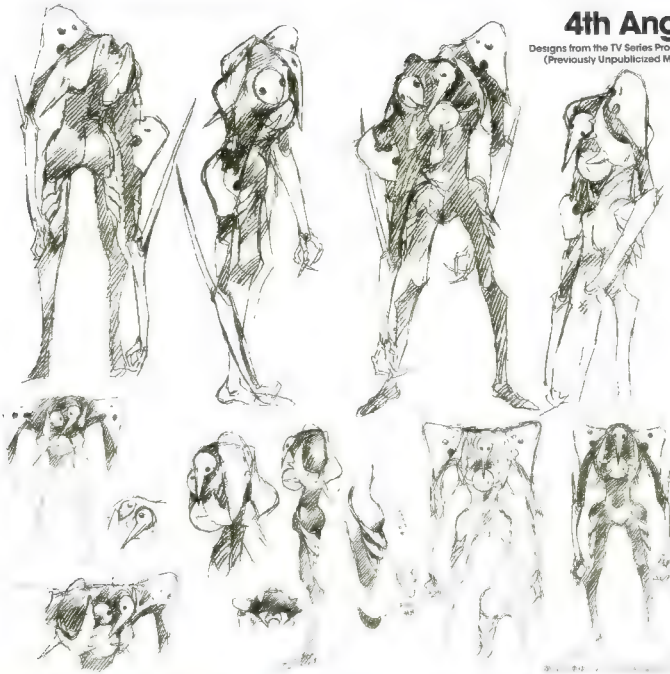
C 1394 試案 / 庵野秀明



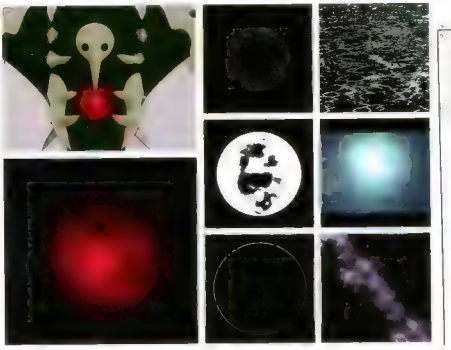
設定画 /okama

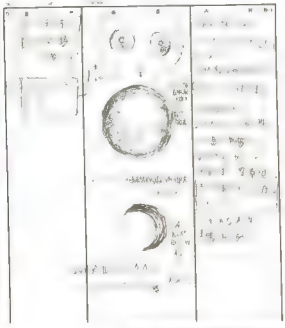
4th Angel

Designs from the TV Series Production
(Previously Unpublicized Material)

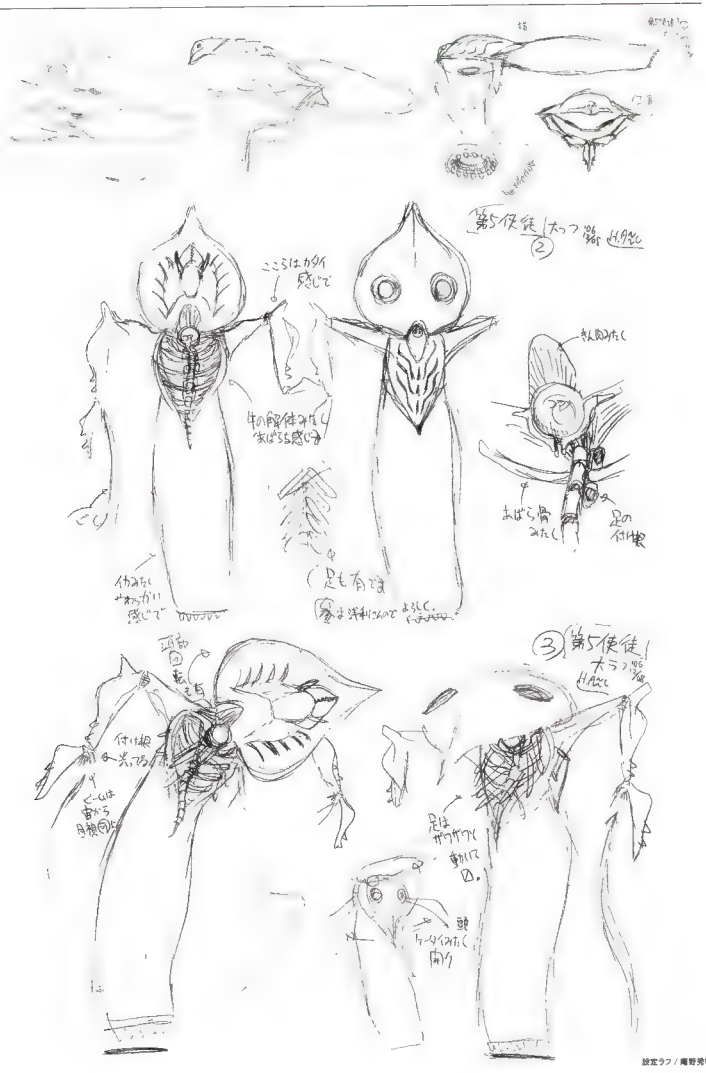


The Core



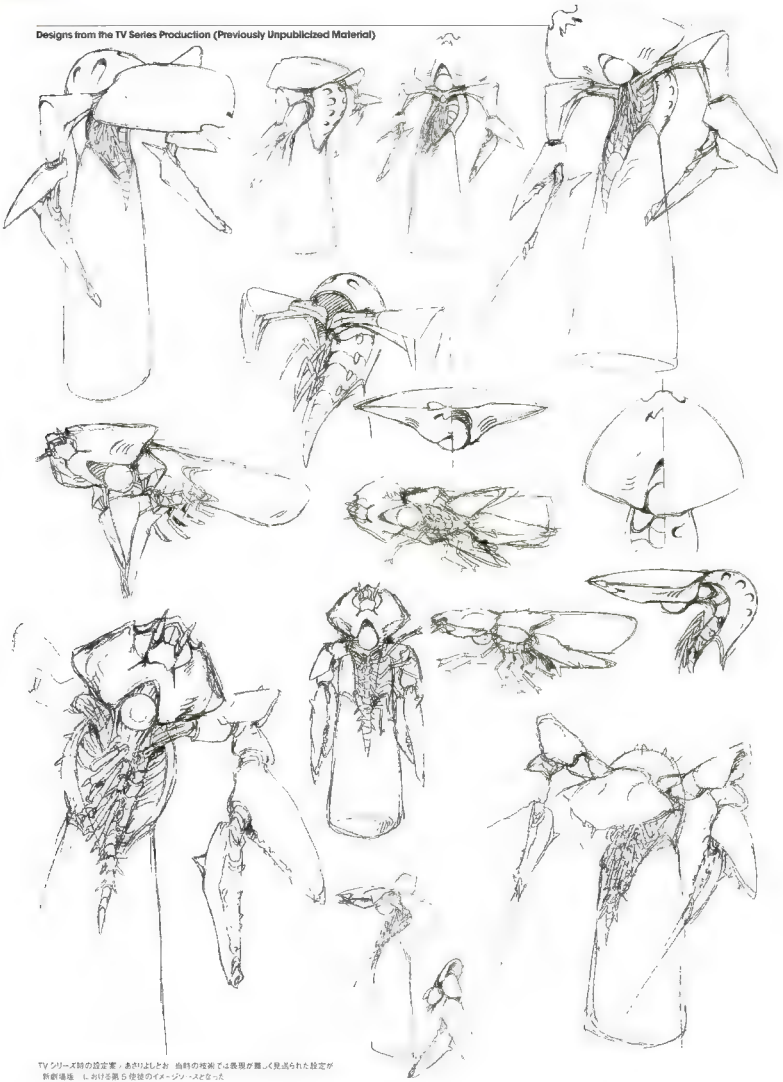


5th Angel


第5使徒
(2)
ここらはカタイ
感じで
牛の解体みたい
ばら骨みたく
(忘も有ります
多は詳細なので
よろしく。
イカみたい
ヌメッとした
感じで
(3)第5使徒
太っちょ
付け根
ここは
動かない。
足は
ガクガクと
動いて
ひざ
ケータイみたく
開く

設定ラフ / 庵野秀明

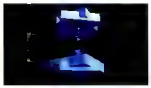
Designs from the TV Series Production (Previously Unpublicized Material)



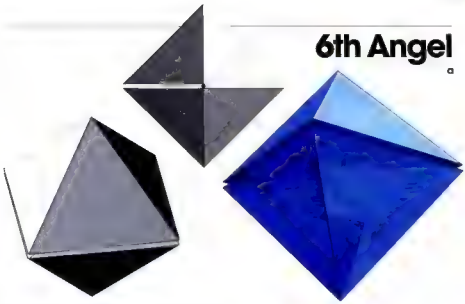
TVシリーズ時の設定案／あさりよしとお　当時の技術では表現が難しく見送られた設定が新劇場版　における第5使徒のイメージソースとなった

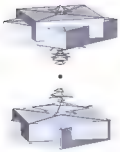
6th Angel

b



a





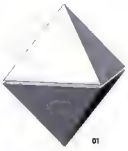
06

05

04

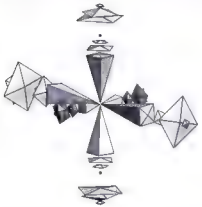
03

02



01

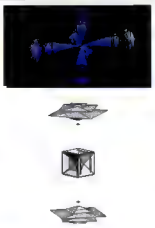
c



04

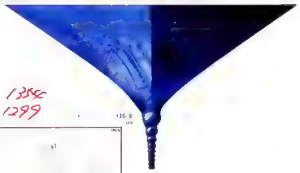
03

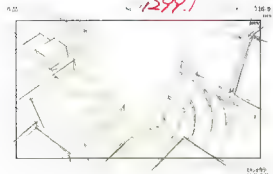
02



01

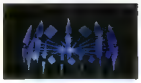
d





C-1299 C-1354 第6便器掘削部 レイアウト単指示
鶴巻和哉

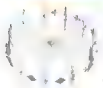
e



03

02

01

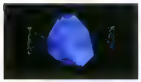

07

06

05

04

f



02

01

g

05

04

03

09

08

07

06

h

04

03

02

01

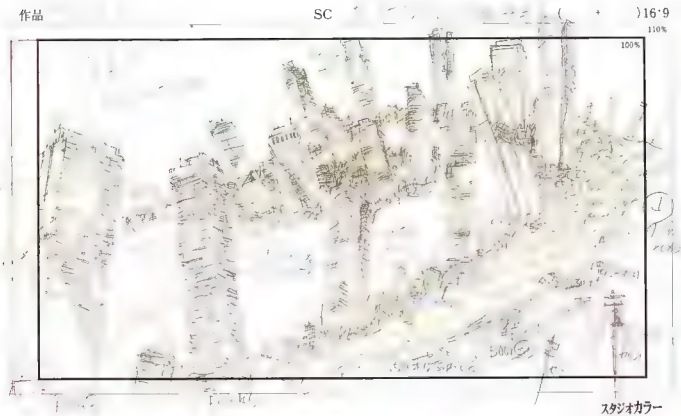
07

06

05

z

Miscellaneous

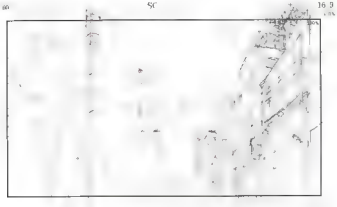


スタジオカラー
ｘαρα

C 0006 セカンドインパクト後の景色 レイアウト兼設定 鷺野美明

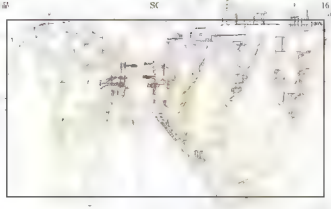
C-0032 箱根鉄道モハ2型110 原画 田中卓也

C 0004 護衛艦 原画 / 増尾昭



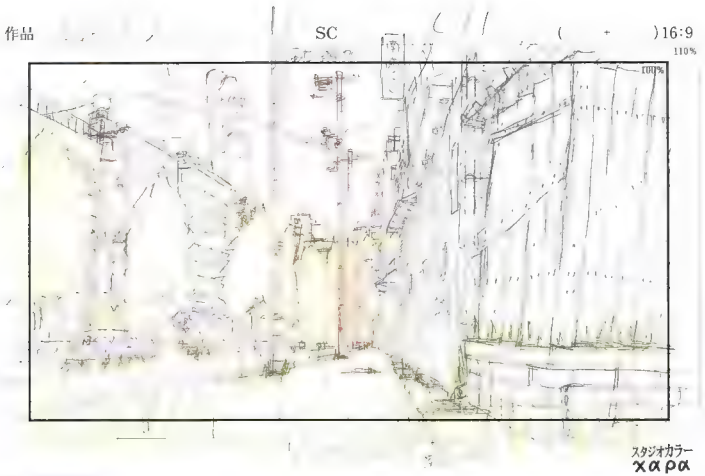
スタジオカラー
ｘαρα

C-0023 レイアウト / 鷺野美明

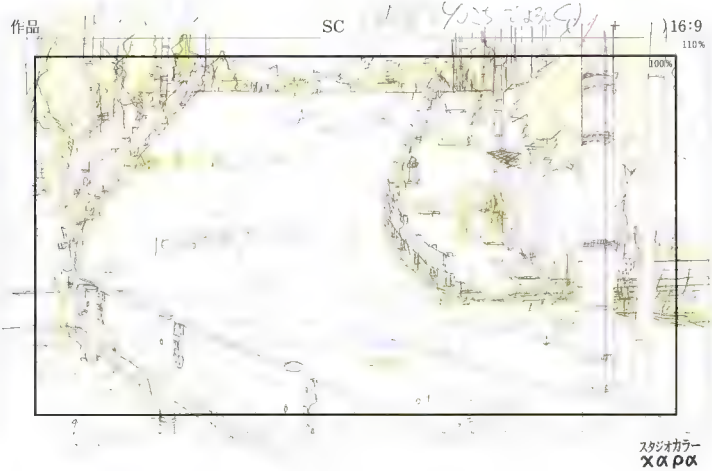


スタジオカラー
ｘαρα

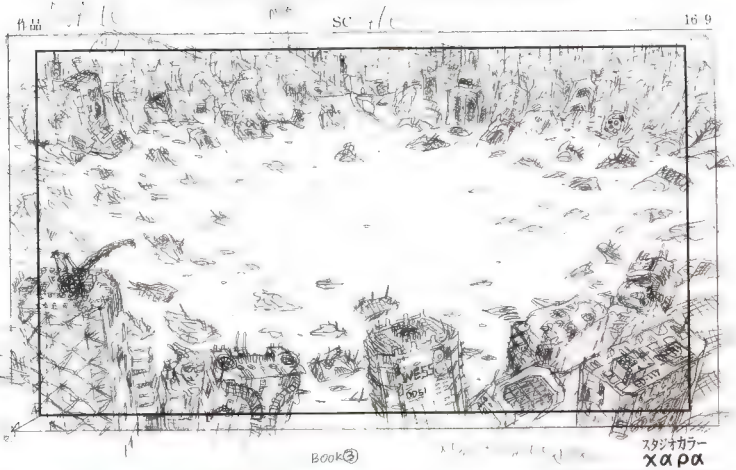
C 0022 レイアウト / 鷺野美明



C-0011 レイアウト 藤野秀明

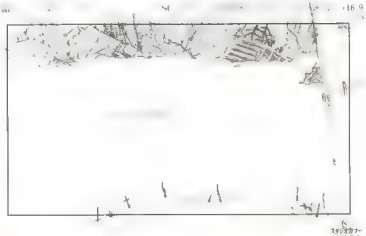


C-0015B C-001B レイアウト 藤野秀明

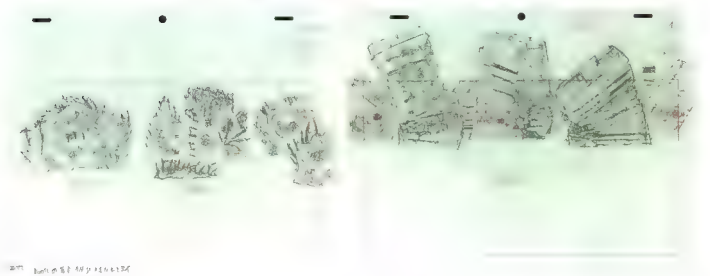


スタジオカラー
ｘαρα

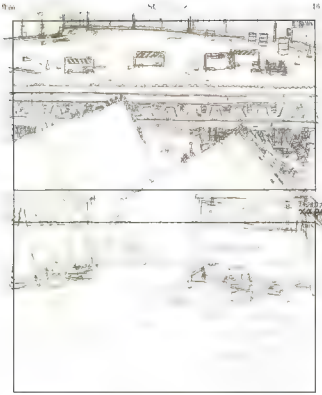
C-0416 第4使徒爆心地レイアウト　庵野秀明



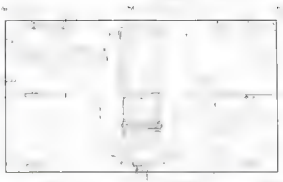
スタジオカラー
ｘαρα



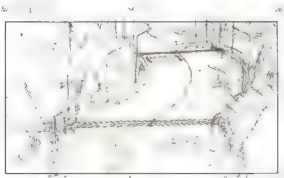
C-0446(左上)C-0421(右上)C-0439(左下・右下)レイアウト参設定　小松田大全　庵野秀明



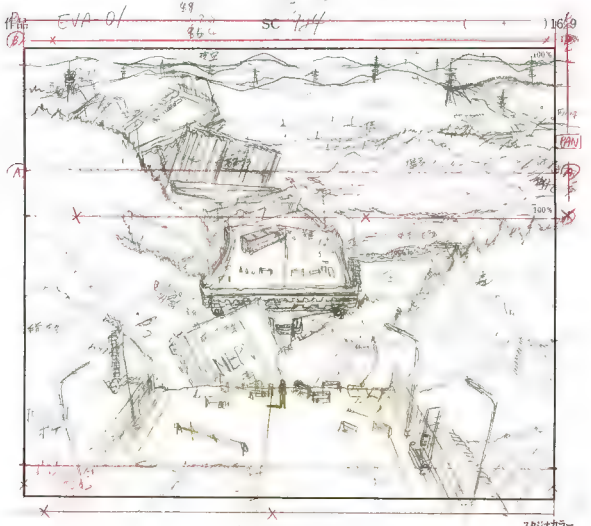
C 0923 背景原図用修正レイアウト　庵野秀明



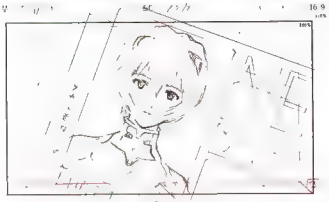
C 09188 高速道路トンネル内の緊急電話 レイアウト　庵野秀明



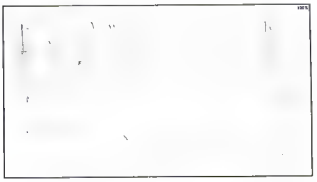
C-0920 NERV 専用高速連路 第 5 号線 レイアウト / 庵野秀明



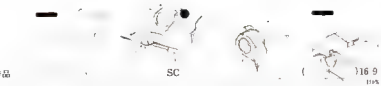
C-0924 レイアウト / 摩砂雪・庵野秀明

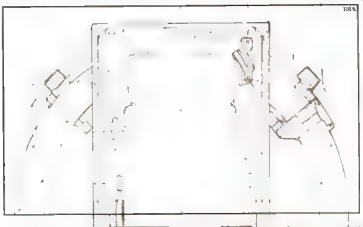


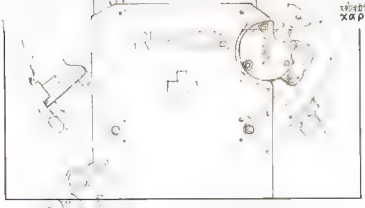
C-1074 レイの ID カード レイアウト / 松原秀典　スタジオカラー



アイキャッチ レイアウト / 廣野英明







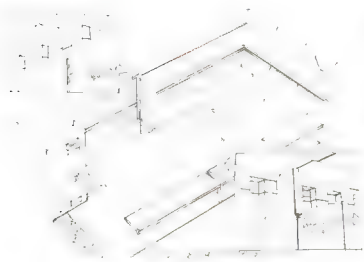
C-1245 救命救急基中治療用医療カプセル　スタジオカラー
レイアウト兼設定 / 高倉武史

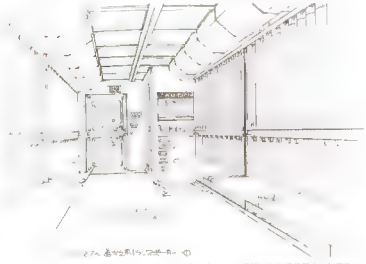
RESCUE

LOCK

NERV

設定補足 / 高倉武史（上）　貼り込み素材（下）

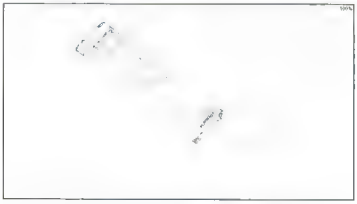




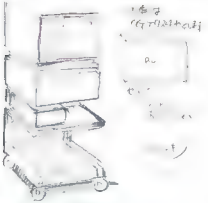
C-1427 ～ C-1437 4t 有蓋車（NERV 仕様）車内 美術設定 / 加藤浩

幸福の王子」額縁デザイン　安野モヨコ
C-1340、C 1341 でレイが読んでいた本

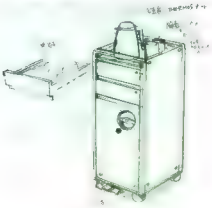
貼り込み素材



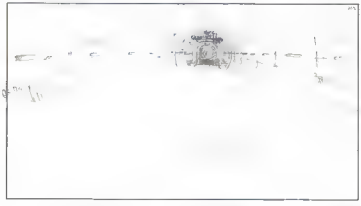
C 1438 ステレオ CレコーダーICD RX 78 レイアウト兼設定　尾野克明



兵器格納庫機器 設定ラフ　鶴巻和哉

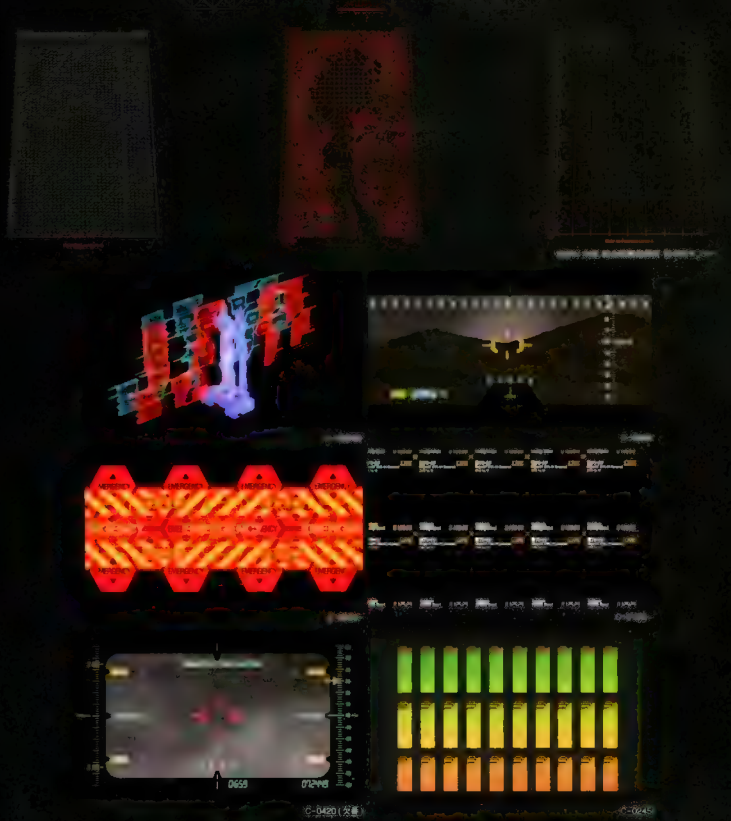


病院食のカート設定ラフ　鶴巻和哉

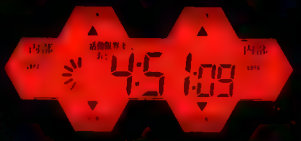


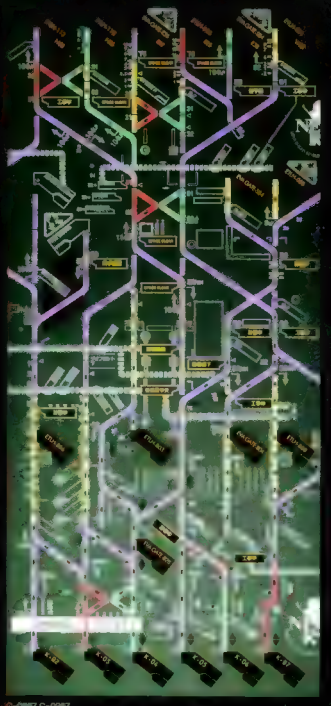
C 1444 第3新東京市 重度災害対応型大深度地下特殊構内 レイアウト兼設定　尾野克明（上）
背景原図　鶴巻武史（下）

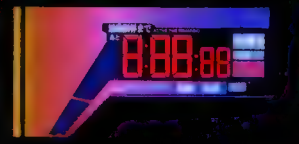
Monitor Display Screens

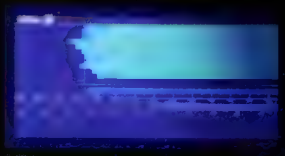


archives



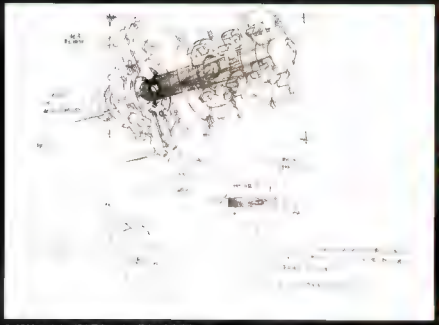




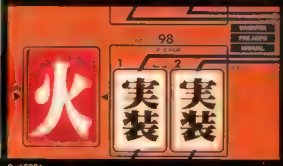


ALERT
警報
CONDITION
45
CRITICAL
0254742
0257031
警報
EMERGENCY
日本標準時
00 00 00
15:00:00

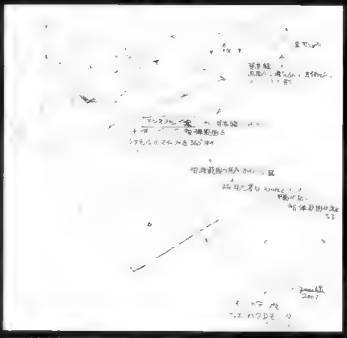
C-1496



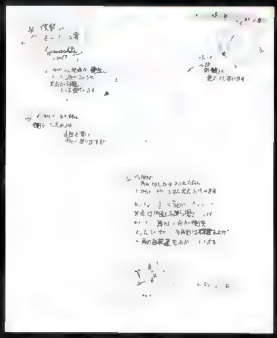
C-0233 エントリープラグ搭乗モニター 設定 / 高倉武史



C-1508A



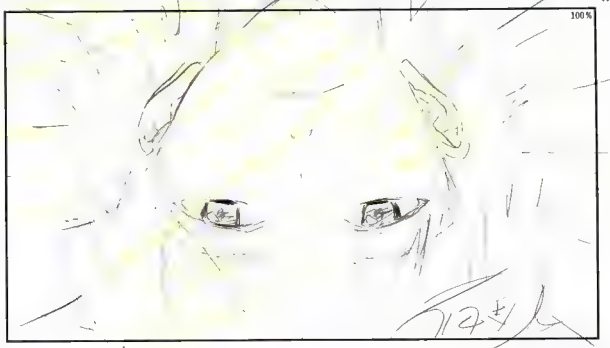
NERV本部 総合戦闘指揮所 発令所モニター 設定案 / 山下いくと



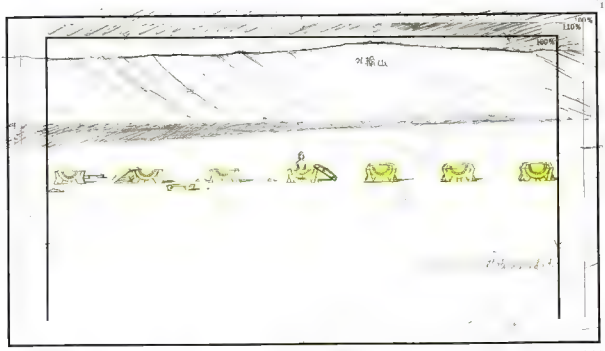
第6使徒エネルギー反応モニター 設定案 / 山下いくと

The Moon

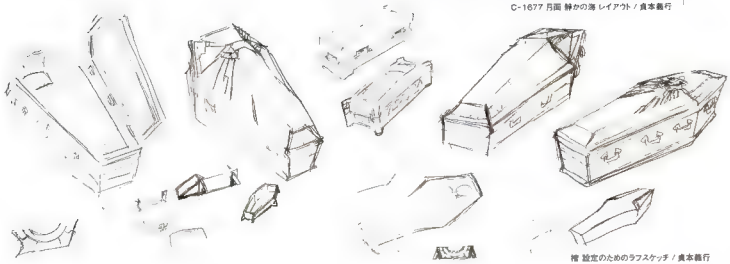
作品　SC 1676　(　+　)16:9



C 1676 レイアウト　貞本義行



C-1677 月面 静かの海 レイアウト / 貞本義行



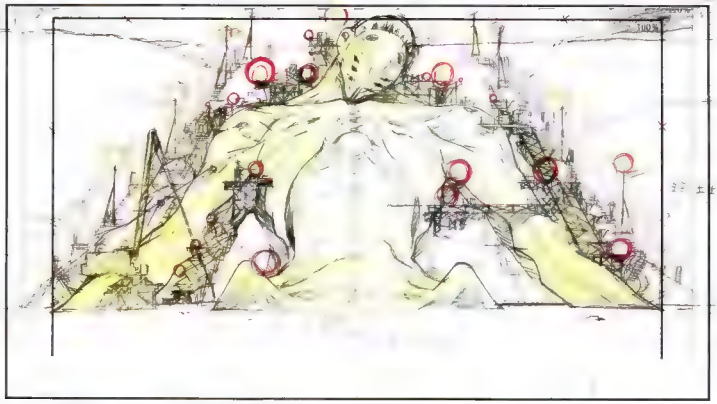
棺 設定のためのラフスケッチ / 貞本義行

作品

SC 1680.

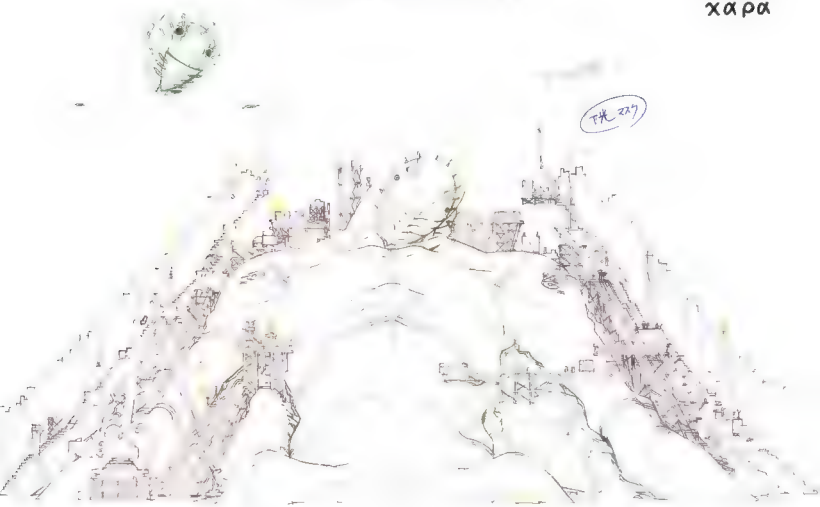
16:9

110%



© 1680 NER／新ノまち部 発掘用遠景基地レイアウト兼設定　貞本義行

スタジオカラー
χαρα

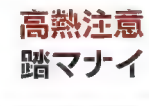


© 1680 原画　貞本義行 修正原画　庵野秀明（左上）

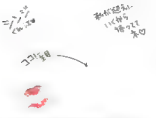
mapping data

2D 貼り込み素材 / 増田朋子

C-0046A



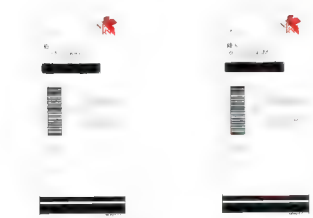
C-0013



C-0009

C-0005

C-0213 C-0409



C-0114B

C-0051-

C-0198

C-0116

C-0497

C-0228

C-0516

C-0422 C-1258

C-0428

C-0564

C-0562

C-0537 C-0539

C-0519

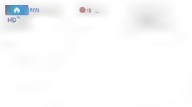
C-0674

C-0667A

C-0917E C-0917F

C-0754

C-0745



C-0679

C-0920

C-1110

C-1142 C-1290

C-0865B

C-0894

C-1110

C-1093

C-1427

C-1345

C-1289 C-1290

C-1282

C-1281

- 高エネルギー集束帯によるATF強行突破の為の
人口荷陽電子砲を使用した長々距離直接射撃計画 -

ヤシマ作戦概要

NERV 本部戦術作戦部

C-1447

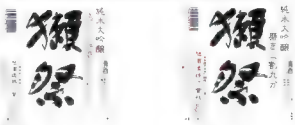
C-1444

C-1388

EX01

C-1512

EX03

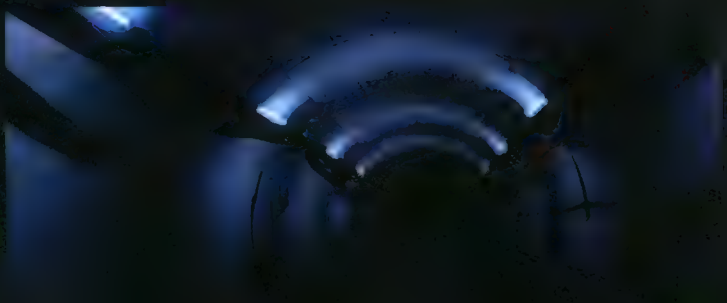


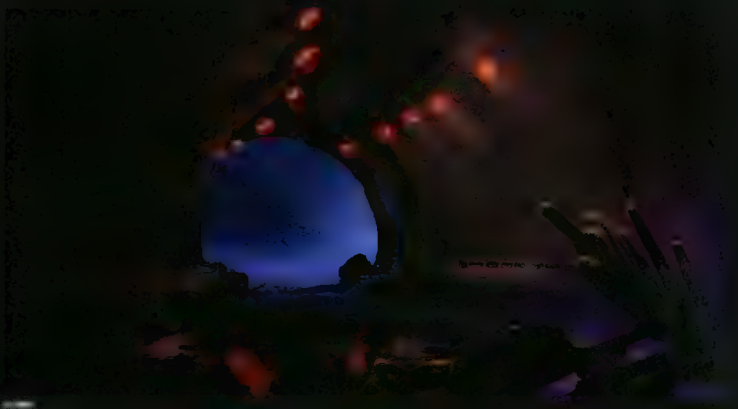
EX02

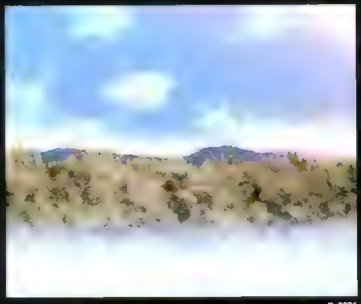
art

P332-342

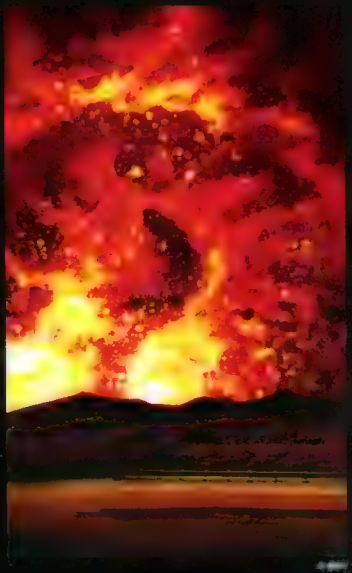
美術ボード／加藤浩（ととにゃん）・幸田達也（美峰）



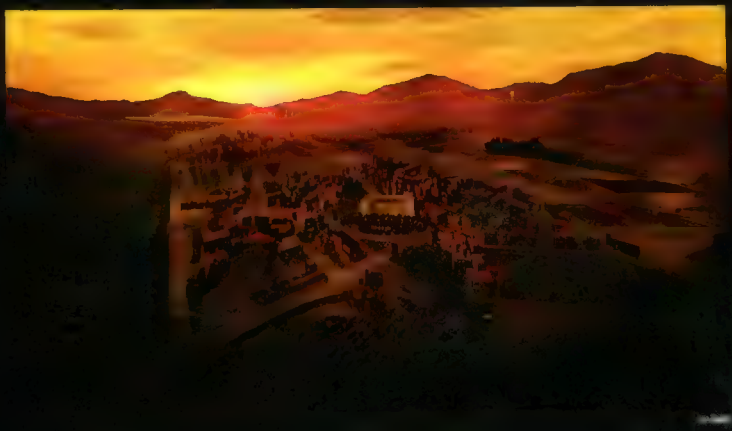




C-0086

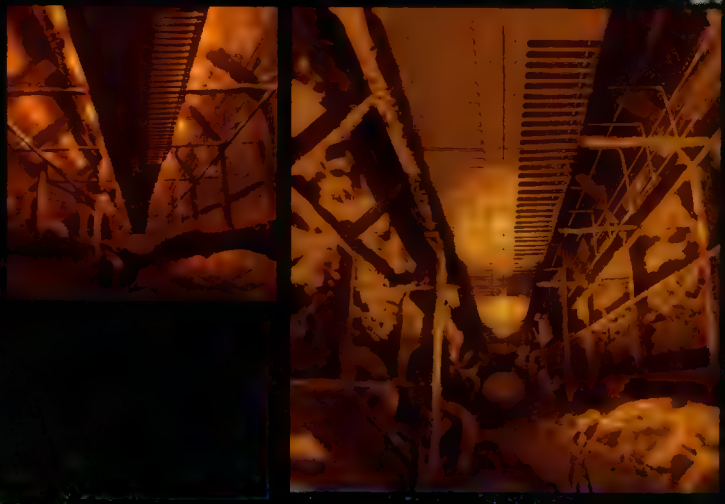


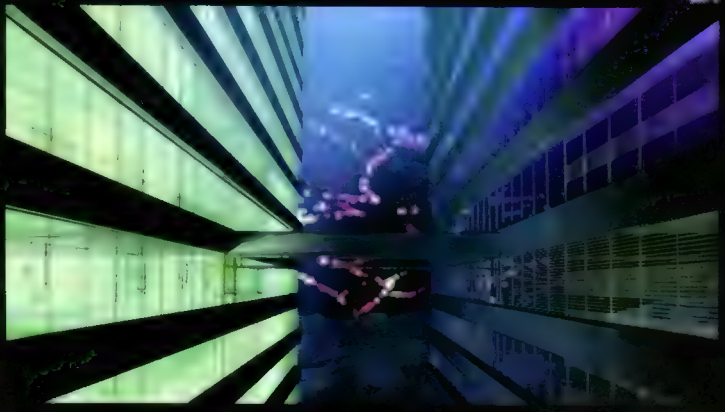
C-1197

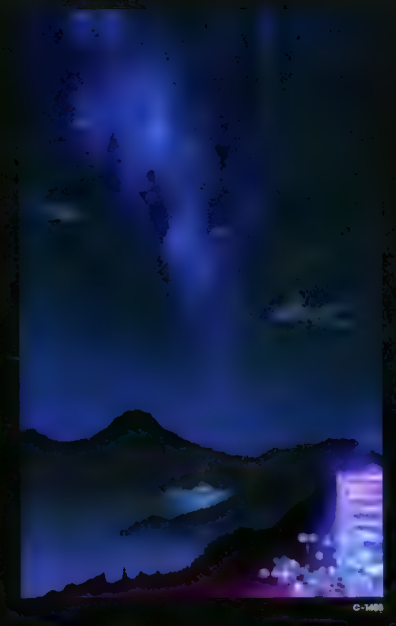


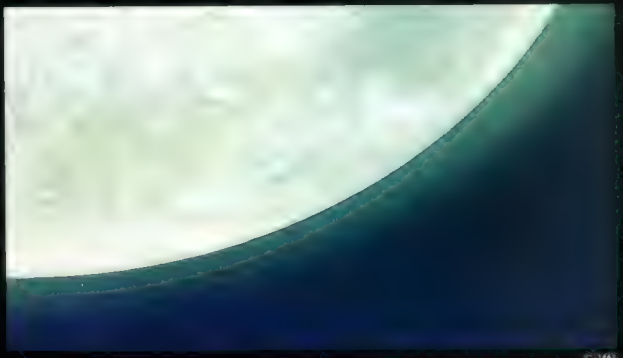
G-0132

50

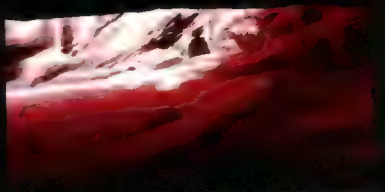








C-1677-1682



C-1677-1682

P344-352

我々は再び、何を作ろうとしているのか？

「エヴァンゲリオン」という映像作品は、様々な願いで作られています。

自分の正直な気分というものをフィルムに定着させたいという願い。
アニメーション映像が持っているイメージの具現化、表現の多様さ、原始的な感情に触れる、本来の面白さを一人でも多くの人に伝えたいという願い。
衰弱しつつある日本のアニメーションを、未来へとつなげたいという願い。
蔓延する閉塞感を打破したいという願い。
現実世界で生きていく心の強さを持ち続けたい、という願い。

今一度、これらの願いを具現化したいという願い。

そのために今、我々が出来るベストな方法がエヴァンゲリオン再映画化でした。
10年以上昔のタイトルを何故今更、とも思います。
エヴァはもう古い、とも感じます。
しかし、この12年間エヴァより新しいアニメはありませんでした。

閉じて停滞した現代には技術論ではなく、志を示すことが大切だと思います。
本来アニメーションを支えるファン層であるべき中高生のアニメ離れが加速していく中、彼らに向けた作品が必要だと感じます。
現状のアニメーションの役に少しでも立ちたいと考え、再びこのタイトル作品に触れることを決心しました。

映像制作者として、改めて気分を一新した現代版のエヴァンゲリオン世界を構築する。
このために古巣のガイナックスではなく自身で製作会社と制作スタジオを立ち上げ、初心からの再出発としました。
過去にとらわれず、現状に甘えず、進歩ある未来を目指すためです。
幸いにも旧作からのスタッフ、新たに参入してくれるスタッフと素晴らしい両々が集結しつつあります。
旧作以上の作品を作っている実感がわいてきます。

「エヴァ」はくり返しの物語です。
主人公が何度も同じ目に遭いながら、ひたすら立ち上がっていく話です。
わずかでも前に進もうとする、意思の話です。
曖昧な孤独に耐え他者に触れるのが怖くても一緒にいたいと願う、愛情の話です。
同じ物語からまた違うカタチへ変化していく4つの作品を、楽しんでいただければ幸いです。

最後に、我々の仕事はサービス業でもあります。
当然ながら、エヴァンゲリオンを知らない人たちが観れやすいよう、劇場用映画として面白さを最重視し、世界観を再構築し、
誰もが楽しめるエンターテイメント映像を目指します。

2007年初秋を、御期待下さい。

原作／総監督　庵野秀明
2006 09/28　晴れの日に　暗倉にて

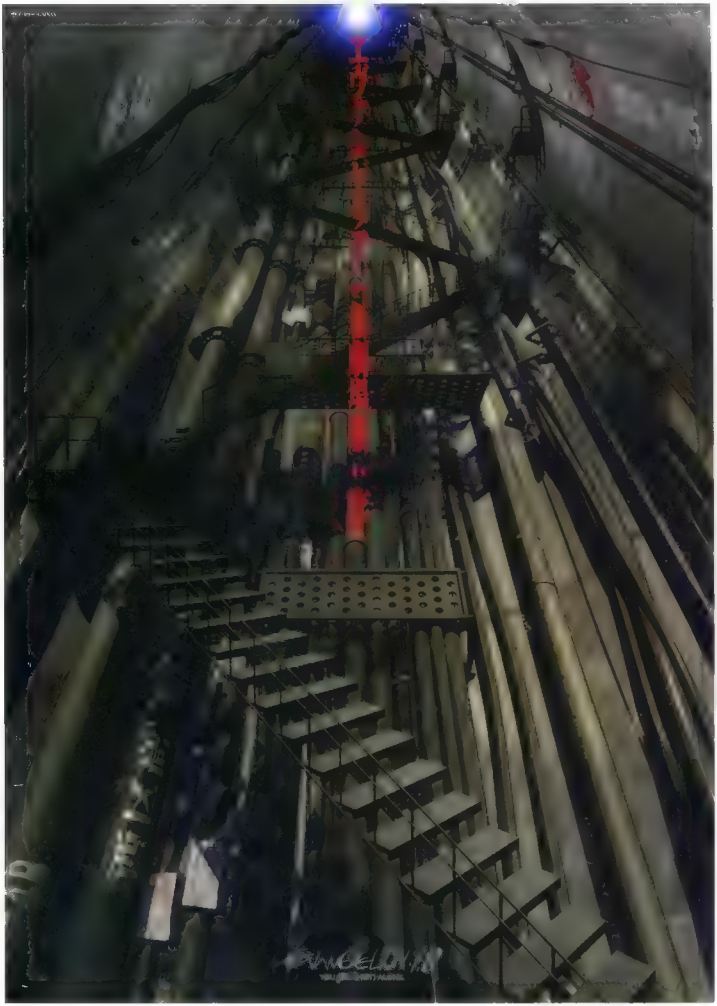
ヱヴァンゲリヲン新劇場版　2007年9月1日公開

劇場用アイ ザ ボスタ （日全版 ・チラシ 2007.02.17

poster A

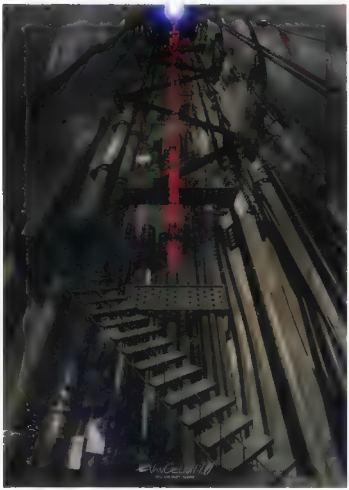
シンジ……僕に守る価値なんてないよ」
エヴァンゲリオン新劇場版：序
ミサト「私も、初号機パイロットを信じます」
EVANGELION:1.0
YOU ARE (NOT) ALONE
2007年
9月1日公開

poster B

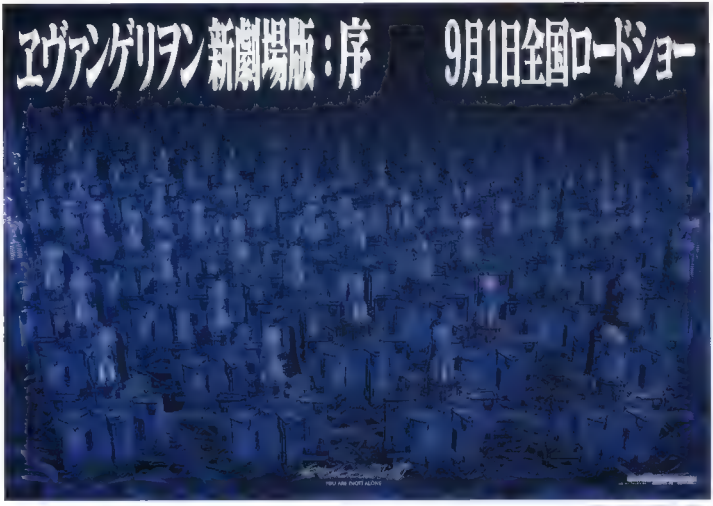


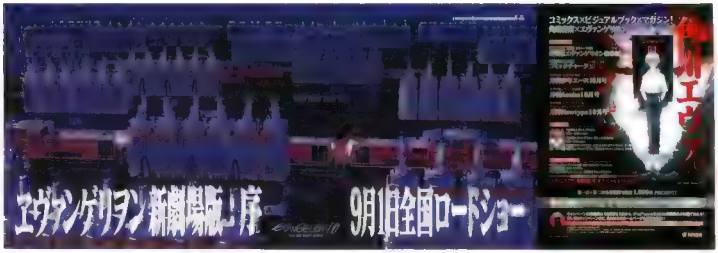
flier A

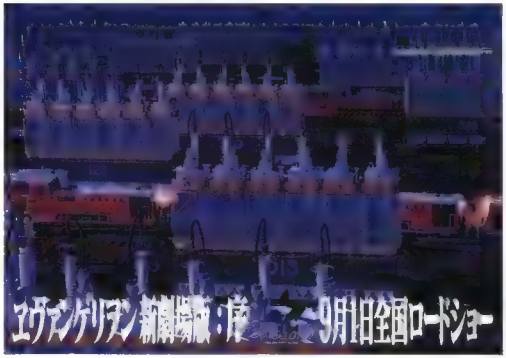
flier B



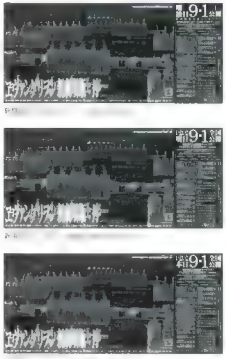
transit advertising

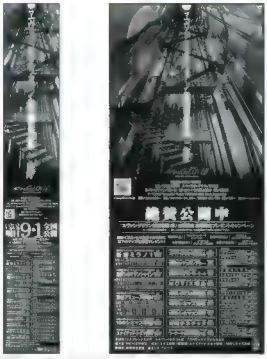






newspaper advertising

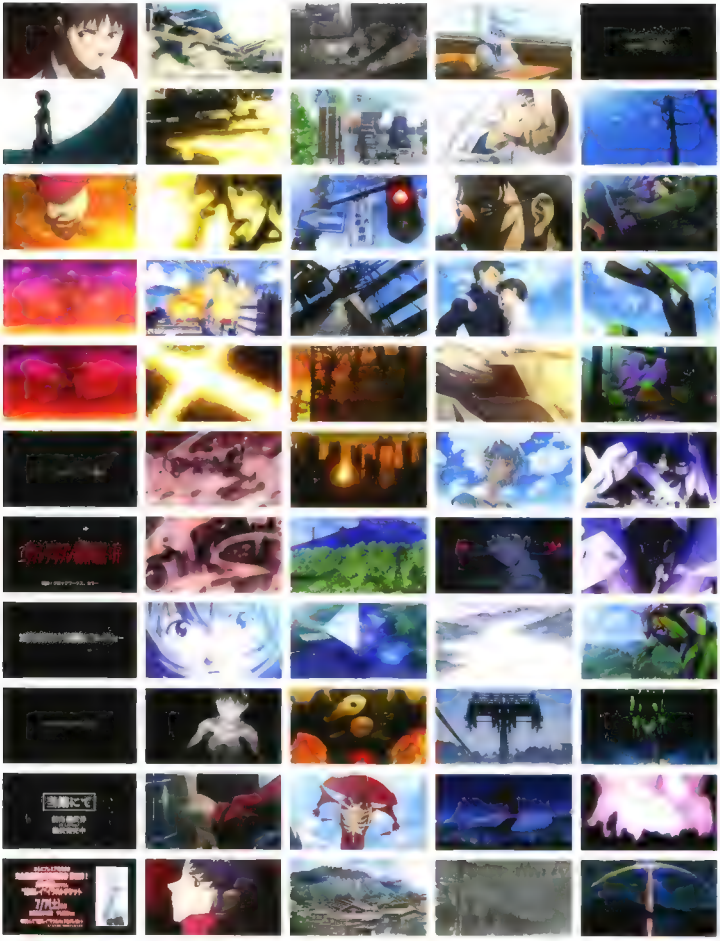


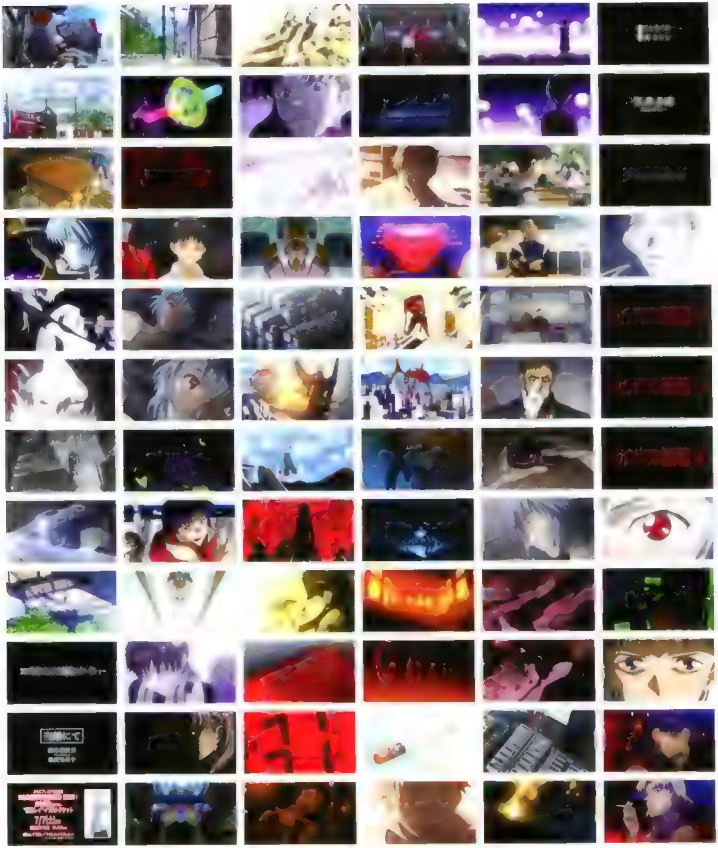


teaser01

teaser02

trailer01





the other

P354-360

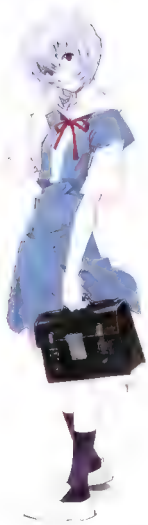
ticket "EVA-01"

ticket "NERV emblem"

エヴァンゲリオン 新劇場版：序
全国共通特別鑑賞券

エヴァンゲリオン 新劇場版：序
全国共通特別鑑賞券

ticket "REI AYANAMI"

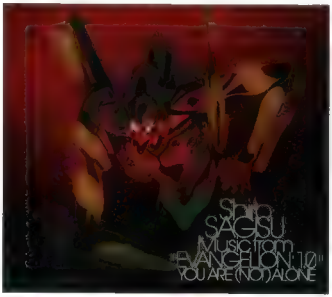


signboards

「ヱヴァンゲリヲン新劇場版：序」大ヒット公開を祝う会

banklet

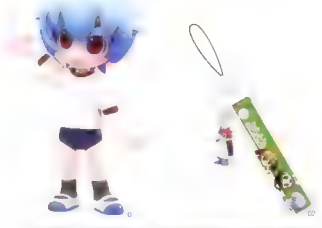
CD Shiro SAGISU Music from "EVANGELION:1.0 YOU ARE (NOT) ALONE"



DVD EVANGELION:1.01 YOU ARE (NOT) ALONE

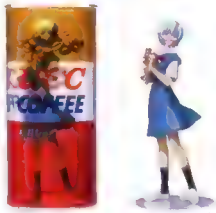
Frito Lay tie-ins

LAWSON tie-ins



Pizza Hut tie-ins

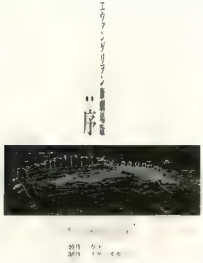
UCC tie-ins



storyboards

画コンテ本（A4ヨコ版）　画コンテ本（B5タテ版）　表表紙、ある3冊の番号は　各スタッフに割り当てたもの　001は　庵野秀明の番号である

dubbing script



AR台本（B5版）

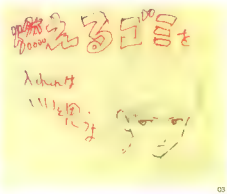
画　松原秀典

02

01

05

04



03

07

06

1 ページ ナカ　表 紙 一 が 1 枚　サイズ　B4 版　02 ページ ナカ　　線 が 黒 百 ナ　　使 い　サイズ　B4 版　03　05 ページ ナカ　表 紙 含 め 3 枚 別 原 稿
枚　女 回 を 含　線 が　　ナ　千　0016　0019　07 表 紙 画 ）　サイズ 1 版 サイズ　3　　を 編 集 サ ー ビ ス 終 了　　用 の 中 は、ある 第 1 期 攻 撃 時 の ヒ ロ イ ン の 様 子 を 妄 想 で 6 の ）

scenario

P362-382

『エヴァンゲリオン新劇場版　前編　脚本決定稿　Ver.1.1』
完成日／2006. 07. 22
作／庵野 秀明

『エヴァンゲリオン新劇場版:序』（脚本の時点では『エヴァンゲリオン新劇場版 前編』）には、第1稿（2006. 07. 06付）、決定稿（2006. 07. 15付）、決定稿 Ver.1.1 の3つの脚本が存在し、執筆はすべて庵野自身による。その形態は通常の脚本というより、字コンテ的要素が大きい。
今回収録する決定稿 Ver.1.1 は脚本段階での最終形であり、本編はこれを基に画コンテ作業に入っている。
なお、書式や改行は原稿のままに収録し、内容に修正を加えていない。

エヴァンゲリオン新劇場版　前編　脚本決定稿 Ver.1.1 [illegible]

人目のレイが生まれる主観のイメージ ン　「ここは　カ　ト　ぼく処理」
赤い海中を上昇していくキャラ　急速に遠り過ぎる泡。
エヴァに取り込まれる試作型プロクスーノ姿のユイのイメージ（初号機からの主観で
延々ユウとユイの会話
ユイの声「名前　決めてくれてう」
ユウトの声「男の子ですかンン　女の子ですかレイと名付ける」
ニ「レイを見ていますンンンのイメ ン
レイの声「ンンンンン　アヤナミ　ンンンク」
真空からの主観　夕景を走れる線路のイメ ン　日田電の古いモータ　走行音
大量のレイが目前を次々と通り過ぎていく
レイの声「レイ　レイ　イカ　レイク」
主観で泣るレイの姿　その声、ノまで　魂が行層　その身体に定着するイメ ン
レイの声「ちか　　鼓皮　レイ」
画面は赤い海に変化していく
上昇していく大量の気泡　陽光輝く水面が近づく
カメラは赤い海から青い空へ
レイとタブ「これの使徒が海面下に生まれてくるイメ ン
このシーンの間にメインスタ フのテロ プを挟み込むか？

○半は水没した地方都市
海岸線に並ん戦車部　その水平線上に起こる巨大な水柱

えんじ色の公衆電話をかけている少年
由には非常事態宣言のアナウンスが流れている
受話器からきれている　録音テープ
電話の声「特別非常事態宣言のため　現在　全ての通常回線は不通とな ております」
短い音で電話を切る少年
ンンン「ちのか　携帯も固めのままだし」
ホに携帯が響く
目線を落とし手元の女性の写真を見る
チェと時計を気にする
ンンン「待ち合わせ上無理か　しょうがない　シェルタ いいこ
彼の目線の先にユウ　人の少女　レイに似ている
暗さが小い帰り立つ鳥の音　気を取られる少年
目線をもとす
か　今女はもういない　いかんしも少年の表情　カメラ目線で

(日本語版主タイトル　「エヴ ンゲリオン新劇場版」「前編」
この後　カトの開いメインスタ フのテロ プを入れるか？

冒地方都市
ストオィス
突然　少年の耳にどどろく衝撃音　　点カメラ　フ ード・イ
ヒルビと聞える建物　点滅する赤信号
何が起こっているのかよくわからない少年
音の方へ振り向く

山の裏から平行移動で出てくる量戦闘機群
絡んで姿を現す　謎の巨人　使徒
地面近く超低空を飛ぶ超ミサイル　呆然する少年
巨人に次々と命中する、ミサイル
巨人の足元の電車が吹き飛ぶ

飛行中の量戦闘機
パイロト「目標に全弾命中　ょれ　」
重戦闘機を囲んでいる元の情　ス と巨人の腕の中にもどる
空を切る量戦闘機　少年の側のビルに激突して止まる

跳躍し、彼の直前に着地する巨人
割れたコンクノの破片等が飛んでくる
伏せる少年
関に入り　逃れかようよう急停車する車
割れるカメスの音　車体に石等の当たる音
驚愕のあまり声も出ない少年
サト「ごめん　おまたせ！
トアの開いた車　声で微笑んでいる女性　先の写真の女性である
発進する量戦闘機
車の周囲も震伸
跳ね飛ぶ破片　車の天井がへこむ
恐怖もあげず　冷静に車をバックさせる女性
煙の中から出てくるナロオロの巨　関髭を入れず　すぐ側を踏む巨人の脚
巨人に直撃して爆発するミサイル

（ネルフ本部・発令所
軍人B「何故ア？直撃のはずだ！」
軍人A　戦車大隊は壊滅　誘導兵器も破壊もまるで効果なしう
軍人B　このたった一時間の火力ではラチがあかん！
女日「やはり　A　フィールドか
ミサトウ　ああ　使徒に対　通常兵器では　役に立たんよ
　　冷戒するみ電話のフ　プ　カトを差し込み　受話器を受ける軍人C
軍人C　「わかりま　　予定通り　発動致します」

某地方都市
　巨人を取り囲むように並んでいる量戦闘機群　　音、全速で　距人の頭から離れてゆく
　その様子を車中から双眼鏡で見ている女性
サト「そ　と　さささ　N2地雷を使うワケ？」
　大ロック　直も使徒
サト「ンぜこ」
　少年をうう女性

白くとう使徒
地平線の彼方で起こる大爆発
上がる巨大なキノコ雲
固指をなす　くる衝撃波　ヘサトの車へ
横に吹き飛ばされる車

　　耐える　人
　　重ツメく大太陽
　　発売と見ている〝人　無機のノイズ音

　ネルフ本部　緊急時
重人B「やべ！」
重人A「話をしながら　君たちの出番はなかったようだな」
女B「緊急成　発します」
　　モニタ　ウノイズに変わる

　基地司令室
　　ボンノと取り残された力ロホロの事　周囲は爆撃跡の穴と巨人の足跡が散乱している
ミサト「大変な事になったわ」
ノンノ「えぇ　口の中がベタノハしますわと」
ミサト「それにはやくみ　しないくわよ　ミサトの　」
　　機関銃に倒れた事を押して　元に戻す〝人
ミサト「ゃ　　ともあいぐと　助かったわ
ノンノ「いえ　僕の方こそ　葛城さん」
ミサト「ミサト　でいいわよ　改めてよろしくね　碇ノンノ君」
ノンノ「はい

　ネルフ本部・緊急時
　　発令所全景のPAN
重人A「その後の　目標は？」
女A「電波障害のため　確認できません」
重人B「あの爆発〝　ケルはついてる」
青葉「センサー回復します」
女A「爆心地に　エネルギー　反応」
重人B「何だと？」
青葉「映像　回復します」
　　回復するモニタ　　央の中　起きとがる使徒
　　気落ちする軍人たち
重人A「敵の切り札か」
重人B「　　なんてことだ」
重人C「化け物め」
　　成力ヲスの中の使徒
　　増幅中の地僵菌病　筋肉しき物が2つに増えている

　地下モノレ　ルトンネル
　　ミサトの車　ガ　トレインの駅からトレインの中に入っている
ノンノ「特務機関　ネルフ？」
ミサト「そう　国連直属の非公開組織」
ノンノ「父のいるところですね」
ミサト「ま　ね　　お父さんの仕事　知ってる？」
ノンノ「人類を守る大事な仕事だと　先生からは聞いてます」

　ネルフ本部・作戦管制室
　　作戦室のケイサ　OFFで電話を置く音
重人C「今から本作戦の指揮権は君に移る　　お手並みを見せてもらおう

ケンスウ「了解です」
重人A「碇君　我々の所有兵器では　目標に対し有効な手段がないことは　認めよう」
重人C「ただ　君なら倒せるのかね」
ケンスウ「そのための　ネルフです」
重人C「期待してるよ」
　　テーブルごとエレベーターにて退場する重人ら　響くアナウンス
女A「目標はいまた変化なし」
日向「現在　迎撃システム稼働率　75%」
冬月「国連軍もお手上げか　どうするつもりだ？」
ケンスウ「初号機を起動させる」
冬月「初号機をかつぱイロトかないそ」
ケンスウ「計算なし　もう一人の　予備パイロットがいるよ」

　地下モノレ　ルトンネル
　　急角度のトンネルをまっすぐに走る地下モノレール　1カトレイン
　　無人の駅を通過していく
　　列車は〝人の貨しか切り状態
ノンノ「これから父のホへ行くんですか」
ミサト「そうね　そうねるわね」
　　直五のイメージ　大きなカバン
　　とこかの駅のホームで立っているノンノ
ノンノ「OFF　父さん」
ミサト「あ　そうだ　おメさんからIDもらってない？」
ノンノ「はい　　どうぞ」
ミサト「ありがと　しく　これ読んでいてね」
ノンノ「ネルフ　父さんの仕事　何かすごいですか　ぼくが？」
ミサト「
ノンノ「そうですね　用もないのに女子部をくれる筈ないですよね」
ミサト「ノンノ君ぎ　そ　ん　　舌手らのね　お父さんが」
　　下を向いて話すのノンノ
ミサト「独り言　ぐらあ〝しと溜しね」
　　顔をよせるノンノ
　　トンネル内を走るモノレールの壁が切れ　ノンノらの目前に広がる巨大な地下都市
ノンノ「すごい　ホへ！　ジオフロントへ」
ミサト「そう　ここがあなたの秘密基地　ネルフ本部　世界再建の要　人類の希となる砦よ」
　　ネルフ本部の外観全景　ニコ7夜明

　ネルフ本部内　エレベータ
　　エレベーター内の表示板の数字が上がっている
　　ドアが開くと　リツコの華麗な姿がある　ノンノはいつもの制服姿に変更
ミサト「あっ　ノンノ」
リツコ「到着予定時刻を12分もオーバーあんまり遅いので迎えにきたわ　葛城　部　人手もなければ時間もないのよ」
ミサト「手を前に出しなさい　ごめんね」
ノンノ「？
　　ノンノを見るリツコ
リツコ「噂の息子さんね」
ミサト「そ　ネルフ　ケの報告書によるサードチルドレン」
ノンノ　技術局　課長計画担当責任者　赤木リツコ　よろしくね」

ノノン「あ？はい」
サト「これまた父親そっくりなのよ　可愛げのないところとかねー」

　回　発令所
ケントウ「では　後をたのむ」
　踵を返すケントウ
　4月「3年ぶりの対面か」

　回　ケイノ
　　開き　ばなしのトア　ーア　閉まる
ノノコ「姫ノノン君　あなたに見せたいモノがあるの」
　　断頭のスイ　チが入れられる
　　ノノンの頭と　飛び込む　巨大なエヴァの顔
　　トキ　とまるノノン　鬼　を連想させる顔
リノコ「人の造り出した究極の汎用人型決戦兵器　人造人間エヴァンゲリオ　　その初号機　我々人類　最後の切り札よ」
ノノン「　これも父の仕事ですか」
　　スピ　カーから響く声
ケントウ「そうだ」
　　見上げるノノン
　　エヴァの顔の向こう、管制室のガラスに人影
　　初めて見える姫ケントウの顔
ケントウ「ひさしぶりだな」
ノノン「　父さん」
　　モニタ　のノノン　目線を外す
　　それを見て寂し顔になるケントウ
ケントウ「　出撃」
ミサト「出撃!?零号機は凍結中でしょ？！初号機をチェ　と見てノノンに　まさか　初号機を使ー　もりなの？
リノコ「他に適任はいない」
ミサト「ちょ　とレイには主と動かせないでしょ　チェ　とノノンを見てから　パイロ　トかいないわよ」
ノノコ「さ　き　届いてわ」
ミサト「その意味を知　てます　　マノなの？」
ノノコ　　姫ノノン君」
ノノン「はい」
ノノコ「あなたが乗るのよ」
ノノン「え？」
サト「でも神虚レイ　できる　エウ　とノンクロするのに7ヶ月もかか　たんでしょ　　今日来たばかりのこの子にいきなりとても無理よ」
リノコ「待　てられないわ　それ以上は望みません」
ミサト「　しかし」
リノコ　今は使徒戦最優先事項です　その為には最であれ　エウ　と使うでもノンクロ可能と思われる人間を乗せるしか　方法はな　ますか　ているはずよ　基城一尉」
ミサト　　承知して　そうね」
ノノン「目線を下に外して　ふふん　　姫放蕩息子の」
ケントウ「お前の考えている通りだ」
ノノン「しかし僕がこれに乗　ったさのとき戦え　て言うの？」
ケントウ　　そうだ

ノノン「いやだよ！そんなの！！何もいきなりなんだよ！父さんは僕がいらないんじゃなかったの？」
ケントウ「必要だから呼んだまでだ」
ノノン「　何故、僕なの」
ケントウ「他の人間には　無理だからな」
ノノン「無理だよ　そんなの　　見たことも　聞いたこともないのに、出来るわけないよ！！」
ケントウ「説明を受けろ」
ノノン「そんな　　出来　こないよ　こんなの乗れるわけないよ！！」
ケントウ「乗るなら早くしろ　でなければ　帰れ」
　　黙　てしまうノノン

　某地方都市
　　使徒の踏ちぎった跡の穴がパ　と光る
　　ヒルから衝撃ものびていく光柱

　ネルフ本部　ケイノ
　　　

アナウンス「目標は絶対防衛線を突破　直上地点へなおも進行中」
　　等と事務的な報告が響く中　ヘッドに横たわった女が運ばれてくる
　　横に上半身　体のあちこちに包帯をまかれている
　　ブックス　少女のレイである
　　彼女は誰ひとり気にもかけず　黙って担架機に運ばれる
　　メンバの前を通り過ぎるレイ
　　その姿に目をしかめるメンバ
　　苦しそうに息を上げるレイ
　　苦痛に歪む顔

　　使徒の攻撃　狭らし穴が元る
　　吹き飛ぶヒル　爆地的に廠し長く　改変に立ちのぼる爆発火球
　　地下天井ビルのひとつがスレ落ちる
　　本部ビルのすぐ側に落下するビル
　　霧し濃突する　凋し散る破片が水柱を上げていく
　　大振動の2ルブ本部

　　その衝撃でヘットからすべり落ちてしまうレイ
　　しりもちをつくメンバ
　　天井の仮設ライトが揺れる
　　倒れているレイ
　　静かに見ているゲントウ
　　駆け寄り　レイを抱き起こすメンバ
　　苦しそうなレイの顔　大きく息をしている
　　メンバの右手に血が付いている

メンバ「逃げちゃダメよ　逃げちゃダメよ　逃げちゃダメよ　逃げちゃダメよ　逃げちゃダメよ　逃げちゃダメよ　逃げちゃダメよ　逃げちゃダメよ　逃げちゃダメよ　逃げちゃダメよ　」
　　表れるメンバ
メンバ「　　やります　僕が　乗ります」

　　流れ落ちていく水　大が抜かれているケイン
アナウンス「冷却　終了」
　　「右腕の再固定　完了」
　　「ケイン内　全てトラック位置」
伊吹「了解　停止信号ブック　排出終了」
　　エヴァ本体に接続されていてエントリープラグ
アナウンス「了解　エントリープラグ挿入」
　　「背筋伸ばメンスムを解放　接続準備」
　　「プラグ固定終了」
　　「第　次接続開始」

　　エントリープラグ内のメンバ　操縦席に座っている　緊張した顔
伊吹「OFF　エントリープラグ　注水」
　　水音が満たされていく
メンバ「えっな　なんですか　これっ？ゲントウ　」
リツコ「大丈夫　肺やLCLで満たされれば直接血液に酸素を取り込んでくれます　すぐに慣れるわ」

　　空気を吐き出すメンバ

アナウンス「主電源接続」
　　「全回路動力伝達、問題なし」
　　接続プラグがロックされる

リツコ「OFF　了解」
伊吹「OFF　第2次コンタクトに入ります」
　　ブック内にモニターが出来る　外の風景が見えるようになる
伊吹「OFF　A10神経接続　異常なし」
アナウンス「LCL電化率1正常」
リツコ「OFF　思考形態は日本語を基礎原則としてフィードバックス
　　初期コンタクト　全て問題無し」
伊吹「視方向回線　開きます　シンクロ率　4'3%」
　　みるみるシンクロしていくグラフ
リツコ「ハーモニクスですよね」
伊吹「ハーモニクス、すべて正常値　暴走　ありません」
リツコ「ミサトいけるわ」
　　ミサトうなずいて
ミサト「発進準備」
　　鉄格子状のカーテンが左右に分かれ　姿を現す初号機
日向「OFF　発進準備」
アナウンス「第1ロックボルト外せ」
　　「解除確認」
　　「アンビリカル　ブリッジ移動開始」
　　「第2ロックボルト　外せ」
　　解除されていくカントンロック
アナウンス「第1拘束具　除去」
　　「同じく　第2拘束具を除去」
　　「4番から15番までの安全装置を解除」
　　「解除確認　現在　初号機の状況はどう？」
　　「内部電源　充電完了」
　　「外部電源接続　異常なし」
伊吹「了解　エヴァ初号機　射出口へ」

　　巨大な昇降機にセットされる初号機
　　次々に開いていく装甲シャッター

伊吹「最終ロック　オールグリーン」
　　モニター上に次々とランプが点灯　輸送ルートが表示されていく
リツコ「OFF　発進準備　完了」
ミサト「了解」
　　「サード　振り返り　ゲントウを見る
ミサト「真面目にやらないとね」
　　顔の前で両手を組んでまなざしのゲントウ
ゲントウ「もちろん　使徒を倒さねばならない」
　　ゲントウの開こ　目を合わさずに声で話す冬月
冬月「碇　本当にこれで　いいんだな」
　　冷静したまま薄く微笑む　ゲントウ

ミサト「発進！」

初号機の脚元の口　クが外れる
固定台ごと射出される初号機
加速し駆けるシンジ

夜の第3新東京市
夜空に　そびえるビルの陰から姿を現す巨人　使徒
明かりの落ちたビル街を進む　使徒
その時まるで　行く手を阻むかの様に道路が分かれ　下から迫り上がり出現する
エヴァンゲリオン初号機
夜の中に立つ　そのシルエット
ミサトの声「いいわね　シンジ君」

エントリープラグ内
緊張しているシンジ
シンジ「　　はい」

ネルフ本部　発令所
ミサト「最終安全装置　解除！エヴァンゲリオン初号機　リフト・オフ！」
ブリッジ上の初号機の身体
リツコ「シンジ君　今は歩くことだけ　考えて」

エントリープラグ内
シンジ「　歩く　」

夜　第3新東京市　市街
動めて　ゆ　いと初号機の重心が前方へ移動していく
道路面に左脚が着地

ネルフ本部・発令所
一同「あぁぁ　」
目をみはり　感嘆の声を上げる　ネルフの人々
感嘆を覚える　リツコ
リツコ「　歩いた」

エントリープラグ内
シンジ「歩く　」
右足を前に出す　初号機
ぐかっ　バランスを崩して倒れる
受け身もとらず　地面に激突
ゆ　くいと踏ん張るシンジ
目前に迫る　使徒
ヒビるシンジ　ふきだしの手が生んでいる顔
ミサト「シンジ君！しかりして！早く起きるのよ
耳元に響くミサトの声　だが彼には聞こえていない

迫る使徒の左手
初号機の頭をつかんで　真上に引っ張り上げる

もう一方の腕で初号機の左腕を掴み上げる　使徒
使徒の両腕がグンと太くなり　さらに引っ張る
左腕を押さえ　痛みをこらえているシンジ　耳にざらつく軋み音
シンジ「あああああ」
ミサトの声「シンジ君　落ち着いて！あなたの腕じゃないのよ！」

ネルフ本部・発令所
ノノコ「エヴァの防御システムは？」
伊吹「シグナル　作動しません」
日向「フィールド　無展開」
リツコ「　　だめか？」

夜　第3新東京市　市街
ヴァキ
ついに左腕が折れる

シンジは意識にならない混乱
伊吹の声［左腕損傷！］
日向の声［回路断絶！］

初号機を持ち上げる使徒
光の槍で初号機の頭を突く

ネルフ本部・発令所
ミサト「シンジ君よけて！」
眼を押さえているシンジ
伊吹「頭蓋前部に亀裂発生！」
リツコ「装甲がもう　もたない」

夜　第3新東京市　市街
突かれる初号機の頭部に　ヒビが入っていく
更に割り抜かれる右目
初号機の頭に突き刺さる光の槍を抑える使徒
吹き飛ぶ初号機
ヒルに激突
光の槍が抜けて　カウンとなる初号機　吹き出る赤色の液体

ネルフ本部　発令所
警告音が鳴り響き　非常事態の表示が点滅する
青葉「OFF　頭部破壊！機能不明！」
アナウンス　活動維持に問題発生」
ミサト「状況は！？」
伊吹「シンクロコンプラ脳神経パルスが逆流しています」
リツコ「回路遮断！引き抜くのよ！」
伊吹「OFF　だめです！信号拒絶！受信しません」
ミサト「シンジ君は！？」
日向「OFF　モニタ　現況なし　生死不明」
青葉「OFF　初号機　完全に沈黙」
つなれたまま動かない初号機

ソノコ　「サト！」
サト　「ここまでね　作戦中止！ハイロト保護を最優先　ブツを強制射出して」
伊吹　「イめです！完全な制御不能です！」
サト　「判です　て！」
　　何を起さているのかわからないノノン　ブツ内のＬＣＬ※純度を失っていく

　　クア　と口が割れ　現える初号機
バ＊ウンス「エウ－　再起動」
伊吹　「ＯＦＦ　そんな動けるはずありません」
　　実験を見ているサトたち
　サト　「まさか」
ノノン「　　暴走」

　　現える初号機　ウ　とじゃがみ込んで　そのまままノノン
　使徒の上にしゃがみ込み　ケリを入れる　両ウ再現　鬼のような戦い方
女月「騒　ぐな
　がもしゃに突進していく初号機　カ－　とその腕にうつかる
ノコ「Ａ＊フィールド？」
ミサト「くめぐわ　Ａ＊フィ　ルドがあるかぎり」
リノコ「使徒は侵食できない」
　　初号機　左手をウ　とかまえると　機構じった部分が直　てしまう
青葉「ＯＦＦ　左腕復元！」
ミサト　　をこい

　ＡＴフ　ルドに関手を突　込み　引き裂こうとする初号機
伊吹「初号機もＡＴ＊フ　ールドを展開　位相空間を中和していきます
ノノコ　いえ　暴食　でいるんです」
　　両手でＡ＊フ　ールドを引き裂く初号機
ミサト「あのＡＴ＊フ　ルドをいとも簡単に」

　ノ　ット内に頭を突き出す初号機
　使徒の頭にお尻を充る
　光をまたい　踏ける初号機
　使徒を　こいく出　＋字の形になる
のいそ　　ノ　ット初号機　体をもとに戻すと使徒の両腕を掴み　ク　とねじる
　いきなりケルわれる初号機　　とふ使徒
　腹のヒル　を突する
　間髪入れず　体勢をりしてそのままヒルこと押し倒していく
　使徒に馬乗　りする初号機
　使徒の背を引きちぎり　肉の光球をなく始める
　防ネ防足ラムダはいして初号機の腕の脚　からみ　つき　おおいかぶさる使徒
　　ゼイ＊ゼイ呼吸
　血液が爆発四散する悲しい　散き際り使徒　ヒル由の存型に　そびえる赤い十字の光柱
赤く光ってたんでるネルフ本部のモ　ター
ミサト　　エウ－は？」

　周囲のヒルが融解する　強烈な熱
　血の世とう　ている踏い地　熱と血煙に当まれ　血の中を歩いてくる初号機
　咽喉しくる　ネルフの人々
　その静と緊張の責はピはなく　恐怖の表情に満ちていた

　　ひとり　笑みを浮かべているケントウ

　　初号機の血まみれの手　悪魔のごときその顔
　　左目から流れる赤い体液が涙の様にも見える
　　その内部い　錯覚レイを感じさせるイメ　ン　　＊＊４の怖いレイを連用
ノノンの声「誰？誰なんだ？知　てる？この感じ？」
レイの声「綾　ノノン？」

〇早朝の病室
　　ハ　と目覚めるノノン　病室で上半身だけ起き上がる
ノノン「　　知らない天井！」

　第３新東京市　朝
　　血の色の水面に映る夏の青空　太陽も？　と上空を飛ぶ観測機等
　　上空から見ると血の色が何かの文様に見える　周囲には血の色に染まり融解したヒル群
ネーム　台詞先行　第３の使徒襲来とその帰還」

〇セ　レとケントウの会話部屋
　　現れるモノスゎ　　ＢＡＮＫ使用　それともここは委員会ではいか？
「そしゃサ　トネルトレンの接収及びエウ　初号機の初起動　概ね既定通りなら」
「初号機本体の能大な修理費は予定外でもね」
「凍結された零号機に比べれば　さして問題なかろう」

　第３新東京市・爆心地近辺
　　恋のまどいに　降服　ているネルフ調査班後詰本部　それともヒル屋とか？
　　血の色を脱める防護服姿のミサト　吟ら、伊吹
伊吹　エウ、初号機の回収作業は終了しました　現在第６ケイジに（固定中　本日１０より稼働開始の予定です」
ミサ　最左時のレ　ダ　は？」
伊吹「確認さ　た　容量０です　何も書き込まれていません？？」
ミサト「結果　原因不明ね　兵器として信頼性　たとセヒノきるわね」

　　再び　セ　レとケントウの会話部屋
　　多少の具合でも　第４の使徒出現時に　また停止ではよい」
ケントウ「卵し配なく　初号機の実験配備に続き　２号機と弐属パイロットもイバ（実証評価実験中です
「ネルフとエウの適切な運用は君の責務　くれぐれも失望させぬように頼むよ」
「左様　使徒喊滅はパ　との契約の　場　話に過ぎん」
ネル「人類補完計画　その実行こそや　我等究極の願い」
ケントウ「すか　てみます　全ではや　レのシナリオ通り」

　病院　ロビ
　　鏡の声のみ　ハイキ　な画面
　　集中治療室から運ばれてくるレイとそれに連うノノン
　　無表情なノノンを見てくるレイ
　　何う思いことをした時のようにうつむくノノン

ノノとある場所は　考　先の仮設本部が揺りの真中か、ノ内？
　　爆心地の状況を視察しているノノコ　パソコン画面のデ　タも見ている

ノノコ「予想以上の有様ね」
伊吹「まさに血の地獄図。なんだかセカンドインパクトみたいでイヤな感じですね」
ミサト「エヴァは侵蝕に勝てる　この事実だけでも、人類にわずかながら希望が残るわ」
リツコ「その希望を担うパイロットが　気づいたそうよ」
ミサト「で　容態は？」
ノノコ「外傷はなし　心配された精神汚染の兆候もなし　ただ、少し記憶に混乱がみえるそうだけど」
ミサト「そう　そうよね　いきなりアレ　だったものね」
ノノコ「『洗々と』無理もないわ　脳神経にかなりの負担がかかったもの」
ミサト「心　のほうがしじゅうの」

病院・ロビ
　廊　て待　ているノノン。側の声　ハイキーな画面。響く業務アナウンス
　し　と自分の左腕を見　のめるノノン
　を　引き出て退えいくるミサト。

病院　エレベーター昇降口
　開くド、ゲントウガー人で乗っている
　乗ろうとしていノノン　顔を下へそらす
　そのまま動かない
　閉まるドア
　動　てその様を見ているミサト

天井都市の部屋
ミサト「一人で、ですか？」
士官A「そうだ　彼の個室は　この先の第6ブロックになる　問題はなかろう」
ノノン「はい」
ミサト「それでいいの？――ノノン君」
ノノン「いいんです　一人の方が　とこでも同じですから」
　ノノンを見つめるミサト

　電話を受けるリツコ。
リツコ「なんです　て」

　電話をかけてるミサト　（電話機の色変更有り）
ミサト「ああああぁ　ノノン君は、私んとこで引き取ることにしたから　上の許可もと　でし
　心配しなくても　子供に手を出したり　しないわよ」
　サッと受話器を耳から離すミサト　うすくノノコの小言が聞こえる。
ミサト「相変わらず　ョうクの通じないやつ」

地下トンネル
　走るミサトの車
　走たカムァ・ブで仮留めしてある壊れたバ　ノ
　助手席のノノン　自分の鞄と転校の書類袋をかかえている
ミサト「さて　今度は　バー　にやらなきゃね」
ノノン「ホョンと　何ですか」
ミサト「もちろん　新たなる居候人の歓迎会よ」
　車がトンネルを抜ける　白くぶぁ　窓外

日市街・コンビニ
　店の駐車場に止めてあるミサトの車。
　意外とモノの少ない商品棚
　有線とレンの車線的な音だけが　満　ている
　レンに抱んでいる「人　カゴの中は　酒とつまみとインスタント食品
　ノノンらの背に入る　客の会話

主婦A「やっぱり引っ越されますの？」
主婦B「ええ　まさか本当にここが戦場になるなんて思　てもみませんでしたから」
主婦A「ですよねぇ　うちも主人が子供とあたしだけでも疎開しろって」
主婦B「疎開ねぇ　いくら要塞都市だからっていった、って、何一つあてにできませんもんね」
主婦A「昨日の事件。思い出しただけでも　としちゃうわ」
主婦B「ホントに　」
　幸そうなレンをなにげに見ているミサト

走るミサトの車・車中
　助手席のノノン　コンビニの袋をかかえている
ミサト「すまないけど　ちょ　寄り道するわよ」
ノノン「とこへですか」
ミサト「い　い・と・こ・ろ」

第3新東京市　夕景
　高台に止まっている車。傍らにミサトとノノン
　市全景　何もない無機質なコンクリのブロックエリア
ノノン「なんか　さびしい街ですね」
ミサト「時間くわ」

　鳴り出すサイレン　山に木霊する音
　道路や建物にかかっている大規模な防護シャ　タ　が開いていく
　目をみはるノノン
　地下に収納されていたビルが地上に戻　ていく
　空に伸びている強光ニュー　赤い太陽光を反射している
ノノン「すごい！ビルがはえてく！」
　ノノンの瞳輝い ひろが　ていく人計画都市
　夕日の中　街のあちこちから　生き物のようにはえてくる高層ビル群
ミサト「これが　使徒迎撃専用要塞都市　第3新東京市　ノノンに　私たちの街よ」
　ミサトを見るノノン
ミサト「そして　あなたが守　る街」
　大はコンク　夕焼け空に　そびえ立つ　超高層ビル群　（何本かは建設中

ミサトのマンション・全景
　マンションの部屋には人の生活をしるす　明かりがない

同　廊下
　ノノンを自分の部屋に案内しているミサト
ミサト「ノノン君の荷物はもう届いてると思うわ　実はあたしも　先日引っ越してきたばっかりでね」

同・ドアの前
　ドアの前には、段ボール3箱　ノノンの荷物である

開くドア　自動ドア・横スライド式）
ミサト「さ　入　て」
ペンペン「　　あ　あの　　おじゃまします」
ミサト「ペンペン君、ここはあなたの家なのよ」
　ペンペンの足元　敷居をまたぐ
ペンペン「　　ただいま」
ミサト「おかえりなさい」
　閉まるドア

　同　キッチン
ミサト「まぁー　ちょっち散らかってるけど気にしないでね」
　あぜんとしているペンペン
　部屋の中には　段ボールの山と脱ぎ散らかしたままの服や本等
ペンペン「これが　ちょっち　」
ミサト「あ　はペン　食べ物　冷蔵庫に入れといて」
ペンペン「はい　はい」
　冷蔵庫を開けるペンペン
ペンペン「氷　つまみ　ヒールばっかし　どんな生活してんだろ？」
　隣にもう　つ　巨大な冷蔵庫
ペンペン「あの　あちの冷蔵庫は？」
　ペンギンの奥で　部屋着に着替えてるミサト
ミサト「あ　そっちはいいの　また凍てると悪いから」
ペンペン「凍てる？」

　ドア
　SE 先行で電子レンジの音
　アルフルの上に缶ビール数々のインスタント食品
ミサト「い　ただきまぁす」
ペンペン「いただきます」
　ミサト　そして　ペンペンあおむけている　ミサト
ミサト「んく　んく　んく　んく　んく　ぷはぁ　　ク　　やっぱ人生　この時のために生きてるようなもんよねぇ　　ん？食べないの？？　ううまいわよ　インスタントったけど」
ペンペン「いえ　あの　こういう食事　慣れていないので」
ミサト「たぬよ　好き嫌いしちゃあ」
ペンペン「いえ　違うんです　あの　」
　ミサト　ビール缶を持ったまま　笑顔で
ミサト「楽しい　でしょ」
ペンペン「えっ」
ミサト「こうして他の人と食事すんの」
ペンペン「　　はい」

○ネルフ第2実験場・オロチ1の管制室
　ゲンドウとリツコの会話
　十字型の停止信号プラグを打ち込まれたまま凍結中の零号機
リツコ「レイの様子はいかがでしたか」
ゲンドウ「　」
リツコ「午後　いかれたのでしょう　病院に」
ゲンドウ「問題ない　凍結中の零号機の再起動準備が先だ」
リツコ「弾子急よ　よろしいのですか　精神的にかなりの安定と思われますが」

ゲンドウ「はおっておけ。むしろ零号機凍結解除のいい口実になる」
リツコ「では、葛城一尉の追言通りに」

○ミサトのマンション・リビング
ミサト「さて　今日からここはあなたのうちなんだから　なぁーんにも遠慮なんていらないのよ」
ペンペン「　―ハ　ハイ」
ミサト「もぉ　ハイハイハイハイとしんきくさいわねぇ　おっとこの子でしょう！
　シャキ　となさい　シャキッと！」
ペンペン「ハ　ハイ」
ミサト「まっいいわ　やなことはお風呂に入って　パーッと洗い流しちゃいなさい
　風呂は命の洗濯よ」

　同　脱衣所
　洗濯機に汚しっぱなしの下着
　ミサトの洗濯物に気をとられたまま　風呂のドアを開けるペンペン
　そこにいる物体に驚くペンペン。
　体をバサバサっとやっているペンギン
ペンペン「うわぁ…」

　同・キッチン
　あわてて飛び出してくるペンペン
ペンペン「み　み　み　み　ミサトさん？」
ミサト「何？」
ペンペン「（移動する物体を目で追いながら　あ　あ　あ　あ　あ　あ　あれ？」
ミサト「　ソレ　と　ああ　彼　昨晩の温泉ペンギンよ」
　何事もなかったかのごとく　ペタペタと大型冷蔵庫の中に入るペンギン
ペンペン「あ　あれ？」
ミサト「名前はペンペン・　もう一人の同居人　それより　前　かくしたら？」
　自分の状況に気づくペンペン　真っ赤になる
ペンペン「うわ　　」
　あわてて風呂場にもどる
ミサト「ちぇ　わざとらしくはしゃぐそぶりしながら　見逃なされてるのは　ここちかもね」

　同　浴室
　天井の丸い蛍光なライト
　見慣れない天井を見てすっとした顔
ペンペン「葛城ミサトさん　　悪い人じゃないみたい」
ミサト「回想　風呂は命の洗濯よ」
ペンペン「でも　風呂っていやなこと思い出す方が多いよな」

　同・ペンペンの部屋
　壁にセロテープで貼り紙　ペンちゃんのへや」とミサトの文字で書いてある
　隠れてベットに潜り込んでいるペンペン　部屋着
　周囲には脱ぎ捨てのままの衣物　ゴミの数
　机のよには転校手続きの書類
　回っているDATウォークマン・HDにするか一考　リバースされる
ミサト「ペンペン・台詞先行　予備録音もなく　唐突に選出されたサードチルドレン」

　同・浴室

　　潜船の中のミサト
ミサト「イメージ　それに呼応するかのようなタイミングでの　使徒襲来。合わせて強引に接収された認司令の息子　確かに適格感情を　案件ね　　しかし　あの使徒を倒したというのにも私も意外と　　声に出して　うれしくないのね」

　　夜・シンジの部屋
　　大井の街光灯
　　それをまんじりともせずに見ているシンジ　耳にはウォークマン
シンジ「モノローグ　ここも知らない天井　　当たり前か　　この街で知ってるとこなんてどこにもないもんな」
ミサト「回想　　ここは　あなたのうちなのよ」
シンジ「　　なんでここにいるんだろ」
　　ベットの上でうずくまるシンジ

　　風呂上がり　部屋の前で髪をふく手をとめるミサト
ミサト「シンジ君　　開けるわよ」
　　壁を背に座っているシンジ　しかし眼は開いている
ミサト「ひとつ言い忘れてたけど　　あなたは人にはばかられる立派な事をしたのよ　胸をは　ていいわよ　シンジ君　　がんばってね」

　　中学校　真夜・中休み時間
　　パン　　校舎の廊にOFFでSEのみ
　　めまぐるしく転倒するシンジ　トウジのかいばい握りしめた拳が揺れる　ている
トウジ「転校生　ワシはお前を認らないかん。認らな気かすまへんのや」
　　ヘロヘロとシンジの鼻血がたれる
ケンスケ「悪い奴　　この赤いの騙きこ　あいつの妹さんケガしちゃ　てさ　ま　そのへん事ノから」
　　シンジに背を向けて　去ろうとするトウジ
シンジ「ぼくが　て　乗りやべて飛　てるわけしゃないのに　」
　　トウジ　指を透し　シンジの胸倉を掴むと　再び強烈なパンチを見舞う
　　全　印象的に　て倒れすま空を見ているシンジ
シンジ「　　どこか人にはめられることなんてろ　ユウ　に乗　こそ　ていうだけでなんて認められてろ」
　　倒れてますのシンジを　教室の窓から見ているレイ　いらないわ？

ミサトとリツコの会話　場所は　考
リツコ「そんえはシンジ君　転校初日からフラスメイトになられたそんしない　パイロットのセキュリティ　大丈夫なの」
ミサト「技術部の監視システム　問題ないわ　そんしたかんしないし　それにアイハトには極力干渉しないほうがいいものの」
リツコ「一緒に住んてるのい　彼のシンクロレベルをあなその仕事よ」
ミサト「ちゃっこそよ　彼　悪　とよりもナイーブこ　難しい」
リツコ「もう立き直り自分から引き取る　と見突き　てんしゃない」
ミサト「うまいわね　　私より実の親が関機しやない　今日も顔出さないし　彼利は自分の子供い興味ないのしい」
リツコ「最近の男はすべらく自分しか興味ないのよ」
ミサト「女いは一ハい時代になったわね」
伊吹「初号機　疑似エントリー完了しました」

○戦闘シミュレーション中の初号機
　　管制室にいるリツコら。
リツコ「いい　シンジ君　今日はインダクションモードのプログラム練習を続けます」
シンジ「はい」
リツコ「目標をセンター　に入れて　スイッチ。これを的確に処理して、感覚で覚え込んで」
シンジ「はい」
　　黙々とプログラムをこなしているシンジ
　　緊張する初号機　構築する、目標
伊吹「しかし　よく乗る気　なってくれましたね　シンジ君」
リツコ「人の言うことにはおとなしく従う　それがあの子の処世術じゃないの？」
ミサト「　　」
　　規則正しい爆発音が連続する中　制御装置のボタンをひたすら押しているシンジ
シンジ「目標をセンター　に入れて、スイッチ　目標をセンター　に入れて　スイッチ　目標をセンター　に入れて　スイッチ　目標をセンター　に入れて　スイッチ　」

○ミサトのマンション・朝
　　マンション引き画よりスタート
シンジ「あの　行ってきます」
ミサト「い　ら　さい　聞えない！ミ　お願いね」

　　ゴミを捨てるシンジ
　　登校風景
　　学校の教室　ひとりポツンと窓外を見ているレイ
　　レイと同様にシンジを遠巻きに見ているたくさんのクラスメイトたち
　　これらの描写に　かぶるリツコとミサトの会話
リツコの声「とき　その後彼氏とはうまくいってる？」
ミサトの声「彼？　ああ　シンジ君ね　転校してく週間　相変わらずよ　未だに　友達いないんじゃないかしら」
リツコの声「シンジ君　て　どうも友達を作るのには　不向きな性格かもしれないわね　やマアアランのシンジくん話　知　てる？」
ミサトの声「ヤマアラン？　あのトゲトゲの？」
　　レイに話しかけられないシンジ　同じく　シンジに声をかけようとしたトウジとケンスケ
リツコの声「ヤマアランの場合　相手に自分の温もりを伝えたいと思　ても　身を寄せれば寄せるほどその中の棘でお互いを傷つけてしまう　人間にも同じことが言えるわ　今のシンジ君は　心のどこかでその痛みに脅えて　臆病になっているんでしょうね」
ミサトの声「そのうち気づくわよ　大人になるってことは　近づいたり離れたりを繰り返して　お互いがお互いの傷のかばい合も距離を見つけ出すことこと　」
　　点描のうえには何かしているミサトとリツコの画に？それとも屋上まで引っ張る？

○中学校・屋上
　　で　ひとり立つシンジ　階段にシンジの後い来るレイ　トキ　とするシンジ
レイ「非常召集　先　行くわ」
　　その生まトラブ　と追り去るレイ　を　見ているシンジ　鳴り出すサイレン音

　　強襲通じ道を使徒
背景「台詞先行　目標を完全で補足　領海内に侵入しました」

　　ネルフ本部　発令所
リツコ「恐らく　第4の使徒ね」

ミサト「武仓　副司令　共に留守中を狙　てくるとは　不届き千万ね　いいわ　総員　第一種戦
闘配置　対空迎撃戦　用意」
　第3新東京市全域にかける台詞
日向「了解　第3新東京市　戦闘形態に移行します」
女A「中央プロク　収容開始」

　第3新東京市　市街地
　サイレンと避難命令が反響している中　交通機関は全てストプ
　信号よ　青に赤　通行中止にかわる電光掲示板　道路の緩衝板も通行止めに
　自動的にシャッタが降り　道路にバリケドが作られていく
　不要なビルは地下に収納され　高層ビルは防御壁が覆われていく
　逃しオペレロ　ら天井へ姿を見せる　ビル群　天蓋を覆っていく装甲シャタ
　ネルフ本部をも入れ込むオロック　次々と非常から出てくるビル群
女A「中央プロク　及び第1から第7管区までの収容完了」

○ネルフ本部　発令所
青葉「政府及び関係各省庁の通達終了
女A「目標は依然　進行中」
女B　現在　弱空迎撃システム稼働率48%」
ミサト「非戦闘員及び　民間人は？」
青葉「すでに退避完了との報告が入ています」

　地下シェルタ
　学校の生徒たちをはじめ　大勢の市民が避難している
　遠くで子供の騒ぐ声　赤ん坊の泣く声
　体育座りの生徒から　個人のカバンは持　て来ている
　ケンスケは自分のハンディカメラ　モータ　付き　を見ている
　どのチャンネルも画面は同じ　お花畑の静止画像にお決まりのテロップのみである
ケンスケ「くやしそう…　手　まで」
トウン「また文字すべりんか？」
ケンスケ「報道管制　てやつかよ　我々民間人は見せてくれない大人　こんなとっくんへんへ
ていうのに」

　ネルフ本部・ケイン
　ブラウの口クが外れる
　エヴァ初号機から離れていくブラ用クレーン　アナウンス有り

○エントリープラグ内
　目をつぶっているシンジ　トクが全属板からエタ　に変わる
アナウンス「エントリースタートしました」
独白「LCL電荷！」
アナウンス「圧着ロック解除」
　うすっと目を開けるシンジの半面UP
シンジ「父さん！ほめられることもないのに　なんで　また愛　てんだろ　」
　プラ　ムはハ　クインサート　通巻き　無視しているクラスメイト　囚るトウン
シンジ「　　人に嫌われてまで」

　地下シェルタ
　に　避難しているムラス　とした顔のトウン

　悩らのケンスケは黄昏ゆすりをしている。（オノでアナウンス有り）
　ケンスケ　いいわね
ケンスケ「ねぇ　ちょっと二人で話がある人だけど」
トウン「なんや？」
ケンスケ「ちょっと　なう」
トウン「しゃ　ないな　委員長！」
ヒカリ「なに？」
トウン「わしら二人　便所や！」
ヒカリ「もう　ちゃんと見ませとさないよ」

○男子用トイレ
　いて　用を足しているトウンとケンスケ
ケンスケ「なんとしても　死ぬまでに一度だけでも見ておいんだよ」
トウン「上のシバチカ？」
ケンスケ「本物なんだよ　今度いつまた敵が来てくれるかとうかもわかんないし　この時を逃しては
あるいは永久に　なったのとよ　ロック外すの手伝ってくれ」
トウン「　しゃあないな　お前もンの自分の欲望に素直なやちゃな」

〈エントリープラグ内
　目をつぶっているシンジ
　電話の呼び出し音　うすっと目を開けるシンジ
ミサトの声「シンジ君　出撃　いいわね」
シンジ「ハイ　」
シンジの声「よくて　敵のATフィールドを中和しつつ　パレトの　直射　練習通り　大丈夫ね」
シンジ「ハイ　」

　ネルフ本部・発令所
ミサト「発進」

○第3新東京市　山岡部
　重厚な装甲用　ドが開いている
　高台に駆け昇るトウンとケンスケ
　ビル影から姿を現す　使徒
　飛行形態から戦闘形態へと移行する　使徒

　トウン　その巨大で異様な姿に身が竦む　ケンスケ　ヒヤオを回しながら
ケンスケ「すごい！これぞ　百学にやんも　あ　たというもの　お　約　くましい！」

ン岡　ヒル由
　ビル正面の全面シャタが開き　出現するエヴァ初号機

（ル底　山間部
　石笋とその目体を見ているトウン
ケンスケ「　出た」

　エヴァのまわり　皮カスがF　ヒF　Oする

○エントリープラグ内

　　製造した四枚目のシンジ　ノノブノと　人書を真　ている
ノンノ「目標をセンタ　に入れてスイ　チ　目標をセンタ　に入れてスイ　チ　」
伊吹の声「ATフィールド　展開」
ミサトの声「作戦どおり　いいわね　シンジ君」
シンジ「ハイ　」
　　シンジ　期間装置を握る

○第3新東京市・ヒル街
　　攻き打れて　いきなり乱射する　エヴァ初号機
　　撃ち続ける強烈で便徒が見えない

　さいノ本部・発令所
ミサト「バカ　爆煙で敵が見えない！」

　第3新東京市　ヒル街
　　一斉射し終える初号機　煙で何も見えない
　　間で息しているシンジ　アとなる
　　いきなり抽ひる　便徒の腕
シンジ「!?」
　　いとも簡単にカンの砲身をまったくしている
　　恥ももヒシテのエヴー

　同　山間部
トウジ「何やも、やられとるで！」
ケンスケ「大丈夫」

　ネルフ本部　発令所
サト「シンジ君　予備のライフルを出すよ」

　　武装ビルのロ　クナルドが外れる　カバ　が開き　姿を現すライフル
　　あせっているシンジ　銃を耳に入　ていない
ミサト　オノ「受け取　て　シンジ君？　シンジ君？」
　　イヤ　初号機は動かない

○第3新東京市　山間部
ケンスケ「ヒデオ撮りながら　あチャ　　や　は殺られたのか効いてるのかな」
トウジ「う　うるさいわ　」

○同　ヒル市
　　設置する便徒・周辺のヒルに衝撃波を発生しつつ
　　一瞬のうち　エヴァの直前へ
　　ヒビル　シンジ
　　便徒の手刀を力うじて避ける　エヴー
　　イか　その刃は電源ケ　ブルを切断してしまう

　　作戦管制室のスクリ　ンに出現する　近算式大型時計
　　エントリ　プラグ内にも現れる　時計　内部よ点滅　鳴り響く　警告音
　　あせるシンジの顔

　　スクリ　ンを見つめるミサト　に　オブ台詞
冒頭の声「アンビリカルケーブル　断線！」
日向の声「エヴー　内蔵電源に切り替わりました！」
伊吹の声「活動限界まで　あと4分53秒」

　　エヴーの腕が便徒の腕に拘束される
　　画面動のシンジ
　　そのまま　固い殻り投げられるエヴー

　　「わあぁ！となるトウジとケンスケ
二人「こっちに来る！　きゃあああああああああああああああ」
　　二人の真上に墜落するエヴー初号機

　　く　たりしてるシンジ　各種警告音と共に　ミサトの声が響く
ミサトの声「シンジ君　大丈夫？　シンジ君　「日向に　ダメージは？」
日向の声「問題ない　いきます」
シンジ「??　」

　　エヴーの指の間にいる人影に気づくシンジ
　　偶然　エヴーの指の間にて助か　たトウジとケンスケ
　　人　頭を抱えたまま身動きひとつせず震えている
　　シンジの背中に　ノ　と戦慄が走る
　　初めて恐怖の感情が襲ってくる

　　発令所に二人のロケータが映る
ミサト「シンジ君のクラスメイ　　」
イ　ョ「何故　こんなところに？」

　　山側の日中虫に吸入する便徒　ゆ　くりとエヴー　に迫っている
　　便徒を見るエヴー
　　モニタ　越しに迫る便徒
　　エヴーの手元で何もできず　見上げるケイのトウジとケンスケ
　　迫る　便徒　山陰を見い始める
　　何もできないシンジ
　　イメージモニターは　画面分割で迫る便徒と手元の二人
　　便徒の腕が高くなる　するとく伸びる
　　悪手で振いる初号機。
　　投げる手のひら
トウジ「なんで戦わへんのや！」
ケンスケ「トウジやここにいるから？　自由に動けないんだ」

伊吹の声「初号機　活動限界まであと3分28秒」
　　決断するミサト

ミサトの声「シンジ君、そこの二人を操縦席へ」
シンジ「!?」

　ネルフ本部・作戦管制室
　　名　けにとられているリツ

ミサト　「人を回収した後　一時退却　出直すわよ」

山間部

伸びる　エヴァのエントリープラグ
外部スピ　カ　から出た本置する　ミサトの声

ミサトの声　外部スピ　カ　から　そこの二人　急　く　早く！」
トウジ　「　」

エントリープラグ内
鼻　暗闇に突如響く水音　ほぼ同時に何かが水に飛び込む音がする　ステレオで
トウジの声「な　なんや　ふま！　女やないか
ケ　ンスケの声「ふたり　カメ・カメが　？　ウア　」
突如　明るくなるプラグ内
高び跳び響く　各種警告音
おとろく　人　その目の前には戦闘着姿のシンジいる
しはし視線を交えるまま　言葉をかわわさない二人
下腕構え　ム　とし　表情のままのトウジ
目をそらすシンジ
まモ　ターには　目前の使徒が映っている
青さめたまま戦闘態勢をとるシンジ

使徒を抱い投げる初号機

激烈な音い混じ　い響くミサトの無線台詞
ミサトの声　今よ後退しろ

動かないシンジ
残り時間を刻み続けるカウ　タ　表示
迫る　活動限界
ミサトの声　回収ル　トは34番　山の東側に後退しろ
トウジ「転校生　逃げろよっとくて　転校生」
シンジ「小西て　逃げるために　逃げるために　逃げるために　逃げるために」
初号機の頭部分が開いて　中からプログレ　ソナイフが出てくる　ポジトロンスナイパ

ネルフ本部　発令所
緊張するミサト
日向「プログレ　ソナイフ装備」

青のナイフを抜いてかまえる初号機
ミサトの声　シンジ君　命令を聞きなさい　退却よ
シンジ　「
ミサトの声　シンジ君！
シンジ　「ああああああああああああ！」
その直後　サクー　と山腹を食い破る初号機

ミサト　叫き喚くように　「あの　バカ　」

突進する初号機
腹部を貫かれるかかまず突進する初号機　普通部分から吹き出る大量の血

叫びながらナイフを突き出す　シンジ
喚きながら　光球を刺す
赤バカのプラグ内　軋み音
かん高い警告音や無機質なカウントダウンが響く中
叫びながら力任せにレバーを押し込んでいくシンジ　右手に左手を添えて

お互いに火花を上げて食い込んでいく刃物　（血も噴き出すか？
歯を酸らしながらも叫び続けるだけのシンジ
酔ってその様を見ている　人
高周波ナイフが　使徒の手刀が少しずつ相手の体に入っていく

ネルフ本部　発令所
伊吹「初号機　活動限界まであと30秒　27　28　」
ミサト「　」

ケイ機だけのシンジ　無気質に響くカウントダウンの声
苛んでいく左モニタ
刃がうまい食い込んでいる使徒の光球、飛び散る火花。
残り1秒でついにヒビ割れ消える　光
プラグ内に初号機の伸止音が響く
闇に包まれるシンジら。

血統のごとく爆発四散する使徒の身体
初号機に血の雨が降る

○エントリープラグ内
予備電源の仄かな明かり　真紫のトウジ　ケンスケ
シンジの呼吸が響く
闇を震わせているシンジの使う姿を見つめるトウジとケンスケ

山間部
引き裂　血の大雨の中　オブジェのように動かない初号機の巨体

○ネルフ本部
まとめられている初号機の機体　（＝16浪用

○第3新東京市
に　降る雨の赤福　（＝42と＝22の BANK から

○ネルフ本部　ロ　カ　ル　ム
シンジ姿のシンジに　注意するミサト
ミサト「どうして私の命令を無視したの？」
シンジ「すみません」
ミサト「あなたの作戦責任者は私でしょ」
シンジ「はい」
ミサト「あなたには私の命令に従う義務があるの　判るわね」
シンジ「はい」
ミサト「今後　こういう事のないように」
シンジ　「はい」

ミサト「　あんた本当に相　変わらないわね」
シンジ「ええ　初　ですよ　ミサトさん　もういいじゃないですか　勝　たんだから　云われはないというでも思いますよ　負けはいいんでしょ」
ケンスケ「しるこミサト
　目だい笑　　感じになるシンジ
　思わずシンジの胸をうつぶしたミサト　目をそらしたままのシンジ　ヒンタカラ
ミサト「もういいわ　先に帰　て休んでらっしゃい」
　肘にそまま出て行くシンジの背中　閉まるドア
　討ち取られないミサトの表情

　　やがて　シ持ちが　明るく　赤く　な　ていく街の全景

第3新東京市の夜明け
　赤い世界　ビルも空もあく染ま　ている　ひとり歩くシンジ
　突然　　区の静り破り出す　その音にドキ　とするシンジ
　街の大合唱サイレンの音に我到する
　耳を塞ぐシンジ　逃げるようにして「その場から走り去る

○第3新東京市・郊外
　山あいへの道をバスで走る
　バスの停留所の脇に　ケもシンジ

田園地帯
　視界　一面に広がる水田
　そのあぜ道をシンジ歩く
　青い稲穂が実　そよぎ　有面のよ　にうね　ている
　山なみ　は遠きて　よ　う白い入道雲

芦ノ湖
　エメラルド色の水の広がり
　湖畔の道をシンジ行くシンジ

　一面の黄色
　丘のとこ咲き乱れる向日葵の花
　その下をかきわけるようにして進むシンジ

丸眼鏡
　風が吹き荒れている
　空は　立シンジ　　と白を移す
　小さく見える第3新東京市　大きく湧がる雲
　うずくま　ているシンジ

○再会地の夜
　水くさい　匂るスメンの明かり
　警報音をあこもちくさまようシンジ
　しかし　全ての小動は変に監視されていることに気づく
　自由がなくとこでもよくなるシンジ　途中でさらに厳重な部屋に移る
シンジ「いいですよ　もう　　、ミサトさんの思い通れくだ下さい」

○ネルフ本部・小部屋　壁にネルフのマーク有
　　軟禁状態のシンジ　オフィアの部屋着　、ミサトが入ってくる
ミサト「　1日中歩き回ってご　気が済んだ？碇シンジ君」
シンジ「　別に　どうでもよくなりました　何もかも　もう僕に自由なんてないんだ」
ミサト「　」
シンジ「　どうせ僕はエヴァに乗るしかないんですよね、そのためだけに父さんに呼ばれたんなから」
ミサト「　」
シンジ「いいですよ　乗りますよ　それでみんながいいんだ　たら　僕はいいですよ」
ミサト「みんな　て　　あなたはどうなの？」
シンジ「僕には無理だ、ってこと　わか　てるんですよ　みんなもわか　てるんだ　さと　それでもケガしてる綾波やミサトさんや父さんか　」
ミサト「いいかげんにしなさい」
　　ビタ　と頬をとげるシンジ
ミサト「他人（ひと　の事なんか関係ないでしょ　エヴァのパイロットを続けるかどうか　あなた自身が決めるないイヤなら、ここを出ていてもいい　全て　あなたの自由よ　好きにすればいいわ」
　ミサト　退出して行く　カシャーンと扉の閉まる音
ミサト「彼に何をどう伝えればいいのかわからない　ヤマアラシのジレンマか　私もタメね　全然大人になさ　てない」
　　部屋に一人取り残されるシンジ
　　長い間
　　トアが開き　出てくるシンジ
　　トア外で壁に寄りかかり待　ていたミサト
シンジ「あの　　ここ　　残ります」
ミサト「　ありがとう」

○同・執務室
　　ベントウと冬月の会話
　　傍らに立つリツコ　いらないか？
冬月「結局　お前の息子は予定通りの行動を取　てな」
ベントウ「ああ　次はもう少しレイ接近させる　計画も重要はない」
冬月「14年前かのシナリオ　通命を性組まれた子供たちか　過酷過ぎるな」

　アイキャッチ　英語版主タイトル

　中学校　校舎の裏
　蝉の声　望遠　引き画でトウジとケンスケ　そしてシンジの姿
トウジ「スズから聞きよせい　せやなんとワシの気持ちも収まらん」
ケンスケ「ま　こいい実直な奴ですから　納もよ」
　　踏切じゃも本気でトウジを殴るシンジ　倒れそうなのをこらえるトウジ
トウジ「これで貸し借り　チャラや　殴　てまえか　な　殴」
　　軽い笑顔でなるシンジ
　　その様子を教室の窓から見ているレイ　その表情に台詞先か
伊吹の声「起動システム異常発生」

　ネルフ本部・実験場　回想
　　チェ　ウモ　タ　が次々と消えていく
　　零号機の巨体がカタカタと小刻みに震え始める

「普通モニター　断線」
「中枢神経量子にも非絶が始まっています」
伊吹「バレス　退避　せき止められません！」

リノコ「３タクト停止　６番までの回路を閉鎖」
伊吹「すみません　信号がとどきません」
　　短　すよ　に身を縮ませる零号機
　　いくには核家具をひきちぎ　てしまう
　　を手で自分で首をもこ　としている零号機
伊吹　「零号機　制御不能　」
ケントウ「実験中止　電源を落とせ」
ノノコ　「はい」
　　カラスのカバ　を割り　非常スイ　チを力い　はいっぱいノノコ
　　零号機の爆発ボルトが飛び　ケ　ブルが外れる
　　カプ　と　脱　力が抜けたように　なり停止する零号機
　　か　すぐに再び動き出す
ノノコ「零号機　予備電源に切り替えました」
「完全停止まであと３分」
「自動制動システム　を立ち上げます」

　　制御室の空カラスを叩き始める零号機
　　ケントウの前のカラスがどんどんヒビ割れていく
ノノコ「緩」　　急降下す　さか　てください」

　　かきみこんだ零号機　背中のカバ　が爆発される
伊吹「オートエジェクション　作動します」
ケントウ「いかん　」
　　脱出口ケ　トんだ人　射出されるエントリープラグ
　　か　そのまま天井にぶつか　てしま
　　カプカプ天井を直　エントリープラグ
　　角まで走り　しばらく止まる
ノノコ「特殊ヘ　クップル　急いで
女A「完全停止まであと１０秒　」
　　凍結ガス噴入　床に落下してくるプラグ
ケントウ「レイ」
　　床に激突するプラグ
　　壁の噴出口から噴出される コークリのようなもの
　　零号機の体を固めていく
女A　　３　２　１」
　　いく壁を貫通する右腕　停止する零号機

　　エントリープラグに駆けよるケントウ
　　過熱した非常ハ　チのハンドルを素手で掴む
ケントウ「うく　」
　　シュと肉の焦ける音　ケントウ　思わず手を放す
　　セルプレ　ムの脱錠が作動する
　　ケントウ　再びハンドルを掴むと　いっぱいそれを回す
　　その様子を見下ろすノノコ
　　開かれる非常ハ　チ

　　中にケガをし　機調とした様子のパイロット　綾波レイ　が見える
ケントウ「レイ　　大丈夫か？レイ」
レイ「…なうく　」
ケントウ「そうか　」
　　レイの目に映る困惑のないケントウの顔　その意外に優しい瞳

　　過熱した装甲板のよ　に　館のようにゆっくり変形していくケントウのセルプレ　ムの色認識
　　そのレンズにヒノ　とヒビが入る

　　間　実験場：現在
　　飛び散る火花　零号機の発振作業が進められている　台詞は全てオノで
リノコ「接続レバー１２　クトロクの報告書によ　て選ばれた最初の被験者　ヲ　スチルトレン　エヴァンゲリオン試作零号機　専属操縦者　過去の経緯は白紙、全て抹消済み」
ノノノ「その経歴を助ける為に　　父さんが」
ミサト「…わかし　信じられないわね」
ノノコ「正規の報告書では削除されているけど　生きれもない事実よ」
　ミサト「そんな悪辣事故を起こした零号機の凍結解除　もと性急過ぎない？
　ノノコ「使徒は再び現れ　戦力の増強は我々の急務よ」
ミサト「それはそうだけど　」
　　暗いプラグ内でゆ　くりと目を開いて口から息をひとつ吐くレイ
ノノコ「レイの再起動実験自体に問題はないわ　神経増幅の調整が済めば　　」
ミサト「即　再配備とい　わけね」

　　初号機のエントリープラグ内
　　調を上げるノノノのUP、　OP.使用＝14とか
　　モニタ　を覗いているノノノ　ｏｆｆでリノコと伊吹らの赤機の無線声
　　プラグ内　ノ姿のレイ　黙々と零号機の胃の上でエントリープラグの強調整を行っている
　　ケントウと会話しているレイ
　　レイの微笑み
ノノノ「　」

「ミサトのマンション　全景　夜

つ岡・ノノノの部屋
　　ひとり　へ下に横たわるノノノに台詞消す　ｉｎ２使用？
ノノコの声「ど）　彼との生活は？」

　　場所　考　カフェか　みていなところ？
　　ミサトノノコの会話
ミサト「まぁ　ね　少し　慣れ」
ノノコ「５年前とは違うわよ　今度のは恋愛じゃないし」
ミサト「５年前とは違うわよ　今度のは恋愛じゃないし」
リノコ「それは　とうでし　ノノノ君　あなたがいる分い残　たんじゃない？
ミサト「違うけ　多分　お父さんがいるうちよ」
リノコ「　」
　ミサト「お父さんに自分を見て　知　て　離れて、一言でいい　はめて欲しいのよ　彼は孤独を恐しさせないだけの　愛情が欲しかったんだと思う」
ノノコ「父親との確執　ミサトと同じね」

：サト「　　」
　時計を見るリノ
リノ「そろそろ戻らなくちゃ　：サト　帰るならこれ預める？」
　カ　トを2枚出すリノ。
リノ「ソン君の正式なセキュリティカ　ドと　諫遠レイの更新カード」
　サト「レイの？
リノ「さ　き選しそひれて　明日　ソン君に預めるからら」
　サト「　　いいど」

◯：サトのマンション　ソンの部屋
　ヘッドで寝ているソン　　：2L　0 筆用
　レイのカ　トをかざして見る　その写真の寄り　レイとケントウの会話を思い出す
ソン「諫遠レイ　　兄さんはなんで笑　ているんへ　　なんで僕には笑わないんを」

　メ　モス団地
　無認のハ　スペクティブをも　く立列しているビル群　鯛と工事の音

　室　レイの部屋　外
　表札には宮に毛墨な字で「諫遠」と書かれている
　ソン　ノサ　を押すが　音がしないので　両ひかチャカチャ押す
　トアのノブに手を触れると鍵はかか　ていない　嫡い感じの玄関
ソン「ごめんくださ」
　中から返事はない　フレイカ　の耳をふさぐ大騒音
ソン「入るよ　入　て　ごめんくださ　　嘘！ぴど」
　その声もフレイカ　の音に遮されてしまう
ソン「諫遠　入るよ」

　洞　居間
　ソン　中に入　て皮を飲む
　狼くて　サっんとして　情緒というものがまったく感じられない室内
　壁紙は剥がされておりモルタルの地肌が無残にも露出し　雑荷事故でも起こしたのか　天井にかけての広範囲や黒い煙で汚れている
　部屋の隅に　1段ホール箱が積まれていて　生活必需品はそこから取り出している形跡がある　空箱には血で汚れた包帯が詰てある
　おそらく団地が建　上した時に　ばされたものであろう　黒いヒ　ルのカ　ンやペラペラと偏りはかりの軍にそよいでいる
　殺気　を感じるとこんな感じになるとい　う部屋だ
　ソン　ネストのよい気づく
　大事そ　に置いてある写真立てレンズの割れた色眼鏡
　電号機の起動実験の時　破ケントウで着したものか
　それを知らないソン　は何はなくそれに手を伸ばし　かけてみる
　フレイカ　の音が止まる
　カ　テンの開く音　その音を聞き　振るソン
　瞳：バスタオルを羽織　てはいのレイが入　くる
ソン「　驚愕　言葉にならない」
　レイ　ソンの眼鏡に気づく
　その瞳開いた口は塞がる
　レイ　瞳を隠すこともなくソンに歩み寄る
ソン「1気が動転して　いや　あの　　僕は　決に　」

　後ずさ　てしまうシンジ
　レイ、ソンジのかけている眼鏡を掴み取る。
　その瞬間　二人とも転倒してまう
　長い髪。
　重なり合　て動かない裏腹の少年と全裸の少女。
　肖びフレイカ　の音。
　ソンの下目の前に　眼鏡を外したレイの裸体がある
ソン「　　（言葉にならない）」
　動揺することもなく　無表情なままのレイ。
　ソンの顔に浮かぶ玉の汗。
レイ「どいてくれる？」
　ソン　自分の片手がレイの胸のふくらみに触れているのに気づく
ソン「あ、いや　あの　　」
　レイ　ソンを押しのけ立ち上がると　散らば　た下着を拾い　それを履きはじめる
　唯てレイに背を向け　頭くソン
レイ「パンツを履きながら　何？」
ソン「ま　あ　いや　ぱぐよ　あの　　その　　」
　手ラりとレイのほうを見る　フラをつけるレイ
ソン「ぱくは　　た　たの　翔まれて　　つまり　何た　とは　カート カ トを　新しくなったかと　聞いてくれ　て　　たから　でから別に　そんなつもりは　　」
　レイ　チ　と時計を見ると　眼鏡を大事そうにケ　スに収める
　トクン　ト　ンンとし鍋の激しい鼓動がソンの胸を突き上げる
ソン「リノさんが直すのを忘れたから　て　　ホントなんだ　それて　チャイム鳴らしても誰も出ないし　カギが　開いてたんで」
　玄関のトアの閉まる音
　振り向くソン　誰もいない部屋
ソン「　　」

　表天下のアスファルトの道
　壊れた髪のまま　陽炎の中を歩くレイ
　少し離れて後を追うソン

　地下モノレ　ル
　離れた席い座　ているソンとレイ
　乗客は二人だけである。

　地下通路ゲート
　レイ　ゲトの前に立ち　セキュリティ　カ トをスリトさせる
　でか　扉は開かない
　レイ　もう一度スリトさせるが開かない
レイ「　　」
　ソンが渠て　カートをスリトさせる
　開く扉
ソン「これ　諫遠の新しいやつ　リノさんに預まれて　　」
　レイ　何も言わず　更新したカ トをソンから奪うようにして取る

　ネオフロントへの長い長いエスカレ　タ　下り
　レイの後ろにいるソン
　二人とも黙　ている

　　悲鳴に耐え切れず　シンジは口を開く
シンジ「さ　さよごめん　　」
レイ「何が」
シンジ「
　　再びは獣
シンジ「い話題を変え　ねえ　綾波は怖くないの？　まだあの零号機に乗るのか」
レイ「どうして？
シンジ　　前の実験で大分あたたた　て聞いたから　平気なのかなと「思って　　」
レイ　そう　平気」
シンジ「でもまない　悪意しく危ない目に遭いか　使徒に負けて殺されるかもしれないん　よ　何で平気なんだよ」
レイ「あなた　碇司令の子供でしょ
シンジ「ん　」
レイ「信じられないのうみなぞんの仕事か」
シンジ「あ？りまえだよ　あんなな殺ちんて」
　　レイ　キ　として目ご向き直る
　　ハ　となるシン
　　レイのシンジへの平手打ちの音が鳴り響く
　　怒怒と娘を押さえるシンジ　レイと父親との絆を祝る

　　羅望遠の画　遠か直方に使徒の姿　常に外形が変化している

　ネルフ本部・発令所

青葉「実験設備与物体の分離を完了　パタ　ン青　使徒と確認」
　　現場に空を遮る使徒の全景　変化を続けている複何学的な外形
冬月「やはり　第5の使徒だな」
ケンドウ「ああ　初号機を出撃させる」
　　発進準備の初号機
　　迫る使徒
青葉「目標は芦ノ湖上空へ侵入」
日向「エウ・初号機　発進準備よろし」
ミサト「発進」

　エウンゲリオン専用昇降機
　　ロ　ドが外れ　射出される初号機
　　長い専用レールを上昇していく

　第3新東京市南付近の上空
　　使徒の内部に光が点り始める

　ネルフ本部　発令所
青葉「目標内部に原エネルギ　反応」
ミサト「何です　て」
リツコ「まさか　」

　第3新東京市・市由地
　　道路が　つに割れ　せり上が　て出現する初号機

　ネルフ本部・発令所

ミサト「やめりはけて　」

　初号機　エントリ　プラグ内
シンジ「え？」

　第3新東京市　市由地
　　使徒より発射される熱光学エネルギ
　　爆心地に昇る巨大な光の十字　蒸発する周囲のヒル群
　　その中で唯一原型を留めている初号機
ミサト「ロ　ク解除！保護ア・マ・展開！」
　　初号機の周囲に展開される防御システム
　　それ、合わせた様に変化する使徒の攻撃
　　保護ア　マ　もイ、キ、融解　蒸発してしまう、さへに照射を続ける使徒
ミサト「退撃中止！エウ初号機を緊急回収」
日向「ただ　て！カクバルト融解　作動しません」
　　その場で立ち往生のまま　次々と融解していく初号機の装甲板
リツコ「エウ　のA　フィールドは？」
伊吹「展開中　しかしあらゆる位相を中和されています」
　　融解している初号機の胸部
　　点立ち始めるエントリ　プラグ内
　　パニックとなり　いきなり逃げようとするシンジ
シンジ「イヤだ　もうイヤだ！ここから出して！出してよ　父さん！」
ミサト「作戦要項を破棄！パイロット保護を最優先！プラグを緊急射出して」
ゲンドウ「やめて」
　　えりとなるミサト
リツコ「今　パイロットを失うとエウのATフィールドは完全に消失してしまう　最も優先すべき事項となるわ」
　　更に融解していく機体　熱源に覆われ溶けていく街　蒸発する地や河
ミサト「　　しかし」
　　気泡が立ち昇るプラグ内　絶叫をあげるシンジ
ミサト「やむをえない！機体を強制排出！爆砕ボルトを点火して！」
　　音にゆくされる爆砕ボルト　由の基盤や次々と粉砕されていく
　　地上プロ　ごとビル由と共に地下に陥没する初号機
　　目標を失い静止する使徒の攻撃
　　地下に沈むとともに倒れている初号機
ミサト「シンジ君は？」
日向「生きてます　たすし心臓部」
　　鼻血を出してく　て倒れているシンジ
リツコ「プラクを強制排出　パイロットの生命維持を最優先　機体処置は後回しでいいわ」
　　瓦礫の中の初号機　強制排出されるエントリ　プラグとLCL
ミサト「救護班　急いで」
　　点滅している赤色灯
　　集中治療室の深い棺桶のような医療用カプセルに入　ているシンジ　フタが閉まる

○第3新東京市　中心部
　　使徒の下面から　部が伸びていく
　　そのまま地面につきささり融解させつつ掘り進んでいく先端部
　　そのうき面
ミサト「台詞先行　奴の狙いは　ここネルフ本部への直接侵攻か」

…より"本部・作戦室
色んな状況がモニタ されている 沢ッ面々

ミサト「…は 各部署の分析結果を報告して」

作戦課員A「先の戦闘データ 目標は 定距離内の外敵を自動排除するものと 推測されます」

ミサト「エヴァによる直接戦闘は 無理というわけね ATフィールドよ どう?」

伊吹 健在です おまけに圧縮データ 一部変質をしている"との外乱も 変せず 中和作業は困難を極めます」

日向「マヤによる計算では 目標のATフィールドを42秒定間隔による攻撃方法で貫くには ネルフ本部ごと破壊する威力が必要との結果が出ています」

リツコ 現代のマヤ2号も常に結果を出してます 現在 日本政府と国連軍がネルフ本部ごとの自爆段階を協議中」

ミサト「計算の欠陥と思 で解答五千ね ここを決えは全ておしまいなのに」

作戦課員B しかし 問題の先端部分は第2装甲板を直通 すぐ第3装甲板うで侵入しています」

青葉 22層 全ての特等装甲を貫き 本部直上への到達予想時刻は 明朝午前06時54分 あと 約10時間14分後です」

リツコ 更に 零号機は未調整のため実戦は不可能 初号機も先の損傷で両分はともに動けないわよ」

ミサト「初号はあと1くらいかしら」

伊吹「まだ八方ふさがりですね」

日向「白旗くも 挙げますか」

サト「そうね ごもその前にちょっ ちゃ くあおぎいことがあるの 日定に 頑か 戦自研の極秘資料 諜報部にあ すわよね」

スクとなる面々

…同 技術室

座 ているサトウ 伸ちに女月 の前に立つミサト

女月「試作電電子砲による目標のレ 外 兵今距離かかり 直接射撃かね」

サト「そうです 目標のATフィールドを中和せず 恐エネルギ 集束帯による 点突破しか方法はありません

女月「マヤ による勝算は 8?%か」

ミサト 最も高い数値です 御承認 願います」

ケンスウ「反対する理由はない やりまん 勇戦 尽」

ミサト「ハイ」

…ネルフ山第2要塞
工事中の格納内

リツコ「いくぼか 解答な作戦立てものね 愚戦作戦部長さん

ミサト「無茶とよく言われる 使い9時間以内で実現可能 よほかに最も確実なものよ」

ガや に搬入されていく機材 コアナしは戦闘自走砲の2 "弾も有

リツコ「ポジトロン作戦 その名のごとく日本全土から電力を強制徴発し 戦自研が極秘に試作開発中の大出力陽電子自走砲まで強制徴発 未完成の"め自立制御出来ない部分は エヴァを使 て精密誘導をさせる 国連軍はいいとこ ど内残首と戦略自衛隊を説得出来てきね」

ミサト「ま 色々とね 貧しのあるのよ」

リツコ「乾の酒は飽ね」

…第3新東京市

由上空の使徒 ナメて少し傾い"太陽 先端部が更に進んでいる

…ネルフ山第2要塞
モニタ に映る使徒の状況

青葉「敵先端部 第7装甲板を突破」

敷設中のものすごい数のコト や移動式電磁砲 仮設電力システムが設置されている

ミサト「エネルギ システムの見通しは?」

医並ど緊空透電鉄塔 森や町中を走る電磁コードの束 巨大なトラム型のコンセント等

作業員「現在 予定より32%遅れています 本日23時40分までには間違合います」

ミサト「短撃システムの進捗状況は?」

組み立て途中の試作陽電子砲

担当責任者「組み立て作業に問題なし 作戦開始時刻までには なんとかします」

ミサト「エヴァ初号機の状況は?」

回収され装甲板が外れたままである初号機 素体損傷はカバーかけてある

伊吹「現在 短撃専用の G型装備に換装中 あと 2時間で形し 出来ます」

サト 了解 あとはパイロ の問題ね

…ネルフ本部 集中治療室

寝ているシンジ 横ゃレイ

検査機器のモニタ 表示すオ レクリ シし変る 間く医療用カプセル

…ネルフ山第2要塞

日向「シンジ君の容態が回復しそうです 検査数値も問題なし」

ミサト「そ て作戦は予定通りに」

リツコ「でも彼 もう 戦場をかいり
集ると躊躇しているミサトの表情

…ネルフ本部・技術室

の ケントつとも月 ニ14度用か?

女月 初号機パイロ の処置はどうするとい"?

ミサト「タ ンプの試験使用前の段階 実用化 至るまでは今のパイロ トに任こ でも

女月 最悪の場合 洗脳か」

ケンスウ「タメな時はレイを使いまくて

女月 レイも初号機に 、あまりに負荷過ぎない?

ケンスウ「いかなる手段を用いても 我々はあと日体の使徒を倒さねばならん

女月 全くまそれもちか」

…シンジのイメ …

駅 ムで待っている幼いシンジ 使ち 大きな鞄 ニ"ト ニ"ちと方直用

現い響く発車ベル 走り出す電車

その車中に座 ている シンジ ニ"ちの電車の中直用

シンジ「嫌なんだよ ユウ 愛るのや」

捨もしち 何かしの攻

シンジ「ごまん ごめんなさい 失敗したらよくでみんなに誤れる ことばかり死ぬ"いか 何で僕はここにいるんだ?」

向かい 座 ている幼いシンジ 直通する謎の息

シンジ 知な愛るかも 、何もいいことのあるやもと思 ここに来るんて ゃやな思いをするだけ ない

連結部付近に立っているレイ

レイ「ネルヤ、イヤな事から逃げ出して、すべてを生きていくつもり？」

ノン「生きる？　何て生きざまよ？　僕は？」

宇宙の様子に座っている無言のレイ

ノン「生きていくもしょうがないと思ってたしかないか」

無言のレイ

ノン「父さんも、サトさんも、超も、僕がいらないんだ、エヴァに乗らない僕は、必要ないんだ！」

無言のレイ

ノン「だから、僕はエヴァに乗るしかないんだ！」

無言のレイ

ノン「だから、僕はここにいられるんだ！」

無言のレイ

ノン「だけど、エヴァに乗ると

病室・夕景

て、目覚めるノン、「BANK専用

ノン「、また倒して#、エヴァに乗るとこれはかり^

傍らに立つレイ、食事用のトレイも有

ノン「気づき、綾波？」

レイ「明日午前0時より、発動されるヤシマ作戦のスケジュールを伝えます、庭、綾波の両パイロットは本日17時30分、ケイン、竜台、18時00分、初号機、及び零号機、起動、18時05分、発進、同30分、「子山第2要塞」到着、以降は現地あるまで待機、明朝、日付変更と共に、作戦行動開始」

作戦内容を全て記憶しているレイ、よくやく頭がはっきりしてくるノン

レイ「食事」

ノン「何も食べてくない」

レイ「50分後に出発よ」

ノン「出発、く、また、アレい事、れていいのか？」

レイ「ええ、そうよ」

ノン「もうイヤだ、もうあんな怖い思い、したくない、怖くて、怖くて、でも逃げる事も出来ないんだ！」

レイ「エヴァも怖いの？」

ノン「、」

レイ「しく、嘆くから」

ノン「意外そうな顔で、嘆くレイ、」

レイ「初号機には、私が乗る」

ノン「、綾波」

レイ「さよなら」

出てくレイの背中、明るさ^

考え込むノンの半面アップ

第3新東京市、中心部、夜

サ、ネライトが照射され、始もマイトアップしやすのよい、浮かび上がる使徒

ネルフ本部に迫る使徒の光線

ピラ子山第2要塞

整備が進む施設、山積まできいと話さ^、電源関係の事部

山腹を埋めている、超高圧送電線の束、上空を飛ぶ、各種航空機

要塞施設内に、山のように設置されている冷却装置や変圧機等、周りはライトやらけやたらと慌ただしい施設内の様子

警報「ピロピロ」敵攻撃部隊、第1ブ装甲板を突破、本部到達まで、あと3時間55分」

アナウンス「ハプ警戒システム、問題なし」

日向「ほぼ、四国及び九州エリアの通電完了」

アナウンス「各冷却システムは起動転に入って下さい」

要塞内に入ってくる巨大な陽電子砲、前面はケブルやパイプらけ

その様に立て隠て座っている個整用G型装備の初号機

更に初号機の横に盾を持つ零号機の姿が見える、上空を飛ぶ航空機、響くアナウンス

ミサト「これが、大型試作陽電子砲ね、大丈夫なの」

ノンコ「急造品やけど設計理論上は問題ないわ」

伊吹「実際は実た試射しることないので、するまで、夕本空なんですけど」

ミサト「ま、あたしに任せなさ」

ノンコ「あてにならそうもないのは、パイロットね」

決意のミサト、出て行く

C病室・夜、他に誰居ないか？

ノンノの後ろに立つミサト

ミサト「ノン君、重合時間はとく過ぎてるのよ」

うつむいて全まのノン

ミサト「あなた、自分で決めてここに残ったんでしょ」

うつむいたままのノン

ミサト「くだら、自分の任務をキチンとしなさい」

ノン「怖いんですよ、エヴァに乗るのが」

無言のミサト

ノン「、ミサトさんたちはいいですよ、いつも安全な地下本部にて命令してるだけなんてずるから」

ミサト「ノン君、戦っているのはあなた1けじゃないわ」

ノン「でも、僕だけ怖い目にあって、ミサトさんたちはズルいですよ」

ミサト「もし使徒がサードインパクトを引き起こせば、今度こそヒトは全て滅びます、人残りすね」

ノン「脚本ミサト、何度もその話は、でも」

ミサト「私たちの使徒のデータ本部レベルに上直する様入を許すと、ここは自動的に自爆するようになっているの、そこと使徒と対し戦えるでも、サードインパクトを未然に防ぐ、その重責を持ってここにいる全員が、戦っているわ」

無言のノン

ミサト「ここにいる誰もあなたと同じく、自分1人の命を懸けて戦っているの」

ミサト「そして、あなたとエヴァに人類の未来を託しているのよ」

ミサト「エヴァに戦う、それはあなたしか出来ないことなの」

ノン「そんな、辛いこと、何こ、僕なんですか」

ミサト「理由はなんて、その運命が、あなたなんだから」

ノン「、もう度、乗ってみます」

ピラ子山第2要塞

迎撃用の準備が進む

ミサトらの乗り込むレイ、上空を飛ぶ航空機

ミサト「では、本作戦における各担当を伝達します、ノン君、」

ノン「ハイ」

ミサト「初号機で砲手を担当」
ノン「ハイ」
ミサト「レイは零号機で防御を担当して」
レイ「　　ハイ」
ノリコ「今回はより精度の高いオペレーションが求められます　そのためには実調整の零号機より修理中ながらも初号機の方が有利なの」
　ノンノの前に設営されている地撃用陣地
ノン「いい　ノン君　隕電子は地球の自転　磁場　重力の影響を受け　直進しません　その誤差を修正するの　忘れないで　正確にエア　ポのみを置くのよ」
ノン「どこをコアなんて　わからないですよ」
リノコ「大丈夫　目標内部に攻撃形態中　つまり外形が固定化された時だけ実体化する部分があるの　そこがコアと推測されるわ　狙撃位置の特定と射撃誘導への諸元は全てこちらで入力するわ　あなたはミサト通りにや　て　最後に貴ん中のマ　クがそうたタイミングでスイ　チを押せばいいの　あとは機械がや　てくれるわ　それかラー度発射すると点検や再充填　放電プラグの交換等で次に撃てるまで　時間がかかるから　もうひと一　狙撃用大電力の最終放電装置の収束ポイントはその場所に設定されてしるの　故に初号機は狙撃位置から、移動できません」
ノン「逃げられない　てことですか」
リノコ　そうよ」
ノン「しゃあ　もし外れて　敵が射ち返してきたら？」
ノノコ「今は余計なことは考えないで　一撃で撃破することだけを考えなさい」
ノン「しゃないと　ちヒーチ　てことですケ」
レイ「ノンの顔にオノて「私は　　」
　レイが唐突に口を開く
レイ「私は初号機を守れはいいのね」
リノコ「そうよ」
レイ「わかりました」
ミサト「時間よ　…人とも頼替えて」
二人「ハイ」

○要塞内の休憩室
　キチ　こたんである／ンの服
　スイ　チを押すノン／　服が体にフィットする
　カーテ　の裏のレイのノルエートを気にするノン　変な気ではない
　軌道修正、殺菌されているレイの服
　着替えているレイの足元　カ　テンの裏にノンのノルエート
　ノン／　安い考えもなくポンと台詞ケ浮かぶ
ノン「これで死ぬかもしれないね　」
レイ「いいえ」
ノン／　　」
レイ「あなたは死なないわ」
ノン／「　　」
　下を見ケミスイ　チを押すレイ　フィトする服
レイ「私を上げて　私が守るもの」
ノン／　　使い方る価値なんてないよ」

　サトのマンション　リビング
　青　緑な室内　ヘランダ　立つ温泉ペンギン
　窓の外のネオンや電灯が次々に消えていくのが見える
　月の光が差し込んでくる　その中に、ポノと佇む温泉ペンギンのノルエート

ノルエター内
　避難している生徒たち、照明が落ち　非常灯の明かりに、
　トウジとケンスケらの目パチ

　光の消えていく第3新東京市　「前機団

　衛星軌道上からの日本列島　イルミネーションが地区電力ブロックごとに消えていく、

　闇の中の第3新東京市。その中で煌々と輝く使徒と〝予山山頂　「星がきれい

　一千山第2要塞・エヴァ搭乗用タラ　ップ
　待機中のノン／あぐら　とレイ（体育座り）
　頭の音　遠くに航空機の音　二人の横には零号機と初号機の顔
ノン／「綾波は　何故エヴァに乗るの？」
レイ「うよ　と考え　絆なから　」
ノン／「絆？」
レイ「そう　絆」
ノン「父さんとの？」
レイ「　　みんなとの」
ノン「強いんだな　綾波は」
レイ「私には　他に何もないもの　」
ノン／　」
レイ「違　て　時間よ　行きましょ」
　立ちかるレイ　手には先の親鍵ケース
レイ「さよなら」
　一人残るノン
ノン／「何もな　て　父さんかいるじゃないか」

　静かな夜。きれいな夜空　そこに映えるライトアップされた使徒のノルエート

ノン千山第2要塞・戦闘指揮所
　時計表示が午前0時00分になる
日向　作戦　スタートです」
ミサト「ノン／君　今ま復エヴァに乗　てくれて　それだけで感謝するわ」
　聞いてるノン／
サトの声　ありがとう」

、サト「隕電子砲　狙撃準備　第〝次接続開始」
日向「第〝から第503管区まで送電開始」
アナウンス「了解　全フレ　カーを開放」「第〝次電力開閉所　受電開始」
　一斉に点灯する表示
　うなりをとける安電設備等
　上昇していく各種メーター
女「電圧上昇中　過千減ペ　各部インバータ　回転開始
　煙を上げる電源ユートの電
日向「全冷却システム　出力最大へ」
　うなりをあける冷却装置が　手で真　白いる　ていく
男「温度安定　問題ない」

女「陽電子流入　順調なり」
ミサト「第2次接続」
　　また、一斉に赤い灯る表示。
女「全加速器　運転開始」
伊吹「強制収束機　作動　圧縮回転数　プラス3万8千」
アナウンス「全電力　予定増設変電所へ」「全定圧器　異常なし」
日向「第3次接続、問題なし」
ミサト「了解　第3　第4緊急管制室へ伝達　予定通り開動を開始　観測機は直ちに退避」

○箱根山中
　　上空の観測機が離れる中、山腹がスライドし中からミサイル発射口が露出する
　　連射されるミサイル群
　　空飛する使徒　卸空砲火　使徒に直撃するが新に爆発
　　光る使徒
　　熱等発するミサイル発射口
日向「第3対地攻撃　ステム　基発」
ミサト「揺れるわよ　閉髪入れないで　次」
　　山腹より現れる砲台
　　直射する砲口
　　使徒の直前で弾ける弾頭
　　破壊される砲台
男「第2砲台　壊滅」
資業「レ　ザ　砲射群　第3波　発射します」
女「第6ミサイル弾塔　壊滅」
　　初号機越しに見える　谷とする雲塞
男「電力平縦機　作動開始　電圧、発射点へ上昇中」
　　全エネルキ　が収束されていく人型ユニアンサ類
　　過熱よりあちこちから山火事が起こる
男「第3次接続　問題なし」
ミサト「最終安全装置　解除」
日向「撃鉄　起こせ」
　　ライフルの安全装置が「安　から「火」に変わり　撃鉄が上がる
　　ブラ内のモニタ　マ　カそろ　ていく
「地球自転及び重力の誤差修正　プラス0.0009」
男「電圧　発射点まであと0.2」
日向「第7次最終接続　全エネルキー　超高電圧放電システムへ」
「第1から第8放電プラグ　異常なし」
　　陽電子砲を構えている初号機　後方に盾を装備した零号機
　　目標である使徒周辺には陽動の攻撃が続いている

　　プラグ内のモニターを力なく見ているノ　ノ
シンジ「MONO　結ばほどの無情もない　すべてヲ操縦する自信もない　理由もわからず
な動かせるわけも　人類を守る　こんな実感もわからない大事な事を　なんで僕なんな?」

日向「B　7　6　」
　　私下オノでカウントダウンの声
　　構えている初号機　緊張している面々
　　プラグのモニタ内　赤いランプの真中のマークが揺う

ミサト「発射、い」
　　スイッチを押すノンノ
　　8本の大電力放電プラグから走る、プラスマ。陽電子砲の受光システムに集中する
　　発射される　陽電子砲。
　　使徒に命中　形状変化が急停止する。使徒の先端部も停止
　　貫通位置から吹き出す大量の血　山腹が赤く染まっていく　血に染まる中学校
ミサト「や　たか?」
　　使徒の背い面図　貫通位置からわずかに外れた所にコアらしき物体が確認出来る
　　止血され　再び形状変化を始める使徒
ミサト「外した」
日向「まさか　このタイミングで?」
リツコ「パイロットの精神状態に　何か遠和感があったんだわ」

　　不安定なかも　輝き始める使徒の内部
伊吹「目標に高エネルギー反応」
ミサト「起動　直撃に備えて」
　　光る使徒
　　鋭時に　　子山ごと抉られ蒸発する雲塞。地下内部施設が破壊されていく
　　露出する観測指揮所　大破れのミサト
　　大破れのエントリープラグ内　真っ白に飛んでいるモニタ
　　キリキリで直撃を免れる陽電子砲と初号機

　　非常灯に照らされる観測指揮所内に鳴り響く各種警告音
　　なんとか起きとかるミサト
ミサト「エネルギーシステムは?」
日向「まだ使えますすでに再充填を開始」
ミサト「陽電子砲は?」
リツコ「無事よ現在　発射を会証中にもあと1回　撃てるかとうか」
　　サト　確認不要や　これだけよ　ンンン君大丈夫?急いで初号機を短撃ポイントに戻して　ン
君?」
　　そへそのンン、手が震えてレバーもろくに握てない状態
ンンン「　　」
リツコ「　　も、ダメかしらね」
　　発令所内のケントウ　決断
ケントウ「　　現時刻をもて初号機パイロットを更迭、短撃手は零号機パイロットに指令させよ」
冬月「成?」
ケントウ「使えなければ　切り捨てるしかない」
ミサト「待　てください」
　　すすかに顔を上げるケントウ
ミサト「娘は連けずれ　なんとか短撃位置に戻ろうとしています　自分の子供を信じてください」
　　半ば放心状態なかでも　なんとか初号機を動かそうとしているンンン　踏ん張　ている
「連けろ、マヤ!」の練い返しをュ?
　　わずかだが動き始める初号機
ミサト「私も　初号機パイロットを信じます」
　　なんとか陽電子砲のトリカ　を握む初号機
ケントウ「　　任せる　好きにしたまえ」
ミサト「ありがとうございます　　ンンン君」
ンンン「ハイ」

ミサト「今一度　日本中のエネルギーと全人類の未来　あなたに預けるわ　がんばってね」
シンジ「　　はい」

　　再び　掲え置かれる隔電子砲　構える初号機
日向「統身　固定位置」
*伊吹「射撃用諸元　再入力を開始」
男「電圧　発射まであと０５」
　　隔電子砲を構える初号機
　　緊張しているシンジ　プラグ内のモニターを凝視している

　　警告音　ネルフ本部施設の随所に点滅する使徒の先端
青葉「敵突破部　本部直上０地点に到達」
　　床上部から破壊されていく本部施設
　　動じないケイトウゼ冬月

ミサト「第2射　急いで」
日向「砲身　冷却終了」
女「射撃用諸元　最終入力完了　誤差修正なし」
男「発射まであと　０２」
　　構えている初号機
　　再び伊技し　光が走り始める
*伊吹「目標に再び高エネルギー反応」
ミサト「やばい」
　　発射する使徒
シンジ「うわ」
*ミサト「シンジ君」
　　ログで広がる光
　　再び強烈な光に包まれ　初号機の着ている零号機
シンジ「綾波」
　　モニターに触れていく零号機が映っている
レイ「弱かもだない」
*ミサト「まずなの」
日向「あと０秒」
　　融解する盾　身体で初号機をかばい零号機　体温が異様に高甲板が蒸発していく
シンジ「はやく　　はやく」
　　あいスーツの真ん中のマークが輝く
シンジ「　　」
　　初号機の第2射
　　光の筋が使徒の１戸に見事命中する
ミサト「やった」

　　変化し　展開図となる使徒　裂け目から大量の血が滝のように雪崩落ちていく
　　血でるまとない崩壊していく使徒　真　赤に染まる芦ノ湖
　　停止し　突如血液の様に爆発する使徒の先端部
　　これまで赤く染まる本部施設
　　その場に崩れる融解した零号機　あちこちが爆発している

　初号機　エントリープラグ内
シンジ「綾波」

　　遅けて動かない零号機の機体　あちこちから黒煙があがる
*ミサト「シンジ君*零号機の救出を」
シンジ「わかってます」
　　隔電子砲を捨てる初号機　山積に激突し　損壊する隔電子砲
　　黒煙を上げ火上する融解した零号機
　　プログナイフで変形して機体を切り裂き　エントリープラグを引き出す初号機

　　冷けてしまって殆ど融着している初号機のすと零号機のエントリープラグ
　　エントリープラグの重さをこじあけようと力を込めるシンジ
　　開かれる蓋
　　零号機のプラグをのぞき込むシンジ
シンジ「綾波」
　　くったりとしてるレイ
シンジ「大丈夫か　綾波」
　　うっすらと眼を開けるレイ
　　半分赤のシンジ　プラグの中にシンクロの設備が落ちている
シンジ「自分には他に何もない　だ　　そんなこと云うなよ　　別れ際にさよならなんて　　悲しいこと云うなよ」
レイ「シンジ…ぼく、思いているの　　？」
シンジ「　　」
レイ「ごめんなさい　　こういう時　どんな顔すればいいのか　わからないの」
シンジ「　泣き笑いで　笑えばいいと思うよ」
　　レイの表情がゆっくり微笑み変わっていく
　　ラストはキャメラが　人から離れPAN UP

　月面　月の裏側
　　目覚める全権のカヲル　棺から姿を現す
カヲル「わかってるよ　彼が目覚め　契約がひとつむすばれたんなら」
　　出現するゼレのモノリス
キール「その　契約の時は近い」
カヲル　　彼シンジ君　どんな子かな　楽しみだよ
　　カヲルの周辺は同じカヲルの棺たち
　　場所は月面　月の裏側である　無人の真空が広い　全機でコカヲル
　　遠方にはゼレ　ターの建造から発掘途中の巨人　ンカエルが見える
　　まるで巨大な墓を暴いているかの様に見える　下半身は何か保護材で包まれている状態
　　同じくゼリスと同じセーレの面

アロンアロンク　黒いクレ白
エンディング　クレジット
次回予告　130秒

TV版20分30枚で12枚平均　48枚で80分目安

エヴァンゲリオン新劇場版：序　全記録全集

企画・監修　庵野秀明
構成・編集　霜木一朝（カラー）

取材・執筆・構成協力　氷川竜介
デザイン　市古貴史（TGB design.）

編集　亀井 理恵（キングレコード）
神村 真子（グラウンドワークス）
神村 靖宏（グラウンドワークス）
佐野 久美子（ガイナックス）

特典映像監督・執筆　樋口真嗣（劇体倶楽部）
取材・執筆協力　藤津 亮太
松野泰 紀弘
デザイン協力　市古 明子
翻訳協力　樹光ダニエル真
対談ピンナップイラスト　貞本 義行

協力　社 社一（角川書店）
EVANGELION STORE

制作　株式会社カラー

発行日　2008年5月1日　初版発行
2012年10月26日　第2版発行

※上記の内容は2012年第2版発行当時のものです。
※本書には収録されていないインタビュー等に関する記述を含みます。

エヴァンゲリオン新劇場版：序　全記録全集　ビジュアルストーリー版・設定 資料版

企画・監修　庵野 秀明
構成・編集　霜木 一朝（カラー）

表紙デザイン　市古 貴史（TGB design.）

編集　三好 寛（カラー）
神谷 浩久（グラウンドワークス）
神村 真子（グラウンドワークス）

デザイン協力　DTP of YA_ebi

表紙・ピンナップイラスト　鈴木 俊二

販売協力　EVANGELION STORE

製作　株式会社カラー

発行日　2019年5月1日　初版発行

発行　株式会社カラー
http://www.khara.co.jp/

販売　株式会社グラウンドワークス
〒167-0042
東京都杉並区西荻北3-30-11 パルファンビル2F
03-6913-8971

EVANGELION STORE
http://www.evastore.jp/

印刷・製本　大日本印刷株式会社

ISBN 978-4-906033-16-9

落丁・乱丁本は御面倒ですが、

禁無断転載・複製

『ヱヴァンゲリヲン新劇場版：序』

全記録全集

ビジュアルストーリー版・設定 資料版

『エヴァンゲリヲン新劇場版：序』
全記録全集 ビジュアルストーリー版・設定 資料版

庵野秀明監修 ／ カラー責任編集

エヴァンゲリヲン新劇場版：序 の公式本「全記録全集」を原典に、
フィルムストーリーや設定資料などエッセンスを抽出！
作品をより深く多様な視点て楽しむための、資料性を重視したファン必携の書！

フィルムストーリー　音楽キューシート　追加台本　設定資料
美術ホード　宣伝素材　脚本決定稿　他
原典に収録された貞本義行による折込ホスターイラストも掲載！

序 作画監督・鈴木俊二
による新規描きおろし

フルカラー B4 サイズポスター付属！

全記録全集

ビジュアルストーリー版・設定資料版

株式会社カラー
xapa

©khara